市町	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
東温市	130	6・18	**年始初祈祷** 1月3日～10日の間 組の当元宅 または天満神社	初日を迎え新年が明けたことを慶び神主にお祓いをしてもらう。志津川の4つの組が行っている。年初めの7日間位の間で当元に当たる家に組の者が集まり新年の祈祷を行う。このときに各家々に「天満神社初日祈祷神璽」の神札が授与される。この神札を竹串に挟み各組境の4隅にも立て邪気の侵入を防ぐ。初祈祷参列者は10人～20人位である。神事の後、直会となり今年の組内の役員を決めたり飲食しながら歓談する。近年は当元の会食・料理の準備等が大変ということで、当元宅での祈祷・接待を止め、組員が神社に集まり昇殿祈祷する形式となっている。	D
	130	1・18	**どんど焼** 1月成人の日 または15日前後 天満神社	正月のお飾りや古神札を天満神社に持ち寄り境内でお焚き上げする。この火で焼いた餅やみかんを食べると無病息災に過ごせると云われる。	B
	130	34	**念仏講（お念仏）** 旧正月16日・8月16日 下市地蔵尊、弘法大師堂、和田霊神の堂前	旧正月に年の始めの口開け念仏祈祷参拝する。下市組に祀っている「下市地蔵尊」、弘法大師を祀っている「弘法大師堂」、和田通興・和田吉盛公を祀っている「和田霊神」の3カ所のお堂を巡拝し、組の代表がお経をあげる。8月の盆月にも同様に参拝する。	B
	130	10	**子供相撲** 4月29日・7月24日 天満神社	素鵞神社春祭りと天満神社夏祭りに奉納子供相撲をとる。昭和30年代に一時途絶えていたが昭和40年代に復活。小学生と入学前の子ども達も加えて春、夏の祭当日、神社境内に土俵を設け、5人抜きで勝った子どもには竹製の御幣を授ける等、景品を渡す。	B
	130	29	**石鎚講** 7月1日～7日の間 志津川弥佐塚集会所	石鎚山のお山開き期間中の日に、志津川上中組に祀っている石鎚社の末社に集まり、神職により組中安全の祈祷を受ける。	B
	130	1・19	**百八灯** 8月15日 志津川下池の土手上	盆の祖霊送り行事。お盆に各家々に迎えた御霊を元の霊界に戻るよう百八個の灯をともして送る行事。夕方、志津川土手改良区のメンバーが和田霊神の東側にある下池土手上に用意した薪に一斉に点灯し祖霊の帰り途を照らす。	B
	130	19	**和田霊神の盆行事（おわださん）** 8月15日 （8月15日～16日） 志津川南区内「踊り田公園」	戦国時代、志津川を本拠としていた和田通興、和田吉盛親子が主家の河野氏に叛いたため天文23年(1554)滅ぼされたが自刃する時に「腹の病に罹ったので戦に負けた。我の霊を祀れば腹の病から人々の命を救うであろう」と言い残して亡くなる。この故事により昔から「お和田さんの盆踊り」をすると疫病除けができるとされ盆の8月15日、16日には地域の人々によって和田霊神境内で盆踊りが夜遅くまで舞われた。お和田さんの盆踊りが最も盛んだった昭和20年代後期の頃は、昔の戦記物の口説歌を歌う人と太鼓の打ち手がリズミカルに唱和し、これに合わせて老若男女が輪になって賑やかに踊ったが、今はカラオケの音楽での踊りに変わってきている。盆踊り会場も、5年程前から盆踊り会場が新しくできた志津川開発団地内の「踊り田公園」に移った。	B
	130	8	**天満神社の秋祭り** 10月第2日曜	獅子舞が出る。戦前から昭和20年代中頃までは青年団の秋祭り付随行事として盛んに舞われていたが昭和30年代に入り青年層の都市流出で一時途絶えた。その後昭和45年頃、獅子舞経験者の応援で子供獅子舞として復活、昭和59年「志津川獅子舞保存会」として復活した。現在秋祭りでの東温市獅子舞大会、神輿渡御に随行して各組のお旅所で演舞している。演目は神楽、四天、山さがし、獅子おこし、とんとこ、おやじがある。	B
	130	27	**亥の子** 11月の亥の日	11月の亥の日の夕方より子ども達が各家々を訪れ、藁で作った亥の子(打ち棒)で亥の子歌を歌いながら、藁すぼで軒先の土を打ち家々の息災、繁盛を唱える。一時期亥の子行事も中断していた時期もあったが、昭和の中頃復活、小学生と中学生の子供連中のみで行っていたが、祝儀金銭の分配の仕方の問題もあり現在、小学校子供会の地域行事としてPTAの役員が一緒に子ども達に付いて回っている。	B

市町	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
東温市	131	1・19	**大畑組盆行事（河原念仏・家念仏、ガロ堂念仏・お夜灯さん念仏）** 8月14日・16日・23日・28日	東温市山之内大畑(重信川の山間地域から平野部への出口に所在)では、お盆の入りから、念仏を唱える集まりが古くから残っている。8月14日には、河原において梵松を焚き鐘と太鼓に合わせて(現在は録音テープ)集まった人が念仏を唱える。河原からさらにガロ堂辻で同じ念仏を唱える。かつては、続いて川上村と山之内村との境で百八灯が燃やされたという。8月16日は、当番の家に集まり、お陀仏さん(木造)をテープに合わせた念仏(家念仏用)を唱える。かつては、当番の家が飲食の接待をしていたが、最近はお茶だけに変更し、簡素化している。8月23日は、ガロ堂の弘法大師の記念碑(文政6年建立)の前で河原念仏と同じ念仏を唱えた後、ガロ堂に入り、ガロ堂念仏を行う。かつては当番の家が飲食物を準備して、長時間に渡り、お酒を飲みながら夜を更かしていたが、最近は短時間で簡素化している。8月28日は、常夜灯(明和8年建立)の前に集まり、河原念仏と同じ念仏を唱える。かつては、組山の入り口に在る山の神さんの所へ行って、同じく火を焚き念仏を上げていたようであるが、今は、常夜灯前に集約されている。山之内地区では、いくつかの組ごとに同様の念仏行事が行われていたが、現在は大畑組のみになった。大畑組においても、住民の高齢化と組入り世帯の減少により、内容は簡素化されていっている。	B
	132	27	**亀さん亥の子** 11月23日(11月亥の日) 牛渕地区内各家庭	行事日については昭和20年頃、当地の村おこし団体昭和倶楽部前身である牛渕大正クラブの創始者亀太郎氏の提唱により、亥の子の実施日を11月23日に変更して行われている。この日は、皇居や全国の神社で新嘗祭が執り行われ、新穀や新酒を供え神に豊穣を感謝する日である。亀太郎氏はこの感謝の日に亥の子を行うことを提唱し、以後「亀さん亥の子」といわれている。亥の子は、一握り程度の藁を芯にして縄で棒状に巻いたつき棒で、唱え歌を歌いながら大地をたたき各家庭の繁盛を祝う。つき棒は老人クラブの協力を得て、子どもたち一人一人に作っている。子どもたちは10組程に分かれ、夕刻各担当地区に集合し、PTA有志と同伴で各家庭を回り、庭先で亥の子をついて謝礼をもらっている。	B
	132	8・30	**浮嶋神社の秋祭り** 浮嶋神社・牛渕地区 10月第2土日 (10月6日～7日)	前日宵宮神楽が奉納される。大小の太鼓・チャンガラの音に合わせ一人から数人で舞う採り物神楽で、演目は12天ある。10月第2土曜日の例大祭祭典後、夕刻には、宵宮祭りとして浮嶋神社舞殿において、小中学生及び奉賛会有志による獅子舞の奉納が執り行われる。翌日曜日の神幸祭では、「練り行事」が執り行われる。古式に則り、先頭の手桶の水と箒持ちによって清められた後を旗指物や毛槍、笛太鼓、行司、相撲力士、振り奴、舞姫、神職等約170人が神輿の先導をし、神社から堀池までの1.4kmを三カ所の御旅所で神事を執り行いながら練り歩く。なお、宮司は乗馬をして行列に加わる。獅子も行列に供奉して神輿を先導し、御旅所において獅子舞を奉納する。また、神輿の町内巡幸においては、神輿を入れる家庭や事業所ごとに獅子舞を執り行う。さらに、夕刻の「練り戻し」に際しても神輿を先導し、宮入後獅子舞を奉納し秋祭りを締めている。(市)	B
	132	15	**虫送り・虫祈祷** 牛渕地区 7月第3日曜(7月22日)	昭和倶楽部、小学校PTA、子供会の各有志が参加する。現在では百万遍の数珠送りの仏行事と合わせた行事となっている。先ず早朝より浮嶋神社を清掃してお参りをし、次に道音寺にて数珠送りをした後、虫送りの行事を行っている。寺の札10枚程度を取り付けた笹20本を手に持ち、鉦や太鼓を鳴らし唱え言葉を大声で唱えながら、人家や田地の地区内を北から南へと練り歩き害虫を追いやり、害虫が付いたとされる笹を重信川に流し終了となる。終了後は寺にてそうめんやおにぎりを頂いている。過去においては、大三島の大山祇神社にて虫祈祷の神札と火縄を受けて火を絶やさないように帰り、火縄をくるくる回し煙で虫を追いやることも行っていた(平成20年頃までの100年間)。現在でも大山祇神社に赴き、毎年札と火縄を田の中にあるサヤノ神社(さやのかみしゃ)に納めている。	B
	133	18	**お日待ち** 正月初旬の適当な日	下林地区の各組単位に、正月の早い時期に日待ち祈祷が行われる。上は三奈良神社・下は築島神社の神職に依頼して組の集会所で日待ち祈祷を行い、年始の組寄りとしての相談事を協議する。引き続いて飲食を行い、組内の親睦を図る。なお、各戸に日待ちの祈祷札が配られる。また。関札は東西南北の組境に竹に挟んで立てておく。	B
	133	23	**和霊さんのお通夜** 7月22日の夜	下林の三奈良神社境内にある和霊神社夏祭りに伴うもので「お通夜」と称してお籠り行事を行う。地元の助兼組・五反地組の者が参列して神事を行ったのち、三奈良神社の拝殿で飲食する。当番組の者が、きな粉の結びと酒の肴を用意し、飲食を共にしながら談笑し、親睦を深め合う。かつては、翌日に青年芝居が奉納されていた。	B
	133	19	**大安寺のお施餓鬼** 8月16日の夜	下林の大安寺で、施餓鬼供養が行われる。境内で経木に水を掛けて供養し、本堂でそれぞれの家の先祖にお参りする。	B

市町	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
東温市	133	5・23	**元申し・大松さん（おまっつあん）** 9月6日の夕方から夜	下林の三奈良神社は、室町時代に祭日が旧暦8月6日であったが、江戸時代に9月7日となった。　この元の祭日に地元の助兼組の者が集まり、拝殿でお通夜を行っている。また、助兼組に昔、大きな松の木があったが、日当たりが悪いということでこれを伐り倒したところ、関係した者たちが臥せってしまった。松の木の祟りを恐れ、これを大松大明神として祠を設け祭祀するようになり、お通夜を行うようになった。夕方に神職による祭祀が大松大明神で行われ、夜になると神社野拝殿でお通夜と称して集まり、飲食を共にする。必ずもぶり飯の結びを作ることになっている。大松さんが訛り、一般には「おまっつあん」とよばれている。なお、かつては、この日が獅子稽古の始まり日であり、連絡がなくとも集まる便なし寄りであった。	B
	133	9	**三奈良神社の秋祭り** 10月第2日曜とその前日	下林上地区と見奈良地区の氏神である三奈良神社の秋祭りは、現在、10月第2日曜日とその前日となっている。金曜日が祭り準備の日とされ、清掃や幟立て･提灯吊りを行い、夜には宵宮祭と獅子舞の本慣らしと称して総練習が行われる。土曜日には、例祭神事が行われ、巫女舞が奉納される。その後、下林･見奈良両地区の神輿が拝殿に運び込まれ、夜間にお御魂遷しを行ったのち、神輿をロープで締め上げ、宮出しの準備を整える。日曜日の早朝に両地区の獅子舞(下林は雌獅子、見奈良は雄獅子)を奉納した後、宮出しとなり、村境の上重信橋まで並んで向かい、その後は二手に分かれて地区別に渡御し、新築した家などに迎えて神事を行う。夕刻に再び2体の神輿が合流し、神社まで舁き比べを行いながら向かい、境内で練った後に宮入となる。宮入りは、入れようとしても何度か押し返されるが、拝殿の床に神輿の舁き棒が着けば舁きだすことはできないのが、暗黙の了解となっている。その後、宮入りの獅子舞を奉納して終了となる。	B
	133	8	**築島神社の秋祭り** 10月第2日曜日とその前日	下林下地区の氏神である築島神社の秋祭りも同じ日程で、土曜日に例祭の神事を行い、日曜日には神輿の宮出しがある。地区内の組ごとに神輿が回っていき、獅子舞が披露される。	B
	133	8	**拝志神社の秋祭り** 10月第2日曜日とその前日	上林地区の氏神は、下林八幡組に鎮座する拝志神社である。10月第2日曜日の前日に例祭神事があり、日曜日には2体の神輿が上･下に分かれて地区内を巡幸する。	B
	133	8	**船川神社の秋祭り** 10月第2日曜日とその前日	上村地区の氏神である船川神社の秋祭りも、土曜日に例祭神事が行われ、翌日曜日に神輿の宮出しがあり、1日かけて地区内を巡幸して回る。	B
	133	8	**高知三島神社の秋祭り** 10月第2日曜日の翌日	下林の八幡組に祭祀される高知三島神社の例祭と神輿渡御が、10月第2日曜日の翌日に行われる。氏神の祭りに対して、小祭りと呼ばれる。各戸が持ち寄った神饌が供えられて神事が行われ、午後より神輿が組内を廻って夜に宮入りする。また、獅子舞も奉納される。夜には、子ども相撲もあった。	B
	134	8	**組祈祷** 集会所・神社・寺 成人の日（1月15日）	以前は、15日にしていたが現在は成人の日（1月8日）に行っている。この日の正午前、各集会所に祭壇をつくり、川上神社の野口宮司を迎えご祈祷を行い、組内安全の御札を頂く。町西小坂地区は、11月23日に川上神社境内にある組の社において組祈祷を行っている。宮西市場地区は、組祈祷を寺の祈祷で実施していたが、寺が組を脱したため中止となった。	E
	134	27	**亥の子・亥ノ子相撲（いのこ）** 原・鳥の子・西組・横灘地区と広場 11月初亥の日・相撲はニの亥の日近くの土曜	亥の子の日の夕刻、小学生が藁ぼてを持ち、各集落(原･鳥の子･西組･横灘)に分かれて各戸(不幸のあった家は除く)を廻り、玄関先で藁ぼてで地面を打ちながら亥の子の歌を歌い、家の繁昌を願った。主人がその労に報い、幾ばくかの小銭を渡しお礼をする。子ども達は次の家を廻る。家々を廻って集めたお金は、その後の二番亥の日(近い土曜日雨天は避ける)の亥ノ子相撲の景品に当てた。現在は、亥の子と亥ノ子相撲は自治会長、公民館長、区の役員、婦人会がバックアップして、子ども(小学生)が中心になって行っている。藁ぼては、公民館やお年寄りの人たちが作っている。石のゴーリンさんは使用していない。相撲の夜は、お年寄りも集まるため、甘酒や練り物、お菓子などを出す。使用済みの藁ぼては、各戸に持ち帰るが、果物の木に結びかけ朽ちるまで置く。特に柿の木には晩年から大粒の実がつき味もよいとされた。ふる里の記録によると、数え歌はお大黒さんという人は、一に俵を踏まえて、二でにっこり笑ろうて、三で杯取り交わし、四つ世の中よいように、五ついつものごとくなり、六つ無病息災に、七つ何事ないように、八つ屋敷を建て拡げ、九つ小倉を建て並べ、十でとーんと納めた、繁昌せえー、繁昌せえー。や、イーの子イーの子イノ子餅ついて、祝わん者は鬼生め蛇生め、角の生えた子生め、貧乏せえー、貧乏せえーと歌う。	E

市町	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
東温市	134	8	**ご祈祷** 地区内のお堂 ・揚神社内の東中村社 1月9日・5月9日 ・9月9日	以前は、年3回、1月、5月、9月の9日に持ちまわりで、その家に祭壇をつくり、各戸米2～3合を集めて子どものためにおにぎりをつくり振る舞い、大人は酒を飲んだ。正月9日集落のお堂に集落の人(Ⅰ・Ⅱ班32戸くらい)が19時30分頃集まり、神主が祝詞を奏上し祈祷をした後、揚神社の東中村の社に参拝していた。神主の死後祝詞を奏上する者がいなくなり、10年後くらいに持ちまわりをやめて、有志だけにしたが、数が減って、現在は、3～4人でやっている。	E
	134	34	**おちゃとさん** **(お茶湯さん)** 11月 茶堂の社・下古市集会所	以前は、茶堂地区重信川近くの重松自動車前のお堂に集まりお茶を飲んでいた。茶堂地区とともに行っていたこともあった。拝む人がいなくなり、令和元年に中止した。やめる前の頃は、茶堂のお堂に参拝して、後で集会所に参加者が集まり食事をしていた。	E
	134	15	**虫祈祷** 森区集会所 8月土用の日	森(東・中・西)地区の役員各1名が行事を行う。森区の戸主が集会所に集まり、南昌寺の住職に御札を貰い地区の入口6ヶ所に立てる。住職の虫封じの祈祷の後、飲食をする。令和3年6月、森区住民から「継承する人が少なくなったので、時代錯誤ではなかろうか。」との意見があり、各組に諮ったところやめようということになり令和3年中止した。	D
	134	15	**虫送り** 大興寺もしくは 旦之上集会所 8月土用の日	本堂に旦之上地区の善男善女が集合して、住職の祈祷の後、太鼓をたたきながら大数珠を廻す。「ナンマイダー　ナンマイダー　稲の虫が目をむいだ」と唱える。享保の頃、ウンカの大発生で凶作になったので、祈祷をして虫封じをするようになった。太鼓と鉢を鳴らしながら集落から外に虫を送る。追い払う屋外の行事は今はやっていない。平成30年から本堂建替えのため旦之上集会所を使用している。	E
	134	6・18	**年始祈祷** 曲里集会所 1月18日	曲里組では、1月16日夜の口あけ念仏の後で年始祈祷の打合せを行い、18日は早くから1日分の米や野菜を当元の家に持ち寄り、手分けして準備をする。料理材料を買いに行く者、御札を印刷する者、床の間に仏像の軸物を掛け、黒松、赤梅、竹、梅を門松のように飾りつけ、医王寺住職が大般若経をとなえた後、その経文を持ち組内の家々を廻って人々に経箱をいただかす。家内安全の御札を各戸に配り、組中安全の御札は部落の周りの辻に立てる。現在は、当家の家ではなく集会所で、10時からご祈祷を行い、懇親会をして、御札を配っている。	E
	134	6・18	**正月祈祷** 西中村集会所 正月第二日曜・年始に重なる場合は第三日曜	組中を3班に分け順に担当する。以前は当家の家に祭壇を設け、お供え(清酒・鯛・野菜・乾物等)と檀家寺の本尊などの掛け軸3幅を掛けた。ローソク立て、線香立て、鐘と撞木、清めの水と南天一枝、大般若経、相祷への酒2本豆腐10丁を当家が負担した。相祷はお布施、根付き雌雄松、蜜柑と煎餅(全戸数分)を用意する。行事は、相祷が10時から御札四方竹を用意して組境に立てる。買い出し祭壇飾り付けを行い解散する。12時より会費の徴収(各戸1000円　不足分は当家相祷負担)13時当家の家で住職が祈祷する。14時直会、当家相祷が各戸主を接待する。15時大般若経を持ち組内の家庭を廻る。各戸に御札・蜜柑・煎餅を持ち帰って貰い閉会となる。平成31年(2018)1月6日から、当家も何回も回り仏壇のない家も増えたので、当家は廃止して集会所で仏事を相祷が行い、お布施は組から支出、そのほかは従来どおりとして、この日に常会を行い、その後懇親会を行うように改められた。	E

市町	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
東温市	134	2	**十七夜** **（入波・入船祭** **・十七夜祭）** 苔谷山医王寺参道・境内 7月中の土日 （旧６月17日）	十七夜は東温市北方の苔谷山医王寺で行われる薬師、阿弥陀信仰に基づく祭礼である。『ふるさとの記録』には悪病退散、五穀豊穣とあり、薬師如来像を乗せた船形の山車が参道を御渡する他、如来の功徳を称える歌と踊りが継承されている。戦後中断したものを昭和39年に復興し、昭和57年から昭和62年までは毎年実施していたが、平成2年からは3年に1度の開催となった。行事に用いる道具類は医王寺の倉庫に保管されており、実施日の一週間ほど前から保存会が集まって道具の更新や修理を行う。当日は灯籠の設置、御船（山車）の飾付けなどを行い夕暮れを待つ。なお、祭の開催を知らせる旗火(煙火)を昼に1度上げる。18時30分ごろ、川内体育センターに御船や稚児ほか参加者が集合し、そこから東側の参道入口まで移動、参道を北へ向かって約300m離れた境内まで渡御する。御船は台の下部に車輪がついているため車道を綱で引いて巡行する。かつては渡船坊という医王寺の支院跡や旧川上村役場付近から出発していた。また、昭和40年頃は御船の台を下から持ち上げ、神輿のように担いだという。南北に続く参道には、灯籠が左右に100基ほど並び、その中を、銅鑼を相図に出発した御船が稚児に引かれながら行列とともに進む。行列の先頭は高灯篭、その後ろに横笛、大太鼓、小太鼓、ホラ貝、庭狩（にわかり）と参候（さんぞうろう）が続き、稚児が引く御船を先導する。なお御船の後ろ（最後尾）にも高灯篭が付く。渡御の間、法螺貝と横笛が吹き鳴らされ、太鼓が鳴るなかゆっくり進む。なお、法螺貝は行列と境内の２か所から鳴らされる。太鼓は二人組が担ぐ棒で吊された大太鼓と、二人が一つずつひもで首からかけ胸の下で叩く小太鼓がある。一方、提婆(大婆)は行列の周りを歩き、魔除けとして睨みを効かせる。御船が仁王門の下に着くと入船（歌い手）によって入波（入歌･入場の歌）が詠唱される。そして御船は仁王門の脇（担がれていたころは正面石段）から境内に入り、境内広場を時計回りに3回巡って、船首が本堂と対面するように鎮座する（前後の高灯籠も立ったまま）。御船の後方に立つ庭狩（向かって左）と参候（向かって右）が掛け合いながら寺の様子や祭の支度を誉めて言祝ぐ。最期に庭狩が手にした杖を振り下ろし、参候がそれを杖で往なし、背中越しに受け止める。次に提婆が境内を歩きながら自らがここに来た理由を告げ、薬師如来の功徳を高らかに謡う。提婆が薬師如来の出現を告げると御船の仕掛けで厨子の扉が外れ、如来像が現れる。さらに提婆が薬師如来の真言を唱えると参加者も続いて唱和する。その後、提婆が太鼓の口上を述べると、端謡の踊りが始まる。端謡は薬師如来と阿弥陀如来の功徳を称える内容で、歌い手は御船の周りに集まり声を合わせる。その外側を手に日の丸扇を持った稚児（保育園児から小学校３年生ぐらいまで）が一重の円になって時計回りに巡る。振り付けは広げた扇を上向きに両手で持ち、額の辺りまで掲げてゆっくり進み、囃子ことばで上下に振る。拍子は太鼓が取り、途中で横笛が入る。端謡が終わると稚児が退場し、地域の盆踊りに変わる。内容は一般的な歌謡曲を使った盆踊りである。祭りは夜まで続くが午後9時過ぎには終了(旗火は上げない)。終了後道具を片付け、本格的な片付けは翌日有志で行う。（市）	C
	134	19	**百八灯** 吉久地区の重信川堤防 ８月24日	直径約10～15㎝、長さ約2ｍの斉灯(サイト・松明)を数百本用意し、8月24日の夕方に地区の子ども全員が重信川の堤防に集まり点火準備をする。用意したサイトを堤防上に百八カ所、一列に約3m間隔で並べ日没とともに一斉に点火し、約1時間火を絶やさないよう「タロホモコイ」(太郎も来い)「ジロホモコイ」(次郎も来い)と呼び交わしながら次々とサイトを補充していき、全部のサイトが燃え尽きたところで行事は終わる。言い伝えでは川で遭難した人々や無縁仏を供養するためといわれている。昭和30年まではこの行事もすべて子どもの手で行われていたが、その後10年余り途絶えていたものを昭和49年に復活した。	C
	134	9	**揚神社の秋祭り** 揚神社 - 川上神社 - 御旅所 - 安置所４ヶ所 10月第２土・日曜	近年は松山市との祭り・行事の重複を避けて10月第2土曜日が秋季例大祭、翌日が神輿渡御・獅子舞となっている。朝7時頃獅子舞(三番叟・神楽)の後神事が行われ、宮出し、神輿の渡御が行われる。獅子舞は、拝殿で奉納の後、神輿と相前後して安置所を廻り披露される。あらかじめ決められたコースの御旅所、安置所4ヶ所を廻り、16時頃宮入りとなる。獅子舞は乱獅子1頭の演目は①神楽②三番叟③練り④千鳥⑤獅子おこし(笠、鉄砲、長刀)⑥相ノ切り(ひより、あしくい、つべくい、かたおとし、ふりだし、いかり、いもほり、さんごき、すまし)⑦角廻。二羽獅子2頭一対で、子役(おやじとおやす)の演目の前に庭払いとして舞われる。獅子舞は中学生、太鼓も中学生、子役は小学生、幼稚園、保育園児が演じている。（市）	C

市町	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
東温市	134	9	**森正八幡宮の秋祭り** 森正八幡宮 10月第2土・日曜	近年は松山市との祭り・行事の重複を避けて10月第2土曜日が秋季例大祭、翌日が神輿渡御・獅子舞となっている。朝6時頃、森正八幡宮で獅子舞の後神事が行われ、宮出し、神輿の渡御が行われていた。あらかじめ決められたコースの御旅所、安置所や集会所など希望する氏子の家を廻り、16時頃宮入りとなる。獅子舞は、拝殿で奉納の後、神輿と南方西区の各集会所を廻り披露していた。乱獅子1頭で舞われるが、演目も①神楽②三番叟③練り④千鳥⑤獅子おこし(笠、鉄砲、長刀)⑥相ノ切り(ひるから、あしくい、つべくい、かたおとし、ふりだし、いかり、いもほり、さんごき)⑦角廻。獅子舞は成人と小中男子、太鼓は中学生女子。子役は小学生幼稚園児などが演じていた。10年前に、大人や子役が集まらなくなり、協議の上やめることになり現在に至っている。	E
	134	9	**五柱神社の秋祭り** 五柱神社 - 御旅所 - 集会所外 (各集落) 10月第2日曜	近年は松山市との祭り・行事の重複を避けて10月第2土曜日が秋季例大祭、翌日が神輿渡御・獅子舞となっている。朝7時頃獅子舞の後神事が行われ、宮出し、神輿の渡御が行われる。あらかじめ決められたコースを御旅所、三軒屋集会所、奥松瀬川公民館や希望する氏子の家を廻り、16時頃宮入りとなる。獅子舞は、拝殿で奉納の後、神輿と相前後して御旅所や集会所、公民館を廻り披露される。乱獅子1頭で舞われ、演目は①神楽②三番叟③練り④千鳥⑤獅子おこし(笠、鉄砲、長刀)⑥相ノ切り(ひるから、あしくい、つべくい、かたおとし、ふりだし、いかり、いもほり、さんごき)⑦角廻。獅子舞は成人の大人、子役は小学生などが演じている。	E
	134	9	**川上神社の秋祭り** 川上神社 - 宮東 - 前松瀬川 (各集落)- ガリラヤ荘 10月第2日曜	近年は松山市との祭り・行事の重複を避けて10月第2土曜日が秋季例大祭、翌日が神輿渡御・獅子舞となっている。朝6時頃獅子舞の後神事が行われ、宮出し、神輿の渡御が行われる。あらかじめ決められたコースを御旅所、安置所や希望する氏子の家を廻り、19時頃宮入りとなる。獅子舞は、拝殿で奉納の後、神輿とは別に宮東から前松瀬川公民館、集会所、ガリラヤ荘を廻り披露される。乱獅子1頭で舞われ、演目は①神楽②三番叟③練り④千鳥⑤獅子おこし(笠、鉄砲、長刀)⑥相ノ切り(ひより、あしくい、つべくい、かたおとし、ふりだし、いかり、いもほり、さんごき、すまし)⑦角廻。獅子舞は成人と高校生、子役は小学生などが演じている。	E
	134	9	**吉井神社の秋祭り** 吉井神社 - 安置所 5 ヶ所 10月第2日曜	近年は松山市との祭り・行事の重複を避けて10月第2土曜日が秋季例大祭、翌日が神輿渡御となっている。朝10時頃、神事が行われ、宮出し、神輿の渡御が行われる。あらかじめ決められたコースをその年の安置所5カ所(集会所総代宅)を回り15時頃宮入りとなる。安置所は希望すれば個人の家も可能。神輿の渡御は氏子が行っている。獅子舞は拝殿で奉納の後、神輿と相前後して安置所を廻り披露されていたが、地元南方獅子舞保存会が休止中のため行っていない。	E
	134	9	**熊野神社の秋祭り** 熊野神社 - 安置所 5 ヶ所 - 板戸集会所 10月第2日曜	近年は松山市との祭り・行事の重複を避けて10月第2土曜日が秋季例大祭、翌日が神輿渡御となっている。朝8時頃、神事が行われ、宮出し、神輿の渡御が行われる。あらかじめ決められたコースをその年の安置所5カ所と板戸集会所、希望する個人の家などを廻り17時頃宮入りとなる。神輿の渡御は氏子が行っている。獅子舞は地元南方獅子舞保存会が行っていたが、現在は休止中のため行われていない。	E
	134	9	**菅原大神神社の秋祭り** 菅原大神 (神社)- 安置所 10月第2日曜	近年は松山市との祭り・行事の重複を避けて10月第2土曜日が秋季例大祭、翌日が神輿渡御となっている。朝7時頃、神輿の到着後、おやすの舞のあと神事が行われる。神輿の渡御は毎年森正八幡宮から駿番のため時間が変わるが、到着するとおやすの舞が始まる。時間は約40分。おやすの舞は獅子舞の中で獅子おこしの合間に行われる、太鼓二つで調子を取りながら、老夫婦(翁・媼)の種蒔きを二匹の狐と猿が邪魔をし最後にとらえられてしまう所作をする。おやすの舞は戦前から舞われていたという。今は小学生以下幼稚園の子ども達を集めて指導しているが人数の確保は難しい。舞は近くの老人ホームやすらぎ、ガリラヤ荘などでも舞っている。獅子舞は現在南方獅子舞保存会が休会中であり実施していない。	E
	134	9	**三島神社秋季例大祭** 三島神社 10月第2日曜	近年は松山市との祭り・行事の重複を避けて10月第2土曜日が秋季例大祭、翌日が神輿渡御日となっている。秋季例大祭は神事が行われ、神事の後氏子による直会が催される。獅子舞は北方獅子舞保存会が午前中に披露される。神輿渡御は行っていない。	E

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概　　要	存続状態
東温市	135	9	**氏之宮三島神社の秋祭り** 氏之宮三島神社・徳吉・則之内・永野地区 10月第2土・日曜(10月15日)	宮出しは、昔は早朝4時や5時にしていたが、現在は8時より行う。神輿に御霊が入ると、神輿を神社の庭に出し、飾る。４人の着飾った巫女が「浦安の舞」を舞ったあと、獅子舞が始まる。初めは必ず「式三番叟」。終われば、神社の周りを右回りで三回回り、御旅所に向かう。神社正面御旅所では、獅子舞はせず、徳吉御旅所・則之内御旅所・永野御旅所は上より回る。各御旅所で「浦安の舞」、「式三番叟」、「刀」、「長刀」、「弓」、「鉄砲」、「傘」、「種蒔き」、子役の居ない獅子舞「古三」「相の切」を行う。御旅所回りが終わると、その年に新築した家を回り、家に神輿を入れて祝う。家人は担き夫を酒、肴でもてなし、子どもたちにはお菓子を配る。新築の家回りが終わると宮入り。宮入りする取締役と神輿を担ぐ若者たちとの間で、入れる入れないで押し合い圧し合いが神社の階段辺りで起こる。拝殿に神輿を入れると、神官が御霊を神輿から抜いて宮入りとなる。宮入り時には、宮入り相撲が行われる。祭りの前日から氏子の世話人が作った土俵のそばに篝火がたかれ、沢山の賞品が積まれる。今は玩具、食べ物等である。宮入り相撲は嗾相撲（けしずもう）で、一人抜き、三人抜き、五人抜きで、相撲の景品として、竹筒（長さ1メートル位）に御幣が挟んである物が渡される。この五人抜きの御幣を持ち帰り、神棚に飾るのが子どもたちの祭りの一番の誉れであった。	B
	135	8	**お薬師さんのお通夜（じゅうしちや）** 7月17日 井内中野地区　薬師堂	毎年7月17日に行われることからじゅうひちやとも言われている。月光山圓満寺の薬師堂に子どもを含む地区の人がちよっとした料理を持寄り集まり、お薬師を拝んでから夜遅くまで話し合い楽しんでいる。	B
	135	8	**お念仏** 1月16日・8月16日 永野公民館	公民館に、地区に有るお阿弥陀さんと鉦を飾る。この鉦は自家で葬式をする時の寄せ鉦や、出棺の時に鳴らすものである。長老が先達となり、般若心経を唱える。昔は、飴玉位の数珠玉の長い数珠を輪になって持ち、数珠玉を繰りながら唱えた。大きな数珠は今もある。般若心経を唱え終われば、あとは直会。以前は各家順番で行っていた。この2、3年はコロナで中止している。	B
	135	28	**みんま（巳ん午）** 12月6、7、18、19、30、31 個人の墓地	仏さまの正月と言われている行事。その年に亡くなった人のいる家庭で行われる。僧侶は呼ばない。12月の干支で、巳と午の日に行われる。巳と午の日は3回あるが、どの日でもよい。行事日が決まったら、親戚縁者に連絡し、餅を搗き、正月しめ飾りを用意し、接待の料理も整える。当日（午の日）、午の刻に墓参りに行く。昔は午前0時に行っていたが、今は昼の12時に行う。持っていく物は線香、お重ね餅、正月しめ飾り、草履、包丁、藁、その他お供え物。草履は竹に差し、墓石の後ろに立てる。正月しめ飾りを墓石の前に飾る。一同で拝んだ後、藁で餅を焼き、包丁で切り分け、一同に包丁で刺し、肩越しに渡し分ける。草履は誰かが持って帰る。この草履を履くとしもやけ症状になりにくいという。墓参りが終わると家に帰り、ご馳走を食べて亡き人を偲ぶ。〔詳細調査報告48参照〕	B

市町	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
砥部町	137	15・18	**原町大般若祈祷** 1月第3日曜 集会所	昔、原町に悪病が蔓延し、困り果てた区民が理正院の住持に悪病退散を依頼したところから大般若祈祷が始まったと伝える。原町集会所内祭壇に掛け軸3幅(左から愛染明王・釈迦如来・不動明王)を下げる。その前に注連飾り。供物平台に、左より、般若心経経本、米1升、御札(この後各戸配布)、お酒、果物(バナナ・リンゴ)、菓子(祈祷後子供に配る)。これらの準備また原町集会所参加者は、上組・中組・下組・東和1組・東和2組・東和3組・旭組・南丘組の8つの組の評議員を中心とする。午前9時、理正院僧による般若心経。9時30分から般若心経を納めた櫃を軽四に積んで、8つの組の決められた場所に行きそれぞれ下ろす(毎年この役は組まわりで変わる、2019年は中組だった)。それぞれの集会所に子ども～年寄りがあつまり、櫃の下を「ダイハンニャ」と唱えながら往復する。足が悪くて来れない人は、服を家族の人に持って行ってもらい櫃をくぐる。正午、終了。正午からナオライ(この名称は使われていない)が2時ころまで続く。参加者には渡し、そのほか各戸にも御札を配布する。また、原町区の四方(高尾田・三角・上原町・背後の山裾)との境に御札を竹にさして立てて、悪病が入らないようにする。	B
	137	15・18	**原町お日待** 1月第4日曜 原町集会所	原町大般若祈祷の一週間後に実施。自治会区長、評議員などを中心に20～30人が集会場に集まる。集会場には注連飾り、供物平台には酒、大根などの野菜、米などを供える。理正院(真言宗)の僧が来て般若経を唱える。各戸に御札を配布する。	B
	137	1・19	**原町ヒャクヤットウ（百八灯）** 8月24日 墓地と原町集会所までの小道	盂蘭盆の8月24日に、砥部八十八箇所のお地蔵さんがある墓地から原町集会所までの小道に108のろうそくが灯された。4、5年前までは行われていたが現在は行われていない。	D
	137	8	**行者山田休みの祭礼** 田植の終わった後の日曜 行者山	行者山石鎚大権現社は、明和8年（1771年)の麻生水論の際に、笠岡代官所(幕府)で取り調べを受けた浅七によって勧請された修験社である。祭礼日は、麻生地区の水論があった6月8日の直後の日曜日である。拝殿において、米、お神酒、生魚、乾物、野菜、果物の供物をして、雨乞いの祝詞、般若心経をくり返し奉唱する。神仏習合であることが分かる。そのあと三角公民館で、酒を飲み、餅や料理を食べる。	B
	137	27	**原町の亥の子** 11月第2土曜 （11月亥の日）	集まるのは小学生男女とその父兄・子供会の世話人。子どもらが石に縄をつけ、組中を回って門先で地面を打つ、亥の子つきをする。午後4時、集まって亥の子石にロープをつける。4時30分頃から原町の8つの組を回り始める。6時、子供食事会(父兄が準備)。お餅をもらって帰宅する。	B
	137	27	**上原町の亥の子** 11月第2土曜 （11月亥の日）	亥の子は、旧暦10月の亥の日に行われる収穫祭の一つである。この日に田の神が去っていくと信じられている。子どもらが石に縄をつけ、組中を回って門先で地面を打つ、亥の子つきをする。また、猪は多産であることから子孫繁栄を祝うためという。このとき子どもらは亥の子唄を唄う。上原町では、「大黒さん」型の文句である。1999年まで亥の子石を使っていたが、子どもの数が減ったため現在は藁を束ねた「亥の子ボウ」を使っている。男子女子が参加。	B
	137	8	**古樋の堰上げ** 7月下旬 (7月末日の田植えの1週間前) 重信川土手 (砥部川合流地点)	古来より、八倉組の住民が、砥部川と重信川の合流地点(森松大橋の50mほど上流)に南岸と中州の間に斜め堰を築き上げたあと、古樋樋門で皆が持参の弁当を食べた。平成に入って、重機で古樋樋門への流路をつくるように変わると、堰上げや皆が集まって食事をすることもなくなった。さらに、取水の中心が古樋井手から上流の樋之井手に変わると、流路の世話もなくなり、堰上げの行事もなくなった。	D
	138	1・19	**川井の百八灯** 8月13日～15日 (8月23日～24日) 川井薬師堂	昔、灯しぞめ、灯し上げの行事として自宅からお墓まで108の燈明が灯されていた。これがお墓にあるお地蔵さんを祀った「神恵堂」から川を渡った旧道まで灯されるように変わり、さらに近年は薬師堂の敷地内(県道から薬師堂までの石段)に108のロウソクを並べ、先祖・神仏を供養する行事へと変化していった。平成29年からは、川井営農組合が中心となって、お盆の時期に合わせて8月13日、14日、15日に、薬師堂も含め七折から川井まで700本のロウソクを県道を中心に道端に灯している。ロウソクはペットボトルを半裁したものを使っている。川井区長など自治会役員・組役員・営農組合員などが世話役となり子供とその保護者を含めて実施している。当日、薬師堂に集まり、神主や僧を呼ぶことなく、お酒、榊を供え、般若心経を唱えて百八燈を始める。	B
	138	8	**五社神社秋祭り** 10月7日	午前7時、五社神社神輿(大人神輿1基、子供神輿1基)宮出し。子供神輿(10人ほど)は1戸ごとにまわる。大人神輿(14、5人)は、宮総代の家、各組集会所(5戸)をまわる。正午、宮入り。	B

市町	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
砥部町	138	1・18	**どんど焼き** 1 月 15 日に近い土曜 山並ハイツ集会所前	約40年前頃(団地ができたころ)から地区の子供会と自治会が共催して実施している。子どもたちが地区の家々を廻り、お正月の注連飾りなどを集め、集会所の前でどんど焼きを行い、餅を焼き、今年1年の無病息災を祈る。コロナのため令和2年は中止。	B
	138	15	**土用祈祷** 7月第 2 日曜または第 3 日曜 川井集会所	理正院からお札を貰ってくる。世話人を中心に20人～30人ほどが川井集会場に集まって食事会をする。そのあと、お札を各戸に配布する。	B
	138	18	**川井お日待** 1 月第 1 日曜 川井集会所	午前11時ころから、砥部大宮八幡社の宮司が、豊作祈願の祝詞をあげる(集会所)。そのあと、ナオライを集会所でする。	B
	139	27	**亥の子** 11 月の亥の日	小学生が地区公民館に夕方集合し、各家庭を亥の子の唄を歌いながら亥の子をついて回る。各家庭はお礼にお金を寄付する。その寄付金は子供会の運営資金となる。亥の子終了後、子ども達はお菓子をもらって帰る。その年に不幸事があった家は亥の子はしない。亥の子は稲藁で作っていて、事前に地区の人たちに指導してもらう。富士地区では、稲藁ではなくタイヤを利用するようになった。	B
	139	10	**和合神社夏祭り** 7 月 14 日 和合神社	和合神社は、北川毛を見下ろす小高い丘の上にあり、伊予の義民としてよく知られている庄屋善兵衛を祭っている神社である。現在この祭りは、地区老人会が中心となって行われていて、大宮八幡宮の宮司による神事の後、夕方より子供奉納相撲を行う。勝っても負けても子どもたちには景品がある。夜は北川毛万歳、民謡、踊りなどを行い、花火をあげて子どもたちと楽しい時間を過ごす。	B
	139	19	**西林寺の祭礼** 8 月 17 日	西林寺は区が管理していて、毎年8月17日に区の役員のみが出席し、大宮八幡宮の宮司による神事を行う。その後、懇親会をする。	B
	139	8	**お堂・お地蔵さんのお祭り** 8 月 24 日	地区の老人会が中心となり行われている。地区にあるお堂･お地蔵さんの清掃をした後、神事が行われる。その後、懇親会が行われる。また、区の人たちにお菓子が配られる。	B
	139	18	**お日待祭** 1 月初旬 公民館	公民館にて祭壇･お供え物などを事前に準備し、大宮八幡宮神主による神事を行う。参加者は、区役員･宮総代ほか区民全員参加で行われる。大宮八幡宮よりお札を頂き、区民全員に配布する。その後、総会･懇親会を行う。五本松地区では区全体ではしていないが、各組ごとに行う。	B
	139	10	**常盤木神社の夏祭り** 7 月 15 日 常盤木神社	毎年7月15日に大宮八幡宮の宮司による神事が行われ、その後、子供奉納相撲大会などが行われる。	B
	139	1・23	**灯し上げの行事** 8 月 24 日 山間の中腹にあるお堂	この行事は昔、外山の砥石山で砥石を掘削する作業者が落盤事故で多数亡くなられ、その人達を供養するために毎年行われるようになった。区役員が山間の中腹にあるお堂までの階段に、108本のロウソクを灯し、掘削で亡くなった人達の霊と地区でその年に亡くなった人達の霊を慰めている。	B
	139	8	**奈良原祭** 7 月 15 日 外山公民館	外山地区の共同山の間伐を行い、その後、神事及び懇親会を実施する。	B
	139	8	**祇園神社の祭り** 4 月､7 月	4月は春祭り、7月は水祭り。区役員･宮総代により祭壇などの準備をし、大宮八幡宮神主による神事を行う。その後懇親会を実施する。	B
	139	8	**石山神社の夏祭り** 7 月 14 日	区役員･宮総代により祭壇などの準備をし、大宮八幡宮神主により神事のみを行う。	B
	139	8	**神明神社の夏祭り** 7 月 15 日 集会所､神明神社	各戸に一人参加し、集会所にて大宮八幡宮の神主による神事を行う。終了後懇親会を実施する。	B
	139	9	**要害山での祭礼** 7 月初旬 要害山山頂にある祠	要害山は、万年地区と大南地区の境にある山で、昔は行き来していた道があり、関所があったと言われている。山頂に古い祠があり、7月初旬に万年地区と大南8地区の役員が出席して祭礼を行う。まず、大宮八幡宮にお参りし、お札をもらい要害山に登る。祠や周囲を清掃し、全員で拝んで終了となる。定期的のしめ縄を取り換える時もある。客地区では、大南霊園の2基の無縁仏をお祀りしたのち要害山での祭礼を行う。	B
	139	8	**戎神社の夏祭り (夏越祭)** 7 月 14 日～ 15 日 戎神社	区役員(区文さん)にて準備、大宮八幡宮の神主による神事を行う。周りに提灯を張り回し花火大会などをする。出店が出て区民全員が飲食し歓談する。8年位前までは盆踊りをしていたらしい。	B

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概　　要	存続状態
砥部町	139	10	**戎神社秋季祭** 9月20日 戎神社（おいべっさん）	戎神社は文化5年(1808)の創建と言われる。区役員(区文さん)にて準備、大宮八幡宮の神主による神事を行う。その後、子供相撲大会(100年の歴史があると言われている)を実施する。区文さんによる出店が出て区民全員が飲食し歓談する。	B
	139	15	**西願寺縁日** 8月9日 西願寺	戎と上ノ山の2地区で実施している。区役員(区文さんという)にてお供え物・お酒などを準備し、永代寺住職により、線香を焚き般若心経を唱えながら、200冊の経典を順次開けて虫送りを行う。修了後、懇親会を実施する。	B
	139	8	**卯の日祭り** 3月27日 大山権現	区役員で、事前に清掃及びお幟を建て、祭壇・お供え物を準備し、大宮八幡宮の宮司による神事を行い、その後、懇親会を行う。	B
	139	8	**大山権現の祭礼** 7月15日 大山権現	区役員のみの参加で、事前に祭壇・お供え物を準備し、大宮八幡宮の宮司による神事を行う。その後、役員のみで懇親会を行う。	B
	139	8	**地蔵尊の祭礼** 8月24日 地蔵尊	区役員で、事前に清掃及びお幟を建て、祭壇・お供え物を準備し、般若心経を唱えて終了となる。	B
	139	32	**新田大明神の祭礼** 9月第一日曜 集会所にある新田大明神	9月第一日曜日に行われる道つくり・敬老会と合わせて祭礼をする。午前11時より各戸に1人出席し、幟立、お供えを準備し、大宮八幡宮の神主による神事を行う。	B
	139	32	**薬師如来祭** 8月第3土曜 集会所にある新田大明神	各戸に一人参加し、永代寺住職による法要を行う。その後懇親会を行う。	B
	139	9	**客の天神社の祭礼** 海の日	天神社にて祭壇・お供え物などを準備し、大宮八幡宮の宮司による神事を行う。神事参加者は、大南（8地区）の区長が参加する。夕方から、子どもたちや近所の人々が集い、花火やかき氷の出店などで、簡易なお祭りごとを行う。	B
	139	23	**大谷の馬の丈の祭礼** 9月第2日曜 大谷公民館	大谷公民館の横に祠がある。馬の丈とは個人名で、昔この村のために非業の死を遂げた人ではないかと言われている。大宮八幡宮の宮司による神事が行われ、その後、区民全員参加で総会・懇親会が行われる。昔は子供相撲大会を行っていた。	B
	139	8	**春日神社の祭礼** 11月第4日曜 春日神社（分社）	久保田地区内に小さなお社があり、昔疫病が発生し多くの人々が亡くなったが、その後村が復活し、その供養のためお祭りが始まった。大宮八幡宮の宮司による神事が行われる。参加者は区役員・老人会・子ども達で、昔は子供相撲をしていた。	B
	139	8	**無縁仏のお墓清掃** 3月と9月の2回 地区内にある無縁仏の墓	久保田地区内にある無縁仏(2ヶ所ある)の墓を、区の役員・有志で年2回清掃活動を行っている。100年くらい前に、久保という大地主が、子孫が途絶えるということで、かなりの広さの田畑を全て村に寄付したため、久保田の人々がお礼に長年にわたってその家のお墓を守って清掃をしてきた。現在も続いている。	B
	139	1・18	**どんど焼き** 1月15日 岩谷口公民館前広場	地区公民館や砥部児童館が中心となり、近所から焚き木などを集め、1月15日に広場で燃やす。この時に正月飾りなどを一緒に燃やす。また、正月に残ったお餅を焼いて食べると風邪をひかないと言われている。	B
	139	32	**熊野神社（熊野権現様）春祭り** 4月25日	宮総代・区役員で行う。4・5日前に幟建てを行い、当日は朝から祭壇などの準備を行い、大宮八幡宮の神主により神事を執り行う。終了後懇親会を行う。	B
	139	8	**聖天堂の法要** 4月16日	当日、朝から経典・掛け軸・お供え物などを用意し、午前11時より、霊巌寺住職によりお経をとなえながら線香を焚き、200冊の経典を順次開けながら虫干しを行う。参加者は、区役員・宮総代・寺総代及び希望者で自由参加である。法要終了後、参加者で懇親会を行う。	B
	139	9	**赤坂地蔵堂の法要** 4月第一日曜	岩谷口・岩谷両地区の堺にある赤坂地蔵堂を、改修した折に始まったとされる。両地区が年交代で準備を行う。霊巌寺住職により法要を行い、参加者全員が焼香を行う。終了後、公民館で（年交代）懇親会を行う。参加者は両区民の希望者全員。	B

市町	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
砥部町	139	16	**お水取り** 5月18日 堂所池	お水取りは岩谷地区で毎年5月18日に行われる雨乞いの行事。この行事は、水利関係の代表者が、西予市野村町大野ヶ原の竜王神社の祭りに参詣し、一度も水が枯れたことがないという竜王神社・小松ヶ池の水をもらってくるもので、昭和42年の大干ばつ以降行われている。この水は7月8日の「岩谷の山の神さん」祭りの際に、池の水が絶えないようにとの願いを込めて、堂所池に入れられる。平成28年頃までは毎年行っていたが、現在は行っていないが、干ばつ時にはまた復活するのではとの事。	D
	139	29	**古岩谷山の清掃（おだいっさん）** 年2回不定期 古岩谷山	古岩谷山（別名お大師山）は、霊厳寺の北側にあるお寺の山。二股の山道があり、頂上付近でつながっている。この山道を年2回、区民総出で清掃している。山道わきには、ミニ四国88カ所のお地蔵さんがあり、前掛けなども古くなったものは取り替えている。山上の大岩の下には古いお社がある。霊厳寺は現在は浄土宗であるが、昔は真言宗のお寺だった。	B
	139	エ	**山の神さんの祭り** 7月8日 地区の南にある山	以前は山頂に祠があり、区民が登って拝んでいたが、現在、祠は稲荷神社に移転している。地区の北側にある古い道脇に、お幟を山向きに立てお祭りしている。その後、参加者で懇親会を行う。	B
	139	8	**お堂の柱塔婆** 4年に一度8月20日ごろ お堂	このお堂は岩谷地区とつながる道の境にあり、道祖神を祭っている。4年に一回、8月20日ごろに、このお堂に通じる区内の二つの道を区民総出で清掃し、お堂に集合しお参りする。その後、懇親会を行い親睦を深める。この道は、昔は町内へと通じる大事な山道で、小中学生などは朝早く、暗いうちから歩いて通っていた。	B
	139	15	**サクキトウ（作祈祷）・虫送り** 7月21日 観音さんのお堂	当日の朝、区民総出でお堂の清掃を行い、昼過ぎから虫祈祷を始める。集まった区内の人たちが、車座になって鐘や太鼓を打ち、お念仏を唱えながら大きな数珠を繰り回す。数珠の中の大玉、中玉が通過するとき、身体の悪い所にこの玉が触れると治ると言い伝えられている。また、大宮八幡宮から頂いたお札と、区で刷った自作のお札を各家に配布し、地区境の道や畑の入口などに立て、害虫の進入を防ぐ行事を行う。	B
	139	8	**大平地区の秋祭り** 10月7日 大平集会所	大平地区は砥部町内より距離が離れているので、秋祭りは大平独自の祭りを行っている。集会所の近くにお社があり、ここに幟を立て、清掃したのちお供え物をする。30年以上前まではここで獅子舞や神楽をしていたが、今はもうしていない。獅子舞の道具類・衣装などはまだ保存しているらしいが、舞い方や太鼓の叩き方などを知っている人がもういなくなっているので、継承するのは無理との事。また、近年はこの場所でお祭りの日に区民総出で運動会をしていたが、これも残念だが3年前に中止となった。(峰大平は別に神社があり、そちらで祭りごとは行っている)	B
	139	8	**川下地区の秋祭り** 10月7日 川下集会所	川下地区では、大宮八幡宮から神輿は来ないので、地区独自で神輿の運行を行っている。集会所に神輿を解体して保管しており、祭りに合わせ、神輿を組み立てて区内を回っている。このときに、大宮八幡宮よりお札(魂が入っている)をもらって神輿に供え運行をしている。区民全員が参加する。	B
	139	15	**虫祈祷（虫送り・土用祈祷）** 7月第1日曜 集会所等	虫祈祷は虫送りとも言われ、害虫を追いやるために行う呪的行事で、川下地区では円誓寺の住職を中心に、地区の人々が念仏を唱えながら数珠を繰り回し、稲が虫の被害にあわないように、また、区民が病気にならないように祈る。万年地区では子どもが鐘を持って歩いていた。また、永代寺にてお札をもらい、大きい札は地区の要所4ヶ所に立て、小さいお札は各戸に配布している。このお札の行事は現在も行っている。	B
	139	ウ	**円誓寺の花祭り** 4月8日	各檀家から花を集め、花で飾った仮のお堂を作り、その中に釈迦の誕生仏を設置し、甘茶をかけてお祝いする。一般参拝者にも甘茶の接待をする。15年ほど前までは稚児行列が行われており、川下集会所から円誓寺まで約1kmをゆっくり歩いていた。	B
	139	8	**川富神社の秋祭り** 10月7日 川富神社	神輿はない。事前に幟を立て、祭壇・お供え物を準備する。各戸に一人参加し、大宮八幡宮の神主により神事を行い、お札を配布する。	B
	139	8	**万年地区の秋祭り** 10月15日 地区の神社	地区内にある神社にて35年位前まで行っていた。昔は大人と子どもの神輿があった。事前に清掃し幟を立て、祭壇・お供え物を準備する。各戸に一人参加し、大宮八幡宮の神主により神事を行っていた。	D
	139	1・19	**百八灯の行事** うら盆のころ お大師堂	5・6年前までは行っていた行事で、うら盆のころ、お大師堂に区内の人々が集まり、ロウソクを108本立て、お念仏を唱える。昔は花火などをしていた。	D
	139	15	**夏の和霊さん** 7月23日 大宮八幡宮	大宮八幡宮に合祀されている和霊さんの祭礼で、昔は参道に出店が並び、夏の恒例行事として親しまれていた。神社の参道に茅で作った大きな輪の中をくぐることで、穢れを祓い無病息災を祈念するという行事は現在も続いている。	B

市町	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
砥部町	139	21	**大宮八幡宮の秋祭り** 10 月 6 日～ 7 日 大宮八幡宮	6日の宵祭りから始まる。宵祭りでは、夕方から大南商店街主催で、町内の子どもたちを集め、子供神輿の巡行を行う。お宮を出て大南商店街を巡行するが、途中に4ヶ所ほどお菓子を配る所があり、子どもたちは大変楽しみにしている。10月7日の本祭りでは、朝5時から行われる岩谷口獅子舞の奉納後、神輿の宮出し前にケンカ神輿2基による鉢合わせが行われる。その後、戎地区と客地区にある2ヶ所の御旅所から、4基の神輿(子供神輿も)の各地区への巡行が行われる。各地区にある神社や公民館などで、それぞれ神事が行われ、また、希望する各家庭にも神輿を入れて神事を行う。これらは全て地区の宮総代が取りまとめる。巡行は夕方まで行われる。近年では、午後6時に客の御旅所に4基の神輿が集結し、4体が横一列に合体したまま、客の御旅所から大宮八幡宮へ巡行しながら宮入りするようになっている。宮入り後、2基のケンカ神輿による鉢合わせが行われるが、朝の鉢合わせと比べ、酒が入っているためか結構力の入った荒々しい鉢合わせが行われ、盛大に盛り上がっている。参道には、前日から多くの出店が出ていて、また、宮入り後のケンカ神輿の鉢合わせを見ようと、大勢の見物客で大変にぎわっている。	B
	139	29	**砥部四国八十八カ所めぐり** 3 月 砥部町全域	砥部町中央公民館主催で、春の彼岸に3日間の日程で行われていた団体巡拝の行事。「砥部四国」は、藩政時代(文政年間1818年～1830年)に、岩谷口庄屋の日野何某が創ったといわれ、砥部一円(新谷藩)に散在するが、その札所の番号は順路に関係なく置かれている。岩谷口の1番札所を振り出しに、88番札所がある千足に至るまで、町内各所に本尊石仏が安置されている。これらの石仏は、各地区の老人会などが清掃や前掛けの取替えなどの維持管理をしてくれている。令和3年度から実施していない。	D
	139	ウ	**陶祖祭** 4 月 21 日 陶祖が丘	砥部焼の陶祖である杉野丈助を祭る陶祖ヶ丘で行われる祭礼。砥部焼協同組合と砥部焼販売組合の関係者が中心となり、午前10時より清掃・お幟立て・お供え物を準備し、大宮八幡宮の宮司による神事を行い、関係者が玉串を捧げ、砥部焼発展のお礼と報告をする。	B
	139	ウ	**如月忌** 2 月 6 日 客地区の井上正夫の墓地 井上正夫会	砥部町出身の俳優・井上正夫の命日である2月7日に合わせて毎年法要を行っている。井上正夫会が中心となり、午前中に客地区にある井上正夫の墓地で、永代寺住職による法要を行う。	B
	140	29	**お大師さん** 8 月 21 日 国道 379 号沿い お大師杉横のお堂	「お大師さん」は大内野組によって伝えられている。行事は夜7時開始のため、当番(2人)は事前にお堂周辺と通路の草刈りを行い、投光器を設置して道を上って来る組の人たちの安全をはかる。皆が揃ったところで、大師像前に座した地区の長老が「しんびき」を勤め、念仏の回数を皆に問いかけ、33回と決まる(本来は99回とのこと)。「懺悔文」「日日光明遍照説法」を唱えたのち、カネにあわせてお念仏が始まった。お念仏は「ナムアミダンブツ」3回を1セットとし、今回は11セット繰り返し、最後に「光明真言」で供養は終了した。その後、お供えの白飯と団子が下げられ、「おごく」として白飯を一口ずついただき、続いて団子も配られ、当番が用意した酒やくずしなどが振る舞われた。かつては、お堂の下の広場で子供相撲や盆踊りなどもあり、遠方からも訪れたという。そうした楽しみは今は見られないが、組内の親睦を図る良い機会になっている。	A
	140	33	**よせがき** **(施餓鬼・七日盆)** 8 月 7 日 篠谷地蔵堂	祀ってもらえない餓鬼仏を供養する行事。午前中に地区の六地蔵、金毘羅堂を掃除し、午後2時から地蔵堂にて「しょうらい棚」を作る。円形の竹ざるに、「青畳」としてバショウの葉を敷き、その上にナス、キュウリ、団子を供え、幡を立てる。地区の人たちは、「しんひきさん」のカネに合わせてお念仏を唱える。「ナンマイダー　ナンマイダンブツ　ナンマイダー」を1セットとし、それを3回繰り返す。本来は21セットだが、7セット、12セットでもよく、近年は12セットが多い。この日は直会は行われない。棚は8月24日の盂蘭盆まで祀られる。盂蘭盆の8月24日は、昔は、庭に建つ「二百万遍念仏供養碑」(弘化2年)に向かって皆が拝んだそうだが、今ではその作法を知る人もない。現在は、地蔵堂に酒と重箱入りの団子を供え、お念仏をしたのち、供え物の団子と酒を持って金毘羅堂に移動し、ここでもお念仏をあげたのちに、団子を一つずついただく。次に六地蔵の場所に移り、念仏後に残りの団子を皆でいただく。その後、集会所で直会を行う。しょうらい棚はこの日に降ろす。令和3年は、棚で祀っていたものは小田の川に流した。	B

市町	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
砥部町	140	17	**田休み** 6月上旬 光明寺	満穂地区では、田植えの終わった6月初めころに、豊作を祈願して開催。当番は寺総代が務める。午前中に道つくり(草刈り)を行い、午後、地区の光明寺で大数珠を回す。和尚は呼ばない。数珠は397玉。昔は中央で護摩を焚き、その周りで数珠を回したという。令和3年は第2土曜日の6月12日に実施した。タイコとカネに合わせ、左回りに数珠を回す。回数は決まっておらず、5分回して休憩、のパターンを3回繰り返す。その後、本郷集会所に移動して、全員協議会、続いて慰労会を行う。	B
	140	27	**亥の子** 旧10月亥の日 玉谷・大内野	両地区の小・中学生は6人で、現在は石ではなくわら製のぼてで行う。また、以前は、玉谷と大内野それぞれの地区の子どもたちが自分たちの地区を廻ったが、子どもの数が少なくなったため、7、8年ほど前からは、両地区の子どもが一緒に回るようになった。令和3年の初亥である11月11日に玉谷地区を回り、乙亥の23日に大内野地区を6人で回った。宿は持ち回りで、玄関先にしめ縄を張り、ゴーリンサンや米、野菜、お菓子などをお供えする。子どもの行事であるため、保護者は同伴しない。玄関先で「いのこ搗きにきました」と声をかけ、家の人が「お願いします」と答えると、わらぼてを叩きながら亥の子唄を歌う。終わると、数百円から千円程度のご祝儀をいただく。同地区では、小学生および中学2年生までが亥の子に参加してきたが、少子化のため、来年から中学3年生まで参加することが決まっている。	B
	141	19	**おもん淵延命地蔵尊祭り** 8月24日 特別養護老人ホーム「ひろた」前	総津町地区4、5組(広田郵便局～藤ノ瀬橋)の行事である。コンクリート製の祠は、組の川向こうにあり、2体の地蔵尊は川に面して鎮座する。玉谷川のこの場所は「おもん渕」と呼ばれる。現在より渕が深かったころ、子守の子どもが溺れ死んだため、死者を弔い、延命地蔵が安置されたという。亡くなった子どもの名が「おもん」だったとも、子守のことを「おもんさん」と呼んだともいわれる。以前行った古老への聞き取りによれば、地蔵が2体あるのは、安置されていた地蔵が大正11年頃の水害で流されたため、セメントで新たな地蔵を造り祀ったところ、流された地蔵が下流の小田町上田渡で川狩りをしていた人によって発見され、2体になった。左手に杖を持つ地蔵が最初に祀られた地蔵とのこと。盂蘭盆にあたる毎年8月24日のお祭りでは、4組と5組が一年交代で当番をつとめる。祠には赤い幕が張られ、お料理膳、しきび、盆花、菓子などが供えられる。秀禅寺住職が、水害など災害で亡くなった人を供養するとともに、参拝者の健康や家内安全、商売繁昌、疫病退散などが祈念された。その後、参拝者が一人ずつ地蔵前で手を合わせた。かつては、下の河原で子供相撲も行われたが、それも終戦から数年後には見られなくなった。	B
	141	33	**とぼし上げ** 8月31日 相生橋下の河原	総津のとぼし上げは、昼間、新仏の家で秀禅寺和尚による供養が行われたのち、藁で作った舟に、精霊棚を解体して施餓鬼幡とともに載せる。舟は、竹の骨組みに麦藁を束にして編みこみ、外側に割竹をあてて、針金で内側の骨組みとつなぐ。浮きとなる発泡スチロールを置いて藁を敷き詰める場合もある。最近は麦藁が入手困難になっており、令和3年に調査した舟は稲藁を使用して、長さ2mほどの舟を制作した。舟の大きさに決まりはなく、最近は藁舟ではなく、段ボールでとぼし上げを行う家も増えている。毎年秀禅寺和尚も参加して読経、鳴り物での供養が行われる。平成18年は開始が夜10時だったが、令和3年は午後8時と、時間が早まっている。午後8時前、河原に3艘の舟が運ばれた。舟ばたにロウソクが立てられ、火が点けられた。般若心経が唱えられるなか、灯油がかけられると、火勢が一気に強まった。読経に、三種の鳴り物(インキン・ク・ハツ)が加わり、「チン・ドン・ジャラン」が鳴り響く。かつては、火のついた舟が川に流されたが、近年は環境への配慮から、流すことはない。現在、広田の他地域では、日程もまちまちで、舟は作らず、庭先や近くの河原などで棚などを焚き上げる。	B
	141	15	**愛宕山講** **(あたごさん・お講)** 1月24日・9月24日 総津集会所	火難除けの祈禱と厄払いを目的として、愛宕講は、総津・町上地区の有志により、年2回実施されている。明治時代に同地区で起きた大規模火災のあと、現在の総津集会所の場所に愛宕をお祀りしたといわれる。木版に記された昭和55年の「定」には、年2回の講日のほか、当番2人は神酒一升、その他の講員でやはり神酒一升を用意するように書かれおり、「愛宕山講員名」として13名が記されている。現在、「お講」「あたごさん」と呼ばれるこの行事では、当番は酒とシキビを用意し、講員は線香とお賽銭を持って集会所に集まり、線香を立てて、愛宕像に向かい合掌礼拝。その後、皆で会食する。お神酒は当番が用意する1升のみとなっている。	B

市町	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
砥部町	141	29	**西石鎚権現お山開き** 旧６月１日 権現山	旧暦6月1日に、豊峰神社奉賛会が中心となって、標高440mの権現山のお山開きを行ってきた。同山には1，2，3の鎖があり、山頂に祠を祀る。明治10年頃から始まったとされる。前日の宵祭に総森三島神社よりご神体を運び、山麓の豊峰神社で数人が通夜を行った。祭り当日は、早朝に氏子が法螺を吹きながらご神体を背負って山を登った。山頂では終日、宮司が祈祷を行い、麓では、信者が豊峰神社の奥にある白糸の滝で滝に打たれての荒行を行ったという。豊峰神社奉賛会では、くじ入りの紅白もちをつくり、祭の当日に午前と午後にもちまきを行った。もちまきには村内の保育園や小学校も参加し、村外からマイクロバスで参拝があるなど、賑わいを見せた。しかし、20年程前から通夜は行われなくなり、滝垢離する信者の姿も見られなくなった。また、村在住の宮司が不在となってからは、山頂での祈祷も行われなくなり、また山頂にご神体を運び上げることも中止され、参拝者もしだいに減少した。平成29年、30年頃に祭りは中止され、会員の高齢化などを理由に、令和元年7月2日の総会で、奉賛会の解散を決議した。	D
	141	33	**精霊棚** ８月１日～31日 新仏のあった家	総津地区のN家では昨年12月に亡くなった家族のため、親族が精霊棚を手作りした。制作には4日ほどかかった。棚は新竹を使った二段組で、二段目に大量の桧葉を使用している。一段目には遺影のほか、飲物、果物、しきびなどが供えられ、二段目は四方を桧葉で囲ってバショウの葉を敷き詰め、その上に位牌、果物、キュウリ、ナスなどを供え、紫の盆花を両脇に供えている。棚の上部も四方を桧葉で囲っている。棚の左右には燈籠を置く。当主によると、「バショウの葉は畳」「燈籠は、こちらでお休みくださいと迎えるためのもの」と、父親から聞かされていたという。庭先には笹竹を使って施餓鬼幡を掲げる。8月1日に秀禅寺住職を迎えて燈籠とぼしを行い、8月31日の「とぼし上げ」と呼ばれる精霊流しまで祀る。今回の棚は手作りだったが、棚づくりは手間とある程度の技術が求められるため、近年の葬儀社からの購入が増えている。令和3年、玉谷地区で新仏のあった2軒は、いずれも葬儀社から棚を購入した。うち1軒では、数年前に亡くなった父が存命中は、地区の棚づくりを引き受けていたという。	B
	141	19	**新仏供養念仏・施食会（七日盆）** ８月７日 秀禅寺	毎年8月7日、総津地区の主催で、秀禅寺で行われる。同寺では施食会としている。地区主催のため、新仏の家族のほか、総津地区区長及び寺総代が参加する。同寺の精霊棚には、位牌(白)、お料理膳(2膳)、野菜、果物、菓子などが供えられる。午後3時から始まった供養では、最初にお念仏が行われる。参拝者は二組に分かれ、掛け合いで、カネとともに3回に分けて計108回の念仏を唱える。その後、新仏の家族から順に参列者全員による焼香となる。次に、住職による新仏供養、参拝者の家内安全等を祈願、読経とつづき、終了。	B
	141	15・18	**お日待講（お日待ち）** １月20日	お日待ちは五穀豊穣、家内安全などを祈願する行事とされ、また、悪いものが集落に入らないようにと、セキフダを集落の境に立てる。毎年1月20日に総津集会所で行われる総津町組のお日待ちは、かつては宮司と秀禅寺住職が務めたが、現在は住職が行う。祭壇には十六善神の掛け軸、酒、赤飯、果物、菓子などが供えられる。皆が揃うと、住職の読経に続いて、般若心経の転読。その後、お加護として、一人ずつ、経本で肩や背などを軽くたたく。最後に焼香となる。その後、集会所を離れ、組の人が大般若経を納めた経箱をかついで、5組から順に地区を回る。組がかわると担ぎ手も交代する。組の人たちは経箱の下を潜っておかげをいただく。また、お供え物の赤飯や菓子、木版刷りのお札が各戸に配られる。そして、寺が用意したセキフダを集落の境に立てる。	B
	141	19・34	**森の堂でのお念仏** ８月24日 多居谷集会所より 100mほど西南のお堂	盂蘭盆の8月24日は例年、多居谷の森のお堂で同地区の人たちが集まってお念仏を唱え、その後、地区の夏季総会を行っている。小高い丘のこんもりとした森の中にあるお堂には、かつては愛宕像など3体の木像が安置されていたが、現在は牛馬の守護神「ナラバラサマ」とされる木像のみかろうじて姿をとどめる。3体が納められていた棚には団子にした白飯のほか、酒、しきび、線香、ロウソクがお供えされた。午後2時、多居谷集会所から100ｍほど離れたお堂に参集。カネとタイコに合わせ、2班に分かれた参拝者がかけあいで念仏を唱える。数取りのマッチ棒が用意され、2班が１班の念仏を復唱して1回とし、「オイネオミンドーオイ」3回、「ナムアミンドーオイ」3回、「ナムアミドーオイ」3回を1パターンとして3回繰り返す。このセットを6回繰り返し、最後に「ババ念仏」として「ナムアミダーブヤ　ナムアミドー」3回繰り返しを21回唱えて終了となる。以上が本来の作法だが、近年は省略されて、令和3年も15分ほどで終了した。かつては、堂前の子供相撲や盆踊りもあったそうだ。集会所に戻って夏季総会を行ったのち直会を行うが、令和3年はコロナのため中止となった。	B

市町	地区	テーマ	行事名／行事日／場所／保存団体	概　　要	存続状態
砥部町	141	19	**総津東組お念仏** 8月16日 伊豫消防署広田出張所より約２５０m南の堂宇	毎年8月16日に、総津東組のお堂でお念仏を行う。お堂は国道379号線沿い、小田に向かう左手の小高い丘の国道に面し、堂前に五輪塔の一部と思われる塚を祀る祠がある。堂宇・塚は現在地より北上方にあったが、道路拡張のため移転している。平成19年の聞き取りでは、塚を移転する際に土中から錆びた刀が出土したそうだ。当番は一年交代で、当番は正月のお飾りを用意する。和尚の参加はなく、石像に向かって、念仏を掛け合いで21回唱えたのち、向きを変えて、塚に対して7回念仏を唱える。その後、組の打ち合わせを行ったのち、直会を行う。以前から「お堂」と呼ばれているそうだが、昭和59年の移転改築の際の寄進札には「辻堂」と書かれている。	B
	141	28	**巳午** 12月の巳・牛の日 墓所	「仏の正月」と呼ばれる死者のための正月で、12月の巳・午の日に行われる。巳の晩から翌日の午の日にかけ、「カラスの鳴かぬうち」に墓参したそうだが、近年では、午の日の昼間に行われることが多い。総津のI家において、令和3年は12月の最初の巳の日である11日に墓飾りを行った。墓飾りは、墓前に２本の竹を立て、藁の足を5・5・3本ずつ左右に垂らし、正月飾りとは逆に、右綯いのしめ縄の中央にウラジロの表を見せて飾る。また椿の杖にわらじを付けたものを墓の裏側に添えた。裏側に立てる理由については不明とのこと。また、午の日の昼頃に行われた墓前での作法は、藁に火をつけ、当日に搗いた餅をあぶる。その餅を包丁に刺して後ろの人に肩越しに渡す。餅を受け取った人は、餅を火であぶったものを別の人に肩越しに渡すなど、日常生活ではタブーの行為をあえて行う。墓飾りや作法については、菩提寺の住職への聞き取りおよびネット情報を参考にしたという。平成18年に満穂地区で行われた巳午では、夜中に墓参し、昼間搗いた餅を切り分けたのち、藁火であぶり、やはり包丁に刺して肩越しに渡した。一通り終了すると、「仏さんのお正月だからお節料理を」と自宅に戻ってご馳走をいただいた。当時、旧砥部町で見かけた墓飾りは家によって若干異なっていた。最近はネット情報に頼る場合が増えているようで、旧来の作法を伺うことは難しい。〔詳細調査報告48参照〕	B
	141・142	24	**鬼の金剛吊り** 1月16日	この日は念仏の口開けでもあり、正月からこの日までは、仮に葬儀があっても念仏を唱えてはならず、茶釜の口にもチーンという音がしないように藁を巻いたという。またこの日は地獄の釜の蓋が開く日とされ、一斉に人間界へ繰り出す鬼たちの侵入を防ぐために集落の入口にお札や、「この集落にはこのような大きなわらじを履く者がいるぞ」と脅すための大わらじを吊るすもので、厄除の行事とされる。令和3年、総津久保組では、16膳の竹箸、いりことご飯を入れた藁すぼ、大きな足半ぞうり、それらを吊るす縄などを手分けして作成。厄除けのお札は、宿で版木を刷る。縄が完成すると宿に全員が集合し、「性根を入れる」ため、その前で太鼓と鉦を叩く。以前は念仏を唱和していたが、現在は唱和しない。道渡し、川渡しが基本のため、、暗渠になっている八幡川をまたいで道に吊るし上げる。吊るされた鬼の金剛の下を全員で一往復して、おかげをいただく。再び宿に集まり太鼓、鉦のみのお念仏を行い、各家にお札が配られる。例年はこのあと直会となるが、コロナ禍のため、お茶とお菓子ですませた。この行事は広田地区内でも仙波以北の玉谷・満穂・篠谷・中野川では行われてこなかった。広田地区で令和3年1月16日に実施されたのは、総津久保組、高市谷地区のみで、高市鴨滝での行事はコロナ禍のため中止された。また、多居谷地区は人手不足と藁の入手困難を理由に、令和2年から中止となった。	B
	142	17	**おさんばいさん** 田植の日 田	平成16年に調査を行った高市のK家では、畔がコンクリートのため、畔ではなく田に稲苗3株と三本足の萱を編んだものを立て、菓子を供えて豊作を祈願した。同日、同家の田の向かいの山の棚田でもおさんばいさんを見つけたが、形態が若干異なっていた。今回、改めて同家に問い合わせたところ、現在も田植え初日には同様に行っているとのこと。この行事を行っている農家について他地区に問い合わせたところ、高市と満穂地区の農家から「昔はやっていたが、今はやらんな」と返事があり、他の例は見つけられなかった。広田地区においても、近年、米づくり農家は激減しており、この行事が行われなくなった一因になっているようだ。	A
	142	34	**お薬師さん（薬師講）** 旧6月24日 鴨滝薬師堂	高市・福善寺の住職を迎えて行われる。作法は、住職による読経ののち、経本で参拝者の肩を軽く叩く。その後、お堂の外に出て、住職が念仏を唱えるなか、堂横の「塔」と呼ばれる棒状の木の周りを素足で一回りする。続いて、大般若経を納めた経箱の下をくぐる。かつては経箱を担いで各家を回った。昔は盆踊りも行われ、中山方面から多くの人が影之浦峠を越えてやってきて、夜遅くまで賑わったという。白い大きな布を張り渡してスクリーンとし、映画会も行われたそうだ。かつてのような賑わいは失われ、地区の過疎化も進んでいるが、地区の人達にとっては大事なお祭りとして、令和3年も8月2日に実施された。	B
	142	8	**高森三島神社の秋祭り** 10月23日 高森三島神社	舎儀利が出る。宮出し、宮入りともに神輿渡御に先行し、神官、巫女、宮総代に続いて、演奏しながらお旅所に向かう。大人の提婆1人に子どもの囃し方(締太鼓1、小太鼓2、鉦摺2、手拍子1)の7人で構成され、笛方の大人は和服姿で囃し方と合奏する。子どもたちは、長着に袴、垂れ飾り付きのたすき、白足袋に下駄ばき、鉢巻を締めて花笠をかぶる。演者不足などの理由で、一時中断していたが、平成4年に地区に山村留学センター開設を機に、関係者の協力で復活した。（町）	A

市町村	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
松前町	143	18	**どんど焼き** 1月中旬の土日	松前地区6区中3区(南黒田・北黒田・筒井)で実施している。各戸より正月飾り物などを持ち寄り焼却処分する。実施時間帯は、概ね9：00～13：00で実施している。松前地区6区中3区(宗意原・新立・本村)は実施していない。	A
	143	15	**夏祭り（輪越祭）** 7月28日・8月1日 貴布祢神社 ・玉生八幡大神社	罪穢れを洗い清め、田植えの後の五穀豊穣・夏の虫除け・無病息災・家内安全などを祈願する。前日、一晩枕の下に敷いて寝た「厄を移した和紙の人形」を奉納し、茅を束ねて作った輪(茅ノ輪)を8の字を描くように左・右・左と3回くぐって健康や厄除け・開運などを祈願する。人形は、前もって宮総代か組長が配布してくれるので、氏名・干支・性別・年齢などを記入しておく。松前地区6区全ての区で実施している。区により氏子神社が異なる為実施日が分かれる。南黒田・北黒田は、7月28日で貴布祢神社にて実施。宗意原・新立・本村・筒井は、8月1日で玉生八幡大神社にて実施。	A
	143	19	**松前の盆踊り** 7月第3日曜頃	松前地区6区のうち2区で実施している。筒井地区は7月第3土曜日に実施。本村地区は7月20日前後の土曜日に蛭子神社にて実施。旧来よりの漁師踊りが行われる。	A
	143	21	**秋祭り** **（例大祭・秋季大祭）** 10月13日～15日 貴布祢神社・玉生八幡大神社	地区内6区を神社が二分する。南黒田、北黒田は貴布祢神社、宗意原、新立、本村、筒井は玉生八幡大神社である。五穀豊穣・悪病退散を祈願する行事で、宵宮の夜は高張提灯が各戸を練り廻る。獅子舞はやっていない地区もある。神輿は15日の朝、宮出しの後各々の地区を廻り宮司がお祓いをする。	A
	143	23	**義農祭** 4月23日	義農作兵衛を供養する祭り。	A
	143	10	**はんぎり競漕** 7月中・下旬の潮の良い日 塩屋海岸	たらいのような船・はんぎりの上に立ち、道具を使わず体の上下運動だけで前へ進み速さを競う競技。文禄4年(1595)、松前城主・加藤嘉明が巡察時に、船子がはんぎりに乗る様子を見て「もう一度見たい」と言って競争させたという記録が残っている。昭和47(1972)年に本村地区の蛭子神社拝殿新築祝賀行事で「はんぎり競漕」をすると、翌48年に松前漁港が初開催した「港まつり」でも行われた。その後休止していたが、昭和60年(1985)開催の松前夏祭り(商工会主催)の行事で再開した。	A
	144	18	**どんど焼き** 1月中旬の土日	岡田地区8区中4区(大間・恵久美・昌農内・北川原)で実施している。各戸より正月飾り物などを持ち寄り焼却処分する。実施時間帯は、正午を挟んで実施している。岡田地区8区中4区(上高柳・西高柳・西古泉・塩屋)は実施していない。	A
	144	10	**岡田地区の春祭り** 5月3日 集会所・頭王神社 ・レクレーション広場 ・岡田小学校 ・玉生八幡大神社 ・和多都見神社	大間を除いた岡田地区7区で子供相撲大会を実施している。	A
	144	15	**夏祭り（輪越祭）** 7月31日、8月1日、 8月2日 稲荷神社・玉生八幡大神社 ・高忍日賣神社	罪穢れを洗い清め、田植え後の五穀豊穣・夏の虫除け・無病息災・家内安全などを祈願する行事。前もって宮総代か組長が配布してくれる和紙の人形に氏名・干支・性別・年齢などを記入しておく。前日、一晩枕の下に敷いて寝、「厄を移した和紙の人形」を奉納し、茅を束ねて作った輪(茅の輪)を8の字を描く様に左・右・左と3回くぐって健康や厄除け・開運などを祈願する。岡田地区8区で実施している。	A
	144	19	**岡田地区の盆行事** 8月盆前後の土日 集会所・コミュニティ広場 ・レクリエーション広場	盆踊りが実施される。岡田地区8区のうち、上高柳地区・恵久美地区・昌農内地区・西古泉地区・北川原地区・塩谷地区の6区で実施している。	A
	144	8	**岡田地区の秋祭り** **（例大祭・秋季大祭）** 10月13日～15日	五穀豊穣や悪疫退散を祈願する奉納行事である。宵宮の13、14日の夜(13日だけの所もある)は子ども達が高張提灯にて地区内を廻り各戸玄関に入り「わっしょい」とか大声で唱える。獅子舞は昔ほど舞うことが当たり前で無くなっていて、舞っていない地区もある。神輿は各地区とも運行をしている。15日の朝、宮出しをし各々の地区を廻りそれぞれ宮司がお祓いをする。当年新築の家や新入居の家には必ず入っている。	A
	144	27	**亥の子** 11月亥の日	恵久美、西古泉、塩屋の3地区それぞれ一部地域で実施している。各戸を廻り家の前(庭)で地面を搗いて廻る。昔は餅を作って食べ、万病駆除・子孫繁栄を祈り、各戸を廻って亥の子の唄を歌いながら家の前で地面を搗いていた。	A
	144	15	**たまみね祭** 3月13日	大間・教深寺で大般若経祈祷をし、経典を警蹕に入れ住職の読経の中、警蹕を担いで各戸を廻る。各戸では各人が警蹕の下を潜って無病息災を祈る。起こりは350年の昔、大間の住人が谷上山からのお使いの白い大猪を殺して食べてしまった。その後、火の気のない所から不審火があり多くの家が焼失した。時の庄屋郷田何某が発願してこの祈禱が始まったと言われている。以来、大間ではあまり火災は発生していないと言う。	A
	144	19	**火流し** 8月14日～15日	14日の夜子どもたちが国近川に浮かべた麦わらに火を点け(迎え火)、故人の霊を迎える。翌15日は、同様に麦わらに火を点け(送り火)、故人との別れを惜しむ。最近では、老人クラブの協力により、灯籠で河岸をライトアップしている。江戸時代より続くと伝わる。	A
	144	19	**灯籠流し** 8月25日	灯籠は事前に老人会より各戸へ配布する。当日持参し有明公園で流す。	A

市町村	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
松前町	144	28	**みんま（巳午）** 12 月の最初の巳の日か 2 回目の巳の日 新仏の祭壇・墓地	新仏様のお正月として、故人が亡くなった年の12月最初の巳の日に親族が墓地に集まって注連飾りと重ね餅を飾る。昔は自宅で餅を朝搗いていたそうだが、今は餅屋に依頼し、朝受け取りに行くようになっている。また土日等親族が集まりやすい日に日程も調整しており、日中に行うことが多い。本来は巳から午の刻に実施した。祭壇に先ず餅とお飾りを飾り、菩提寺の住職にみんま法要を執り行ってもらい、その後、墓地にて読経後、親族のみで注連飾りを燃やし、包丁で刺した重ね餅をあぶり、そのまま喪主が後ろ手(肩ごし)に刺した餅を親族が手でちぎって食べる。餅は食べきる。住職によると古くは室町頃から武家で始まり、自らもいつ亡くなるともわからぬ身故年をまたがず新仏の正月をしたのではないか。また、残された親族が清浄な心に整える意味もあるとのこと。〔詳細調査報告48参照〕	A
	145	1・18	**どんど焼き** 1 月中旬の土日	北伊予地区の9区中2区(神崎・大溝)で実施している。各戸より正月飾り物などを持ち寄り焼却処分する。実施時間帯は、正午を挟んで実施している。	A
	145	8	**北伊予地区の春祭り** 4 月 29 日	北伊予地区の徳丸・中河原・神崎・鶴吉・横田・大溝・東古泉・永田の8区でそれぞれの氏子神社で神事をすませ奉納相撲を執り行う。徳丸は高忍日賣神社境内素鵞神社、中川原は中川原素鵞神社、神崎・鶴吉（本村）は伊豫神社、鶴吉（安井・賀佐）は安井稲荷神社、横田は横田素鵞神社、大溝は大溝素鵞神社、東古泉は東古泉素鵞神社で行う。五穀豊穣を祈念するお祭りで、奉納相撲は純真無垢の子どもたちが土を強く踏みしめる事で、土の神様が喜び豊作がもたらされるという。	A
	145	15	**北伊予地区の夏祭り（輪越祭）** 7 月 30 日、8 月 1 日、 8 月 2 日	穢れを洗い清め、田植え後の五穀豊穣・夏の虫除け・無病息災・家内安全などを祈願する。前日、一晩枕の下に敷いて寝た「厄を移した和紙の人形」を奉納し、茅を束ねて作った輪(茅ノ輪)を8の字を描く様に左・右・左と3回くぐって健康や厄除け・開運などを祈願する。人形には、前氏名・干支・性別・年齢などを記入しておく。北伊予地区9区のうち8区(除：中川原)で実施している。区により氏子神社が異なる為実施日が分かれる。	A
	145	19	**北伊予の盆行事** 8 月盆前後の土日	盆踊りが実施される。北伊予地区のうち、徳丸・中川原・神崎・鶴吉・横田・大溝・東古泉の7地区で実施。	A
	145	8・21	**北伊予地区の秋祭り（例大祭・秋季大祭）** 10 月 13 日～ 15 日	五穀豊穣・悪疫退治・家内安全などを祈願して氏神様に奉納する行事。神様が神輿で氏子内を廻るのはこの時だけで、地域一丸となって盛り上がる最大の祭りである。宵宮の13、14日の夜は子どもたちが高張提灯を持ち家々を廻り、玄関土間で「もーてこい」とか「わっしょい」とか大声で連呼しながら練り、提灯を差し上げる。お礼にお金(300～500円)が頂ける。獅子は、13日の夕刻に宮司のお祓いを受け初舞を奉納する。14日の夕刻からは、保存会や青年団が各組を廻って獅子舞をする。15日は、神輿の巡行に合わせ組長宅とか希望の家、当年新築の家・また新入居の家で獅子舞を行う。神輿は、14日には御霊遷しのため各々の神社へ宮上げする。15日当日は、各々の神社で宮出しが行われる。(6：00～8：00頃)この地区では近年神輿同士の鉢合わせはされていない。地区の厄年の男が「猿田彦命」となり、神輿の先導役を務め門廻り始まる。巡行中は希望の家とか指定の場所で宮司がお祓いをする。巡行を終えると各々の神社へ宮入りとなる。	A
	145	27	**亥の子** 11 月亥の日	徳丸、横田、大溝、東古泉の4地区それぞれの一部地域と、神崎地区で実施している。各戸を廻り家の前(庭)で地面を搗いて廻る。昔は餅を作って食べ、万病駆除・子孫繁栄を祈って各戸を廻り、亥の子の唄を歌いながら家の前で地面を搗いていた。	A
	145	32	**諏訪神社例祭** 9 月 17 日 素鵞神社	五穀豊穣・組中安全に感謝する祭典で、高忍日賣神社末社素鵞神社で執り行われる。諏訪神社はかつて徳丸河原組にあったが、明治の合祀令にて境内末社の素鵞神社に合祀されている。	A
	145	32	**蛭子神社例祭** 秋の社日 蛭子神社	商売繁盛・家運の隆昌を祈る上市えびすの祭典で、高忍日賣神社の鬼門と裏鬼門を守る社である蛭子神社で執り行われる。徳丸河原組の組長が参列する。高忍日賣神社の北東方向にある蛭子神社を上市えびす、南西方向にあるのを下市えびすと呼んだ。下市えびすは明治の合祀令によって高忍日賣神社境内の素鵞神社に合祀されている。上市えびすは、長い歴史の中で市の衰退と共に個人の屋敷内に取り込まれていたために合祀令を免れ、最近まで本来の場所に鎮座していた。屋敷の事情で今では境内の東北隅に遷座している。この蛭子神社例祭とは上市えびすの祭りである。	A
	145	ウ	**尚歯会神事（しょうしかいしんじ）** 5 月第2日曜 徳丸地区	大正2年5月6日に「郷土の発展は老人の積み重ねし努力の成果なり」として高忍日賣神社が主体となり、第一回徳丸尚歯会が催された。徳丸在住の数え75歳以上の高齢者を、大字徳丸役員が招待して、高忍日賣神社で神事を執り行い、老人憩いの家で祝宴を催す行事である。昭和27年の第40回をもって、神社から大字徳丸に移管され、翌28年からは大字徳丸主催の行事となった。	A
	145	29	**お山講** 7 月 1 日 中川原地区	数軒で1グループとし現在5グループが存在する。例年7月1日、石鎚山の「お山開き大祭」に参加する。	A
	145	ウ	**敬老祭** 5 月 出作	高齢者の健康長寿を祈願するもので、大字が主催し恵依弥二名神社で神事を執り行う。神事の後、集会所で祝宴を催す。参列者は、75歳以上の希望者と寿会会長・区長・宮総代などである。	A

市町村	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
伊予市	146	エ	**谷上山宝珠寺春季大法会** 3月最終日曜 （旧２月１日） 宝珠寺	大般若経を転読し、地域の安全、五穀豊穣、厄災消除、家内安全等を祈願する。古くから農業の守り仏として広く信仰され、祈願の参拝者が多く見られる。	B
	146・148	17	**叩込み（豊漁祭）** ５月５日 伊予港	伊予漁業協同組合により、毎年5月5日（子どもの日）に神事を執り行った後、扶桑太鼓（子ども連）による演奏、そして盛大に餅まきをする。郡中地区（旧郡中漁業協同組合）と北山崎地区（旧北山崎漁業協同組合）の漁民が一斉に大漁旗を掲げた漁船に乗り込み、地区ごとに船団を組んで繰り出し、伊予港（郡中港）より旧伊予市地先の新川から北山崎森海岸までを3回周回する。その間先頭の漁船舳先で太鼓で調子をとりながら、恵比寿様に見立てた「でこ」（人形）を踊らせて、龍神を鎮め海上安全と大漁を祈願する。	B
	146	34	**湊町大師堂祭り** １月 16 日、4 月 20 日、 8 月 20 日 湊町大師堂 大師堂運営委員会	1月16日は聖天祭りで、大師堂境内にある聖天祠前に供物壇を設営し、称名寺住職が祈祷する。参拝者には甘酒接待、祈祷札購入者にはいなり寿司進呈がある。4月20日は春祭りで、大師堂本堂に菓子・果物等を供え、称名寺住職が祈祷する。参拝者には甘茶の接待がある。8月20日は夏祭り。大師堂本堂に餅、果物、菓子等を供え、称名寺住職が祈祷する。	B
	146	8	**百万遍念佛講** 年３回 （1 月、5 月、9 月の日曜） 栄養寺本堂	直径約3mの大数珠を、約12～13人で囲み、中心に木魚係を1名置いて、念仏を唱えながら数珠繰りをする。昭和から平成初期には、毎回50人程度（4グループ）集まっていたが、コロナ直前（令和元年頃）には25～6人（2グループ）に減ってきている。数珠に沿って円型に整列したあと、住職を導師に勤行し、読経（般若心経）のあと、木魚のリズムにあわせて、数珠繰りを始める。数え役の人が一周ごとに札を繰る。一周を一万遍と想定しているので、百周をした時点で数珠繰りを終える（約40分）。全グループが繰り終えたら、導師が送仏偈を唱えて法要を終了する。法要後、世話人が早朝から作った弁当を食するのが慣例となっている。	B
	146	8	**伊豫岡八幡大神社祭礼** 10 月第３日曜 伊豫岡八幡神社 上吾川獅子舞保存会	毎年、10月第3日曜日の秋季大祭時に、上吾川獅子舞が奉納される。上吾川獅子舞は雄獅子、荒獅子で動きも激しく勇壮である。演目は「かつらくずし」や「のぼりくだり」などユニークな題名がつくもの6種類。大太鼓、小太鼓からなる拍子にあわせて鍬と笊を持った翁の耕す畑を子どもの演じる瓢箪を手にした猿がかわいらしく邪魔をし、翁との掛け合いの後、獅子が登場して畑を荒らし始める。その後、右手に火縄銃、懐に刃といった出で立ちの小さな狩人が現れ、獅子を退治する。狩人の衣装は、実際にお宮参りで使われた着物を使用している。また、幕間で登場する白い衣装にぼんてんを持った狐が愛らしさを添える。地域の五穀豊穣、家内安全などを祈願する伝統芸能であり、寛延4年(1751)より始まったと言われる。	B
	146	8	**宇佐八幡神社祭礼** 10 月 14 日～ 16 日 宇佐八幡神社 下吾川獅子舞保存会	下吾川獅子舞が奉納される。前半を「いれは」、後半を「獅子舞」と呼び、3頭の獅子と、「おやじ」と呼ばれる老人、猿、狐、狩人などが登場する。主役の獅子は子どもが踊り、太鼓とおやじを大人が担当する。	B
	146	15	**鬼子母神祭** ７月第２日曜 上行寺境内	郡中最初の夏越しの祭り。子安鬼子母神。	B
	146・147・148	8	**伊豫稲荷神社の例大祭** 10 月第２日曜 伊豫稲荷神社など	米の出来を祝い感謝する、伊豫稲荷神社で最も重要な年中行事。以前は新暦10月14日に祭典、翌15日に神輿渡御をしていた。神輿渡御では3基の大神輿が、一の体は本庁地区、二の体は南山崎地区、三の体は北山崎地区の氏子の家々や企業を巡行する。巡行に先立ち、尾崎獅子組による獅子舞が奉納される。同日、それぞれの地区の社から子供神輿が出て、氏子の家々を巡る。尾崎地区の事例では、伊豫稲荷神社で奉納された後に、天神社で獅子舞が奉納される。尾崎の獅子舞は明治時代に上三谷地区から伝わったとされ、天神社で奉納された後に地区の全世帯をまわり、五穀豊穣・無病息災を祈願する。「すねかぶり」「とんとこ」「山西」「いもほり」「山さがし」等の演目があり、小学校就学前の児童が子役として、狩人や猿、狐を演じる。	B
	147	23	**森山まつり** ７月２日 大鷦鷯神社	道後河野氏の家臣であり、細川勢の伊予来襲の際に討ち死にしたと伝えられる地元の森山城主・森山伊賀守の霊を慰める伝統行事である。行燈の列が、同地区内から大鷦鷯神社までの約2,500mに延々と続く。	B

市町村	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
伊予市	147	19	**大念仏** 8月14日 馬渡橋付近	夕暮れから下大平の馬渡橋付近の道路に行燈をつけ、僧侶を迎えて読経を行う。併せて念仏1庭（3回）から13庭（39回）を唱え、鉦・太鼓も同じ回数打ちならす。参集者は、それぞれ線香に火をつけ、付近にばらまく。その後、参集者は川東組と川西組に分かれ、手に手にうちわを持って川を挟んでに向かい合い、「オイナーム　ワーム　ローパイ」、「オイナーム　ワーム　ローパイ」と繰り返しながら、交互に川の中まで行って相手の方を仰ぐ。この行事は、この地域にある故人の供養と悪魔退散の祈念、虫追いの行事がひとつになったものである。	B
	147	27	**亥の子** 11月の亥の日に近い週末	大平地区の片山では、愛護班が主体で計画し、小学生が歩いて各戸を回る。上唐川地区の下寺では、小学生以下の児童がいる家庭の親が話し合い、日程調整する。当日は集会所に集合し、「亥の子石」と各戸に配る「亥の子餅」と粗品を持って、親子で各戸を徒歩で巡る。到着すると、訪問を告げる歌を歌い、家人に餅と粗品を渡し、家人の指定する場所で囃子歌を歌いながら亥の子石をつく。最後に集会所に戻って亥の子石を洗い、火のついた蝋燭を石にたてて入口に置き、お祈りしながら集会所に入ってお菓子を児童に分配する。	B
	147	19	**大地蔵の別辞** 8月21日	伝承によると、那須与一が大平に建立した木造の「お地蔵様」が、大洲の殿様の命で如法寺に持ち去られた。この際、お地蔵様を乗せた馬が犬寄峠で動かなくなったため、毎年念仏を唱えると約束したところ、馬が動き出した。大地蔵堂には替わりに石造のお地蔵様が祀られ、今でも念仏が唱えられている。戦前は旧暦8月21日に、当時の四ツ松地区の住民が朝から晩まで交代で念仏を唱えていた。各戸から1人は必ず参加した。とても厳しい決まりで遅刻は許されなかった。現在は新暦8月21日に、旧四ツ松地区（現在の四ツ松・大地蔵・大南小手谷の3部落と、石原部落のうち名字に「重」が入る数戸）の住民が、16時から大地蔵堂前で読経する。世話人が鉦鼓を打ち鳴らし、10分間ほど住民が真言宗の経を読経する。大地蔵や新田神社等の会計報告後、希望者が残って大地蔵堂前で会食する。コロナ禍で中断している。	B
	148	18	**大般若御祈祷** **（お般若さん）** 1月上旬～中旬 集会所等	この行事は、毎月1月のはじめから市内の各村(大字)で行われる新春の御祈祷である。村中の各戸から集まり、大般若経を奉読し、組内安全、家内安全、五穀豊穣等、諸々の祈念を行うもので、集まる場所は話し合いで決められ、寺や集会所や当番になった組の宿(家)に集まって行う地域もある。まず、僧侶による大般若経の奉読の後、大般若経をかついで村中を回る者、買い物をし食事の用意をする者等、みんなで話し合いで分担し、行事が進められる。	B
	148	エ	**初午祭（はつうまさい）** 旧2月初めの午の日 （いちのうま） 伊豫稲荷神社	伊豫稲荷神社の祭。山城国伏見稲荷山の3つの峰に稲荷大神が初めて鎮座されたことを祈って、豊作豊収を祈る祭。現在も旧暦で実施。氏子総代などが参加して神殿で神事を行う。太鼓を叩き、祝詞奏上、簡単な神楽を行う。続いて餅まき、うどんや新酒の御接待（主体は、五色浜神社の総代らによる奉仕団体）、外部団体主体の演芸、詩吟、演舞（最近はカラオケ）などの大会が続く。神事の延長として、大宮能売命（おおみやめのめのみこと）（お多福神）の御神面を事前に神社で手作りしておき、氏子のうち1軒に渡して、1年間家のなかに幸せを振りまくようにする。1年後、家中の災いを吸った面を回収して、その家の庭でかがり火を焚いて古い面を燃やす。そして新しい面を次の氏子の家に渡す。	B
	148	15	**土用干祭** 7月20日 伊豫稲荷神社	虫干しを兼ねて神社の宝物を一般公開する祭日。昔は、北山崎地区の青年団による盆踊りや、夕食後の提灯をかざしたお宮参りも行われていた。昭和32年から、病気祓災害祓の意を持つ輪越の神事が加えられた。	B
	148	27	**亥の子** 11月の亥の日に近い日	多くの地区では20年程前から実施されていない。三秋地区の折戸集落では、少子化でしばらく途絶えていたが、児童の転入があったため平成29年に復活した。三秋地区では各組の組長が日にちを決め、組長・副組長・小中学生およびその親が参加する。下三秋組や原中組では亥の子石を使用する。折戸組では藁を棒状にした「わら棒」を手に組内の各戸を回り、亥の子唄のリズムに合わせて庭先で地面を叩く。	B
	149	18	**御祈祷** 正月三が日を除く 1月の第1日曜（1月5日） 長泉寺	宮下地区の4組のうち、音地組のみが長泉寺で御祈祷を実施する。事前に家の数だけお札を作り、長泉寺本堂でお勤めしておく。当日朝、集会所で音地の人々が「ブック」（竹筒で作った餅）を作る。朝8時過ぎに、大般若経や太鼓、お札を長泉寺から当番に引き渡す。以前は、長泉寺で保管している大般若経の経櫃を当番が担いで、音地全体の各家を巡っていた。のちにトラックで運ぶようになり、10～15年くらい前からは、当番の人が経本だけを持って各家を巡る。お札を家々に配る。太鼓はお宿に持っていく。昼に、お宿で住職が40分間くらい大般若経を唱える。次に1人ずつ焼香してもらい、住職が大般若経で頭、肩、背中を軽く叩く。音地組の檀家を4組に分け、毎年順番に各家のご夫婦が参加する。昔は五穀豊穣を祈っていたが、現在は家内安全の法要としての意味が強い。会場のお宿は、以前は順番で宿屋を決めていたが、家の人の準備が大変なので、4～5年前から集会所のおとこ（床の間）を利用している。	B

市町村	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
伊予市	149	16	**伊豫神社夏越祭** 8月7日 伊豫神社	ボーデンと呼ぶ雨乞踊りと、大谷池龍神踊が奉納される。ボーデンは、小・中学校の女子生徒が蓑笠を着てボーデンを持ち、輪になって踊る。昔から竜王さん（行道山）に雨乞いしていたものを、大正3年にこの地区が干ばつに襲われたのを機に、神社に奉納するようになった。昭和40年頃に一度途絶えていたが、現在は、園児・小学生を中心に踊りが継承されている。大谷池龍神踊は、水争いをなくすために大谷川をせき止め大谷池を完成させた当時の人々の冥福と偉業を讃える踊りで、頭に竜の頭をつけ、扇子2本を使って踊る。	B
	149	8	**伊豫神社の秋祭り** 10月第2土曜の翌日の日曜 伊豫神社獅子舞保存会	獅子舞が出る。二人立ち獅子一頭による構成で、太鼓(大・小)の囃方で演目「やすい」と「とこちゃか」を舞う。大人が舞い、子どもが太鼓を叩く。その他おやじ(農夫)と猿による演目で、おやじと猿のかけ合いを演じる。	B
	149	8	**埜中神社の秋祭り** 10月第2土曜の翌日の日曜 埜中神社御輿会（獅子舞）	獅子舞が出る。二人立ち獅子一頭、狩人による構成で、大小の太鼓の囃方で舞う。	B
	149	8	**廣田神社の秋祭り** 10月第2土の翌日の日曜 廣田神社獅子舞保存会	獅子舞が出る。二人立ち獅子一頭、狩人による構成で、大小の太鼓の囃方で舞う。	B
	149	8	**三谷神社の秋祭り** 10月第2土曜の翌日の日曜 三谷神社獅子舞保存会	獅子舞が出る。二人立ち獅子一頭、狩人による構成で、中学生・高校生の大小の太鼓の囃方で舞う。	B
	149	8	**伊曽能神社の秋祭り** 10月第2土曜の翌日の日曜 宮下獅子舞保存会	土曜日が宵宮で日曜日が本宮である。荒々しい動きが特徴の雄獅子が奉納される。	B
	149	27	**亥の子** 11月の亥の日に近い週末	宮下地区では、北組をのぞく音地、新屋敷、南組の3組で実施されている。南組では、愛護班が日にちを決める。当日夕方、小中学生とそれを補佐する大人が集会所に集まり、神棚に飾りや餅を供える。集会所で保管している「石」を中学生が洗い、まずは伊曽能神社へ、次に各戸を徒歩で回り、庭で石をつきながら歌う。集会所に戻ってお供えした餅を皆で分配して帰宅する。上三谷地区の新屋敷組では午前中に実施する。宮下、上野、上三谷の各地区ではコロナ禍で中断していたが、令和5年に南組、音地、上野地区の下郷、松本などで再開した。	B
	149	ウ・23	**後藤又兵衛祭** 5月5日	慶長20年5月6日の道明寺合戦（大坂の陣）で戦死した後藤又兵衛の首が、戦後、又兵衛の母方伯父が僧を勤めていた長泉寺の近くに葬られたと伝わる。その墓は、現在の宮下地区南組の民家にあって、更にその隣家の敷地には廟所（社）があり、住民は代々又兵衛を「後藤さん」と呼んで祀っていたという。現在、この墓と廟所は長泉寺境内に移されている。長泉寺では昭和35年頃から毎年、新暦5月6日（近年は新暦5月5日に変更）に後藤又兵衛の法要が営まれている。コロナ禍以前は屋外で護摩祈祷を行っていた。現在は本堂での読経後に又兵衛の経歴が読み上げられ、来賓や上記民家の住民らが焼香する。家内安全等を祈願する行事。	B
	150・151	15	**ナゴシ（夏越し）** 7月17日	社殿に茅でできた大きな輪をつくり、それを正面に飾り付け、1年の前半を平穏に過ごせたことを神に感謝し、後半の無事を祈る。その後、この輪を男は左回りで3回、女は右回りで3回くぐって参拝を終わる。なお、前もってお宮から人形の型をした紙(オヒナガタともいう)を各家に配布しておく。このオヒナガタに自分の年齢・性別を書き、前日それを寝床にしき、今までの穢れや病気を移す。オヒナガタに人間の身代わりになってもらうのである。オヒナガタの処理は神社により違う。	B
	150	29	**永木山四国** 4月21日・8月21日 永木地区	梅原寺傘下の小四国八十八ヶ所である。信仰が篤かった福住部落の住民の発起により明治3年から5年頃に完成したという。この大師像には札所番号・寺名・奉献者の姓名が刻まれている。昭和30年頃に御接待は廃れたが、昭和50年代初めに地元住民が復活させた。現在、中山地区公民館永木支館の事業として実施されており、旧永木小学校区の3部落(永木、福住、梅原)それぞれにおいて、地元住民が参拝者を御接待している。コロナ対策のため令和2、3年は中止。	B

市町村	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
伊予市	150・151	27	**亥の子** 11 月亥の日	小学生から中学生の子どもたちが、亥の子歌を歌いながら、亥の子石や藁ぼてをつき、各戸をまわり、豊作や健康を祈る。回った先々で、ご祝儀やお菓子をもらい、宿(代表者の家や集会所等)に戻って、大将(代表者)が中心となって、それらを分配し、歓談する。以前は、ほぼ全地区で行われていたが、少子化により、行っている地区は少なくなってきている。佐礼谷地区の日浦集落では、亥の日に近い土曜日に実施する。未就学児～中学生と保護者が、集会所を起点に集落内4班の各戸と山吹神社をまわり石をつく。終了後、使用した石を洗う際に、児童は年齢の数だけ石の表面を手で擦る。	B
	150	8	**永木三島神社の秋祭り** 10 月第 3 日曜 永木三島神社	獅子舞・舎儀利が出る。舎儀利は、神輿渡御の先導役となるお囃子の鳴り物行列のことをさす。シュロのかつらと鬼面をつけた提婆が先頭を歩き、拍子木→大太鼓・小太鼓→鉦→横笛と続き、最後に提婆が歩いて、15名程度の隊列となる。その後に獅子舞が続く。獅子舞は二人立ち獅子一頭による舞で、乱獅子である。翁、猿、狐(2匹)、狩人を子どもが演じ、獅子を大人が演じる。コロナのため、令和2、3年は中止。	B
	150	8	**永田三島神社の秋祭り** 10 月第 3 日曜	獅子舞・舎儀利が出る。舎儀利は神輿渡御の先導役で、出渕地区(東町、門前、坪井、小池、栃谷、大矢、野中)の小中学生が担当する。太鼓、鉦、笛を小中学生が演奏し、町内を練り歩く。大人が提婆(7名)になり、提婆の代表者が太鼓を持って先頭にたち、残りは横や後ろを練る。獅子舞は二人立ち獅子雌雄2頭。コロナ禍のため、令和2、3年は中止。	B
	150	8	**川崎神社の秋祭り** 10 月第 3 日曜 川崎神社	神輿渡御の先導として舎儀利が出る。提婆の道払いを先頭に15～20人が練る。構成は、提婆・締太鼓・小太鼓・笛・鉦すり・手拍子・太鼓持ちで、小学生が締太鼓、小太鼓、鉦すり、手拍子でリズムをとり、中学生は笛を吹いて「ドン　ドンチャチャチャン、チャン」と囃子方に合奏する。約150年前から行われていると言われる。また、神輿渡御の際には、平沢お供相撲が演じられ、豊岡集落の舎儀利にもついて回る。お供相撲は、化粧まわしを付けた力士(できるだけ奇数の人数)が円陣を組み土俵入し、まず、子役、大関、横綱が演技をし、次に大関と横綱、最後に横綱が1人で演技する。そして、土俵をぐるぐる回りながら行司が相撲由来の口上を述べる。江戸時代に平沢地区の信仰厚い者が氏神様を慰め、至誠を奉らんとして始めた花相撲がその発祥といわれる。コロナのため、令和2、3年は中止。	B
	151	8	**三島神社祭礼** 10 月第 3 日曜 佐礼谷三島神社	獅子舞が出る。二人立ち獅子一頭、狩人による構成で、太鼓(大小)の囃し方で舞う。コロナのため、令和2、3年は中止。	B
	151	18	**お日待ち** 1 月 集会所等	中山地域全域(民家・集会所)。祭壇を設け、宮司参列のもと家内安全、五穀豊穣、地区繁栄の祈願を行い、そのあと参加者で直会(会食)をする。宮司にお祓いの護符をもらい、それを竹にさして、各地区の境目や分岐点などに立てる。なお、竹之内集落のみ、4年に1回住職に依頼して行事を執り行う。	B
	151	ウ	**花まつり** 5 月 8 日 真光寺	お釈迦様（天上天下唯我独尊）のお堂を季節の花で飾り、甘露に見立てた甘茶をかける。地区住民が当番制（2名）が対応し、訪問者を接待する。コロナのため、令和2、3年は中止。	B
	151	19	**お施餓鬼** 8 月 2 日 真光寺	ご先祖や、生前の悪行などにより餓鬼となった霊魂、無縁仏など供養されない死者に施しを行う行事。精霊棚をつくり、午前中は僧侶を招いて念仏を唱えていただき、午後は地元住民で念仏を唱える。本堂の仏様に対して1回、精霊棚に対して1回ずつ行うが、新仏があった場合には、さらに1回念仏を唱える。地区住民が当番制(2名)にて、対応する。	B
	151	19	**血垢ぬぐいの念仏** 8 月 7 日	組中の安全祈願として、毎年8月7日に念仏を唱える。	B
	151	19	**瑠璃光山真光寺の祭典盆踊り（十七夜祭）** 8 月 17 日 真光寺 十七夜実行委員会	安別当地区の住民が中心となって、真光寺境内にて盆踊りを開催する。本堂に寄付者からの提灯を飾り、境内中心にはやぐらを立てる。現在は、カラオケ大会や、食事飲物のふるまい、抽選会、モチ撒きなど、イベントの要素が強い。盆踊りの曲も、最近のもの（伊予おどり、中山サンバ等）になっている。コロナのため、令和2、3年は中止。	B
	152	17・18	**お日待ち** 1 月 11 日 双海町小網公民館 上灘漁業組合・共栄網	1月10日から11日の早朝にかけて独身の若者が集まり、用意しておいたモチ米をセイロで蒸し始める。白い湯気が立ち始め、潮が満ち始めると、若者たちは一斉に裸になり、「オーダマー」と言って海の中へ入り、神に祈り始める。やがて海からあがり、裸で餅をつき、鏡餅と、地区の各戸に配る大小の重ね餅をつくり上げる。その後、御神酒で乾杯して、酒盛りを始める。近年は着衣で満潮時に海に入り、手足を潮で洗うことで済ませている。また、餅の配布はしていない。	B

市町村	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
伊予市	152	8	**春祭り** 4 月第 3 日曜	高野川神社(高野川)、小網若宮神社(小網)、天一稲荷神社(灘町)、三島神社(本郷)それぞれで、豊作祈願を意味した祭礼行事があり、餅まきが行われる。コロナのため、令和2、3年は中止。	B
	152・153	8	**双海地域の秋祭り** 10 月 23 日	各地の神社で収穫感謝を意味した祭礼行事が行われ、神輿が巡行し、獅子舞が奉納される。天一稲荷神社では、両谷獅子舞が奉納される。コロナのため、令和2、3年度は中止。(市)	B
	152・153	15	**ワゴシ(輪越)** 7 月 31 日	夏越祭とも言って夏の暑さに耐え、無病息災の祈願をする行事。人形の絵を描いた紙を各戸に配り、家族全員の名前と年齢を書いて布団の下に敷いて寝る。これとお初穂(麦)、現在はお金を袋に入れて氏神様に持参し礼をする。茅でつくった輪をくぐり、神前にて祈祷をする。	B
	152・153	19	**お施餓鬼** 8 月初旬	近年、本覚寺(灘町地区)では過去1年以内に亡くなった新仏を供養する檀家(希望する檀家のみ)を毎年8月の初めに寺に集め読経し、塔婆やお札を檀家に渡す。檀家はそのまま墓地又は自宅に帰り、塔婆を立て新仏の家族や親戚とし、その後新仏宅で食事をする。	B
	152・153	33	**棚経** 8 月 15 日付近(8 月 13 日)	以前は、菩提寺の住職が檀家を回り、家の玄関前に柵をつくりお祓いした仏を供養して巡礼し、これに対し托鉢を出していた。しかし、近年は1年以内に亡くなった新仏の供養をする家のみ精霊棚を置くようになり、棚を置く家も減ってきている。住職は各檀家で読経し、檀家の祖先の霊を祀る。	B
	152・153	27	**亥の子** 11 月の亥の日	11月の亥の日に行う。暦の関係で亥の日が2回の年と、3回の年がある。11月の亥の日頃から寒くなるので、この火を炬燵を出す一つの目安としたとも伝えられる。双海町内各地区で実施されていた。各地区の子どもが行事を担い、各戸を回りその家の繁栄を囃子歌で願う行事で、亥の子石の場合は各戸の庭で石をつく。高野川地区・小網地区は、近年少子化で実施していない。本郷地区は一部でしている。久保、日尾野、大栄の各地区では、亥の子専用の「子供神輿」を用いる。久保地区の事例では、愛護部の代表が三島神社から授かった札「お性根」を神輿に納めて各戸を巡行する。日喰(ひじき)地区では亥の子石を用いるが、上浜・下浜・満野浜の各地区では、舗装された庭先を傷めないようタイヤを用いる。	B
	153	19	**下灘の盆行事** 8 月	漁業を休み、魚の供養と戦没者の霊を慰める行事で、地区総参加で太鼓の囃子やレコードに合わせて踊る。	B
	153	15・18・24	**本谷の金剛** 1 月 18 日	毎年1月18日の念仏講の際に、本谷集落の住民が集って長さ約50cmの大きな藁草履を作る。完成した藁草履に正法寺住職が念仏を唱えて魂を吹き込み、集落内を流れる本谷川に渡した藁縄に吊るす。集落に厄災を入れないように、大きな藁草履を履いた金剛力士が門番をしていることを表す。その年の暮れまでに、藁縄が自然に切れて藁草履が落下するのが良いとされる。近年正法寺が無人化したが、兼務住職によりコロナ禍のなかでも実施している。	B
	153	19	**池ノ久保の盆行事** 8 月 24 日に近い日曜日	池ノ久保土山 (堂山) 地蔵堂で行われる。花踊りや傘踊りなど、双海地域でも珍しい古式な盆踊りを継承してきたが、数年前に少子高齢化で継続不能となった。盆踊りは青島から伝わったとされる。令和5年現在は、午前中に慶徳寺住職が地蔵堂で読経、住民が焼香し、その後簡単な会食をする形式となっている。	B

市町	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
久万高原町	154	18	**お日待ち** 正月 15 日頃	正月15日頃の吉日に、集落の組内(「条会」という)で、組長の家に、各戸1名(主として「家長」)が集まり、神主に従い天照大神、氏神様に、五穀豊穣、組内安全等を祈願し、会食・懇親会をして親交・融和を深め、年間行事内容や当番の確認をする。昭和40年中頃までは、神事として行われたが、今は形式化しており単なる町内会などの組織の懇親会となっている。	B
	154	27	**亥の子** 旧 10 月亥の日	稲刈り上げ祝いの行事で、猪の多産にあやかり、万病を払う「おまじない」として、新米で作った餅を、亥の日亥の刻に食べるもので、もとは宮中行事であったらしい。田植えの時の「おさんばいさん」に、「亥の子に戻ってきてください。お餅をついて、お祝いします」と祈っているので、恵比寿、大黒様など七福神にお神酒を供えて、豊作と無事な暮らしのお礼と平穏な歳末が迎えられることを願うお祭りである。新藁を束ねて造った「亥の子」を作り、子どもたちが集落の家々を回り、庭などで丸くなって「亥の子」を地面にたたきつけ、回りながら「亥の子唄」を歌う。	B
	154	17	**おさんばいさん** 田植えの初日	田植えの初日に、「田ノ神様、恵比寿様」をお迎えし、豊作と安全を祈願するもので、最初に植える田圃の中ほどに、稲苗束、柿、蕗、菓子や干物などをお供えし、当主が朝食前に祈願する。田植えが始まり、「お供え」に行き当たった「早乙女」が「おさがり」を祈願して、夕方帰宅するときに家に持ち帰る。柿は「かきとるように」、蕗は「ふきとるように」の語呂合わせ。田植えは、木枠や田植え綱を定規として縦綱に合わせて、一列に並び下がりながら、手で植え付けていた。今のように「並木植」ではなく「正条植」で植え付けたが、理由は「除草剤」が発達していなくて、除草機(ころがし)を縦横にかけていたからである。柿の枝や蕗は6月初めまでお祭りしている。	B
	154	28	**ミウマ(巳午)** 12 月巳の日	12月の巳の日に、お正月を迎えることができなかった神仏様の霊をお慰めする行事。夜中の12時に、揃ってお祭りしている墓地にお参りし、納経の後に、喪主が「新藁で焼いた(炙った)一口サイズの角餅を、一個ずつ包丁の先に刺して、肩越しに参拝者に献じる。参拝者は出来るだけ無口で参拝し、餅をいただきそれぞれの家に帰宅する。墓には、「佐縄」の紙製の四手を付けた注連飾りをする。	B
	154	18	**元旦朝祝い** 1 月 1 日	元日(1月1日)の朝食は、男が準備する。雑煮を作り、煮しめなどの朝食の準備をし、家族そろって新年の食膳につき、当主の新年の挨拶を受けて、食膳につく。食事の前に、神前・仏前に灯明・線香をあげ、昨年のお礼と新年のご加護をお祈りし、お神酒(お屠蘇)をいただき、新年が始まる。子どもには、このときに「お年玉」が渡される。昭和30年代まではやっていた。	D
	154	8	**地方祭(秋祭り)** 11 月 2 日	神輿は入野、西明神、本組の親神輿と西明神の子供神輿の4基。西明神神輿は子供神輿を従えて、神社南前方の「御旅所」へ急な階段約20mを上り、神主の祓い後、村落巡行に出る。昼食は、多くは据え付け家から頂いたお接待のおむすびや菓子類で済ませることが多かった。「神輿神」には、据付家からお茶やお菓子が、大人にはお神酒やつまみの接待がある。神輿には神主と宮総代、案内人がついてお世話する。据付家では、獅子舞が奉納される。座敷に神輿の敷藁を、獅子舞には莚2～3枚と太鼓打ち用に椅子3脚を準備する。神輿守しない子どもは獅子舞の道具や据付脚を運ぶ。夕方15時過ぎには巡行を終えて神社に帰る。拝殿に安置し、神主に「御神体」を抜いてもらう。その後「神輿蔵」へおさめる。神輿蔵に神輿を納めた後、拝殿で西明神の獅子舞の舞い納めと、本組の青年たちによる「お練り」が奉納された。お練りはアクロバティックな2段継や宙返り、ジャンプして肩に飛び乗ったり、肩から他の人の肩に飛び乗ったり、太鼓のリズムに合わせて軽業師のように飛び跳ねる。	B
	154	10	**金毘羅さん大祭** 4 月 10 日・10 月 10 日	昭和30年代までは、金毘羅総代と高殿神社神主が仕切って、村内災難消滅、家内安全、無病息災等を祈願し盛大に神事を施行していた。神社総代と帰郷した客人が玉串を奉納した。春には「くじ付き餅まき」、秋には奉納相撲があった。秋の祭りには出店も数店あり、相撲の勝者には御幣やノート、参加者には鉛筆などが与えられた。戦後しばらくは大人相撲も盛んで、景品には「八木」(米)もあったようだ。春の祭礼の季節は農家の「水苗代」作業も終わったところで、近隣の農家の主婦も参拝に訪れ、まるで社交場のようなにぎやかさだった。祭礼の前には総代が参道の除草や枝払い、境内の掃除をして、秋は「土俵作り」もしていた。	B
	154	15	**夏越まつり** 旧 6 月 30 日	家内安全と健康祈願を氏神様に参拝しお願いする。前夜に、名前と満年齢を書いた人形(ひとがた)を枕の下に敷いて休み、翌日夕方、参拝の時に賽銭とともに奉納する。神前では茅で作った輪をくぐりお祈りする。神主から「水無月の　夏越しの祓いする人は　千歳の命延ぶと言うなり」の祓い言葉を頂戴する。「茅の輪(ちのわ)」は、茅を15cm位の束にして、直径180cm位の大きな輪を作り、立てて設置したもの。神前に向かい右手に回り、左手を回り、もう一度右手を回り、本殿に向かい首を垂れてお祈りする。	B

市町	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
久万高原町	155	17	**おさんばいさん** 6月田植えの時 田植えの準備ができた田	直瀬、畑野川地区では田植えの準備ができると順次田植えを行うのであるが、田植えを始める前に、田の真ん中に土を集めて小さな土塁を造り又は畦の適所に苗束を3くろ(1株×3)と実の生る木(南天や卯の花)を立て、お炒り(かき餅)やお菓子等を供えて、山の神に田に降りて来てもらい、稲の成長とお米の豊作を祈願する神事。祈りは主人が行う。お祈り文句は個々に異なる。近年、農業も機械化が進み、田植えも稲刈りも機械でするようになり、おさんばいさんを降ろす家は少なくなった。そこで、直瀬小学校の田植えをする時に村の有志が集まり、子どもたちと一緒におさんばいさんを行っている。	B
	155	17	**さなぼり祝** 田植が終わった晩	家ごとに田植えが終わった晩に酒肴、ぼたもち、すし等を作ってさなぼり祝をする。組内で田植がすむと、田休みの日を近い土日に決めて休むよう一斉に通知している。昔は一斉に休んでいたが、最近は休みを取るのは個人の判断に任せている。	B
	155	10	**堂山神社の子供相撲大会** 12月の第一日曜 (12月4日～5日) 下直瀬ふるさと館	堂山神社は下直瀬中通の東側山の上にある。例祭の冬祭は12月の第一日曜日に行っており、同日、中通のふれあい館広場に土俵を造り、下直瀬の中学生以下の子どもに相撲を取らせ奉納している。最近では子どもの数が少なくなり、小学校を共にする上直瀬の子どもたちにも声を掛けている。また、結婚等で村を出た人が子ども連れで帰ってきてその子どもたちにも相撲を取らせている。村の有志や村を離れている篤志からお菓子や寄附金が寄せられ、相撲の参加者や勝者に褒美として渡される。	B
	155	28	**新仏の正月祝** **(巳午・辰巳)** 12月の巳午の日 新仏の墓の前	巳午または辰巳の行事。年内に新仏が出た家は家族が喪に服すため、新年の正月を祝わないので、新仏を楽しませるために年内の12月の巳午の日に、家族が搗きたての柔らかい餅や酒、菓子等を携えて墓にお参りに行き、墓の前に2本の竹竿を立てて、2本の竹竿の間にしめ縄を張り渡し、墓に菓子や酒を供え、花を飾り線香を焚き念仏を上げる。その後、持参した藁を燃やして供えた餅を切って炙り、餅を包丁で突き刺して後ろを振り向かないで、自分の肩越しに、後ろの人に食べさせる。生きている人には大変危ない食べ方であるが、それを見ている新仏さんはハラハラドキドキして非常に楽しいので、大変喜んでくれるという。上直瀬と畑野川は巳午の日に儀式を行うが、下直瀬では一日早い辰巳に同様の儀式を執り行っている。古くは巳午か辰巳の両日をまたぐ時刻(零時)に行っていたが、現代になってからは、夜中に行事を行うのが大変になり昼間に行うようになっている。この行事の時は寺は関わっておらず、僧侶が参加することはない。参加者は家族と近い親戚くらいである。しめ縄には7本、5本、3本と垂れ縄を下げたものを張る。	B
	155	9	**氏神の祭(秋祭り)** 11月2日～3日 八幡神社、五社神社、 住吉神社境内及び御旅所	下直瀬の氏神、八幡神社の秋祭りは、初日に神社の拝殿広間で巫女2人が御神楽を舞い奉納する。翌日境内で獅子舞が行われ、その後、御神体の入った神輿を村の男たちが担いで宮出しをする。祭り役員は法被をはおり、御神輿の前に立って氏神様が乗られた神輿を先導して村内の御旅に出る。御旅巡りの先頭には天狗面を付けた「提婆」(ダイバ)が歩き道あけをする。沿道に村人がいると竹の先を割った杖で身体に触り、厄払いもする。子どもたちはダイバの面に怖がり泣きわめく子もいる。新築した家など慶事のある家は神輿をお迎えして酒や食べ物を出し供応する。各部落を巡る御旅所である中通の公民館前広場では獅子舞が奉納される。御旅から帰った神輿はお宮の境内でワッショイ、ワッショイと練り歩き宮入をする。その後にお宮でも獅子舞が行われる。上直瀬には八幡神社が無く村内の5社を集め「五社神社」と呼び氏神としている。畑野川は住吉神社が氏神である。近年は担ぎ手が居なく車で回る。	B
	156	19	**愛宕山念仏** 8月25日	久万高原町父二峰地区橋詰にある愛宕山に、14時ごろ住民11人(うち2人子ども)が集合。法蓮寺より僧侶を招き、木造の「オムロ」の前で読経が行われる中、参加者が輪を描き、太鼓を打ち鳴らしながら念仏を唱えた。元々同所にあった石製の「オムロ」でまつられていたが、目の前の木が大きくなり、根が石製の「オムロ」を半壊させたため、約20年ほど前に木製の「オムロ」を作ったという。	B
	157	8	**石墨神社祭礼** 7月10日 石墨神社拝殿	石墨山十二社大権現社拝殿が標高1280m地点の岩陰内に鎮座している。岩陰東端には岩屋が残っている。石墨神社には本殿はなく、石墨山の山体を祭神としている。午前8時、石墨神社遙拝所に本村の20人ほどが集まり、半数が遙拝所の手入れ、半数が石墨山に分かれ山登りを開始する(女性も含む)。午前9時、石墨山に到着、拝殿の手入れをする。午前10時、拝殿内で祭礼を開始する。寺僧や神主はいなく、地元出身者がみそぎの祓いや大祓をする。午前10時30分、同じ岩陰にある弘法大師を祀る木祠に移動して、般若心経を唱える。正午、下山。午後0時30分、石墨神社遙拝所で神主による神事が始まる。20人ほどが参加して、榊を奉納する。午後1時、祭礼が終わる。午後1時30分、直会が始まる。午後2時30分、直会が終わる。昭和30年代までは10月にも石墨山拝殿に登っておこもりをしていた。	B

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概　　要	存続状態
久万高原町	158	18	**大般若（だいはんにゃ）** 1月2日 本組	組で購入した大般若経があり、公民館に僧侶を呼んで転読してもらう。神社では歳旦祭がある。寺・神社からそれぞれセキフダをもらい、組の出入口に2枚を並べて立てる。	A
	158	24	**鬼の金剛** 1月16日頃 渋草地区、杣野地区	悪霊退散、無病息災を願う行事。組で集まり、竹の骨を入れた大きな長円形の藁草履に、角石とご飯を詰めた弁当、十六善神に因んだ十六組の箸、魔よけのダイダイ等を添えて、組の入口、川、道路等に長い縄で高く吊るす。鬼や悪魔が来ても、こんなに大きな草履を履く人がいると恐れて引き返すといわれる。	A
	158	18	**霊神祭（れいじんさい）** 1月下旬 中組の神道の家	神主が神道の各家を回り、先祖を祀る。コロナ以前はやっていた。	D
	158	18	**おひまち** 正月明け	小組単位でおひまちをしている。	A
	158	エ	**祈年祭** 3月20日頃	地区の有志や神社総代、自治会の役員が参加。五穀豊穣と地区の安全を祈願する。	A
	158	15	**ナゴシ** 7月12日～17日	神社総代が茅で輪をつくる。チガヤは入手できないので、カヤを使っている。参拝者は茅の輪くぐりをし、ヒトガタを納める。	A
	158	16	**風鎮祭（ふうちんさい）** 8月上旬	風を鎮める祭り。お堂で念仏を唱えた後、神社で風鎮祭を行う。	A
	158	16	**解願祭（かいがんさい）** 9月15日	風鎮祭でかけた願を解く祭り。お堂で念仏を唱えた後、神社で解願祭を行う。	A
	158	27	**亥の子** 10月最初の亥の日	子どもが藁を束ねて「いのこ」をつくり、家々を回り、亥の子歌に合わせていのこつきをした。40年～50年前までしていた。	D
	158	8	**大味川地区の秋祭り** 11月17日～18日	17日が例祭、18日が神幸祭。例祭は昼から行い、巫女舞がある。以前は、神職が舞う神楽も奉納していた。神幸祭は神輿渡御があり、獅子舞が出る。	B
	158	17	**新嘗祭** 11月23日	地区役員が参加。収穫を感謝する。	A
	158	ウ	**火番** 朝夕二回（朝昼夜の三回） 相の木地区	約250年前に大火が起こり、集落の家が殆ど燃えてしまったことを契機に始まったと伝わる。「火番」と言って、各戸持ち回りで地区内を回り、火の用心を呼びかけている。1日一戸の当番が、家々を回り火の用心を呼びかける。かつては、朝・昼・夕と3回呼びかけていた。終えたら、隣の家に木製の「火番帳」を回していく。火番帳は横30cm、縦15cmほどの板で、当初のものを修理しながら使っている。お守り代わりでもあるという。	B
	159	5	**念仏会（涅槃）** 旧2月15日 光明寺	釈迦の入滅をいたみ、個人の無病息災を願って、毎年、光明寺にて大数珠をたぐり、鐘、太鼓に合わせて念仏を唱え、お互いの健康を祝い合う。なお、供物としたツバキの葉を持ち帰って念仏会に参加した印とした。	D
	159	15	**星祭（身祈祷）** 2月5日 日野浦藤杜（宮柱神社）	古くから身体の健康を祈念する身祈祷として、各組別に日時は異なっていたが大体春に行われていた。各自が肴を作って持ち寄り酒は共同購入して、まず神職のおはらい行事が行われ、各自が健康やその他の雑談をしながら酒を酌み交わし肴を食して解散をしていた。戦後各組の身祈祷が星祭として神社にて開催されることとなり、厄年(男25歳、37歳、42歳、女19歳、33歳、男女61歳、77歳、88歳)の者を中心となり家族一同2月5日宮柱神社に参集して、神職より厄払いの祓詞を受け、神社へ思い思いの金額を奉納して持参の酒肴を交わして解散する。	D
	159	10	**成の地蔵祭** 旧7月中	国道33号線が開通するまで、土佐街道の宿場町として繁栄した処で、この地域の中心であった。当時は地蔵堂も広大なもので、300年は超えているといわれたトチの木、高さ2丈もある大銀杏なども繁茂して、年1回の縁日旧7月25日には昼間は大角力が催され、伊予、土佐の力士が集まって力技を競い、夜は大提灯、かがり火をして踊り大会があり、人々は弁当、酒を持参してこれに参加した。明治40年頃より交通量がなくなると共に各種の行事は廃れ、現在は1間四角の小宇に安置され、行事としては成、馬門、田之元3組50戸が旧7月いっぱい、交代にてお茶湯と一束線香を供えている。	D
	159	8	**弘形の秋祭り** 11月第2土曜 大川豊久（八柱神社） ・有枝本村（八幡神社） ・上黒岩尾貝（御三戸神社） ・中黒岩（尾崎神社） ・日野浦（松原八社神社）	八柱神社・御三戸神社・松原八社神社では、巫女が鈴神楽を奉納し、神輿と獅子舞が渡御する。有枝本村八幡神社では、鈴神楽を舞い神輿が渡御する。尾崎神社では神輿が渡御する。	B

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概　　要	存続状態
久万高原町	159	15	**夏越し** 7月15日 神社	あらかじめ神社などが配った紙の人形に厄年や姓名を書いて一晩体に敷いて寝、祭り当日、神社の茅の輪をくぐり、人形を川に流す。大川豊久(八柱神社)、有枝本村(八幡神社)、上黒岩尾貝(御三戸神社)、中黒岩(尾崎神社)、日野浦(松原八社神社)で行われている。	B
	159	16	**堂山神社のお祭り** 7月15日(旧6月28日) 八柱神社	雨乞は堂山社で行う。毎年の祭礼では、太夫が祝詞をあげた後村人たちは料理を持ってお宮に集まり、おこもりをする。	B
	159	19	**六堂地蔵** 8月24日 正泉寺	8月1日から8月31日まで1日1軒ずつ朝地蔵さんのところにお茶をくみに来る。24日は地蔵盆で、大谷に行く途中にある地蔵を持ってきて、朝、回向をする。	D
	159	24	**虫祈祷** 1月16日 光明寺	鬼の金剛といわれ、大きなわらじを作り、寺で念仏を唱えてそれを村の端に吊るし108回数珠をくる。これをしなかった年は必ず疫病がはやったそうである。なお、この行事が終わると「念仏の口開け」といって念仏をしてもよい。	D
	159	19	**旗かき** 8月 光明寺	新盆の家だけ行う行事で、もとは長宗我部の菩提をとむらう意味で行われていた。新盆の家の門戸に経文を書いたさらしを竿に巻いて立てる。そして寺の住職がその家にお経をあげに行く。旗は3年目まで立てる。	B
	159	32	**山の神祭り** 旧6月1日	上組・下組共同でお社日(彼岸の中日)に行う。男は山の神の掃除、女は料理を準備する。祭りをとりしきる人を当人といい、当人まわりといって交代する。当人の家に集まって会食する。祭りの費用は共有地の木を伐って売った金を充てる。	D
	159	18	**お日待ち** 正月	大川豊久では、お宮で「天照皇大神」「八柱神社」の掛け軸をかけ、神主に拝んでもらい、酒肴を共飲共食する。日野浦大谷では、昔は集まってお日待ちしたが、現在は久万から山伏、東川大川からホーエンさんを呼んで拝んで貰うことを「お日待ち」と言っている。	D
	159	18	**金毘羅講** 旧1月2日	3人が代参して家内安全のお札を受け帰り、お講祝いをしてお神酒を飲み、お札を配った。代参人の身内に死人が出た時はメンバーから外した。	D
	159	8	**秋葉講** 旧正月15日頃	世話人の家に集まり、話し合いで代参人を決めた。代参人はお札を受けて皆に配った。	B
	159	8	**大師講** 正月	本村で組織された代参講で、当番の家に集って講びらきをする。久万町の管行さんにお参りに行った。	D
	159	29	**愛宕講** 正月14日か24日	当屋の家の床の間に、おかけいじを掛け、酒を飲んで宴会する。	D
	160	29	**お水祭り・岩屋市(オタイッサン(お大師さん)・ミエイク(御影供))** 正月14日か24日	弘法大師の御影をまつり、近隣及び岩屋寺有縁の寺院僧侶計約10名集会し、主として読経による供養祈念をなす。護摩供養（火を焚いて祈念する）を行い、五穀豊穣家内安全、諸願成就の祈祷をす。麓に種もの・植木・刃物の露店など大きな市が立ち大勢で賑わう。4月21日には「お水祭り」が行われる。〔詳細調査報告49参照〕	B
	160	15	**火祭(秋葉講)** 旧1月18日 ・5月4日・9月4日	1月18日に行われる高知県の秋葉神社祭(火の神)へ選ばれた2人が代参し、戸数の護符を受けて持ち帰る。その間に2軒の当家が祭りの準備をする。五組全員が当家へ集まり、神官に祝詞をあげてもらい酒肴で懇親会をする。その後、護符は各家へ持ち帰ってまつり、組内の分かれ道や橋のたもとにも護符を立てる。	D
	160	8	**仕七川の秋祭り** 11月第2土曜 龍池神社・河内八幡神社・熊野神社・八社神社・河崎神社・大宮八幡神社	東川の大宮八幡神社では、鈴神楽を舞い、神輿と獅子舞が渡御する。その他の神社では、鈴神楽を舞い神輿が渡御する。現在、神楽は行われていない。	B
	160	15	**夏越し** 6月30日・7月15日 地区の各神社	あらかじめ神社などが配った紙の人形に厄年や姓名を書いて一晩体に敷いて寝、祭り当日、神社の茅の輪をくぐり、人形を川に流す。	B
	160	8	**金毘羅さん** 3月10日・10月10日 東光寺	東泉寺で行われていたので、東川だけでお祭りをしている。金毘羅堂に僧侶が来て経をあげる。願かけがよくなされていて、重病人が願をかける。治った場合にはお堂に小さな旗をたてる。祭りの世話をする人は輪番制で、常時2～3人いて、任期は最低1年。	D
	160	8	**ネキンエ(涅槃会)** 旧2月15日 光明寺	涅槃の絵をかけて、護摩をたき、お経をあげる。	D
	160	5	**花祭** 4月8日 岩屋寺・東光寺	寺が甘茶を用意し、参拝者に分ける。この甘茶を飲むと夏病みをしないといわれる。また、家周りに撒いておくと魔除けになるといわれている。	D

市町	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
久万高原町	160	6・17	**山の神祭り** 旧６月１日	山の神の祠がある山へ、各戸から一人(多くは戸主)だけ集まって、お供物(以前麦、現在米)を供えに行き、その後、以前は当屋の所に、現在は公会堂に集まってこの日のために作ったドブ酒を供え、公会堂の前に置き、村中の者で飲む。ここでは女性の参加も許されている。	D
	160	18	**お日待ち** １月	以前は組長宅で行われたが、現在は公会堂で行われ全戸が参加する。昔は男性だけで行われていたが、現在は女性も参加している。一戸1人。	D
	160	15	**秋葉講** １月	くじで決められた代参人２人が秋葉神社から「おかじ(掛け軸)」を貰い受けて来た。お不動さんを受けると言う。	D
	160	29	**石鎚講** ７月	石鎚山へは7月1日～10日の間に登っていた。輪番の代表者2人ずつが行きお札をもらって帰り、代参者の家に皆を招き酒をふるまった。	D
	161	27	**亥の子** 旧 10 月亥の日	亥の子餅をつき供える。子どもたちが”亥の子”と称する藁束をついて健康、安全、無事、息災を願ってついてまわる。「大黒さんと言う人は、一で俵をふんまえて、二でにっこり笑うて、三で盃さしおうて、四つ世の中よいように、五ついつものごとくなり、六つ無病息災に、七つ何事もないように、八つ屋敷を建て広め、九つ小(こ)倉を立て並べ、十で俵を納めた。」物品や金銭をもらって、お礼として次のことを唱える。「この屋敷はよい屋敷、四方が高くて中低くて、大判、小判がそぞり込む、繁盛せ、繁盛せ」。	D
	161	8	**中津の秋祭り** 11 月第２土曜 音無神社・八社神社	黒藤川上組(音無神社)では、鈴神楽を舞い、神輿と獅子舞が渡御する。黒藤川上組(八社神社)では、鈴神楽(浦安の舞)を舞い、神輿が渡御する。	B
	161	15	**夏越し** ６月 30 日､７月 15 日 音無神社・八社神社	半年の罪穢れを払う夏越祭り。	B
	161	エ	**十夜法要（お十夜さん）** 旧 10 月 14 日 正泉寺	本堂に3人のオッサンが集まって、トウキビ･あずきなどを供える。	D
	161	17	**山の神祭り** １月 20 日・５月 20 日 ・９月 20 日	長崎の部落共有の祠に参拝し、その後輪番の当家の家に集まり、会食して解散。祭日に猟に行く場合は祠にお神酒を供えて行く。	D
	161	8	**川まつり** 11 月 14 日	龍の川の「龍王様」をまつる。昔は川アユやそうめんが振舞われた。ダムができてからは集会所で行う。コロナの影響で中断中。	A
	161	8	**佐賀神社のまつり** １月 14 日・９月 22 日	中津の開祖「佐賀家」の祖先を祀る。祭日には、集会所で宴席を設ける。コロナの影響で中断中。	A
	161	1・19	**百八灯** ８月 25 日	当番が山の神に御神酒を供え、各戸の家族が松明を持ち、全員で点火し1列になって高知県境まで歩く。	A
	161	8	**下地先祖まつり** ８月７日	昔、竜の川の竜を退治した休場七人組(中越、平川、西川、西森、谷脇、中山、安藤)の先祖を祀る。2戸で墓参りしたのち輪番でお接待。	A
	162	8	**愛宕さん（常夜灯）** ２月 24 日・６月 24 日 ・10 月 24 日 柳井川立野	住民が、村中安全・部落中安全・通行人の安全を金毘羅さん、秋葉さん、愛宕さんに祈願。以前は全戸が当番制で小旗を輪番していたが、今は2世帯で毎晩常夜灯に火を灯す。愛媛国体2017のトーチに点火。現在は2戸で行っている。	A
	162	8	**早虎神社の祭り** 11 月 13 日～ 15 日 早虎神社	旧柳井川村の村社で行われる五穀豊穣の祭礼。現在、柳井川地域の地方祭として行われている。本村獅子舞が出ていたが中断中。	B
	162	19	**お百ばあさんのせがき** ８月９日 柳井川松木	昔、庄屋屋敷建設に命を懸けて陳情したお百（おひゃく）ばあさんの遺徳を称え、松木部落全員で酒肴を供えて念仏を唱える。	A
	162	29	**お大師さんまつり** ３月 21 日､７月 21 日 柳井川高地休場	当番が団子を供え、般若心経を21回唱え、団子を食べた。集会所のお地蔵さん・金毘羅さんもあわせて祀る。現在は社への参拝のみ行われる。	C
	162	8	**三寶神社** 旧６月３日・11 月３日 柳井川高地休場	当番が祠に御神酒等を供え、豊作祈願をする。現在は、社に参拝のみ行われている。	C

市町	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
久万高原町	162	8	**天満宮** 旧 8 月 10 日 柳井川高地休場	氏子がお参りし、集会所で会食。現在は、社に参拝のみ行われている。	C
	162	8	**山の神様** 旧 1 月 28 日 柳井川高地休場	当番が祠に御神酒等を供えて参拝。ご神木はケヤキの巨木。現在は、社に参拝のみ行われている。	C
	162	8	**ほぞの神様** 旧 1 月 10 日 柳井川高地休場	集会所裏の祠に氏子が集まって参し、集会所で会食。	C
	162	8	**福地蔵** 8 月 24 日 柳井川永野	昔大飢饉のとき、苦難を救ってもらおうと福地蔵に祈願したのが始まり。部落総出でお粥を、部落民や通行人に接待。	B
	162	8	**春祈祷（大般若）** 節分直後の日曜 柳井川百ヶ市	集会所に住職を招いて、先祖祀りと組内安全、家内安全、無病息災を祈願。令和元年が最後の開催。現在は行われていない。	D
	162	17	**山の神** 旧 1 月 20 日・旧 7 月 25 日 柳井川百ヶ市	百ヶ市と奈良敷組の安全と山への感謝。	A
	162	8	**玉八幡神社の祭** 7 月 18 日・旧 8 月 15 日 ・11 月 13 日・12 月 13 日 玉八幡神社	夏祭り(7月)、八幡祭(旧8月)、秋祭(11月)、霜月祭(12月)を行う。	A
	162	17	**山の神まつり** 旧 1 月 20 日 ・旧 9 月 20 日 柳井川奈良藪（祠）	旧1月は代表者、旧9月は各戸代表が、組内の安全祈願と山への感謝。に酒1升と米1合を供え燈明。	A
	162	16	**春高竜王まつり** 2 月 28 日 柳井川奈良藪（祠）	当番が酒等を供えて参る。昔は日照りが続くと雨乞が行われた。	C
	162	29	**お大師まつり** 3 月 21 日・7 月 21 日 柳井川奈良藪の大師堂	組の全員が集まり酒1升とおごふを供える。	A
	162	8	**奈良藪大神宮の祭** 7 月 13 日～ 14 日 ・11 月 13 日～ 14 日 ・12 月 24 日 奈良藪大神宮	夏祭り(7月)、秋祭(11月)、霜月祭(12月)を行う。	A
	162	8	**へそのおの神様まつり** 4 月 3 日・11 月中 柳井川磯ヶ成の祠	祭日は清掃して参拝。コロナの影響で中断中。	A
	162	8	**稲村弾正まつり** 旧 2 月 8 日･旧 8 月 8 日 弾正神社	南北朝期、桑村郡千町ヶ原の合戦に敗れて当地に落ち延びた河野(または戒能)弾正は弓の名手で、弓比べや大蛇退治の伝説が残る。稲村集落内に前殿がある。コロナの影響で中断中。	A
	162	8	**八幡まつり** 旧 2 月 15 日・旧 8 月 15 日 鎌倉正八幡宮	奥稲村の住民が参拝。現在は、祠の痛みが激しいため、地域住民の家に集まり催事を行っている。コロナの影響で中断中。	A
	163	34	**小村大師堂おこもり** 旧 7 月 21 日	明治末期に赤痢が発生し、大師様に願を掛け、赤痢の伝染を最小限に食い止めたことから始まり、一時途絶えたが、最近部落有志が復活。現在は7月1日～7月31日の間、地区住民が交代で参拝するのみ。	B
	163	8	**船戸の山の神** 9 月 1 日 船戸の山の神	古神木の桧の大木を船戸の橋の建設費に充てるために切り、その切り株を山の神として祀った。トウキビや竹で作った樽に酒を入れて供えた。現在は、地区住民が年1回参拝している。	B
	163	29	**中上の大玉様** 旧 2 月 25 日 ・8 月 25 日	大正7年頃、行き倒れの遍路墓から出たご神体を祠に祀る。昔は境内で相撲も行った。現在は、7月に地域住民が順番で1回ずつ参拝している。	B

市町	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
久万高原町	163	34	**古味大師堂** 8月中 西谷古味	各戸輪番でお大師さんに供物(お接待)をする。8月17日には役員が観音祭りを行う。現在は地域住民での清掃のみ。	B
	163	29	**地蔵まつり** 8月4日 西谷菅行	行倒れの女遍路「お松」の墓と、先祖やお堂にある地蔵を、各戸輪番で念仏を唱えて供養。	B
	163	29	**石鎚お山開き** 8月4日 西谷菅行	菅行・中畑両地区の2つの社を参拝後、集会所で会食する。	B
	163	8	**馬頭観音** 1月17日 西谷菅行	菅行地区内の岩穴に設置されている青銅製の観音像を地区住民が参拝。	B
	163	8	**三仏まつり** **(観音まつり・大師まつり・お地蔵まつり)** 6月17日 西谷中久保の三仏堂	現在は観音まつり・大師まつり・お地蔵まつりを一緒に行っている。住職が読経したのち、会話や飲食する。	B
	163	8	**山の神まつり** 7月1日 西谷中久保の三仏堂	祭日は、主として各戸の世帯主が岩屋周りを清掃し、供物して般若心経を唱えて祀る。	A
	163	9	**鎮火祭** 4月6日 西谷横野	平成2年から77～78年前、道路開設用の火薬による大火があり、火災防止を祈願し、竈や防火池の点検も実施。	A
	163	19	**オソメ施餓鬼** 8月7日 西谷高野	昔、水難を鎮めるために川に身投げしたおそめを祀る。鉦を叩き米の雑炊、ハナシバを供えて念仏を21回唱える。	A
	163	19	**三寶さん** 8月7日 西谷高野	豊作を祈って三寶さんのご神体を輪番で1年間自宅で祀り、オソメ施餓鬼に全員で祀って次の人に回す。	A

市町	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
内子町	164	9	**廿日市三島神社の春祭り** 3月16日 三島神社	大洲の藤縄神楽を招聘している。12時～12時半：春祭典(神事)、13時～4時間程度：神楽(舞・ダイバンの舞)。見物人はダイバンの御祓いをよく受けている。長刀の舞が終われば総代や神楽師による撒餅が行われ終了する。コロナの影響で2年間中止。	B
	164	29	**内子町新四国** 4月第1土曜 新四国遍路道	明治27年(1894)10月、地元有志によって寄付が集められ、旧内子の88か所に石仏が設置された。石仏はいずれも高さ約75cm、横約45cm、厚さ約25cmの尖頭卵型で正面上部に札所番号、右に仏像左に弘法大師像が彫られ、下部に寄付者名が刻まれている。太平洋戦争後には参詣者も減少していたが、昭和33年(1958)に内子四国八十八か所再興会が結成され、第一番の東町大師堂から八十八番の六日市火防地蔵まで全長14kmの巡拝コースが復元された。石仏分布は六日市11か所、知清23か所、廿日市27か所、八日市16か所、岡町11か所となっている。戦後内子青年団が遍路道ウォークを創設したが、その後途絶えていたのを内子及び内子東自治センターが事業として引き継ぎ、1年交代で主催している。コロナの影響で2年間中止。	B
	164	8	**おこもり** 初午の日 八幡神社・町内の料理屋	地区民が八幡神社に集合し、神事で無病息災・商売繁盛を祈願する。飲食は町内の料理屋で行い、地区内の親睦を図る。なお、地区の意見のとりまとめにも役立っている。現在は前記のような内容ではなく、区の行事や予算・決算、役員決めなど、多くの区と同内容にて特色なし。コロナの影響で2年間中止。	B
	164	19	**知清の盆行事** 8月14日 第五自治会館前	オワン(オアン)と呼ばれた吟松庵(琴松庵)跡地が第五自治会館になっている。会館前の駐車場を会場として新亡者の位牌を祀り、午後3時半～4時頃僧侶が新亡者と地区の先祖の供養を行う。盆踊りは夜7時頃から駐車場で実施され、太鼓と知清盆踊りの唄に合わせて老若男女が先祖の供養のために踊る。コロナの影響で2年間中止。	A
	164	34	**念仏** 春秋2回 知清のお堂・仏壇のある家	川沿いの地区は知清橋から南に約100mにあるお堂で念仏を唱える。山沿いの地区は仏壇のある家が毎年順番に会場となって念仏を唱えていたが、現在は第五自治会館に集まって実施している。コロナの影響で2年間中止。	B
	164	15	**八幡神社の輪くぐり** 6月30日 八幡神社	6月中旬に配布された人形(ひとがた)の紙に氏名・年齢を書き、さすったり敷いて寝たりしてけがれをはらう。前日の29日、総代が茅の輪を作り、神社の鳥居に設置する。6月30日夕刻から夜10時までに八幡神社に人形を持参して茅の輪をくぐり、神社に納める。午後10時半に集まった人形を祓い、祝詞をあげて11時半に昔は龍王の淵、今は知清河原で小田川に流して行事が終了する。一年を二期に分け、夏季の無病息災を祈るものである。	B
	164	4	**内子夏祭り造り物** 7月15日直前の土日 (7月15日) 内子商店街	毎年7月15日の六日市八幡神社の夏祭りと宵祭りに、希望する商店が通りに面した一角に「つくりもの」の作品を作成・展示する催し。作品は原則としてその商店の商品や道具を使い、自作したり懇意な大工・建具屋に依頼したりして作成する。題材は自由だが、神話・伝説・物語・行事・催しや流行りの漫画・映画・番組の登場人物、有名な或いは話題の建築物や構造物・乗り物など多岐にわたっている。昭和30～40年代にはほぼ軒並みの商店が作品を作り、審査も行われたので、見物人をうならせるほどの力作も現れてにぎわった。現在は実施日が7月中旬の土・日に変更になっている。コロナの影響で2年間中止。	D
	164	エ	**遊行上人祭(お上人祭)** 8月1日(7月2日) 上人堂・願成寺本堂	願成寺はかつて七堂伽藍を供えた名刹であった。戦国時代に焼失し、天文17年(1548)に立ち寄った真寂上人が再建に注力したが、同年こころざし半ばで病没した。のちに上人の遺徳をしのんだ地元信者が上人の墓と堂宇を立て、毎年7月2日に供養を行った。現在は8月1日にお上人祭として実施されている。午前中百万遍大数珠繰り、夕刻に上人堂から願成寺まで参道に多く(本来108個)の赤提灯が吊られ、念仏鉦に合わせた読経が行われる。終了後は余興が行われる。以前は早朝から念仏を行っていたが、近所迷惑にならないようにと変更された。知清まで鐘の音が聞こえていたという。コロナの影響で2年間中止。	B
	164	20	**内子笹祭り(七夕まつり)** 8月7日～8日 (8月6日～8日) 内子商店街西半分	7月7日は本来七日盆といって墓掃除と墓参をする日のことで、短冊に歌を書き笹飾りとして庭先につるしていたものがのちに行事化した。現在の笹祭りは昭和32年(1957)内子商店街青年部によって、商店街の繁栄や客への感謝の意を込めて始められた。その後観光協会を経て商店街組合が担当した。昭和40年代までは笹飾りの下をバスや自動車が通行していたが、その後歩行者天国になり、三日間実施されて飾りも豪華で大々的なものになった。やがて平成27年 (2015) に商店街の東半分が取りやめられ、西半分で二日間に縮小されて現在に至る。期間中は笹飾りの審査のほか、夜間には町内の諸団体が参加する笹踊りが行われている。かつては提灯行列も行われていた。コロナの影響で2年間中止。	B

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概　　要	存続状態
内子町	164	33	**盆飯（おぼんめし）** 8月15日頃 河原・野辺・自宅など	盆の時期の子供行事として盆飯があった。これは子どもらが米・野菜・鍋釜などを持ち寄り、川原や野辺で食事を作って食べるという行事である。昔は小屋を作って一泊することもあったが、のちに一日で解散するようになった。盆飯を食うと夏に元気に過ごせるといわれている。廿日市に住む某氏は幼少期に盆飯を経験しており、「おぼんめし」と称していた。自宅庭に近所の子どもたちが集まり、詳細は記憶していないものの鍋・釜で卵焼きなど簡単な料理を作っていた。本人は成長とともに参加しなくなったが、現在は行事が行われていない。	D
	164	10	**内子奉納大相撲** 9月23日(9月12日) 知清相撲場	護国神社の奉納相撲は寛政年間(1789～1801)に始まったと伝えられ、五穀豊穣を祈って神社の神輿を招き、知清河原で9月12日に行われた。全国的な有名力士も参加したことがあるという。昭和50年(1975)から秋分の日に開催されており、現在は宮相撲および少年相撲県大会として実施されている。八幡神社・上ノ山天神社で神事の後子供神輿が相撲場まで渡御し、神社総代も随行する。相撲場の御祓いののち開始される。前もって相撲協会とともに寄付集めを行う。コロナの影響で2年間中止。	B
	164	8	**火防地蔵祭** 4月23日 火防地蔵	江戸時代二度の火災に見舞われた六日市で、延焼が止まったという場所に火除け地蔵が祀られた。現在内子町4区・5区・20区・中町・肱川町の有志でお祀りしている。4月23日に近所の住民が集まって祀りを実施し、餅まきをしたあと地蔵の絵のお札を配って終了する。午前10時頃禅昌寺の僧侶が読経し、餅まきを行って昼頃終わる。コロナの影響で2年間中止。	A
	164	8	**秋祭り（内子秋祭）** 10月12日 内子町の神社・通り・知清河原	10日に知清天神社・植松天神社・山本神社(権現さん)、11日に八幡神社・上ノ山天神社・三島神社で祭典を行う。12日は朝9時から八幡神社・知清天神社・三島神社・山本神社(三社合同)で神事が行われ、それぞれ御霊の移された神輿4基が三島神社に集合する。三島神社では獅子舞が奉納される。神事の後、三島神社・八幡神社・知清天神社・山本神社(合同)の神輿がそれぞれダイバン(鬼)・総代・道具持ちの小中学生などをともない、合同で100人以上が六日市商店街～八日市地区を巡行して知清河原に集結する。現在、神輿は人が担ぎのではなく台車で運搬している。知清河原(令和元年からは相撲場)では神輿と神主・神社総代らが御幸祭典を行い、午前の部が終了する。昼食後は神輿とダイバンがそれぞれの氏子中を巡行し、夕刻各神社で御霊移しのあと神輿を収納して全行事が終了する。コロナの影響で2年間神事のみ実施。	A
	164	27	**亥の子（お亥の子さん）** 11月亥の日 町内各地区	旧暦10月の亥の日を「亥の子」といい、元来農業の神を祀るものであったが、現在は新歴11月の亥の日(2～3回)になっている。この日は主に農家で供え物をして恵比須さんを祀り、子どもたちが集まって亥の子搗きを行う。亥の子歌を歌いながら藁を束ねたもので各人が地面を叩き、家々を回る行事(「藁亥の子」)である。町内すべての地区で行われていたかどうかは定かではない。現在70代の人が子どもの頃行事に参加した記憶はあるが、いつの間にか行われなくなった。平成時代に愛護班活動として1～2回実施した地区があったが、中断して現在に至る。	D
	164	17	**えびす市** **（恵比須祭り・乙亥の市）** 11月28日(旧11月乙亥の日) 恵比須神社	恵比須祭りは「乙亥の市」として多数の人出でにぎわっていた。10月18日に町内に広告を配布し、11月1日にくじ作り・寄付集め・ポスター配りを行う。二日前に神社に幟を立てる。当日は午前8時に祭典を行い、終了後お守りを販売する。くじは空くじなしで10時・13時・15時の3回あり、200人位行列になることもあった。そのほか行列が町を回ってくじを配り、所定の場所で商品との交換が行われた。昔は子供神輿も出た。コロナの影響で2年間神事のみ実施。	B
	165	24	**鬼の金剛** 1月16日～ 大久保地区クロッケー場	大きなワラジやしゃもじを、村境の道の上に縄で吊るす民俗行事。大草鞋を履き、大飯を食らう大男の存在を予感させることで、鬼などの魔物や災難・疫病が村に入らないようにするというもの。大久保地区では大草鞋を吊るし、弁当としてにぎり飯と箸も吊るし、酒を供える。吊るした後は自然に落ちるまでそのままにする。	A
	165	34	**念仏** 3月21日・8月14日・8月24日 影浦大師堂	古くは昼から行っていたが、現在は午後7時から鉦をたたいて念仏を唱える。そのあと地区の様々な協議を行い、飲食をして終了する。所要時間は2時間半ほど。御供えや懇親会の酒肴は当番の家が準備。昔は料理をしていたが、今はかまぼこ・天ぷら・駄菓子程度。酒はお供えしたものをいただく。地区の11軒全戸が参加している。コロナの影響で2年間中止。	B
	165	10	**あな地蔵様の相撲** 4月1日(旧7月) 穴地蔵	江子と池田の境界の山中に穴地蔵がある。昭和22年頃まで春の例大祭に江子と池田が交代で世話人となり、寄付を集めて奉納相撲を行っていた。四股名をもらった近隣の俄か力士がまわしを付けて集まり、出店も出てにぎわっていたという。明治31年(1898)旧7月23日に祭礼行事土俵免許状を預かったという記録もあり、明治30年代の例祭は秋であったと考えられる。現在行事は途絶えているが、穴地蔵は江子・池田の老人クラブが祀っている。	D

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概　　要	存続状態
内子町	165	ウ	**曽我十郎大祭** 5月25日に近い日曜 曽我十郎首塚	赤穂浪士の忠臣蔵・荒木又右衛門の伊賀越えの敵討ちとともに日本三大仇討の一つ、曽我兄弟の仇討に関連した曽我十郎の首塚といわれる塚を乙成地区の住民が祀ってきたが、平成3年(1991)から曽我十郎の命日に近い日曜日に「十郎大祭」として始めた祭りである。甲冑や烏帽子を身に着けた鎌倉時代の侍姿の住民40人位が行列を行う祭りである。高齢化によって平成22年(2009)からは慰霊祭のみになっている。	B
	165	17	**オサンバイサン** 田植時 水田	田植え時、茅で草グロ(家の形)を作り、勝栗などを供えて水田の周囲を拝み、豊作を祈願した。	D
	165	19	**トボシハジメ・トボシゾメ** 8月1日・8月31日	新亡があった家の行事。8月1日、盆灯籠に火を灯すというトボシハジメ(トボシゾメ)があり、8月4日にセガケ(施餓鬼)で僧侶が来宅する。8月31日にトボシゾメとして新亡の遺族(家族)や親戚が集まり、僧侶が読経を行った後、午後6時頃から川原で灯籠を焚き上げて川に流し、一連の行事が終了する。	A
	165	23	**大瀬の施餓鬼念仏** 8月9日 堂面の大師堂	昔、長者の一家が何者かに殺されてから奇怪なことが起こったので、坊さんに頼み川の中にある大きな石に七人の霊を封じ込めた。毎年の盆の施餓鬼では、この七人ミサキに念仏をあげたあとで新仏に念仏をあげるが、この念仏を止めようとするとタタリがあるという伝承に基づき、午前中七人ミサキの供養を30分～1時間行う。その後新亡の供養になる。新亡一人の家族が入堂し、周りを太鼓に合わせ鐘をたたいて踊りながら行う。終われば次の新亡になるが、新亡が多ければ全体の時間は長くなる。新亡がいない場合は七人ミサキのみの供養で終わる。コロナの影響で2年間中止。	B
	165	19	**大瀬の盆行事** 8月16日 大瀬小学校運動場	櫓を中心に太鼓と音頭に合わせて輪になって踊る。昔は子供相撲があり、そのあとに手踊りと扇子踊りが行われていた。手踊りはテンポが速く、扇子踊りはゆったりとした踊りで、手踊りは歌詞が現代風に変更された。歌は「踊り音頭」呼ばれ、歌い手を「音頭出し」といい、近郷の踊りに招かれて歌うこともあった。昔は明け方近くまで踊っていたという。しかし中野地区での踊りは人口減少のため30年位前に行われなくなり、その後は大瀬小学校の運動場で大瀬地区の盆踊りとして実施されるようになって現在に至る。ただ、大瀬の踊りと合体しているので、参加者に「手おどり・扇子おどり」を踊っているという認識はもはやされていない。コロナの影響で2年間中止。	B
	165	34	**夏の総こもり** 8月18日 (旧7月17日～18日) 観音堂	200年以上前に建てられたという観音堂に、かつては旧暦7月17日・18日地区民が集まり、おこもりを行う行事であった。前夜(17日)から念仏をとなえ、一万願をして五穀豊穣・家内安全・地区の繁栄を祈願、18日午後、各自が持ち寄った重箱の御馳走で酒を酌み交わし、祈願の成就を祈った。太平洋戦争後は8月17日を総ごもりの日とし、18日までおこもりをしていたが、最近は多忙のため行事を18日午後のみに行っていた。しかし、高齢化の影響で現在は行われていない。	D
	165	34	**一万経念仏(総ごもり)** 4月29日 鵜川天神社	午前中大木戸の井戸堰の作業を行い、午後2時から社殿において太鼓で拍子をとりながら般若心経を参加者全員で一万回唱える。昔は一人が一万回唱えていたので、一日がかりの苦行であったという。後に簡略化され、例えば100人が一回唱えて100回に数え、それを100回繰り返すことで一万回にしている。途中で回数が不明になるのを防ぐため、三宝に穀物(トウキビの粒)を100個置いて係が数えていたが、現在は40～50回とさらに簡略化されている。当番は読経の合間の休憩時間に茶の接待を行う。終了後は当番の用意した御献米とお札を全員に配り、簡単な直会を行う。懇親会は昔は一戸一品の持ち寄りであったが、現在は個別の料理になっている。コロナの影響で2年間中止。	B
	165	8	**三島神社の秋祭り** 10月15日 とぼしが森三島神社	大瀬地区14部落が参加する大祭。神輿3体・牛鬼・獅子舞・社切り(大瀬小学校児童)・神楽が行われ、五穀豊穣・家内安全・地区の繁栄を祈願する。10時半：神事、11時：御幸出発。社切・獅子舞が随行。御旅所(星中神社)～町を練り、神社に帰着して終了。その後神輿3体を車で各地区に移動して氏子宅を回る。コロナの影響で2年間神事のみ実施。	A
	166	10	**愛宕山念仏(お念仏)** 8月18日 宿茂集会所	宿茂内の7地区(千部・下の前・中野組・台城・平山1・平山2)が宿茂集会所に集まり、鉦をたたいて念仏を唱える。各戸1名参加で男性が多い。午後2時から2時間くらい念仏をした後、4時頃から中山川の河原で子供相撲が行われる。コロナの影響で2年間中止。	A
	166	8	**春神楽** 2月第4日曜 和田自治会館	以前の会場は宇都宮神社であったが、寒い時期なので今は自治会館で行われている。時代や由来は不明だが、大洲市の藤縄神楽を招聘しており演目は任せている。午後1時から4時間くらい演じた後、撒餅が行われる。コロナの影響で2年間中止。	B
	166	20	**涅槃祭り** **(ねはんまつり)** 3月15日 高昌寺本堂	涅槃祭りは約250年前、高昌寺住職、慈舟和尚の時に始まったといわれる。前夜、般若心経を1万回唱える「逮夜(たいや)法要」がある。参加人数にもよるが、例えば50人の場合、各人が20回唱えることで1万回に数える。当日朝は僧侶が大般若経典を上方からバラバラと流しめくる「転読(転翻)法要」が行われ、終了後稚児行列になる。行列は高昌寺住職の先導で末寺である六日市の禅昌寺まで、保護者に同伴された稚児姿の幼児が通りを行列する。午後は「清興(せいぎょう)」とよばれる様々な催しが行われ、2回目の撒餅で涅槃祭りは終了する。コロナの影響で2年間中止。	A

市町	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
内子町	166	14・29	**内子新四国 88 か所遍路道** 五百木・和田～大瀬	和田から大瀬にかけて新四国八十八か所が設けられている。石仏には寛保３年（1743）の年号が刻まれたものもあり、新四国は江戸時代半ば以降に設置されたと考えられる。長岡山トンネル南側の一番から大瀬明応寺の八十八番まで、下和田・中和田・小貝谷・上和田・掛木・豊後・成屋・乙成・鵜川・大久保・中野にかけて分布している。婚礼時、花嫁がその家に定着するよう願いを込めて八十八か所の石仏や墓石が宴席に運ばれ、事後に返却されたという話が伝わる。遍路の行事は行われていない。	A
	166	8	**般若講** ４月第1日曜 掛木の館	20年位前までは掛木地区の家が毎年順番に当番になってその家に地区住民が集まり、和田の徳林寺住職が読経しながら住民と一緒に大般若経典を上方からバラバラと流しめくってその家の先祖供養を行っていた。20年ほど前から地区住民が出資して設けた「掛木の館」という集会所的な建物を会場に行われている。当番は前日や当日朝から準備を行い、午前11時に住職が到着、30分くらいで仏事は終了する。行事を実施する家は現在7軒になっている。コロナの影響で２年間中止。	B
	166	33	**盆飯** ８月盆の期間中 河原	盆の時期の子供行事として盆飯がある。小学生や児童会の子どもらが米・野菜・鍋釜などを持ち寄り、河原で食事を作って食べて一泊した。現在は行われていない。	D
	166	8	**五城秋祭り** 10 月 12 日 五城天神社・護国・岡町周辺	子供神輿・大人神輿のほか、愛護班自作の神輿が地区を回る。子供神輿は御祓いの後、ダイバン・神主とともに宿茂地区を回る。大人神輿はダイバン・神主2人と岡町～護国地区を回る。総代が案内して神輿を車に乗せて回る。愛護班の神輿は自作の簡略な神輿で、神社のとは異なるルートで、子どもたちが担いで回る。コロナの影響で２年間中止。	A
	166	28	**ミンマ（巳正月）** 12 月巳の日 新仏のあった家	12月の巳午の日に新仏のあった家で行われる。起源としては戦国時代、異郷の地で討ち死にした土佐の兵に、当時大きな楽しみの一つであった正月を生前のように迎えさせてやりたいという戦友の願いから、土佐軍の行事として始まったものが定着したという説がある。墓前にウラジロではなくイヌシダの正月飾りを施し、本来は巳から午に変わる深夜に墓地で餅を焼き、鎌や包丁に突き刺して後ろ向きで参詣者に渡して食べるというものである。現在は昼間に寺でミンマ供養を行った後、墓地で餅を炙って食べることが多い。ミンマの日には餅つきを避ける風習がある。	B
	167	8	**念仏** １月 16 日・７月 21 日・８月 21 日 集会所	1月は口あけ念仏として、集会所に地区住民が集まって南無阿弥陀仏を108回唱える。7月は集会所に地区住民が集まって南無阿弥陀仏を108回唱える。8月は山手に祈る場所があり(お堂ではない)お経を唱える。新亡者がいれば供養する。コロナの影響で2年間中止。	A
	167	8	**氏子中の総ごもり** ４月の日曜 集会所	地区全員が集会所に集まり木造の御神体を迎え、酒肴を供えて素人神楽を奉納、五穀豊穣・家内安全を祈願する。昔は当番の家に集まり、素人神楽も行われていたという。コロナの影響で2年間中止。	B
	167	8	**神楽祭** ３月５日 川中三島神社 立川神楽保存会	神社が享和2年(1802)の火災で焼失したのを機に、防火の願いを込めた鎮火の舞として、立川神楽を奉納するようになった。初めのうちは神官が舞っていたが、明治中期から喜多郡神職取締支所にて、神楽組または神楽部員として認定された人によって行われるようになった(後にこの制度は廃止)。明治36年(1903)頃、立川組という舞組を組織して行われるようになって今日に至っている。大太鼓・小太鼓・手拍子を中心に笛にあわせて十数種類の面と衣装を身に着けて舞う。舞の口・玉作の舞・挟物の舞など約20の演目があり、全て舞うと4時間かかるという。現在は8名で構成され、春3月頃から依頼を受けた喜多郡の40数か所で奉納される。コロナの影響で2年間中止。（町）	A
	167	イ	**日参まいり（社日）** 不定期 三島神社・天神社各分社	月一回くらいの割合で幟旗が回ってくれば、鈴木地区にある三島神社分社と天神社各社に参詣する行事。	A
	167	29	**内子新四国** 11 月・２月に各１日 立川全域・城廻の一部	新四国八十八か所は、大藤茂三郎を発起人として明治末期、立川全域と長田・宿茂地区に設立された。舟形浮彫の高さ約35cmの石仏と弘法大師像の2体が安置されているので、全体で176体となっている。台座には寄付者の氏名が刻まれている。分布は茶谷5か所・横山7か所・張木3か所・大岡2か所・小薮2か所・宿茂3か所・願者3か所・庄屋4か所・無量5か所・立山中組3か所・峰土1か所・福岡3か所・鈴木3か所・程野3か所・上横平6か所・下横平8か所・幟立3か所・川中中組2か所・大野地3か所・黒岩1か所・高谷3か所・境6か所・日野地6か所・長田3か所となっている。現在は巡礼が中心。コロナの影響で2年間中止。	A

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概　　要	存続状態
内子町	167	15	**三島神社の夏越祭** 7月29日 川中三島神社	前もって氏子の家に配布された人形(ひとがた)を28日の夜に布団に敷くなどしてけがれを移し、29日に参詣して神社に納める。茅の輪は三島神社では拝殿と本殿をつなぐ幣殿に竹で立てて設置される。午前10時から夏越祭の祭典が行われ、男が右から、女が左から茅の輪をくぐる。	A
	167	5	**いもたき** 9月第3日曜 日之地集会所	地域行事として20世帯20～30人が参加し、道作りの後で行われる。男性は道作り、女性は芋炊き準備にかかる。里芋は地物であったが、最近は購入している。午後2時頃作業が終了し、午後5時頃まで休んでいもたきが始まる。	A
	167	8	**三島神社の秋祭り** 10月21日 川中三島神社 立川三島神社御供相撲 ・日之地社切り保存会 ・立山獅子舞芸術保存会	午前10時：例大祭祭典・御幸祭。12時：社切・獅子舞・御供相撲、参道～社殿一周～境内。神輿3体は境内に鎮座。神輿の間に並んで御祓いの後、社切・獅子舞・御供相撲開始。終了後、神輿は社殿を一周して御旅所へ。獅子舞・御供相撲は同時に開始し、終了後御旅所へ。宮司が御旅所祭を行い、終わる頃社切・獅子舞・御供相撲も御旅所に到着、6地区を3グループに分け、そのうち2つの集会所に神輿が回る。神輿出発後、御供相撲のあと獅子舞が演技し、宮自宅前、茶谷の元JA付近でも舞う。終われば社切と一緒に神社に戻る。神社では笛・太鼓で社殿を一周し、相撲は土俵で行事を行い、社切は写真撮影を行ったあと、夕刻に社殿から撒餅を行う。そのあと3体の神輿の御霊移しを行って全行事が終了する。なお、相撲は希望者も出場可能で賞品がもらえる。コロナの影響で2年間神事のみ実施。(町)	A
	168	15	**三島神社の夏越祭** 7月30日 川中三島神社	当日までに境内に茅で輪を作り、笹を立ててしめ縄を張る。氏子は前もって配られた人形に名前・年齢を書き、当日無病息災を祈願して神社の輪を8の字に3回くぐる。	A
	169	18	**初恵比寿大祭** 1月10日 宇都宮神社 五十崎恵比寿大黒奉賛会	宇都宮神社は、恵比寿神社が合祀されており、本殿には恵比寿像と三面大黒像が祭られ、江戸時代から「恵比寿講」として続いていたが、一時中断となった。昭和33年(1958)に祭典を復活し、1月10日には、五十崎恵比寿大黒奉賛会により、初恵比寿大祭が実施されている。前日の9日に宵恵比寿を行い、10日の朝、御開帳の神事が行われる。くじ引きや餅撒きなどの新春の恒例行事としてもにぎわっている。令和2年～3年は感染予防のため中止。	A
	169	15	**ナゴシ・ナゴセ(夏越)** 7月19日 宇都宮神社	旧暦の6月30日に行われる神事で、「わくぐり」ともいう。事前にヒトガタ(ヒトシロ・デコサン)を書いた紙が各家庭に配られる。そのヒトガタに氏名と年齢を書き、布団の下に敷いて寝る。翌朝そのヒトガタで身体の悪いところをさすり、そのヒトガタを持って神社に参拝し、カヤなどで作られた輪をくぐり健康を祈願する。	A
	169	10	**いかざき大凧合戦** 5月5日 小田川下流、豊秋河原 いかざき大凧合戦実行委員会 ・五十崎凧踊り保存会	一説には鎌倉時代に始まったとされ、初節句の祝いで凧を揚げていたところ、風のいたずらで糸がもつれ合ったことがきっかけで合戦が始まったと伝わる。戦前は「凧げんか」と称し、五十崎方と天神方の対抗戦であった。昭和29年に五十崎町・天神村・御祓村が合併した時も続いていた。凧同士のけんかが、しまいには人間同士のけんかとなり、子どもの頃は凧のけんかよりも人間のけんかを見る方が楽しみだった、ということである。令和2年～3年は感染予防のため中止。(県)	A
	169	4	**夏祭り** 7月20日 (7月16日・7月25日) 五十崎商店街・天神商店街	五十崎・天神商店街では毎年夏祭りが開催され、多くの商店が造り物を展示していた。当初、五十崎商店街の夏祭りは7月16日、天神商店街は25日に開催されていたが、昭和29年(1954)の町村合併後は、両商店街合同で、7月20日に開催されるようになった。さらに昭和52年(1977)からは、宵祭りとして、町内盆踊り大会も行われていた。	D
	169	10	**宮相撲** 9月第1日曜 上村地区	昭和40年(1965)頃までは、相撲は盆踊りと並ぶ人気の行事で、町内各地の社寺で奉納されていた。年間を通して行われていたが、特に盆から9月にかけてが最も多く、近隣の地域で日程が重ならないように調整が行われていた。地区内外の力自慢が競って参加したほか、全盛期には遠く県外から有名力士を雇い入れるなど盛大であった。現在は大人の相撲は残っていないが、いくつかの地域では子供相撲が続けられている。上村地区では、宇都宮神社で奉納子供相撲が行われている。昨年・今年は、新型コロナ感染予防のため、実施していない。	B
	169	8・15	**宇都宮神社秋祭り** 10月15日～16日 五十崎宇都宮神社 五十崎獅子舞保存会	五十崎では大正10年(1921)頃に悪病が流行ったため、悪霊払いの願いを込め獅子舞が始まった。途中後継者不足から一時中断していたが、昭和40年代に青年団を中心に獅子舞保存会が結成され、今日まで存続している。結成当時は大人主体であったが、現在は中学生を中心に会員を募集し、秋祭りの一月前から五十崎宇都宮神社で練習をし、10月15日(五十崎方面)16日(天神方面)の両日獅子舞を行っている。祭り当日の朝、宇都宮神社での神事のあと、各地区の御旅所へ行き、太鼓や笛のしゃぎりを演奏し、おじいさん・おばあさん・狐・猿・猟師といった多彩な役柄があり、にぎやかに舞を披露している。コロナ感染予防のため令和2年・3年は中止。	A

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概　　要	存続状態
内子町	169	27	**亥の子** 10月亥の日 (10月～11月) 五十崎・天神各地区	旧暦の10月の亥の日には、田の神様が作業を終えて去る日とされており、収穫に感謝をささげる亥の子行事が行われる。亥の日は年によって異なるが、10月から11月までに2・3回あり、それぞれが初亥・中亥・乙亥と呼ばれている(2回の場合は初亥・乙亥)。五十崎の各地域では、子どもたちが各家の門口で亥の子歌を歌いながらワラスボをついて祝い、御祝儀をもらう。亥の子ご飯を食べる地区もある。コロナ感染予防のため令和2年・3年は中止。	A
	170	8	**般若講** 4月 重松地区極楽寺	悪病退散・五穀豊穣・家内安全を願い、般若心経を唱える。重松地区の極楽寺では、旧正月から20日目に檀家が集まり600巻の般若心経を唱える。コロナ感染予防のため、令和2年・3年は規模を縮小して実施。	A
	170	15	**身の祈祷** 6月第3日曜 平野地区	平野地区では、区の主催により6月に悪病退散・五穀豊穣・家内安全を願い、般若心経を一万遍を目標に唱える。昔は一日中拝んでいた。同地区は昔大火に見舞われたが、現在の集会所だけが燃えなかったとの言い伝えがあり、あわせて火の神様も祭っており、般若心経を唱えた後、今明真言も唱える。コロナ感染予防のため、令和2年・3年は規模を縮小して実施。	A
	170	8	**春神楽** 2月第2日曜 柿森神社	五穀豊穣と1年の厄払いを祈願し、柿森神社では2月の第2日曜日に立川神楽を招き春神楽が行われる。厄払いや家内安全を祈願して紅白の餅がまかれる。毎年、柿原地区の各班が持ち回りでお接待を担当している。コロナ感染予防のため、令和2年・3年は中止。	A
	170	8	**日参講** 年間 弦巻集落	福岡地区の弦巻集落では、明治12年から日参講が行われている。明治の初めに災厄が重なり集落内で大勢の人が亡くなったことから、話し合いにより天満神社・ノゾミ大師堂・オバナ大師堂の3か所を毎日順番にお参りすることになったという。当番は、幟を持って参拝し、終わると次の家に引き継ぐことになっている。日参講は約120年にわたり毎日欠かさず続けられている。	A
	170	1・18	**どんど焼き** 1月4日	どんど焼きは、正月の門松やしめ飾りなどを焼く行事で、「左義長」とも呼ばれている。この火で餅を焼いて食べると、1年間風邪をひかないという。以前はそれぞれの家庭で燃やすことが多かったが、近年は自治会などが主催してどんど焼きを行う地域が増えている。なお、正月飾りは7日、あるいは15日に片づけるという家が多いが、重松(上重松)では、「片付けが遅いと、その年の作付けが遅れる」として、4日朝に片づける。	A
	170	19	**施餓鬼** 8月7日 奈良野薬師堂	先祖供養とともに施餓鬼供養も行うことで徳を積めるという考えから、お盆の時期には施餓鬼法要も行われている。福岡地区では、奈良野薬師堂で施餓鬼の念仏踊りが行われている。	A
	170	1・15	**虫送り** 8月21日 小田川	昔はどの地区でも行われていたが、現在では実施している地区数が少なくなっている。柿原地区では毎年、子どもたちがたいまつをもち、鉦と太鼓を叩きながら行列して、小田川の河原で虫送り行事を行っている。昨年と今年も感染予防に留意しながら、8月21日に実施された。〔詳細調査報告27参照〕	A
	170	19	**百八灯** 8月21日 上宿間	前日から大師堂に集まりお堂の清掃を行い、8月21日はお大師様の命日であることからその供養を行い、百八の灯ろうを田んぼの水路に沿って立てる。灯ろうは老人会で作成し、当日の夕方青年団が灯をつけてまわる。現在は、虫送り行事と並行して行われている。コロナ感染予防を徹底し、昨年・今年とも実施された。〔詳細調査報告27参照〕	A
	170	22	**柿森神社の秋祭り** 10月15日 柿森神社	町内の神社では、10月に収穫を祝い、感謝する秋祭りが行われる。神輿、だいばん、牛鬼、しゃぎりなどが出て御旅所や氏子宅を周り、各家で酒や祝儀を用意してもてなす。祭りの日には小学校は特別授業となり、午後は休業となる。昭和50年頃までは、神輿の担ぎ手は男性のみであったが、少子化や高齢化などにより近年は女性の参加も認められるようになってきた。それでも、神輿の担ぎ手が不足し、台車や車に載せて回るところも増えている。柿原地区では10月15日に神輿の巡行があり、牛鬼も出る。祭りの朝、柿森神社で神事を行い、その後ダイバンを先頭に神輿が進み、次に牛鬼も繰り出す。牛鬼は神輿とは別行動で回る。御旅所は柿原、岡、亀岡酒造、平野、天地、西沖の各地区を回る。すべての御旅所を回った後、最後には柿森神社の階段を駆け上がり御霊写しの儀式(宮入り)の後、神輿を収納して終了する。コロナ感染予防のため、代表者による神事のみ行われ、令和2年・3年は実施されていない。	B

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概　　要	存続状態
内子町	171	29	**大師まいり** 4月(4月8日) 北表地区	大師信仰の一つとして、御祓地区では明治初期に新四国88か所が設けられた。かつては、4月と8月に巡礼が行われていたが、現在は4月のみとなっている。同地区ではお接待が盛んで、巡礼路のうち6か所で寿司・赤飯・そうめん・季節の野菜を用いた総菜などが振る舞われる。コースは全長10kmあり、6か所にお接待所がある。令和2年・3年はコロナ感染予防のため実施されなかった。	B
	172	15	**アタゴサン** 8月第3日曜・12月31日 愛宕山忠光院	愛宕山忠光院は火や水の害から人々を守る山伏寺で、中央に立派な本堂があり「地蔵菩薩立像」が安置されている。8月24日に近い第3日曜日・12月31日には僧侶を招き、読経する。役員・アタゴサン係が参加、12月31日には午後10時半から願成寺住職による読経があり地域住民が除夜の鐘をつきに来る。	A
	172・173・174・175	33	**トボシゾメ(灯し初め)** 8月1日 新亡家	新仏のある家が初めて迎える盆を新盆といい、8月1日に親戚が集まって新盆用の特別な盆棚(精霊棚)を作り、新仏の戒名を書いた灯籠に火をともす。これをトボシゾメといい、31日のトボシアゲ(灯し上げ)まで灯籠に火をともし続ける。その期間中は、新仏の戒名が書かれた木綿布の垂れを笹竹に取り付け、家前につるす。令和3年は感染予防のため、親戚を呼ばず家族だけで行った。	A
	172・174・175	33	**トボシアゲ(灯し上げ)** 8月31日 新仏のある家	8月1日のトボシゾメから火をともし続けた盆灯籠を31日に片づけ新盆供養を終える行事。親戚などが集まり、盆棚や灯籠、飾り物などを河原で焼く。近年は盆棚をレンタルしたり購入したりすることも増え、その場合は盆棚以外の物を庭先で焼き供養を終えることも多い。令和3年は感染予防のため、親戚を呼ばず家族だけで行うなど少人数・簡略化して行った。	A
	172・173・174・175	28	**ミンマ(巳午)** 12月巳の日 新仏の墓地	12月巳の日に、新仏のための正月をする。巳の日に、一夜浸しにした一升のもち米をつき平餅にする。墓の四方にカキの木とクリの木を立てる。種類が違うと接ぎ木ができないことから、不幸を断ち切るという意味がある。左綯えにしたしめ縄を墓石に巻きイヌシダを飾る。巳の日から午の日に変わる時刻(夜中)に墓に行く。わらを燃やして餅をあぶり、小さく切り分ける。これを刃物に刺し、肩越しに渡して食べる。行き帰りに人に会っても話してはいけない。カラスが鳴かないうちに帰る。近年は餅を一升ついたり墓に結界を設けたり夜中に行ったりすることはほとんどなく、昼間に墓で餅を食べる一連の動作のみ行うなど簡略化の傾向にある。令和3年は感染予防のため、家族のみなど少人数で実施。〔詳細調査報告48参照〕	B
	172・173・174・175	15	**夏越** 7月12日(旧6月30日) 立石神社・八坂神社	各家に人数分配られたヒトガタと呼ばれる紙に名前と数え年を書いて布団や枕の下に敷いて寝る。翌日神社に持参してお祓いを受け、カヤなどで作られた輪をくぐって夏場の無病息災を祈願する。「水無月の夏越の祓いする人は千歳の命のぶといふなり」と唱えながら左・右・左の順にくぐる。その後本殿を一周する。	D
	172・175	24	**鬼の金剛** 1月16日 集落の入口の道の上	疫病除けと家内安全、五穀豊穣を祈願して行われる。金剛わらじ(巨大なわら草履)片足とわらすぼ(わらを束にしたようなもの)の弁当、しゃもじ、竹で作った30cmほどの箸を長いわら縄に取り付けてつるす。大きなわら草履は、これを見た鬼が「ここにはこんな大きな草履を履く大男がいるのか」と驚いて逃げていくようにという意図がある。また、弁当の中身は、おいしい弁当をあげるから帰ってくださいと一合の米飯といりこ5～6匹を入れる場合や、食べた鬼の牙が折れるようにと石入りのおにぎりの場合がある。縄をつるす場所は集落入口の道の上、またはその年の宿の意向によって年ごとに変わるが、組内の谷あいで川と道の上を渡すようにつるされる。以前は集落に入るすべての道に吊るしていたが、現在は一か所だけになった。	D
	172	19	**逆さ念仏** 8月最終日曜 蛇権現	念仏会の方法は河辺村から伝授されたものである。当時河辺と同じやり方ではない方法として太鼓、鉦という本来の並び順を逆にして鉦、太鼓の順にしたことから「逆さ念仏」と呼ぶようになった。鉦や太鼓を鳴らし、歩きながら念仏を唱える。高齢化に伴い、歩き念仏から座っての念仏に変わった。鉦や太鼓の奏者を含めると10人ほどは必要であるが、人手不足で実施困難となり3、4年前に休止、過疎化が著しい地域のため復活は難しい。	D
	172	10	**奉納子供相撲** 8月第3日曜 立石自治会館	かつては上宮神社の上方にある愛宕山忠光院で8月に奉納相撲として行われていたが、近年場所を下方の立石自治会館に移し、子供相撲として実施していた。現在は子どもの数が激減したため中断している。	D
	172	19	**施食会** **(施餓鬼会・おせがき)** 8月11日 願成寺	各檀家は先祖供養のため回向袋を寺に納める。回向袋には、米一升かお金600円を入れる。複数の僧侶により祖霊や新仏の供養のための読経を行い、その後に会食をする。檀家、新亡家、寺社役員などが参加する。	A

市町	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
内子町	172・173・174・175	33	**盆棚 (精霊棚)** 8 月 13 日～ 15 日 各家座敷の間	盆に祖霊を迎えるために特別に作る祭壇。座敷に盆棚を設け、バショウの葉・真竹・ソウハギなどを飾る。棚には打ち敷と呼ばれる布やござを広げ、バショウの葉を敷く。一段目に位牌、二段目に水・団子・菓子・果物、三段目に御霊供膳・シキビを供える。近年は、仏壇を飾り付けて済ませるところもある。新盆には親戚が集まって特別な盆棚を作る。四隅に真竹を立て、三方をヒノキの葉で囲う。竹で編んだ座を作り、その上にヒノキの葉・バショウを敷く。周りに張った紐に5枚の色幡をつるす。正面のひもにはホウズキ・そうめん・昆布などをつるす。近年は竹を組んだり編んだりする昔ながらの方法で作ることは少なくなっており、組み立て式の盆棚を購入やレンタルすることが多い。	B
	172	8	**立石地区の秋祭り** 10 月 20 日 立石神社・上宮神社	収穫を祝い感謝する行事である。1週間前に境内を掃除し、幟を立てたり、しめ縄にシデ(紙垂)をつけたりする。当日は午後から鈴神楽・神事・獅子舞・宮出し→氏子宅回り→上宮神社で鈴神楽・獅子舞・宮入り→立石神社で獅子舞・宮入りとなる。氏子宅で門付け(玄関に神輿を据えて米・酒・水を供え、無病息災を祈願)しながら御旅所を回り宮入りする。なお、露払いのダイバンが持つ竹の棒で尻を叩いてもらうと、邪気払いや厄落としができるという。祭りの日は、小学校は午後から臨時休業となる。令和2年・3年は感染予防のため神事のみ実施。	A
	173	15	**アタゴサン（愛宕さん）** 8 月第1日曜 (旧 6 月 24 日) 八坂神社裏愛宕様	鎮火の神とされる愛宕様が祭られ、念仏やおこもりが行われている。寛政4年（1792)の『愛宕山御祭礼帳』が残っており、旧暦の6月24日を祭日と定めることや当番者の名前、経費などが記されている。現在も、八坂神社の総代が中心となって祭っている。僧侶を招いて読経していたが近年は役員だけで拝む。おこもりなし。また、かつては違う日にしていた「アミダサン」も「アタゴサン」と同日に僧侶なしで実施。阿弥陀堂に新亡家が位牌を持って集まり読経して新仏の供養をする。その後におこもり。	B
	173	19	**トボシアゲ（灯し上げ）** 8 月 31 日 町村橋たもとの河原	8月1日のトボシゾメから火をともし続けた盆灯籠を31日に片付け新盆供養を終える行事。新亡家や組内の人が町村橋下の河原に参集し、僧侶を招き読経の中灯籠を焼き見送る。令和2年・3年は感染予防のため、各新亡家から一人ずつ参加とし、僧侶は招かず読経なしで盆灯籠を焼いて見送った。	A
	173	19・33	**盆炊き** 盆前後 小田川河原	盆期間中の子どもの行事で、子どもたちが食材を持ち寄って河原などに集まり、石でかまどを作りご飯を炊いたり野菜を煮炊きしたりして皆で食べた。少子化・事故防止のため、現在は愛護班活動として子ども・保護者・自治会役員・地元有志が参加して実施している。コロナの影響で令和2年・3年は中止。	B
	173	10	**奉納子供相撲** 8 月 14 日 八坂神社	帰省した子どもたちも含めて男女40人ほどが参加し、年々にぎわっている。コロナの影響で令和2年・3年は中止。来年からイベント保険に加入することになり、事前加入となるため帰省の子どもは飛び入り参加ができなくなる。コロナ終息後復活させたいが、地元の子どもだけでは人数不足で実施は難しい。	C
	173	29	**オダイッサン（お大師さん）** **大師信仰** **新四国八十八か所** 8 月 14 日 八坂神社	町村・寺村地区のお大師さん信仰は盛んにおこなわれていた。かつて寺村京の森を出発して町村栄町から日野橋に至る半日コースがありお接待もあった。本川と久万への旧道に分かれる所やこのふもとに弘法大師石仏が残っている。石仏は山の麓からコース沿いのそこかしこに何体も据えられ京の森へと続いていたが、城の台公園造成の際に多くが撤去された。分散した石仏のいくつかは信者たちにより集められお堂に祭られた。お堂での参拝は続けられたが、近年お堂上方に崩落の危険が生じ立入りができなくなっている。	D
	173	1・15	**寺村　山の神火祭り** 8 月 15 日 (旧 6 月 24 日) 六角山・JA 小田支所周辺	山の神に火を献じ、秋の豊作を祈る行事である。虫除けのための火祭りという生活の知恵の側面も合わせもつ。祭りの世話は、林慶・新田・堂村・中通り3班の6地区が輪番で行っている。当番組を代表して運行する「宿」・連絡係の「フレカタ」をおく。宿は、その年の行事が終わると、次の年の宿に、火祭りに関する書類の入った箱を引き継ぐ。当日は当番者全員で山の神を祭る六角山山頂に登り、鉦と太鼓に合わせて念仏を唱える。そして、日が暮れるのを待ってオヒカリに火を点けて回る。平成4年（1992)より点火式には寺村自治会が関わりを持ち、女子小学生が参加し火を持って山を下るようになった。オヒカリの数は、かつては百八灯と決められており、マツの古い切り株の根を割って小さくしたものを木や竹にくくりつけて立てていた。近年は、六角山の真下を中心に田んぼのあぜ道や道路沿いなどに高さ2メートルの棒を立て、灯油を入れた空き缶をつるして火をともしている。記録帳には昭和32年に灯油を購入した記録があり、この頃から灯油が使われるようになったと考えられる。オヒカリの数も年々増えて、現在では、4,000灯にもなる。(町)〔詳細調査報告4参照〕	A

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概　　要	存続状態
内子町	173	22	**八坂神社の秋祭り** 10月20日 八坂神社	1カ月前から氏子が集まり、神輿や牛鬼の担ぎ手、出役者の人選を始める。1週間前に境内を掃除し、幟を立てたり、しめ縄にシデ（紙垂）をつけたりする。当日は10時から祭典、その後、獅子舞、宮出しとなる。上の御旅所（日野川）で神事を行った後、氏子宅で門付け（玄関に神輿を据えて米・酒・水を供え、無病息災を祈願）しながら下り、下の御旅所（小田）で神事を行う。午後5時頃に宮入りし、その後ナオライ（直会）がある。なお、露払いのダイバンが持つ竹の棒で尻を叩いてもらうと、邪気払いや厄落としができるという。祭りの日は、小学校は午後から臨時休校となる。昔は神輿の担ぎ手や供人は男性のみであったが、少子・高齢化が進み、近年は女性の参加も認められるようになった。それでもなお神輿の担ぎ手が不足し、台車や車に載せて回るようになった。14人ほどが担ぐ牛鬼は4年前から中断。獅子舞・しゃぎりなどについても、将来的な継承が課題となっている。感染予防のため令和2年～3年は中止。	A
	173	8	**新田神社の秋祭り** 10月20日 新田神社	獅子舞が出る。氏子宅の件数が多いため、前日19日の宵祭りの日から二手に分かれて回る。当日は、神事→獅子舞奉納→練り→宮出し→御旅所・氏子宅で獅子舞→宮入り。感染予防のため、令和3年は練習のみで獅子舞は奉納せず。	A
	173	エ	**花まつり** **（灌仏会・仏生会）** 4月8日 清盛寺	お釈迦様の降誕を祝う行事で、一般に「花まつり」と呼ばれる。本来はお釈迦様に5種の香水を注ぎかける宗教的儀式を執り行う日であるが、庶民にとっては楽しい甘茶の日である。参拝者はお釈迦様の像に甘茶を捧げ、礼拝し、小銭を供えた後自らも甘茶をいただく。また持ち帰り、家の前にまいたり、甘茶で墨をすり紙に「茶」と書いて柱に貼ったりするとムカデ除けになるとか、あるいは、甘茶を目につけると目の病気にかからないとかいわれていた。	D
	174	19	**お念仏** 8月24日 毘沙門堂	上川の丘には弘法大師像と毘沙門天像を祭るお堂があり、8月24日に組内の者が参集し、うら盆の先祖供養を行っている。新亡があれば8月7日に新仏供養を行う。皆で鉦に合わせて念仏を唱える。二組に分かれて「ナンマイダンブツ　ナンマイダンブツ　ナンマイダー」を1フレーズとして7回ずつ交互唱和、その後会食をする。	A
	174	エ	**オハンニャ（大般若）** 4月第3日曜 宝蔵寺	住職・役員・講員が読経して先祖供養をする。	A
	174	17・22・27	**亥の子まつり** **（オイノコサン）** 旧10月初亥の日 恵比寿神社	広瀬神社境内にある恵比寿神社では、旧暦の初亥の日に亥の子まつりが催される。牛鬼や神輿渡御、子ども相撲の奉納などが行われる。境内には各種バザーや露店が並び、多くの人でにぎわう。この祭りに、種子交換の風習が伝わっている。その年に収穫したトウキビや大豆などの作物を持ち寄って神前に供え、収穫に感謝する。翌年にまく種子として別の人が供えたものを持ち帰ってもよい。遠く高知県仁淀からも参拝があり、かつては徒歩でほうじが峠を越えて訪れていた。現在も車で乗り合わせて参拝が続けられている。双方の祭りに案内し合うなど神社役員の交流は現在も続いている。亥の子行事の一つにイノコツキ(亥の子つき)がある。子どもたちが家々を回り、亥の子歌を歌いながらワラスボをつき、無病息災と当家の繁栄を祈る。ワラスボとは、稲わらを束ねて棒状にしたもので、中に乾燥したズイキを入れると程よい重みとなり、打ちつけた時に良い音がする。各家で祝儀として駄賃や菓子・果物をもらい、皆で分け合う。高齢者・年配者がいる家では、オイブッサン(恵比寿様)にダイコン飯(ダイコン入り寿司)・箸の代用としてダイコン2本・亥の子餅・ユズなどを供えたりするところもある。地区によっては、この日は畑に入ってはならないとされ、そのためダイコンは前日に引いておく。これは、オイブッサンがダイコンを引いた穴に足をとられて怪我をしないようにするためだといわれる。令和2年～3年は神事のみ実施。	A
	174	19	**施食会** **（施餓鬼会・おせがき）** 8月11日 宝蔵寺	複数の僧侶により新仏の供養のための読経を行い、その後に会食をする。新亡家が参加する。	A
	174	8	**十三佛講** **（じゅうさんぶっこう）** 旧1月21日に近い日曜 （旧1月21日） 宝蔵寺	昭和の初め頃、平野浄元という祈祷師が種々の祈祷によって諸病を癒やした。毎年旧暦1月21日に講連中6戸が御座所を掃除し、地区の繁栄や家内安全を祈願していた。平野浄元が死去した後、中川西(桑原・蔵谷・藤井)地区内に点在していた仏像13体が宝蔵寺横の道沿いに移された(移動年代は不明)。以後、宝蔵寺にて毎年念仏会が行われており、地区内から希望する講員ら15名程が参加する。感染予防のため令和2年中止。	B
	174	22	**広瀬神社の秋祭り** 10月15日 広瀬神社	収穫を祝い感謝する行事である。赤青のダイバンと牛鬼が出る。当日の午前中鈴神楽を奉納する。午後1時から祭典・宮出しをする。御旅所を回り、新築の氏子宅では門付けをする。	A

市町	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
内子町	175	8	**オハンニャ (大般若)** 旧正月 薬師堂	当番 (2戸) は、当日各戸に無料で配布する餅とお札を用意する。ついたり頼んだりして作った餅は二段重ねにして半紙で個包装する。お札は、引き継いでいる木型の版で作る。寺からもお札 (有料) をもらう。当日は僧侶を招き、午前9時から17戸ほどの住民が参集して読経する。感染予防のため、令和2～3年は中止。	A
	175	19	**ナヌカボン (七日盆)** 8月7日 (旧7月7日) 薬師堂	当番 (3戸) は事前に愛宕さんを掃除・花立てをする。当日は薬師堂に集まり僧侶を招き先祖供養・新仏供養 (位牌持参) をする。感染予防のため、令和2～3年は中止。	A
	175	17	**ハギタテ** 旧11月15日 各家	山の神・田の神・畑の神におはぎを作ってお供えして無病息災を祈願し、皆でいただいた。	D
	175	29	**お遍路さんのお接待** 5月5日 お堂	四国遍路の巡礼の時期になると、5月の連休に臼杵上区・中区の7戸6～8名の住民がお遍路さんの接待をする。前日に餅12臼をつき、紅白の重ね餅にする。当日は僧侶を招いて読経した後、参列者の肩叩きで厄払いをする。餅まきには地元だけでなく広田や松山など近隣からも多くの人が訪れ100人ほどでにぎわう。通りがかりのお遍路さんには、うどん・おにぎり・ビール・酒・ジュース・茶などでもてなす。感染予防のため、令和2～3年は中止。	A
	175	22	**新田八幡神社の秋祭り** 10月最終日曜 (10月29日) 新田八幡神社	収穫を祝い感謝する行事。当日の12時半の祭典後に宮出し、御旅所、氏子宅を回り宮入りする。神輿渡御の供人として、ダイバン赤青・牛鬼・猿田彦などがきらびやかな衣装をまとい華やかに行列する「しゃんぎり」を行っていたが、現在は人員不足のためダイバン赤青と牛鬼のみとなっている。　感染予防のため、令和2～3年は神事のみ実施。	B
	175	8	**臼杵三島神社の秋祭り** 10月最終日曜 (10月29日) 臼杵三島神社	おねりと獅子舞が出る。ねりはこの地域の農民の昔の生活ぶりと、苦労して山畑を切り開き、獣害を受けながらそれに立ち向かっていく様子をコミカルに表現したもので、臼杵でかつて行われていた焼き畑農業の様子も再現されている。獅子舞は三島神社本殿では三番叟・ふるいち、御旅所では神楽・どんどこが奉納される。感染予防のため、令和2～3年は中止。	C

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概　　要	存続状態
大洲市	176	8	**中一地蔵まつり・三の丸地蔵まつり** 7月下旬 各境内	中町1丁目の地蔵まつりと大洲城三の丸の地蔵まつりを、ほぼ一週間違いで行う。	B
	176	17	**十日えびす祭り（えびす祭り）** 1月9日～11日 大洲神社境内	大洲神社において1月9日から11日までの3日間実施される商売繁盛、家内安全を祈願する祭礼。9日は宵えびす、10日が本えびす、11日が残えびすとする。10日の本えびすでは、3回の餅まきが行われ、そのうち1回は「大鯛」と書かれた鏡餅が撒かれ、拾った人は大鯛をもらえる。また、境内では、氏子による福引付縁起笹が販売される。	B
	176	16	**水天宮花火大会** 7月21日 如法寺河原	亀山公園に小さな水天宮の祠があり、7月下旬に花火大会が行われる。	B
	176	ウ	**大洲神伝流** 成人式の日 主馬神伝流保存会	1月の成人の日に肱川において、古式泳法「神伝主馬流」を伝える寒中水泳が行われる。当日10時頃より如法寺河原において、テント、コースロープ、ブイなどを設営し会場準備を行う。14時より式典が開始され、寒中水泳大会の安全を祈願する神事や保存会員による式泳が行われる。式典終了後、幼児・小・中・高校生、一般参加者の順で寒中水泳が実施され、その後保存会員による神伝流泳法の披露が行われる。15時頃より愛媛大学・松山大学生による日傘と「祝成人の日」と記す水書の披露が行われる。（県）	B
	177	ウ	**川まつり花火大会** 8月3日～4日 弁財天堂	8月3日の住吉神社の祭礼、4日の弁財天の祭礼に際して行われている江戸時代から続く花火大会である。現在は、観光事業化されており、神社祭礼とは切り離されたように見えるが、3日には住吉神社で神事が行われ、4日には上の弁財天社で神事が、下の弁財天堂で祈祷が行われている。	B
	177	15	**輪抜け神事** 7月 総社宮境内	夏越しの行事。境内に作られた茅の輪をくぐり参拝する。配られた人型の紙札を納める。	B
	177	3	**おはけ** 11月1日～4日 （地区によって異なる）	秋祭りに折に辻々に立てる。提灯を3個吊るす。近年はあまり見られなくなったが、今年、田口区で見られた。住民の高齢化と提灯等の修復不能で立てる所が少なくなった。田口地区以外にも久米、中村、菅田、徳森、喜多山地区でも見られる。	B
	177	8	**鏃地蔵まつり** 4月24日・8月24日	五郎玉川区一組と青木組の集落住民により交代でお祭りが行われる。	B
	177	22	**子供牛鬼** 11月2日(11月3日)	田口区の子供たちが牛鬼を引いて家々をまわり、魔除け祈願をする。	B
	177	10	**子供相撲** 8月24日 はだか地蔵前広場	中村河原地区でうら盆の8月24日に行われる。	B
	177	8	**比地神社大祭** 4月	比地神社の歴史は古く、渡場区住民による祭りが行われている。幟を立てる程度で、神輿などはない。	B
	177	19	**中村河原地区の盆行事** 8月24日 はだか地蔵前広場	うら盆にあたる8月24日に行っている。中村河原地区の盆踊り。感染予防のため、令和2・3年中止。	B
	178	15	**太郎神社厄落とし** 5月4日 太郎大明神社	本厄(男性42歳、61歳、女性33歳、37歳)を迎えたものが太郎大明神社に集って行う厄落としの行事。例年、女性の参加者は少ないのが現状である。まず、神職による神事、厄払いが行われ、参加者一同、無病息災、健康長寿を祈願する。その後、飲食をしながら懇親を深め、神楽（藤縄神楽）の奉納を見る。	B
	178	8	**十夜ヶ橋大師祭り（たいらの夏祭り）** 4月21日、8月21日 十夜ケ橋、徳森運動公園	弘法大師が野宿したと伝わる十夜ヶ橋霊場において、春の縁日、夏の縁日として、かつては盆踊り大会、餅まきなどがあり、出店も多く出て、地域住民及び市内外の信者でにぎわった。しかし、大師堂前の国道56号線が大混雑になり、危険が予想されるため、平成5年から「たいらの夏祭り」として、徳森運動公園において盆明けの土曜日に地域住民の憩いと交流の場として盆踊りや餅まきなどの行事が行われている。ただ宗教的な意味合いは全くない。従って、現在では十夜ヶ橋において、春の縁日、夏の縁日においては参拝者が集うのみで出店もなく、一般住民による祭りの要素はなくなった。現在十夜ヶ橋において行われているのは、土用丑の日の「諸病封じ、きゅうり加持祈祷」、2月3日の「節分厄除け護摩祈禱」などであるが、宗教的要素が強い。	B

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概　　要	存続状態
大洲市	178	3	**徳森の秋祭り** 11月2日 太郎大明神社・徳森全域	祭りの前日又は前々日、徳森地区内の5か所に「オハケ」(幟、提灯)が設置される。午前8時から太郎大明神社で神事が行われる。神輿は、13時から14時頃まで松ヶ花、野田(2か所)、土居、城、小鳥越、中山の7か所の御旅所を廻る。以前は若い男性が担いでいたが、担ぎ手がいなくなり、現在では軽トラックに載せて移動する。獅子舞は、青年団が中心となり、8時から20時まで、徳森地区内のお旅所と各戸を回る。土居区と野田区には、子供神輿も出る。ただし、この2年間は、コロナ感染拡大防止のため、神事のみでオハケも設置していない。	B
	179	3	**三島神社の秋祭り** 10月23日 三島神社	秋祭り前日に神社入口に高山東区の住民によりおはけを設置し、祭礼当日は、神事のみが行われる。住民の減少により令和3年はおはけの設置も行われていない。	C
	179	29	**高山の石鎚講** 7月10日 かんださま 高山西地区・東地区住民	元々東区は三島神社境内で、西地区は現地で別々に行われていたが、明治以降に合流して一か所で実施されるようになったと伝えられている。石鎚講は、まず先達が祝詞を奏上し、読経を唱えると、東区、西区それぞれの代表者が榊を捧げる。その後、先達が参加者一人一人の身体にご神体を持ってさすりつけ、無病息災を祈願する。これが終了すると、四方の木に白色の御幣をつけた注連縄をはり、その中でお山踊りを踊る。踊り手は、約30cmに切った竹に白色の御幣を付けた竹を一本ずつ持ち、七五三の注連縄を腰に巻き、円をつくり、太鼓、詠い手を取り囲む。御神歌が唱えられた後、太鼓に合わせて踊り始める。踊りは、反時計回りに静かに回り、途中何度か足を踏み鳴らす。現在は、人数も減少し実施されなくなってきている。〔詳細調査報告52参照〕	C
	179	9	**大洲八幡神社祭礼** 11月2日	大洲八幡神社で実施される祭礼行事で、10月31日には地区総代によって「お成り」で使用する道具や幟旗等の準備が行われ、17時から神職による宵宮祭が行われる。11月1日には10時から本殿祭を実施し、13時より鳳輦（神輿）の飾付け、道具等の配置を行い、夕方鳳輦への御霊遷しが行われる。11月2日、10時過ぎに八幡神社麓より御神幸行列「お成り」が出発する。巡路は、久米地区、肱南地区、肱北地区を巡幸し、12時過ぎに御旅所である総社大明神社へ到着する。到着後すぐに御旅所神事が実施され、鈴神楽が奉納される。神事終了後すぐに行列を整えて肱南地区を巡幸し、市民会館前へ向かう。市民会館前駐車場に設けられた御旅所で神事が行われ、鈴神楽と浦安の舞が奉納される。終了後は神社へと戻り、神輿の宮入後は鈴神楽が奉納される。その後、神職による還幸祭が実施されてすべての祭礼行事は終了する。（市）	B
	180	14	**おちつき石**	嫁が来る事が決まった家に、「この家に嫁として長く落ち着いてほしい」という思いを込めて、大きな石を庭に置く風習。石を運ぶのは地域の人々が協力して行う。	B
	180	15	**おこもり** 4月の日曜 大元神社	地区内に、42歳・61歳の厄年の者があるときに行う。野村などから神楽を呼び、折詰めなどを食し、餅まきも行われた。	B
	180	27	**亥の子** 11月はじめの土曜	亥の子歌を歌い、各家々をまわって亥の子石をつく。地区の愛護班により子ども達が行う。	B
	180	8	**でぶ（出夫）** 不定期	地区の共用地の補修などを行うために、各世帯よりボランティアで参加して通路の修繕などをする。	B
	181	9	**菅田の秋祭り** 11月2日～3日 須賀神社・宇都宮神社・各戸	鹿踊りが出る。11月2日、まず午前7時半、須賀神社の神事で踊り、次に宇都宮神社に移動して、踊る。その後、例年、町内約100戸の家をまわり、午後9時くらいに終了する。3日の日は、特別に要請のあった団体等を訪問して披露する。	B
	181	8	**清谷観音春夏祈祷** 2月20日・3月17日・8月第1日曜 清谷寺	菅田町阿部地区にある清谷寺は、もと道前、道後、宇和、喜多郡等、広範囲に檀家を持った大寺であったが、現在は小さな寺である。しかし、阿部区住民の村組織としての連帯意識が強く、清谷寺の観音様への祈祷は今も続けられている。春祈祷は2月20日、各戸1名ずつ出て清谷寺参道の除草、道つくりを行う。3月17日、堂内に地区住民が参集し、住職の先導のもと、五穀豊穣、家内安全を祈願して般若心経を唱える。その後、持ち寄った弁当を食べながら懇親を深める。昔は、相撲大会を行ったり、出店がでていたが、今はない。令和2年、3年は、新型コロナ感染を防止するため、縮小して役員のみで春祈祷を行った。夏祈祷は、以前は、7月10日に行っていたが、最近はお盆前の8月第1日曜日に役員のみで実施している。	B
	182	22	**蔵川三島神社の秋祭り** 11月10日に直近の日曜（11月10日） 三島神社	当日は神事、御神輿宮出、御旅巡行を経て再び神社境内で御幸祭を行い、その後鹿踊り奉納、餅まき、宮入り、還幸祭神事、玉串拝礼、終了太鼓。	B

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概　　要	存続状態
大洲市	182	15	**祈年祭** 4月第3日曜 三島神社	還暦及び厄年を迎えた人たちの厄払いのために行われる。神事の後、神楽奉納が行われ餅撒きが行われる。	B
	182	15	**夏越祭り** 7月第1日曜 三島神社	「夏越しの大祓」とも言い、新年の始まりから半年間の身についた穢れを清めて災厄を祓うもの。神事の後、境内など神道の結界内に茅(ちがや)という草で編んだ直径2mの輪を作り、その中を8の字に3度くぐり抜けるという「茅の輪くぐり」を行う。	B
	182	33	**盆棚(初盆)** 初盆の家々	新竹を四角に立て家の外に盆棚をつくる。中からお供等をするまわりを桧の葉枝で囲い、青竹を半割にして中の棚をつくる。とぼしつけからとぼしあげまで五色の紙を飾る。	B
	182	28	**新仏、巳午の行事** 12月巳の日 各家の墓所	新仏様のお正月。一夜水につけておいたもち米を搗き、墓参し墓所にて餅を切り分ける。藁をもやし、火であぶった餅をお墓を背にし、肩ごしに参加者1人ずつ渡して食べる。墓前の飾り付けとして、墓前に柿と栗の新枝をそれぞれ左右に立て、その間に7･5･3の左しめ飾りをする。山草(ウラジロ)ではなく山しだ(ネコシダ)を飾る。	B
	182	17	**伊勢宮のお講** 旧2月1日 神明宮(伊勢宮)境内	手に御幣を持ち、鉦と太鼓の伴奏で「お伊勢踊りの唄」を唄う。昔は少しの振りがついていて踊りながら唄っていた。その後、お供えに御神酒と茶菓子をいただきながら少しの時間を過ごす。御幣は五穀豊穣を願って持ち帰り畑に立てる。このお講は700年以上続いていると言い伝えられている。	B
	182	8	**愛宕様のお講** 8月21日 桜安場大師堂	「愛宕様」と呼ばれる石を積み上げて作られた祠の前で、鉦の音に合わせ「南無阿弥陀仏」と念仏を唱え火災予防を祈念する。回数がわかるように木の葉をちぎって数えながら唱える。	B
	182	34	**桜安場のお講** 8月21日 桜安場大師堂	「大師様と義人吉衛門、新之丞」が祭られている桜安場大師堂において、鐘念仏を唱え、茶、赤飯の接待をしていた。現在は、縁日に清掃をしてお参りをしている。数年前までは根本区も一緒に行っていた。	B
	183	8	**藤縄三島神社の秋祭り** 10月23日前後の日曜 (10月23日) 藤縄三島神社	祭礼当日は、9時30分に神社において神事が行われ、12時30分に神輿の宮出しと練鼓獅子の奉納が行われる。宮出しの際、神輿担ぎは「チョーサー、チョーサー」の掛け声をかけ境内の中を3～5往復走り、鳥居外でも同じように神輿を担いで走る。その後、ダイバン、神輿、太鼓、槍、幡の順で御旅所へ向かう。御旅所でも神事後神輿を担いで走り、終了後は、神輿を車に積んで4か所ある区の集会所を廻る。昔は一軒一軒を2日かけて巡っていた。17時頃宮入を行うが、宮入の際も宮出しと同じように境内内で神輿を担いで走り、社殿内でも神輿を廻す。令和3年は感染予防のため、神社社殿で役員による神事のみ実施。	B
	183	8	**熊野神社の秋祭り** 10月23日前後の日曜 (10月23日) 熊野神社	祭礼当日は、11時より神事が行われ、12時に神輿の宮出しが行われる。御旅所まではダイバン、槍、幟旗、刀、立傘、神輿の順に練鼓獅子がついて移動する。御旅所は、旧田処小学校グラウンド、田処橋でそれぞれ神事が行われるが、練鼓獅子の奉納は旧田処小学校のみで、その後は町内を巡る。2つの御旅所で神事が終わると、神輿担ぎは町内を神輿を担いで走ったのち、山間部の地区を巡るが、現在は3年に一回の周期で各区(上、下、東)を廻っている。16時30分頃宮入が行われる。30～40年前までは、宮入の際境内の外で神輿を担いで走ったのち、神輿を廻して宮入をしていたが、現在は行われていない。令和3年は感染予防のため、神社社殿で役員による神事のみ実施。	B
	183	8	**柳沢三島神社の秋祭り** 10月23日前後の日曜 (10月23日) 柳沢三島神社	祭礼当日は、赤田、道成、居場の3区の三島神社氏子が集合し、11時より神事、13時に神輿の宮出しが行われる。宮出しの際に神輿担ぎは「ヨウサー、ヨウサー」の掛け声で神輿を担いで境内を3往復走る。その後、総代、太鼓、ダイバン、幟旗、神輿の順で御旅所へ向かい、御旅所で神事を行う。その後3区内にある集会所へ神輿のみが廻るが、現在車に積んで巡る。また赤田へは神輿の巡幸は現在止められている。16時に宮入が行われるが、宮入の際も社殿内で神輿を廻す。令和3年は感染予防のため、神社社殿で役員による神事のみ実施。	B
	184	3・エ	**大洲祇園神社の祭礼** 4月7日・14日前の日曜 八多喜町	4月7日、祇園神社下の肱川において宮司、総代などが参列して潮垢離祭りが行われ、翌週に御神幸行列が実施される。祭礼日当日は、11時に総代が集合し、道具の準備を行い、13時30分に神輿の宮出しが行われ、行列を組み、八多喜町内を横断して御旅所へ向かう。行列には、官人人形、雷神人形のほか、青龍、白虎、朱雀、玄武の鉾も組み込まれ、槍、幟旗など総勢約50名が神輿を先導している。御旅所での神事が終了すると再度行列を組み、祇園神社へと戻る。元々2日間の祭礼であったが、現在は1日のみとなっている。	B

市町	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
大洲市	185	8	**上須戒地区の秋祭り** 11 月 25 日に近い日曜 天満神社・大元神社	上須戒地区にある天満神社と大元神社の2社が同日に開催する秋祭りで、天満神社では上須戒にある全12区の氏子が、大元神社では12区のうち6区の氏子が実施している。祭り当日は2社とも昼頃に境内で神事が行われた後、神輿の宮出しが行われる。天満神社の神輿は大宅（おおや）にある御旅所へ、大元神社の神輿は池岡にある御旅所へと向かう。御旅所では、神事及び巫女による鈴神楽が奉納され、終了後14時頃に寶蔵寺上流にある御旅所で合流する。合流した後は2基の神輿を備え、神事と鈴神楽が奉納される。その後、①獅子舞、②五ツ鹿踊り、③相撲甚句の順番でそれぞれの民俗芸能の奉納が行われる。御旅所神事が終了した16時頃、2基の神輿はそれぞれ地区内を廻り、19時頃宮入を行って祭りは終了する。令和2～4年度は境内において神事のみの縮小開催。	B
	186	19	**灯籠灯し上げ** 8 月 30 日 大洲市長浜、 肱川河口付近河川敷 （新長浜大橋上流側）	新盆を迎えた御霊の灯籠灯し上げを、毎年この日この場所で行っている。昭和の大合併以前の旧長浜町内4箇寺により構成する「長浜仏教団」が盆棚を設け18時半頃から受付開始、供養料として一霊位につき二千円以上をお願いしている。19時頃から長浜仏教団4箇寺の住職4名による焼香や読経の中、今年は集まった100人超により盆灯籠20超をそれぞれ燃やして供養し、終わったものから順次帰る。盆灯籠は安全のため砂地に前もって掘られた窪みに入れて燃やされ、燃え尽きたころ依頼している業者が重機を使って窪みを埋め戻して終了する。この行事は、かなり以前は戦前に旧町内に建設された大平墓地横で行われていたが、住宅地に接している場で火を使う問題から、今の場所に移して開催されている。近隣の高齢女性の話として、少なくとも26年前からはここで開催されているので以後毎年出席しているとのこと。	B
	186	8	**住吉神社の秋祭り** 10 月 10 日に近い日曜 （10 月 10 日） 住吉神社	神輿の宮出し、町内巡幸、宮入と終日続く行事だが、感染予防のため、令和2年、3年と中止になった。そのうち、令和3年は、宮総代等の関係者により神事と直会のみ行われた。それら関係者・少数の参拝者には、お祓い・御札と紅白餅が手渡された。	A
	186	27	**おいのこさん** 11 月の日曜 世話役宅	平成29年まで長浜29区で実施していたが、その後は行われていない。例年、18時頃世話役宅に集合、出発して実施していた。	D
	187	8	**地方祭** 10 月 9 日～ 10 日 長浜町今坊 今坊獅子舞保存会	獅子舞が出る。感染予防のため、令和2・3年は中止。	A
	188	33	**盆棚** 8 月 11 日～ 15 日 出海地区各檀家	出海地区では、8月11日から15日のお盆期間中、順番に僧侶が約120軒の檀家を回って、念仏供養をする(お盆の棚経)。各檀家では盆棚を組み立てて竹飾りをして、仏壇から先祖や個人の位牌を出して盆棚にまつり、お霊供、野菜果物乾物等を供える。盆棚の木棚は、多くは近在の大工に作ってもらう。新仏の家では、盆の前、8月7日に出海浄明寺でお施餓鬼供養を行う。その時の2つの供養棚(三界万霊棚と新仏供養棚)を目安にして、各戸で盆棚を作る。最近は、十人組の活動がほぼなくなり、住民の高齢化やお葬式の簡素化とともに、盆棚を作る家も少なくなっている。	B
	188	2・8・22	**出海神社** **・金刀比羅神社の秋祭り** 10 月第２日曜	出海の秋祭りは、出海神社と金刀比羅神社から港近くの御旅所までのお練りと御旅所の神事が主行事。氏子はお昼頃から神社に集まり、13時に宮出し、途中で両神社が合流し14時頃に御旅所へ到着して各神事が始まる。お練りは、獅子、鬼、鉄砲隊、鉾、道具方、お供え方と続き、太鼓の後3基の神輿、宮司、宮総代の順番。神輿は出海神社が2基と金刀比羅神社が1基。御旅所に着くと、神輿を祭壇に飾りその前に各お供え物、道具を揃える。準備が出来ると、宮司の祝詞のあと、各団体の挨拶、獅子舞演舞、出海神社鉄砲隊の口上、1年未満の新生児の柱抱き(柱建て)を行う。柱抱きは、子どもの初詣と住民への披露を兼ねている。7人の総代がお神酒とお餅を参加者に配って、御旅所の行事は終了する。その後、それぞれの神社に宮入りする。近年過疎化によりかき手不足のため、四ツ太鼓は平成27年から、高校生が主力の牛鬼は平成30年から休止している。現在、秋祭りは8月中頃から青年団、愛護班、区長会、自治会、明友会等各団体と打合せ準備をして、地区をあげて参加人数の確保につとめている。令和2・3年は、感染予防のため練り中は止。神事のみ宮総代・宮司で実施。	B

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概　　要	存続状態
大洲市	188	27	**おいのこさん** 11月亥の日	それぞれの地区で各家を回って、家の前で亥の子棒を地面に叩きつけ音頭をとって、亥の子唄を歌う行事。現在、出海地区7区のうち2か所で行われており、1か所は2区の合併で行われている。残りの4区は、子どもの減少で休止の状態が続いている。子どもは小学生と中学生が中心で、最近は、小学生以下も参加。亥の子棒は、藁を丸めてカズラや針金でぐるぐる巻きにして固め、持ち手を作った物。昭和30年～40年代は、子ども同士で作っていたが、平成17年旧長浜町と旧大洲市の合併を機に、亥の子棒の制作は公民館の生涯学習活動となった。現在、明友会(60歳以上)の指導・協力で親子活動として作っている。感染予防のため令和2年は中止。令和3年は、11月7日に亥の子棒作り、11月11日18時からおいのこさんが実施された。亥の子唄は口承で伝えられ昔からほぼ同じ。又、櫛生ではすでに前から実施されていない。	B
	188	ウ	**花まつり** 4月第3か4の日曜 (4月8日) 出海村浄明寺	昭和30年代、行事日は4月8日だった。現在は4月の第3か第4の日曜日にすることが多い。行事日は、3人の寺総代の話し合いで決め、3月の回覧板で案内をする。スタッフは、寺総代6人（3軒・夫婦）、社寺総代（奥方）6人。社寺総代奥方が村内から花集め、寺総代奥方が甘茶作りをし、寺総代男がお堂を準備して、皆で花を飾りお釈迦様を祭る。準備が完了して、村の人を接待。大体10時スタート。午後3時頃完了。甘茶をペットボトルに入れて配る。コロナ禍のため一昨日は中止。昨年は寺総代6人で実施。	B
	189	8	**大越の権現様まつり** 4月第3日曜 大越集会所	現在4軒の家で行われているおこもり行事である。現在は、集会所でおこもりを行っており、修験者を呼んで祈祷を行っている。また、12月16日には、各家庭持ち回りで念仏供養を行っている。	B
	189	8	**秋葉様** 4月第3日曜 成福寺	昔、上老松区に大火があったことから、明治21年柳沢の宗安寺より秋葉大明神を分祀し、区内に火事が起きないように祈願する祭り。当日は、区の住民が道つくりをした後、お寺に集まり住職による読経が行われる。参加者は、2組に分かれ数珠を交互に持って念仏を唱えながら3回廻す。数珠を持っていない人は、鉦と小太鼓を打つ。終了後は、お寺より秋葉大明神の御札をいただく。	B
	189	8	**亀の森明神祭り** 7月20日 亀の森明神	藤ヶ崎区の住民が地域の氏神として亀の森明神を祀っている。以前は大元神社の宮司が祭祀を行っていたが、現在は修験者によって行われている。亀が森明神祀りが行われている場所は、大陰城の武士たちが祀られいる。	B
	189	8	**惣瀬集落のおこもり** 4月21日 惣瀬集会所	惣瀬集会所で行われているおこもりで、お大師様の念仏を行っている。以前は区内のお大師様を祀るお堂で行っていたが、現在は集会所で実施している。2組に分かれ念仏を唱え、終了後各家庭から持ち寄った料理を食べる。	B
	189	15	**城の台のおこもり** 4月第1日曜 大陰城跡	下平、郷区内で、42歳、61歳になる住民の厄払いを行う祭り。金比羅宮前で修験者からお祓いを受け、集会所などで直会を行う。以前は城の台（大陰城）で家族中がおこもりを行っていた。	B
	189	15	**柿ノ久保観音祭り** 4月17日 柿ノ久保集会所	祭りの由来は不明であるが、善福寺において観音祭りが行われている。当日は、午後5時頃から集落の住民が集まり、修験者が読経を行ったあと、お祓いをうける。18時頃から餅撒きを行う。	B
	189	24	**大平のお念仏** 1月・3月・8月・9月	年明けの1月10日前後の日に集会所において念仏を唱える。念仏終了後、1mほどの草鞋をつくる。片方は大平集落の住民がつくり、もう片方は豆柳集落の住民がつくる。草鞋は集落の木に掲げる。3月彼岸、8月お盆、9月彼岸にも念仏を唱える。	B
	189	15	**戒川の数珠送り** 土用丑の日 樫谷、豆柳集会所	暑い夏を無事乗り切って、収穫の秋を迎えられるように行われる年中行事。丸木に穴をあけ紐を通した大きな数珠を車座になった住民が左から右へと回しながら、「ナンマイダブツ、ナンマイダ」の念仏を繰り返し唱える。108回をワンセットとして竹札でカウントする場合もある。	B
	189	23	**白滝瑠璃姫まつり** 11月23日 白滝公園	白滝では、戦国時代、喜多郡に侵攻してきた土佐の長宗我部軍を瀧之城主津々谷氏が迎え撃ったが、討ち死にし落城した。この時奥方の瑠璃姫は幼児3人を連れて滝壺に身を投げて亡くなったと伝わる。瑠璃姫まつりは、この瑠璃姫と子どもたちの霊を供養するために営まれたのが始まりである。現在は、きらびやかな衣装を着飾った地元小学生の女の子のあとに、男の子が花で飾られたタル神輿を担いで滝のある白滝公園まで巡幸し、雌滝へ神輿を投げ込んで終了する。	B

市町	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
大洲市	190	19	**青島の盆行事** 不定期 (1 月 5 日・8 月 14 日)	離島青島で長年実施されていたが、近年の青島は急激な人口減と高齢化で実施不可能になってきた。現在の島民は6名で、70歳代以上のみである。そのため、近年は対岸の長浜自治会地域振興部会会員の応援を得て、島民または元島民が指導し、対岸側の長浜地区で、8月の盆時期に囚われず、文化行事やイベントなどで披露している。また今年、同部会が、青島の人口減少過程で使われなくなり、島内に破損放置されていた張りぼての馬2頭(昔は『大漁踊り』の「賤ケ岳七本槍」の場面で使われていた)の修復を完成させた。最も馬の足役1頭に付き2名は人を乗せた状態で体力を要する事から、今のところそこまでの踊り再現はできていない。極めて特徴のある盆踊りでもあることから青島の島民・元島民らと協力して、本来の場所(青島)を変えても何らかの形で保存承継するべく活動を続けている。令和3年12月12日には、ＪＲ伊予長浜駅で観光列車「伊予灘ものがたり」歓迎イベントとして短時間・部分的再現であるが再開できた。(県)	B
	191	ウ	**清正公おこもり** 春秋の社日 横畦山	慶長3年(1598)に名荷谷大成の住民が熊本の加藤清正公大明神妙見宮から清正公御神体を奉受し、大成の守り神として横畦山山頂に祀った。社日にはおこもりを行う。	B
	191	24	**鬼の金剛** 旧正月	以前は「口開け念仏」を兼ねて行われ、しめ縄を道の上に張っていたが、現在では簡略化されて道端に設置するようになっている。当日、地区住民が集会所に集まり協力して2m程度のわらじを一個作り、道端に吊り下げ設置する。作業を終えたら供物を食べながらおこもりを行う。	B
	192	17	**田休み** 7 月 2 日頃 各家庭・お宮・お堂など	当日は農作業を休み各家庭でうどん・しばもちを作って食する。部落によっては、この日を中心にお宮やお堂で行い、豊作祈願をしておこもりをする	B
	193	15	**輪抜け** 7 月 28 日(旧 6 月 19 日) 客神社	氏子の健康安全と地域振興発展を祈願して、古式にのっとった神事が実施される。前もって地区の氏子総代より家族数の紙人形札を受け取った氏子は、輪抜け行事の前夜に布団や枕の下に敷いて寝るか、または人形札で身体をなでる。特に調子のよくない部位をよくなでて悪病退散を願う。当日は人形札を持参して用意された社殿の水おけの中に入れる。中殿入口の茅(チガヤ)で編んだ大きな輪を参拝者は一列になって宮司の後に続いてくぐる(3回、左へ、右へ、左へ)。一年間の厄払いの意味がある。その後は、餅まき(令和3年はコロナ禍のため中止)や直会がある。	B
	193	19・23	**施食会(施餓鬼会)** 8 月 1 日 長命寺	以前は「施餓鬼会」といったが、禅宗の曹洞宗では現在は施食会といっている。長命寺では毎年8月1日に近隣同じ教区の曹洞宗寺院から10名の僧侶が参集し法要を営む。各寺院の施食会が同日にならないよう期日が設定されている。施食会は、寺の開基、開山、歴代住職、檀家の先祖、新亡(新仏)の供養を行い、参加者は、檀家総代(各地区15、6名)、新亡家族親族(各2、3人)、来賓である。法要が終わると、新亡家族は住職から塔婆、施餓鬼幟、精霊棚(盆棚)用の五色の経文入り短冊(5枚)などを受け取って帰る。檀家総代や来賓は直会に参加する。また、戦国時代猿ヶ滝城主で、土佐長宗我部勢の攻撃によって亡くなった岩本将監の供養も一緒に行われる。	B
	193	33	**精霊棚(盆棚)** 8 月 12 日頃～ 16 日	新亡（新仏）家庭では、お寺でもらった施餓鬼幟を昼間、戸口付近に竹竿に取り付けて立て、座敷の片隅などに精霊棚をつくる。位牌を棚の正面奥に安置し、香炉や燭台、茶器、花立て、供え物などを置く。四隅に若い笹竹を立てて固定し、紐で横と奥の三方をつなぎ、五色の短冊を吊るす。横には灯籠や提灯を吊るして、8月初めには「とぼしぞめ」を行い、12日頃から15日まではお霊具膳を供える。親戚や知人などは初盆見舞として12、13日頃を中心に訪れる習わしである。遠方の縁者は「お供え」を送ることもある。盆を過ぎた16日には「とぼしあげ」を行って、灯籠を焼却した後、盆棚を撤去する。	B
	193	17	**おえべすさん** **(トーキビえびす)** 旧 10 月末の亥の日 松島神社	戦国期の在地土豪・和氣出雲守の子孫勝久が酒造りを始めるにあたり、旧暦10月乙亥の日に松島の地に屋地を作っていたところ、恵比寿様によく似た自然石が現れ、この恵比寿神体を附近の岩上に祀ったのが始まりと伝えられる。大地から出てきた「おえべす様」の噂は村中や近郷にも拡がり、信仰者も増え、縁日には数万の参拝者があったとされる。「トーキビえびす」の名は、トーキビ(とうもろこし)を二さや供えて祈念した後、その内の一さやを持ち帰って種まきをしたところ、大豊作になったという伝承がある。祭りが特に賑わったのは戦後間もない頃で、露天商も数多く出店し、相撲奉納も行われていたが、近年では神事の後、鎮縄神楽の奉納と餅まきが行われるのみである。感染予防のため令和3年は神楽中止。	B
	193	8	**念仏** 8 月 7 日 上組太子堂	鉦を叩きながら、お念仏(なんまいだ)を合計21回唱える。当日、当番は掃除、お供え物をした後、そのお供え物を食べる。	B

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概　　要	存続状態
大洲市	193	23	**川中伊丞慰霊供養** 8月7日近くの日曜 伊丞様の祠	庄屋の圧政に耐えかねた村民が宇和島藩郡奉行所に訴え出た百姓騒動の首謀者として、嘉永2年(1849)に一切の責任を負って処刑された川中伊丞の供養祭。伊丞が没した48年後、市之畦の浅川源太郎が病気平癒をしていたところ伊丞の霊が現れ、「私が処刑されるような事があったら、家の畑に墓をつくってほしいとの約束をしたが、予子林の村人は守っていないのが残念で、いまだに仏の座につけない」と告げた。そこで予子林の人々は、伊丞の子孫と協議の上、明治29年(1896)に客神社の二ノ鳥居脇に堂宇を建立し、墓碑を安置して、毎年供養を行うこととなった。しかし、約20年後の大正7年(1918)に堂宇は市ノ畦区内の小高い場所へ移転し、現在は市之畦区の住民が、掃除や供養祭の準備を行っている。供養祭は、おのぼり旗7本、吹き流し1本、しめ縄、さかき、しきびとお供え物が揃えられる。また、市之畦区の他、郷、柳の各区からもお酒1本が供えられ、供養祭終了後は直会が実施される。	B
	193	18	**おひまち** 1月10日前後の日曜 藤の原集会所	口開け念仏、鬼の金剛を兼ねる。当日は早朝より机を出し、野菜、鯛2匹(太夫が持ち帰る)などを供物とする。準備が整うと餅つきを行う。午後、各戸一人が参集し神官のお祓いをうけ、部落繁栄と五穀豊穣を祈願し、その後に直会を行う。終了後は、各人が祈祷札、輪ごじめのお飾り、小餅一個を買い求めて帰宅する。	B
	193	24	**鬼の金剛** 1月10日前後に行う おひまちの日	おひまちと兼ねて行う。鬼の金剛草履と「わらすぼ」を作成し、悪病除け・魔除けとして宮司のお祓いを受ける。その後、区のほぼ中間に位置する集会所前の道路に年間を通じて張り渡す。草鞋は、40㎝～50㎝、幅30㎝程度で荒々しく編み、かかとの部分は編まない。わらすぼの中に白米を入れて供物とし、残りの白米はおにぎりにして、直会で食する。	B
	194	8	**念仏供養(部落念仏)** 8月7日 大成中集会所	念仏供養当日は、午前中に上、中、下大成の集落の住民が集会所に集まり念仏を唱える。念仏は、鉦を主にして打ち鳴らし、太鼓をたたきながら、住民が踊りながら念仏を唱える。午後からは、集落の新仏のみを対象に念仏を唱える。	A
	194	8	**山鳥坂のお伊勢踊り** 4月第1日曜(4月3日) 権現山にある天神社	行事の当日は、8時に天神社へ集合、9時頃より踊りに使用するお飾りを飾る。お飾りは、注連に御幣と榊を結びつけたものである。お飾りが行われると、住民による神事が行われたあと、お伊勢踊りが行われる。踊り手は、作ったお飾りを持ち、社殿の中で1重又は2重の円をつくる。円半分のところで分けられた踊り手は、それぞれ半分ずつが交互に文句を唱えながら踊る。感染予防のため令和2・3年は中止。	B
	195	22	**三嶋神社の秋祭り** 10月23日 河辺町三嶋	祭礼前日は、各部落の神社総代などが幟旗を立て、牛鬼の準備を行う。祭礼当日は、13時より社殿での神事が行われたのち、神輿の宮出しが行われる。元々は、拝殿前の境内で牛鬼を3回廻した後で鳥居をくぐって御旅所に向かっていたが、現在は、氏子数の減少により先に牛鬼を御旅所まで移動させ、その後、神輿1基が御旅所へと移動する。その際、神輿には旗(2人)、神職(1人)、巫女(1人)が従事する。御旅所での神事の後、15時頃に宮入を行うが、宮出しと同じように先に牛鬼の宮入りを行った後、神輿の宮入りを行って祭礼が終わる。三嶋神社拝殿に掲げられている絵馬を見ると、元々は牛鬼を先頭に多数の幟旗、3基の神輿が続く大行列が出ていた。感染予防のため令和3年は牛鬼及び神輿は、御旅所へは赴かず、境内で神事をするのみとなっている。	B
	195	24	**鬼の金剛** **(念仏の口開け)** 1月16日 中居集会所	当日午後、集会所に集まり藁をない、大草履(鬼の金剛)と藁すぼを作る。藁すぼには、小豆飯とイリコを入れるが、この小豆飯は、その年の当番(順廻り)の家が用意をする。草履が完成すると、鉦をたたき念仏を唱える(念仏の口開け)。その後、集会所前の道路に大草履と藁すぼを一緒に吊るす。その後、一度下して藁すぼに入れた小豆飯などを食す。これを食べると、夏病みをしないと伝えられている。吊るされた大草履は、風化するまでそのままにされる。	D
	195	8	**天神社の秋祭り** 11月24日 天神社	祭礼当日、14時から神事が行われ、その後3基のうち神輿2基の宮出しが行われている。元々はダイバン2名のもとで行列を組んで御旅所2か所を巡っていた。現在の御旅所は、地域活性化センター下グラウンドと天神社裏となっている。御旅所での神事後、神輿1基は神納区内のみ担いで廻り、もう1基は車で周辺地区を廻る。15時30分一度神社へ戻った後、再度地区内を巡り、宮入は18時30分から19時頃に行われる。天神社の祭礼の様子は、神社境内に掲げてある絵馬に描かれている。	B
	195	10	**子供相撲** 10月25日	天神社の秋祭り翌日の夜に行われる行事で、日其川区と長崎区の境にある山の頂上で行われている。起源は不明であるが、はやり病を鎮めるために始まったとされ、頂上には柿本人麻呂の祠がある。祭礼当日は日其川区と長崎区の住民約10名が参加する。祠に柿の葉に包んだ赤飯33個を供え、般若心経を唱えた後、子供相撲を33番とって終了する。	B

市町	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
八幡浜市	196	17	**十日えびす** 旧暦 1 月 10 日	毎年旧暦1月10日に沖新田の魚市場で「十日えびす」という航海安全、豊漁を祈願する行事が行われる。木造のえびす像を海中に投げ入れ、それを船員が拾い上げる。この神像は天保年間に八幡浜沖の佐島に流れ着いて、山伏が拾ってお堂を建てて祀ったとされる。現在、八幡浜大神宮境内の恵美須神社に祀られている。朝、神事の後、神職が木造の神像を三宝に乗せて、海の中に投げ入れられ、船員が飛び込み、神像を海水で清めて拾い上げる。〔詳細調査報告30参照〕	A
	196	1・18	**おしめはやし（どんどやき）** 1 月 15 日に近い週末・祝日	正月に使った注連飾りを集めて焼く行事。この火で焼いた餅を食べると夏病みしないとか、中風にならないという。かつては祭礼に用いる屋台に恵比寿や大黒の像を乗せて、消防団の者が町内を引き回して、最後に新川の河原に積み上げて神職のお祓いの後、火を付けて焼いた。その後に、栗野浦の埋立地で行うようになった。	B
	196	15	**節分の厄払い** 2 月 3 日	節分には年の数だけの豆を紙に包んで、夜、暗くなると四辻や橋に持っていき、それを捨てて帰ってくる。捨てる際に人に見られてはいけないとか、後ろを振り返ってはいけないという。厄年の者だけではなく、子どもも豆を捨てて急いで走りながら帰ってくる。	B
	196	20	**雛祭り** 4 月 3 日	八幡浜地方では、雛祭りはかつては旧暦3月3日に行っていたが、現在は月遅れの4月3日に行う家が多い。	B
	196	29	**四国遍路へのお接待** 旧暦 3 月 21 日	弘法大師の縁日である旧暦3月21日には、九州から来た四国遍路や、別格霊場金山出石寺に参詣する遍路等に米や餅、お金などをお接待した。お接待すると遍路からは納め札をもらい、それを家のお守りにしたりした。古町の酒六には「お遍路さんにお接待します」という看板が掲げられていた。現在では歩き遍路が少なくなり、その光景は見られなくなった。	D
	196	ウ	**花祭り** 4 月 8 日	萬松寺では花祭りを降誕会と呼び、釈迦の誕生日に釈迦像に五香水、現在は甘茶を注ぐ。寺では大きな釜いっぱいに甘茶を沸かす。この甘茶を持ち帰る者も多く、小さな紙片に「茶」と書いて逆さにして柱に貼り付けるとムカデ除けになると言われる。	A
	196	15	**輪抜け** 7 月 31 日	八幡神社では、7月31日にワヌケが行われる。夏越の祓であり、茅の輪をくぐる。八幡浜地方では7月下旬に行うことが多い。八幡神社のワヌケには高野地神楽が来て、神楽を奉納し、大蛇退治などを参拝者が見学しながら輪くぐりをする。	A
	196	19	**とぼしぞめ・とぼしあげ** 7 月 31 日、8 月 31 日	新仏の供養に、7月31日もしくは8月1日に精霊棚（お棚）を組み、灯籠に火を灯す。親類や生前に親しかった者が灯籠見舞いに訪れ、素麺や砂糖などを持参して供える。灯籠は毎夜灯す。「とぼしあげ」は灯籠送りのことで、8月16日、24日、31日のいずれかに行う。最近は週末に行うことも多い。家族、親族が灯籠を菩提寺や墓地に持っていき、僧侶の読経のあと、焼却される。	B
	196	33	**お盆** 8 月 13 日から 15 日	先祖の精霊を迎えて供養する。家では精霊棚（お棚）を座敷など家の中に組んで、先祖代々の位牌や、仏像、仏画、経本などを飾る。両側の柱には、しの竹、そうはぎ、かじの木を添えて、注連縄を張り、しきみを供えて、果物、菓子、団子を円錐状に積み上げた「おころばし」、お霊供などを供える。お棚の隅には、餓鬼や無縁仏の供養のため、里芋の葉の上に洗米と茄子、梨を細かく刻んで供える。これを「水祭り」と呼んでいる。	B
	196	2・22	**八幡神社の秋祭り** 10 月 19 日	八幡浜市中心部の八幡神社の秋祭りは10月19日に行われ、神輿の渡御が行われ、向灘の御旅所まで練り歩く。牛鬼や神功皇后の人形を乗せる御船、御車といった曳く形の屋台が出ていた。現在は四ツ太鼓が出ているが担ぎ手不足で車に乗せている。片山町からは唐獅子（獅子舞）が出て、市内各地をまわる。この日を中心に「みなと祭り」が行われ、仮装行列などで賑わった。現在は八幡浜みなっとで、前日の18日に市内の獅子舞が集結して唐獅子競演大会が行われている。	B
	197	8	**お籠り（おこもり）** 7 月 1 日 社	川之内の柏木集落ではお籠りと称し7月1日に集落の上にある小さな社に詣り飲食をしていたが現在では集落の各戸持ち回りで宿をつとめる。	B
	197	29	**お山踊り** 7 月 16 日 大元神社	シデを持って踊るお山踊りを行う。石鎚信仰に関する踊り。	B
	198	19	**盆（施餓鬼）** 7 月末頃 円照寺	7月末頃新仏を弔う施餓鬼行事の時に竹にシデをつけた物(ボンテンと言う)を国木集落の３ヶ所に他所より災いが来ないようにたてる。	B

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概　　要	存続状態
八幡浜市	198	10	**池之成地蔵奉納相撲** 8月24日前の日曜 (8月24日) 池の成	8月24日国木の山上にある池の成という所で地蔵奉納相撲を行う。昭和から平成の始めに子供相撲として存続、以前は各地の力自慢や相撲好きが参集して大人相撲が行われていた。	B
	198	8	**地蔵まつり** 4月中旬 五反田川舞加重	五反田川舞地区の加重にある旧街道ぞいにある地蔵のおまつり。4月中旬頃に行う。当日女子竹を組内の戸数ほどそろえ先を半分に割りそこに椿の葉を七五三と挟み、先をシュロで縛り各戸に一本ずつ配る。	B
	198	8	**お籠り** 4月 三本木にある小さな社	高神社の旧社地であった所に小さな社を作り、4月に組長が決めた日に集まり飲食をする。	B
	198	15	**輪ぬけ** 7月20日頃 高神社	夏越の祭りとして茅で輪を作り輪をくぐる行事。	B
	198	19・23	**五反田柱祭り** 8月14日 王子の森スタジアム	四国では唯一の盆の火投げ行事。戦国時代に五反田元井にあった元城に仕える修験者･金剛院が九州での修行中、土佐の長宗我部氏が元城を攻めてきたので金剛院は急ぎ元城に戻ったところ敵方と間違えられて射殺された。その後五反田に悪病が流行し死者が多く出たため、金剛院の祟りと噂され、その慰霊のためにはじまったと伝えられる。8月14日夜、王子の森スタジアムに高さ20m程の柱を立て、柱の先には漏斗型に編んだ麻木の籠と笹飾りが取り付けられ、五反田内の13集落から集まった青年達によって長さ1mの縄に結んだ松明を籠をめがけて放り投げる。籠の中に松明が入り燃え上がるまで続けられる。(県)〔詳細調査報告41参照〕	A
	198	35	**舌間の秋まつり** 10月19日に近い日曜 (10月19日)	相撲練り(甚句)、唐獅子、五ツ鹿が地区を練り歩く。海上渡御で地域の氏神である宮島様へ神輿を運ぶ。	B
	199	25	**田中山大元神社の百矢祭** 4月第2日曜(4月19日) 田中山大元神社	武芸の奨励から始まった行事。厄年の男性と保存会メンバー(合計6人程度)が羽織袴姿で、的に向かって矢を射る。矢は地元の子どもたちが拾う。弓を拾う地元の子どもたち用に餅まき、菓子まきも行っている。	A
	199	22	**大元神社秋季大祭** 10月第3日曜(10月19日) 大元神社	朝、神事の後、牛鬼2体(大人･子供)と子供神輿2体に宮出し。昼、神輿(大)の宮出し、お練りが始まる。お練りは神輿(大)、天狗、猿、お多福、稚児。15時頃　御旅所にて神事、稚児の舞い(朝日舞)、牛鬼、唐獅子舞が奉納される。	B
	199	27	**亥の子(お亥の子)** 11月亥の日	11月の亥の日に子どもたちが亥の子唄を歌いながら石をついて地区内の家々を廻る行事。	B
	199	19	**双岩の盆行事** 8月13日 八幡浜市若山 ふれあいパーク広場	禅興寺住職による仏事後、夕刻より地区住民が集まり、シデ踊り、双岩音頭、団七踊りほかを踊る。明治初期、若山地区の者が高松から伝習したという。	B
	199	8	**ビンゴ様(おこもり)** 4月初旬 備後様の祠周辺	江之川城主、井上備後守文武を弔う行事。奥谷組の組員が集まり、備後守の祠の清掃、お供え後、集会所にて飲食を行う。若山地区では奥谷組以外にも高下1組(薬師堂にて)、高下2･3組(お社)が、それぞれ行っていたが、数年前に中止となった。	D
	200	19	**川上の盆行事** 8月14日(8月15日) 川上共選埋立地	川上町では8月14日の夜、亡くなった方を供養するため盆踊が行われている。川上共選埋立地に櫓を組み、提灯飾りの中、新盆の家の人たちと川上青年団らが中心となり19時半から21時頃まで櫓を囲んで輪になって踊る。浴衣姿等で民謡に合わせて踊ったり、地元八幡浜市のてやてや踊を踊り、最後は太鼓に口説きやハヤシで新盆踊を踊る。盆踊を終えた後は川上公民館で酒や食事をとる。現在は川上町3地区合同で行われているが、平成24年までは町内各地区(川名津･上泊･白石)で行われていた。川名津地区では8月15日の夜、盆踊が行われていた。昔は天満神社の境内で踊っていたこともあったが、仏事を神社で行うのはどうかということで川上共選埋立地へ場所を移した。その間、川上小学校グラウンドでも行っていたことがある。上泊地区では白石地区と毎年交互の日取りで8月13日か14日に盆踊が行われていた。場所は住吉神社下の公園。その後、鳥居が崩れそうで危ないのでダンダ川の空き地(田の浦バス停の所)へ場所を移した。昔は三日三晩(8月13日から15日まで)踊っていた。上泊は櫓ではなく柱を一本立てて、四方に提灯を飾り、柱を中心に輪になって踊っていた。又、新盆の家の人は蝋燭を持ってくる。白石地区では上泊と毎年交互で8月13日か14日に盆踊が行われていた。場所は「憩いの家」辺りの広場。今から90年程前は8月13日から三日三晩踊っていた。又、新盆の家の人からボンギ(お金)を集める。なお、3地区とも最後は新盆踊を踊る。感染予防のため令和2･3年は中止。	B

市町	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
八幡浜市	200	33	**お棚** 8 月 13 日～ 15 日 ・新盆は 8 月 1 日 各戸座敷	八幡浜市川上町上泊地区のS家では盆にお棚を出す。お棚は両脇に竹、ソハギ、カジ(小芋の葉)を飾り、蝋燭、線香、御霊供を供える。人参、なす、かぼちゃを刻んだものも用意する。又、餓鬼道のために小さな皿に御霊供と同じ品を少しずつ盛る。先祖の御霊供を荒らされないように、先に餓鬼道へ御霊供をあげるように教えられてきたという。盆の行事は8月13日から8月15日。海辺(家の前の道路)で迎え火を焚く。御霊供は13日は白ご飯、14日と15日は赤飯かおすしを交互に供える。15日は送り火の前に送りそうめんを作り、線香を焚く。海辺(家の前の道路)で送り火を焚き、「この火について帰ってください」と言って先祖を送る。昔は和尚が全戸棚経に来たが、現在は新盆の家だけとなっている。新盆は8月入り(8月1日)に座敷にお棚を出し、夕方、墓で迎え火を焚く。アサギやワラに火をつけて、「この火について帰ってこい」と言って先祖を迎える。8月13日は和尚が棚経に来る。8月13日か14日(川上町白石地区と毎年交互に日取りを決める)に盆踊を行い(現在は8月14日に川上町3地区合同で実施)、8月16日の遅くに送り火を焚き、先祖を墓へ送る。又、8月入りは地区で念仏を唱える。山腹にある庵寺で入り念仏を唱える。「いちいち光明　世界念仏　ふようせいさのさ　光明を念ずるところを照らしたまえ。」と唱え、鉦を鳴らして「ナンマイダー、ナンマイダー」と繰り返し、最後は「ナンマイダーブツ」と言って唱え終える。送り念仏は8月16日に行う。	B
	200	8	**お地蔵様** 2 月の 4 のつく日 (4 日、14 日、24 日) の どれかと 9 月の 4 のつく日 (4 日、14 日、24 日) のどれか 庵寺及び海辺のお地蔵様	八幡浜市川上町上泊地区では2月と9月の4のつく日(4日、14日、24日)のどれかに庵寺でお地蔵さまの行事が行われている。お地蔵さまの行事は子どもの供養をする祀り事として始められた。昔は大人は芋や麦の山仕事で忙しく、子どもも中学生になったら手伝いに出ていた。そのため、家にいる小さな子どもが海に落ちて亡くなることがあった。上泊婦人部のお世話で御霊供や菓子等お供え物が用意され、また個人でも菓子をお供えする。子どもの名前を貼り出して供養することもあった。庵寺に集まり般若心経を唱えた後は海辺に安置されているお地蔵様の前で手を合わせて帰る。お地蔵様の前掛けは上泊婦人部が行事の際に新しく作っていた。お地蔵様の行事をするようになってから亡くなった子どもはいない。又、お地蔵様の行事は上泊地区から補助が出ている。	A
	200	27	**亥の子(インノコ)** 10 月亥の日 (11 月亥の日) 各戸	八幡浜市川上町上泊地区では、昔は11月に入ってからであったが、現在は蜜柑取りで忙しくなる前に10月の亥の日に亥の子が行われている。今年(2021)は10月18日に行われた。夕方5時頃から小学生が地区をまわり、亥の子歌を歌いながら各戸で石をつく。上泊の小学生は現在男子2人、女子2人。昔は男の子だけで行っていたが、子どもが少なくなったため女の子も参加するようになり、現在四人一組で上泊全戸を回っている。年長が長や副を務め、世話は保護者がしている。亥の子の石は縄が巻かれ四方に綱が付けられ、子ども達はその綱を一斉に引いたり緩めたりして石を持ち上げ地面をつく。昔は土の上でついていたが地面がコンクリートやアスファルトになり、今頃は座布団の様な敷物の上でついている。各戸で子ども達はご祝儀をもらう。なお、亡くなった方があった家には行かない。古老(S17年生まれ)によると、昔は家が新築されたり、新婚の家も多くあり亥の子は喜ばれた。また古老の少年時代は子どもが多く、男の子だけの亥の子が3組あった。50年前くらいから1組になった。	B
	200	1	**柱松(川名津の柱松神事)** 4 月第3土曜～日曜 (4 月 18 日～ 19 日) 川名津天満神社 川名津五ツ鹿保存会、 川名津神楽保存会、 川名津唐獅子保存会、 川名津青年団	江戸時代に起きた大火の災いを鎮めるため始められたという。この行事には唐獅子、五ツ鹿、牛鬼が出る。昔は相撲甚句もあった。長年、五ツ鹿の鹿宿を務めてきた家の当主(S18年生まれ)によると、祖母の代も鹿宿で、昔は家の養蚕室の部屋で青年団が盆踊の練習をしていた。現在は川上公民館で練習している。現在五ツ鹿は2組あり、祭日の日曜日に上組から地区内全戸をまわる。唐獅子は浜から各戸をまわる。また、昔は浜組広場に御旅所があり、神輿渡御が見られた。感染予防のため令和2・3年は中止。(県)	B
	200	10	**川名津子供相撲** 5 月 5 日 川名津天満神社	前日に川名津青年団が竹と御幣でボンデを作り、川名津天満神社でお払いを受ける。当日は川名津天満神社の境内に土俵を作り、相撲の好きな地元の大人が行事を務め、2～3才の保育園児から小学生が相撲を取る。古老(S18年生まれ)によると、男の子も女の子も参加するようになって10年以上になる。現在は川名津地区以外の2地区(上泊、白石)の子どもも参加している。昔は青年団も参加していた。強い者は選ばれて八幡浜市大平にある萩森神社の八朔相撲に出場した。川名津青年団は強豪で全国大会へ行ったこともある。	B

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概　　要	存続状態
八幡浜市	200	16	**オヤマ** 7月31日 カナクソ山にある竜王様 竜王保存会	雨乞いの行事。午前中に竜王様で川名津天満神社宮司によりお払いが行われる。川名津の男児や男性たちは弁当や酒をもってカナクソ山へ行く。男児たちはコガヤで如意棒を作って遊んだり、相撲をしたりする。15時頃には山で解散となる。この行事をオヤマと言う。また、古老(S18年生まれ)によると竜王様には体長1m40～50cm程のしっぽが切れたアオダイショウがいて、これが竜王様だから殺してはいけないという。	A
	200	28	**巳午(みんま)** 10月巳午の日 墓	その年に亡くなった人のお正月として行う。10月巳午の日の夕方、親族でおかがみ(御鏡餅)を持って山のお墓へ行く。直径30cm、厚さ4～5cm程ある柔らかいおかがみ(御鏡餅)を2人で引っ張り、新品の鎌で切り分け、家に持ち帰る。切り分けた餅を食べると長生きできると言われており、年寄りもこれだけは食べる。また、みんま餅(普通の餡餅)を身内に配る。菓子を配ることもある。	A
	200	1・18	**どんど焼き** 1月15日 川名津天満神社境内	正月飾りや一年中のお守り、ボンデ等を川名津天満神社の境内で燃やすどんど焼きが行われている。宮司がドラム缶を設置し、一番先に来た人が火をつける。個人的に餅を持って行って焼くこともある。この火で焼いた餅を食べると長生きすると言われている。	A
	200	8	**念仏** 2月16日 お組の役の家	八幡浜市川上町川名津地区中組では毎年2月16日に念仏行事が行われているが、ここ2年は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。念仏は何組かの親族のグループがお組の役の家に集まり、「ナンマイダ、ナンマイダ」の念仏を20回唱える。男性も女性も参加し、昔は午前もあった。念仏で集まる人たちは寺で葬式をする時に助け合う仲間でもある。お組の役は輪番制で念仏を唱えるときに使う鉦や数珠を交替で預かる。例えば、メンバーが10人いたら、10年に1回、役がまわってくる。	A
	200	15	**ワヌケ** 7月14日 川名津天満神社境内	八幡浜市川上町川名津地区では7月14日にワヌケが行われている。地区の人たちは茅で輪を作り、川名津天満神社に設置する。お祓いに訪れた人々は茅の輪を3回くぐり拝んだ後、お神酒を頂いて帰る。宮司は太鼓をたたく。また、青年団による提灯の富士の山が浜に飾られる。	A
	200	8	**つつじ祭り** 4月29日(3月16日) 姫宮様	八幡浜市川上町白石地区では4月29日に姫宮様で子供相撲が行われている。保育園児から小学6年生までの児童が参加している。現在は子どもが少ないので、川上町川名津地区の子どもも参加している。昔、ハンセン病にかかり、京都から流され白石浜にたどり着いた姫君があった。村人は大切に世話をしていたが、ついに亡くなってしまった。この姫をしのび、1876(明治9)年にお堂を建て、姫宮様として祭っている。白石地区の正(しょう)家では江戸末期に漂着したお姫様を祀る社のお世話をしてきた。現在は白石区長が引き継いでいる。	B
	201	イ	**長命講** 旧暦1月11日	穴井の神明神社で長命講が行われ、伊勢踊りが奉納される。長命講は地元の高齢者が長寿を祈願して組織する講である。長命講伊勢踊りは愛媛県無形民俗文化財に指定されている。伊勢踊りは伊勢信仰に基づく奉納芸能である。古くは正月、5月、9月の年3回、伊勢踊りを奉納していたが、長命講が組織され、毎月11日に欠かすことなく行うようになった。明治中期以前は旧暦正月11日に伊勢踊りを主とし、その脇踊りとして穴井歌舞伎が上演された。伊勢踊りの服装は白のくくり袴で千早を着る。頭に烏帽子、手には御幣を持つ。宮司の修祓を受け、神前に向かい3列の形をとり、その後、円座の形に移り、奉踊歌を12種類、歌いながら踊り続ける。(県)	A
	201	ウ	**アメリカごもり** **(アメリカ講)** 1月下旬～2月	真網代の住吉神社で毎年1月下旬から2月の週末（以前は旧暦1月23日）に、地区出身の海外移住者とその家族、子孫の健康と安全を祈願する行事である。家族、親族に海外渡航者やその子孫が居る住民と神社総代、地区役員らが住吉神社に集まり、海外渡航者のいる住民の名簿を基に、最近の状況を確認して、名簿を更新する。11時に神事が始まり、11時15分に終了する。そして御守が配られ、その御守を海外渡航者やその子孫に送る。その後に、直会が始まり、飲食しながら互いの渡航者たちの様子について情報交換している。〔詳細調査報告17〕	B
	201	4・12・20	**座敷雛** 4月2日､3日	座敷雛は、その家の長女の初節句を盛大に祝い行うもので、座敷いっぱいに、多数の盆栽ほか小道具を使い庭園を作り、そのなかに内裏びなを中心に親戚から贈られた各種の人形が配置され、名物の鉢盛料理が供えられる。年によっては数万人が訪れる観光行事にもなっている。文久2年(1861年)頃にほぼ現在の型が整い、明治中期(1900年代)には今と変わらないほど豪華なものになった。(市)〔詳細調査報告12参照〕	B

市町	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
八幡浜市	201	8	**真網代の春祭り** 4 月 19 日に近い週末	真網代の住吉神社の春祭り。宵宮では17時30分から御旅所となる真穴選果場において神事が執り行われ、その後、神楽と稚児の舞の奉納される。神楽は穴井神楽によるもので、「神酒」「手草」「鈴神楽」など12の演目が奉納される。翌日が本祭りで、住吉神社での神輿への御霊移しの神事の後、御旅所となる真穴選果場前に各「練り」が集まる。約1ｋｍを猿田彦命（天狗）を先頭に、牛鬼、神輿、稚児の舞と続き、相撲甚句、五ツ鹿踊り、唐獅子（獅子舞）がこれに続き、約100ｍの賑やかな行列となっている。	A
	201	8	**小網代の春祭り** 4 月 19 日に近い土日	小網代の天満神社では3年に一度、春祭りが行われる。昼前に神事、正午から神楽が奉納される。神楽は西予市三瓶町の垣生神楽が来ている。そして稚児の舞が奉納される。明治23年（1890）頃、小網代で腸チフスが流行し、若者6人が亡くなり、その鎮魂と厄除けを祈願して神楽が奉納されるようになったといわれる。	A
	201	15	**エンコ祭り** 旧暦 4 月 5 日	穴井には「エンコ祭り」という風習がある。エンコとは海に棲んでいる架空の動物で、海に入る者の足を引っ張るといわれるが、愛媛県内では河童のことをエンコと呼ぶ事例が多く、この祭りは河童祭りの一種といえる。地元では「水天宮祭り」とも呼んでおり、海岸に出ることが多くなる夏の始めに、その年に水難事故が起こらないよう祈願する行事である。毎年旧暦4月5日に、穴井に住む母親と子供が弁当を持って灘の浜に出かけていき、初めに、にぎり飯3個を波打ち際の石の上に供え、「エンコ様、おにぎりをお供えしますけん、どうか水難をのがれさせて下さい」と拝んでから弁当を開く。中には、お供え物を紙に包んで海中に投げ入れる者もいたり、近くの竜王様の祠にお供る者もいる。今では行うことも少なくなったというが、海岸に出る際には、各家でエンコの嫌がるという筍を食べ、腰に鹿の角をつっていた。	A
	201	19	**盆踊り** 8 月 13 日、14 日	真網代では8月13日、穴井では14日の夜に行われる。くどき歌に合わせて踊る。	A
	201	8・22	**穴井の秋祭り** 10 月第 2 土曜と日曜	穴井の天満神社の秋祭り。初日は7時からの五ツ鹿踊りを皮切りに、8時20分に真穴小学生による子供神輿2基が真穴駐在所前を出発する。翌日は本祭りで、朝から中学生による牛鬼が巡行し、7時30分に神輿への御霊移しが行われ、巡行が始まる。猿田彦命（天狗）が神輿を清めたあとに巡行へと繰り出し、11時から天満神社の末社である神明神社でも神事及び稚児の舞の奉納が行われる。神輿は13時に御旅所（公民館）に到着し、神事が行われ、稚児の舞、五ツ鹿踊り、穴井神楽が奉納される。神楽は12の演目（神酒・手草・鈴神楽・巴那の舞・魔祓・路志・大舞・将軍・飛出・岩戸開き・幣帛・大蛇退治）があり、還暦を迎えた人たちによる餅まき・お菓子まきで賑わい、御旅所での神事が終了する。	A
	201	27	**亥の子** 11 月亥の日	真穴の各地で行われる。子ども達が亥の子石をついて家々をまわる。ヒヨズ川で亥の子石を清め、亥の子神輿には大根や菊の花を飾り、大きな餅を供える。亥の子行事の運営は主に子ども達が取り仕切る。小学1年（7歳）になると子供連中に入って亥の子に参加する。年長者は中学2年で、その内の一人が「亥の子大将」という責任者となって子供連中をまとめる。地区では道具（石、幟など）を保管する「亥の子宿」が毎年定められ、亥の子の実施日を通知するのも子どもの役目である。大将のもと運営され、年長者は年下の者の面倒を見て、ご祝儀の配分についても責務を持つ。	A
	201	28	**巳午** 11 月もしくは 12 月巳の日	新仏の家では11～12月の巳の日に「ミンマ」を行う。餅をついて墓前に持っていき、親族で分配する。	A
	202	18・31	**乗りぞめ** 1 月 2 日	正月2日は「乗りぞめ」の日で、早朝に船主が船の船霊様に酒やお菓子などを供える。かつては供物は、子供達が取っていくことになっていたが、少子化の影響でその光景は見られなくなった。	C
	202	10	**竜王宮祭り** 旧暦 6 月 15 日	地大島の竜王池近くにある竜王宮の祭り。この近くを漁船が多く通過するので、漁民の信仰も篤かった。戦後間もなくまで、旧暦6月15日の竜王宮の祭りの時に、大島地区の主催で相撲大会が開催されていた。青年相撲であり、伊方町や大洲方面からも参加者があり、盛況だった。勝者にはボンデン（御幣の一種）と金一封の賞金が出た。	C
	202	33	**泣き念仏** 8 月 8 日	8月8日に「ナキネンブツ」といって、死者のあった家の者が寺に集まって盆棚をつくって、供養する。	B
	202	19	**盆踊り** 8 月 13 日、14 日	「高松踊り」では「クドキ」という独特の節回しの男性の歌に合わせてやぐらの周りを舞い踊り、新仏の供養を行う。	A

市町	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
八幡浜市	202	19	**精霊船流し** 8 月 15 日	8月15日には精霊船流しを行う。地元では「オセイレイブネ」という。現在はベニヤ板で畳1畳分の大きさの船をつくり、その年の死者の数だけの人形を乗せる。人形には戒名を書いた旗を背負わせる。供物ものせる。昔は船は麦藁で製作していた。	C
	202	22	**若宮神社秋祭り** 10 月 18 日に近い土日曜日	大島の本浦にある若宮神社の大祭。大島の神社、小祠は、若宮神社が最も大きな神社で、小社として三王島に三王神社、地大島の竜王宮、貝付小島にも竜王宮、本浦に高島様が祀られている。秋祭りの祭日は昔は旧暦10月18日だった。新暦では11月中旬以降になることもあり、かなり寒い時期にやっていた。昭和40年頃に八幡浜市の祭日に統一して10月19日としたが、祭りの日が同じになると、八幡浜市本土から親戚や客が来られなくなり不都合になったので、市内よりも一日早めて10月18日に変更し、さらにその日に近い週末に行っている。祭りには牛鬼1体、神輿2基、龍1体が出される。牛鬼はかつては2体出されていたが人手不足により、数が減ってしまった。島内には神職はいないが、神社の管理をする宮守がいる。代々、本浦のI家がやっている。この宮守の家の前は御旅所となっており、そこに「サンボウコウジン」という一種のオハケを立てる。約5メートルほどの竹を御旅所の真中に立て、その頂上に柄杓を付ける。また白木綿も垂らしている。三方を藁縄で張って立てている。練りは若宮神社を出発して、本浦、江ノ浦、加重、音泊を通って旧大島小中学校まで行き、その前の海岸から船に乗って「船御幸」がある。牛鬼、神輿、神輿、龍それぞれを船に乗せた4艘が、大島の南隣の三王島の三王神社前まで行って上陸する。そこから雉ヶ浦を通って若宮神社に戻る。宵宮には、「川名津神楽（八幡浜市川上）」が来て、神社で神楽が奉納される。	B
	202	27	**亥の子** 11 月亥の日	大島の亥の子は漁業と密接な関係にある。旧暦の10月の亥の日に行っていたが、現在では11月に行う。亥の日は年によって2回の時と3回の時がある。最初の亥の子を「ハツイノコ（初亥の子）」といい、この時には網元が餅をついて、網子（乗組員）を家に招待して餅を配る。次の亥の子を「ナカイノコ」といい、この時には船主が乗組員を家に招待し御馳走する。最後の亥の子を「オトイノコ（乙亥の子か）」といいこの時は各家庭で行う。	C
	202	28	**巳午** 11 月もしくは 12 月巳の日	新仏の家では11～12月の巳の日に「ミンマ」を行う。餅をついて墓前に持っていき、親族で分配するという儀礼である。餅は鎌を左手に持って切ることになっている。	A
	203	12	**勧学祭** 2 月第1日曜 鹿島神社拝殿	その年の小学校に入学する町内の子どもたちが、鹿島神社に集って、式典を持つ。以前は日土東小学校入学の子どもたちもいたが、学校が合併となり一つとなった。この行事も町内の入学児の減少と共に参加者が少なくなったが、鹿島神社の行事の一つとして大切に守り続けられている。	A
	203	19	**日土町の盆行事** 8 月 14 日 日土小学校校庭	日土町内に残る盆踊りを、日土小学校校庭でお盆に行うもの。まずその年に逝去された新盆関係者の式典のあと、真中に組んだヤグラの上に太鼓と口説きと呼ばれる歌い手が上り、輪になって盆踊りが踊られる。炭鉱節などの新しい曲に混じってシデ踊りなどが踊られる。終了すると盛大にくじ引きが行われている。以前は了月院や中当区会所でも独自の盆踊りがあったが、現在の形になったという。	B
	203	23	**宗吾神社御霊祭** 7 月 24 日 中当・呼志地区の宗吾神社前	八幡浜市日土町中当地区の山腹中に建つ神社の祭礼。天和元(1681)年に幕府巡検使へ直訴して死んだ中峠村九左衛門の霊をなぐさめる祭り。地区東部の10軒ほどが講を組み、宇和島和霊神社の祭日に合わせて行う。	D
	203	24	**中当の大草履** 年間通して 市道上	日土町中当の市道をまたいで、大草履が空中に掲げられている。他所のように村の入口に置く形式ではなく、吊り下げの為全長で50～60cmほどの小型の草履である。地区の行事として、歴代区長が区民に呼びかけて草履を作り掲げている。	A
	203	27	**日土町の亥の子行事** 11 月亥の日 各地区の家々	地区ごとに子どもたちが集って11月の亥の日に家々を廻って地鎮を行う祭り。日土町内には3種類が存在し、旧本村とその周辺の、御輪石（ゴリンイシ）に網を人数分かけて、上下に動かして地面をつくもの、梶谷岡・中当・続籔地区では小型の家形を台に乗せて歩き、家々をまわるもの、日土東地区ではワラスボにて地面を叩く行事にわかれる。亥の子唄もそれぞれの地区により異なる。一応地区の子ども担当者がリーダーとなり、子どもたちを統率、家々からの御礼を分配する役となる。子ども(主に小・中学生)のいなくなった地区では中止・廃止となった所もある。	A
	203	29	**日土村双山西国三十三所札所参** 年間通して	日土町内の西側に双山という標高200mの山があり、明治13(1880)年に出奥地区了月院能忠寺を1番とし、双山の東端・中当地区の二宮顕弘家墓所までを、約1町(108m)おきに西国三十三所札所の名を刻んだ石仏を並べたもの。日土村本村や中当・続籔地区の他、他の近辺の村々も参加しているが、今出村は禅宗・医王寺の檀家の為見られない。石仏は大小があり、寄進者の金額が反映されている。建立時は双山の山頂部は松や雑木林であったが、現在は全てミカン山となり、農道がつけられている。石仏が消失した所も数ヶ所見られる。参拝する者がいなくなり、行事は廃絶されている。	D

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概　　要	存続状態
八幡浜市	203	29	**日土村・福岡地区西国三十三所参**	日土村福岡の住人･山田兼友は病弱であったがお大師にすがる為に四国八十八所巡礼を行い、帰郷後日々回復した。父･国造はこれを大師の恩とし、浄土谷に三十三ヶ所札所をつくった。三十三所札所の途中には清浄滝があり、石鎚大権現の参拝時には五日間この滝で身を清めてから出かけている。祭りの日は参拝者も多かったが、10年前から祭礼行事は廃れ、この2年間はコロナ禍で祭礼行事も滞っている状況である。	C
	203	29	**日土村森山お四国八十八所札所参** 年間通して	日土町森山地区にて、明治8年(1875)に開設されたお四国八十八所札所のお参り行事。現在は参拝する者がいなくなり、行事は廃絶されている。	D
	203	15	**日土鹿島神社の輪抜け** 7月31日(旧6月末) 鹿島神社境内	神社境内の広場に直径2m以上の竹と草を編んだ竹輪を置き、それをくぐることにより無病息災を願う行事となった。一年の半分、旧暦の6月末に行われたが、今は7月31日に行われる。	A
	203	28	**ミンマ**	現在やっている家は聞かない。「ミンマ餅」という言葉はきいたことがあるが、それは通常の餅つき(正月や旧正月前)の日取りを決めるときに、予定日を決めても「その日はミンマの餅つきの日だからずらそう(日を変えよう)」との意見が出た、という具合である。	D
	203	22	**鹿島神社の秋の祭礼** 10月18日～19日 鹿島神社・日土町 日土本村五ッ鹿保存会 ・梶谷唐獅子保存会	唐獅子･五ッ鹿が出る。五ッ鹿は祭事の際、2日間をかけて本村の全世帯を回って踊ったが、近年は県道沿いの要請のある所だけとなってきている。牛鬼、馬曳き、子供神輿は氏子全体で担う。	A
	203	29	**莚田のお山踊り** 7月20日 莚田八幡神社境内	霊峰石鎚山の麓の村へ出稼ぎに行った地区民が習い覚えて広めた御山踊りを踊る行事。莚田･八幡神社境内に集まり、しめ縄やシデは地区民が製作、小学校6年生のみ背中にしめ縄を背負って踊る。男の子は縄の鉢巻きを結んで踊る。現在、小学生が激減し、中止となる。平成26年に地区公民館が「おひなさま街道」を始めた為、長年続いたお山踊は廃止となった。	D
	204	18	**念仏始め講** 1月2日 日土町出奥了月院	磯岡地区の小野堂(平能忠を奉る)では、日土町了月院に集まり、念仏始めの行事を行う。了月院能忠寺が創設された時に磯岡地区の小野一族が小野堂にあった阿弥陀三尊仏(市指定)を本尊として勧請した古事に由来している。小野氏が集まり、同族の団結を誇る行事でもある。また、中岡･小野･二宮氏の一族の祭神として多賀様を祭っている。現在は、宮内･三島神社宮司が厄払いなどの行事を行っている。	A
	204	22	**喜木八幡神社の秋祭り** 10月第3土・日曜日 (10月18日～19日) 喜木八幡境内 喜木町祭り保存会 ・磯岡牛鬼保存会 ・神越五ッ鹿保存会	牛鬼･五ッ鹿舞が出る。牛鬼は午前中に地区内の各戸をまわり厄除けを行い、午後は神社境内で練る。各戸をまわるときと境内とで歌が異なっている。五ッ鹿舞は旧喜須来村神越地区に伝わる五ッ鹿踊り。秋の喜木八幡神社のお祭りの催物で、地元神越八幡神社や地区内で踊られる。以前は神越八幡社をお旅所にしてお練りが出ていた。平成24(2012)年には四ッ太鼓が復活し、徐々にではあるが昔のにぎわいを取りもどしつつあるが、このコロナ禍で再び低調化しつつある。	B
	204	15	**喜木八幡神社の輪抜け** 7月25日	神社から家庭に配られた紙の人形を、前夜枕の下に敷いて寝る。翌朝にこの人形で体をさすり、三度息を吹きかけて神社に持参し、神前に納め茅の輪を左･右･左回りの順に3度くぐって礼拝する。保内町では7月に入り6ヶ所で輪抜けが行われるが、それぞれ日が異なり、近辺の黒住教会では7月18日に実施されている。	A
	204	22	**新田神社の秋祭り** 10月第3日曜日 (10月19日 その前は10月23日) 須川・新田神社境内	秋祭りのお練りとして、子供牛鬼大小2体、五ッ鹿、神輿が出ていた。八幡浜市と合併後、大半の秋祭が10月19日となり、お互いの地区の祭交流が出来なくなり、自然と低調となり、現在はお練りは中止、神事のみとなってしまった。昭和50年代には一時期五ッ鹿が復活、子供神輿と共に活気を回復しかけたが、祭日の統一で再びとどこおってしまったのが現状である。	D
	204	28	**みんま** 11月(12月) 各家庭	亡くなった人があると年の暮れに行っていた儀式だが、現在は12月中はミカン摘みで多忙なため、11月中に行う。亡くなった方の親戚筋が集まり、故人を偲ぶが、僧侶を呼んだりはせず、飲食は伴わない。帰りに、参加者には「ミンマ餅」が配られる。喜須来地区には二軒の菓子屋があり、ミンマ餅を作っていた。今でも喜須来地区の方々はそこに注文をして、作ってもらっている。ミンマ餅は、塩を混ぜて味付けした餡餅が作られた。	B

市町	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
八幡浜市	205	8	**金刀比羅神社神幸祭（春祭り）** 4 月 10 日 川之石地区	川之石地区5地区(内之浦、赤網代、本町、琴平、和田町)の春祭り。神輿が5地区町内を周り、内之浦地区の御旅所にて御旅所祭を行い、地区内の繁栄を祈願する祭り。昭和40年代までは大人神輿が町内を練り歩いていたが、いったん神輿渡御は途絶えてしまう。昭和51年に町内有志の寄付により子供神輿を新調。川之石小学校の生徒で神輿が運行されることになり、今に至る。当初、5・6年生の男子に限られており、2基の神輿を運行していたが、少子化により生徒数が徐々に減り、女子が加わり、学年が下がり、そしてそれでも賄えなくなり平成29年からは神輿を1基だけの運行とした。前日、神社総代により神輿の組み立て、子どもたちへの連絡は地区のPTAの協力をいただいている。当日、正午頃神事、遷霊祭のあと、1時ごろ生徒が集まりそろいの法被を着て出御。内之浦地区の御旅所に向かう。途中、神職が沿道の家々を祓いながら進む。内之浦地区が準備した御旅所にて御旅所祭、そのあと和田町地区を周り5時ごろ還御。子ども達はご祝儀と菓子をもらい解散する。感染予防のため令和2年は中止。	B
	205	17	**戎まつり** 1 月 10 日 龍潭寺下観音堂の敷地内	昭和42年頃、地元の漁師が浮かんでいる戎像を見つけ持ち帰った。それを内之浦の有志が発起人となり、お祀りしようということになり龍潭寺下にある観音堂の境内に小祠を建てて戎像を祀ったのが始まりとされる。祭り当日は笹に短冊、小判の飾り付けをし、戎様には米、餅、鯛、野菜、果物などをお供えし、船乗りが地区の家内安全、無病息災、商売繁盛などを祈る。特に祝詞のようなものは奏上しない。参拝者は30人から40人ほど参列。終了後、参列者に甘酒が振舞われ、笹飾り、紅白餅、ちらしずしをお土産として持ち帰る。それらの経費は、参列者などの寄付で賄われている。	B
	205	34	**お閑居様と数珠繰り** 旧 5 月 16 日 赤網代公民館	川之石地区赤網代の高台に谷汲観音堂(たねぐみかんのんどう)という小さなお堂がある。以前はここで毎年旧暦の5月16日に赤網代地区の住民が集い、数珠繰りという行事を行っていた。この日は、臨済宗龍潭寺の三名僧のひとりである、六世田翁(でんのう)和尚の命日で、田翁和尚のことを「お閑居様」と呼び敬愛していた住民が和尚を偲び始められた行事だと言い伝えられている。数珠繰りは、和尚の法要のあと、長さ10m、玉の数1067個の大数珠を、車座になった参加者が、音頭取りの太鼓と鉦の音に合わせて「南無阿弥陀仏」を唱えながら、時計の反対周りに21回まわし、無病息災を祈願する行事。現在は、赤網代公民館に場所を移し、老人会を中心に地区住民が集まり、伝統のある行事を守っている。感染予防のため令和2・3年は中止。	B
	205・206	2・9・22	**三島神社御幸祭** 10 月第 4 金・土曜	御幸祭の練りは、記録の残る雨井地区四ツ太鼓が運行されたのが嘉永元年とある。徐々に各地区に練り物ができ最終的に現在の形にになったのは昭和８年で、その後は、変わりなく運行されている。平成20年以前は10月23日に行われていたが、練り地区の若年層の減少などで平日の運行が難しくなり、第四土曜日に変更された。川之石、宮内地区より8つの練りが運行される。四ツ太鼓、御車、御船、唐獅子、五ツ鹿、牛鬼など南予地方の練りが揃い、それが組織的に運行される。8つの練りは祭り当日三島神社に集まりそれぞれに練りを奉納。その後、神輿3基を先頭に雨井地区御旅所まで巡行。雨井でも練りの奉納を行う。練りの地区及び種類（神社に入る順番順）は、四ツ太鼓（雨井地区）、御車（内之浦地区）、牛鬼（赤網代地区）、御船（本町地区）、唐獅子（和田町地区）、御車（琴平地区）、御車（清水・駄場地区）、五ツ鹿（大竹地区）、その他（里地区）。神社からは、巫女の舞が出る。神輿与丁は、練りのない地区より持ち回りで、数名ずつ出夫として奉仕。両家地区から出る2名は、地区から持参した平家の家紋がついた赤旗をもって御旅所に向かう。2年に一度、保内地区の保育園、幼稚園生たちが集まり、お祭りごっこをする「子供祭り」が行われている。2020年より、コロナにより神輿のみの運行となり、各練りは自主運行。主に地区内だけの運行にとどめるところ、運行を中止するところがあった。〔詳細調査報告39参照〕	B
	206	1・18	**どんど焼き** 1 月 15 日 三島神社境内	昔、正月飾りは各々自宅の庭などで燃やしていたらしいが、時代の移り変わりの中、古いお札とともに正月飾りを神社に納める人が増えていき、次第に小正月には大量の正月飾りが納められるようになった。最初のころは神職がお炊き上げしていたが、大量になってきたので総代に協力してもらいお炊き上げを行っていた。そのうち、きちんとした神事を行うようになり、参拝者も増えたので、敬神婦人会が甘酒、かす酒の振舞いをするようになった。現在は、15日早朝8時より神社総代、区長などが集まり神事を行う。総代会長が古いお札、正月飾りの山に火をつける。境内で行っているため一度には燃やせず、少しずつ燃やしていく。7日あたりから正月飾りを持ちこむ方が増えるが、当日も午後までひっきりなしに参拝者が訪れる。準備として、前日総代が四方竹、縄などをそろえる。当日、祭壇などを準備。古いお札、正月飾りの山の周囲に四方竹を設置、甘酒、かす酒の準備。	B

市町	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
八幡浜市	206	15	**三島神社夏越祭（ワヌケ）** 7月28日 三島神社境内	祭りに先立ち、神社総代が氏子に形代、お札を頒布する。当日早朝総代が山に茅を取りに行く。午前8時から総代全員で茅の輪作り、斎場の設置などを行う。斎場は、拝殿左側の境内。木材で鳥居を組み立て、その中に茅の輪を取り付ける。設置等が終わったら、一旦帰宅、午後3時から神事となる。祝詞奏上、玉串などが終わって茅の輪くぐりの神事。「みなつきの夏越しの祓えする人は千歳の命のぶというなり」と唱えながら神職を先頭に茅の輪の左側を廻る。「思うこと皆つきねとて麻の葉を切りに切りてぞ祓えつるかな」と唱えながら右側を廻る。最後に「宮川の清き流れに禊せば祈らずとても神や守らん」と唱えながら左側を廻る。神事が終わると一般の参列者が茅の輪を廻る。その際、茅の輪に差し込まれた御幣をとり持ち帰る。尚、総代が頒布した形代を持参し賽銭箱横に設置された箱に収める。これは、後日神職がお祓いをして焚き上げる。	A
	207	18	**金山出石寺 　新年御開帳** 1月3日 出石寺	出石寺の開基といわれる家では、当主が正月3日の本尊御開帳の儀式に参加するしきたりがある。1日からもち米をとぎ、2日に餅をつき、3日に餅を持って寺に赴く。本尊を見つけたと言われる猟師作右衛門の、3人の息子にちなみ、2段重ねの餅を3組持参する。11時頃から住職、寺関係者とともに境内の堂宇を順に回って読経をし、12時半頃からご開帳の儀式。終了後会食し、15時頃終了。寺からお札、扇子3本、酒等を受け取り帰宅。現在は当主のみだが、かつては、当主と親族2名のあわせて3名が参加していた。餅を天秤棒で担ぎ、早朝から3時間かけて歩いて登ったのち入浴、雑煮をいただいた後、ご開帳の儀式を行っていた。	B
	207	1 ・ 18	**おかざりはやし** 1月15日 客神社	磯崎地区で正月のお飾りを集めて燃やすようになったのは昭和51年から。神事ののち採火、炎を器の中のろうそくに移して、燃やす場所まで運ぶ。神社の目の前にある田地で集落の各家から集めたしめ飾りを焼く。残り火で餅を焼き、参拝者に分ける。餅を分け合って食べ、無病息災を願う。焼く以前は、境内の一画にある、新山（ニイヤマ）と呼ぶ鎮守の森のご神木の根元に埋めていた。一緒に燃やす範囲は、以前は磯崎地区だけだったが、同じ客神社の広早地区からも持ち込むようになった。	B
	207	8	**客神社の春祭り** 4月15日 客神社	神事ののち、神楽を奉納。神楽は西予市野村町から伊予の里神楽を招く。以前は高野地神楽を招いた。地区内氏子が費用を負担するが、有志の寄付で実施していたこともある。感染予防のため2年間は神楽を招かず規模縮小して実施。	A
	207	8	**城山祭り** 4月28日 城山（磯崎城跡）	午前中、寺社総代及び組役員が城山周辺の掃除や準備をする。13時頃から神事ののち、組ごとにおこもり（会食）をする。城山に祀られているのは「八幡神社（はちまんさま）」「大元神社」「石鎚神社」で、神事は客神社の宮司が行う。かつては年間の行事や役を決める地区総会のような場でもあったが、現在は地区の懇親が中心。城山祭りは明治以前からおこなわれていたと言われ、50数年前は子供相撲、約40年前は子供歌合戦などが行われ、屋台が出るなどにぎやかであったが、現在は特別な催しごとはない。感染予防のため2年間は神事のみ実施。	B
	207	15	**夏越祭（ワヌケ）** 7月15日 客神社	7月13日～14日にかけ、客神社境内で、本殿瑞垣と立木（杉）の間に茅の輪（材料は常磐の木）を作る。笹竹を両側に立て、注連縄をわたし、紙垂をつける。人形は各戸に配布し、厄を移して（枕の下に置いて寝る、名前を記入する）持参してもらう。15日、14時から神事をはじめ、祝詞のあと、神主と総代、氏子代表が輪をくぐりつつ社殿全体を右回りに3回まわる。そののち一般の参拝者が19時頃まで訪れる。事前に配布された人形（ひとがた）を納め、輪の周りを3回まわり、厄払いをする。人形はお祓いの後、ニイヤマの楠の下に供物とともに埋める。16日、茅の輪を撤去し、ニイヤマに搬入する。令和2・3年は厄払いのため、茅の輪を年末まで設置し随時くぐってもらった。	A
	207	33	**盆行事** 8月13日～15日 各家	「ミズヤ」と呼ぶ組み立て式の棚を作り、室内に飾りつけ、お供え物を置く。新盆の場合は盆灯籠とともに8月上旬から15日まで飾り、期間中に菩提寺の僧侶による読経を受ける（棚経）。8月下旬（各家で日は決める）、盆灯籠を墓で一晩飾り、のち墓場で燃やす「灯籠あげ」を行う。8月14日、新仏の供養のため、広場に集まり夕方～夜に盆踊りを行う。新仏の名前を書き出し、踊りの輪の中心に組む櫓に掲示する。磯崎地区独特の口説（クドキ）、その他新しい曲（保内音頭等）に合わせて踊る。戦前は組ごと（東中、沖、中之谷、坊、五月ヶ丘）で行っていた。戦後は磯崎小学校校庭に集まって実施。現在は天候に左右されない体育館で行う。青年団が青島（長浜町）から教わった四十七士の扮装で踊ったこともあった。感染予防のため令和2・3年は盆踊り中止。	B

市町	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
八幡浜市	207	17	**えびす祭り（えびす講）** 9月10日 恵比寿神社（えびす堂）	早朝から磯崎港や漁協施設の片付け・清掃をし、えびす堂で神事ののち、会合と会食をする。えびす堂にのぼりを立て、普段防犯のため別の建物で保管しているえびす・大黒の像を安置し、神事を行う。一年の豊漁と海上の安全を祈る。漁協の役員会も兼ね、会議をしてから会食。感染予防のため令和2・3年は神事のみ実施。	B
	207	22	**客神社の秋祭り（秋季大祭・例祭）** 10月15日 客神社	収穫に感謝をする行事。神事ののち客神社から海岸の御旅所の間を練る。午後からはじまり、宮入は深夜になる。神輿、牛鬼（全域、もとは中学生男女で計2頭）、五ツ鹿（中之谷、青年～壮年）、唐獅子（五月ケ丘、子ども・青年～壮年）、御船（坊、青年～壮年）が練る。かつてはそれぞれの舞や山車が宵祭りの朝から磯崎地区全体をまわっていたが、30～40年前から当日担当地区内のみを巡る（ブラクジマイ）となっている。（そののち神社からのお練りを行う）かつては宵祭りに青年の相撲大会が開かれ、周辺市町からも集まっていた。練り物が各家に入り込む「のりこみ」もあり、誰でもどの家でも入って歓待されていたが、近年は踊り手のごく親しい家などに限られているようである。磯崎地区の唐獅子は、昭和28年に長浜町豊茂より伝習したものと言われる継獅子で、獅子の動きをまねる猿や狐も並んで踊る。感染予防のため令和2・3年は神事と神社での奉納舞のみ実施。	B
	207	28	**ミンマ（巳午）** 12月最初の巳の日 各家	新仏のあった家では、「仏さまの正月」として、旧11月（現12月）最初の巳の日に、餅を搗き、集落の親族や身近な家に配る。中身は塩あんで、正月の丸餅よりも大きい。磯崎では寺でもらった小旗を軒先に立て新仏のあった家であることを示すほか、みんまの餅をもらった家は正月に餅を倍返しする習慣がある。墓の前で鎌で餅を切り分ける、などの話は聞いている様子であるが、実際に行ってはいない。	B
	207	8	**念仏講** 通年 各家・通玄寺	磯崎地区には、東中、沖、中之谷、坊、五月ケ丘の5つの組がある。組内で互いの葬儀を手伝い、死者を共に送る。葬儀の際の会場（寺など）の掃除や準備を行うほか、講員が少額の金銭を出し合い、「棺を用意する足しに」という名目で、喪主に渡す。葬儀の後、酒と煮豆で精進落としをする。喪主は念仏講に3万円程度の謝礼を支払う。そのほか日常的に、寺の草刈りなどの手入れを順番に行う。土葬の時代には、墓地での埋葬や改葬も手伝っていた。現在、磯崎地区の寺（通玄寺）は無住で、仏事には八幡浜市内の蔵福寺から僧侶に来てもらう。平成3年に台風で本堂が倒壊した後は、本堂を兼ねた庫裡で仏事を行っている。近年は斎場を利用する家も多く、自宅や寺での葬儀は少なくなり、直接の手伝いは少なくなった。	B

市町	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
伊方町	208	1・18	**どんどやき** 1月15日 集荷場横の未舗装の場所（大浜）	正月のしめ飾りやお札などを燃やす行事を大浜地区では「どんどやき」という。毎年1月15日に行われる。老人会主催の行事で、役員は前日に地区内のお札を集め、櫓を組む。当日、地区の人はそれぞれ家庭のお札やしめ飾り・お守り等を持ち寄り、それらを櫓に入れていく。令和4年度は前年の村境の草履も一緒に燃やした。火を入れる時間はかつては満潮の時間と決められており、年によって違っていたが、現在は9：30に火を入れるようにしている。火入れ前には、役員が櫓の四隅に御神酒をかけ、神社総代が祝詞を唱える。火が小さくなると網をのせ、その火で餅を焼く。餅は各人家族の人数分の餅を持って行くほか、老人会が準備したものもある。焼いた餅は各家庭に持ち帰り、それぞれ食べる。この餅を食べると、一年間無事に健康に過ごせるといわれている。	A
	208	8	**尼講（女御講）** 3月10日 光明庵	光明庵に地区内の女性が集い、般若心経などを唱え、飲食する。新型コロナウイルス流行前までは役員が寿司や煮物などを作り、光明庵で食べていた。	B
	208	15・23	**和霊様** 7月23日 大浜	和霊様を参拝し地域こぞって歌や踊りやカラオケ等で賑わう。大浜地区ではこの日に輪抜けも行う。和霊様を参拝。昭和51年に復興。海の安全と豊漁祈願。海上パレード。	B
	208	15	**輪抜け** 7月24日 湊浦八幡神社	茅の輪をくぐりぬけて罪穢をはらい、心や体が清らかになることをお祈りする。	A
	208	18	**おはんにゃ（大般若）** 2月7日 仁田之浜集会所	当日午前8時から区長・副区長・寺総代とその年の役の班（令和4年度は1～3班）から1名ずつが準備を行う。寺総代が中浦の法通寺へ経箱2箱を取りに行き、副区長は和尚を迎えに行く。その後、集会所内の祭壇を準備し、読経を行い、休憩・昼食をはさんで、もう一度読経。13時30分ころから一般の参加者が集会所に集まる。和尚が参加者の頭上で経本をめくり、「家内安全・身体健康・福寿増長」と言いながら参加者の背中を経本でたたく。その後、参加者は役員に担がれた経箱の下を四つ這いで一往復くぐる。一通り終わると一般の参加者は帰宅し、班長と片付けの役の班（令和4年度は4～6班）が片付ける。片付けが終わると、班長はお札と餅を配って回る。最後に区長・副区長が地区内三か所（湊浦・中之浜との村境と集落の真中あたり）に札を立て終了となる。かつては部落内を経箱を担いで回り、家々の前でくぐっていた。役決めもかつてはくじ引きで決めていた。御供え物の餅も集会所で搗いていた。現在は湊浦地区の業者に頼んでいる。	B
	208	19	**ヒータキ** 8月13日 ニイボンの家	早朝4時～6時頃行われる。夜明け頃から地区の人々がニイボン（新盆）の家を訪れて回る。家ではオタナとトウロウに火を灯し、トウロウの見えるところで縁側か上りかまちなどを開け放して、そこの軒下にトロバコに海の砂を入れたものを用意しておく。すると地域の人々が蠟燭と線香（最近は蠟燭線香代としてひと包み持って行く）を持って、順々に訪れ、その箱に挿してお参りしていく。本数が54本と決まっているので、早く回らないと挿せなくなるといって、早い時間から巡り始める。そのため新盆の家では夜明け前に迎え火を焚いておく。ふつうの家は、この日の夕方に迎え火をたく。	A
	208	19	**大浜の盆行事** 8月14日	青年会主催で盆踊りが行われる。	A
	208	22	**伊方地区の秋祭り** 10月 伊方小学校グラウンド	旧伊方町湊浦・中浦・小中浦・川永田・中之浜・伊方越・亀浦・仁田之浜・河内集落が伊方小学校グラウンドに集まる。前日には中之浜地区などでは各家で門付けを行う。神輿、お車、五つ鹿、唐獅子、幟、旗、牛鬼、相撲練が出る。	A
	208	24	**ヨリゾメ** 旧1月15日に近い日曜（旧1月15日） 伊方越集会所	かつては旧暦1月15日に行っていたが、近年は人が集まらないため、旧暦1月15日に最も近い日曜日に行っている。各戸一人を目安に出席するようになっている。午前9時から祭壇の前で念仏を唱える。「ナンマイダーブツナンマイダ」を鉦に合わせて21回唱える。区長が鉦を鳴らし、副区長が回数を数える。祭壇の横には、あらかじめ法通寺和尚に書いてもらった塔婆（モチノキ製）が置いてある。塔婆には「奉唱念仏壱百萬遍者爲天下泰平家内安全浦中安穏諸人快楽風雨順時作物成熟如意祈攸也」と書かれていた（令和4年度）。それが終わると、男性を中心に集会所前で草履を作る。伊方越の草履は集会所近くの四つ辻に設置する。作りながら、いりこと酒を食べる。草履が完成すると、祭壇前に草履を置き、再度念仏を唱える（21回）。また草履の横にはベントーがおかれる。ベントーには祭壇に供えられた白飯を入れる。その後部落会議を行い、草履を設置する。最後にもう一度念仏を唱えて終了となる。	A

市町	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
伊方町	208	24	**念仏はじめ** 旧 1 月 16 日 庵寺（豊之浦）	参加者が輪になって大きな数珠をまわしながら念仏を唱える。参加者は2つに分かれて「ナンマイダーブツ　ナンマイダ」「アー　ナンマイダーブツナンマイダ」と鉦に併せて108回交互に唱える。社寺長は輪の中で、数珠で回数を数える。祭壇にはオリョウグ、祭壇前にはあらかじめ作っておいた村境に設置する草履とベントー、塔婆が置かれていた。塔婆には「奉唱―彌陀名號一百萬遍五穀豊穣萬民和楽祈禱」と書かれていた。塔婆は天徳寺の和尚に書いてもらう。ネンブツを唱え終わると、社寺ら数人が草履を設置しに行く。その後、古い草履と塔婆を浜で燃やして終了となる。草履を燃やすのは、風向きや風の強さによって別日に行うこともある。	A
	208	24	**ヒャクマンベン** 旧 2 月 8 日 光明庵	光明庵で鐘・太鼓で念仏を唱える。	B
	208	27	**亥の子** 11 月亥の日 老人憩の家	子どもたちが夕方亥の子石をもって「祝いましょうか」と言いながら家々を訪ねて回り、亥の子唄をうたいながら石をつき、ご祝儀をもらって回る。ご祝儀を受け取るのは「ハンチョウ」とよばれる係である。「フクハンチョウ」はどこの家に行くか指示する。かつては主に新婚の家や新築の家を回っていたが、近年は戸数減少のため、不幸があった家などを除いてほとんどの家を回っている。また、昔は男子だけが参加する行事であったが、近年は性別問わず参加できる。家々をまわり終わると、老人憩の家でご祝儀を分け、お弁当やお菓子をもらって帰る。かつては亥の子石のことを「五輪様」と呼んでいた。	B
	208	エ	**大浜・中之浜の春祭り** 4 月 17 日 大浜	大浜・中之浜合同で行う。2年に1度川名津から神楽を呼ぶ。八幡浜市高野地からも神楽を呼ぶ。午後は子供相撲をやる。5人勝ち抜くと、1m程のものに白い紙を貼ったボンデと呼ばれるものをもらえる。	B
	208	エ	**花まつり** 4 月 8 日 光明庵	お釈迦様の誕生日。甘茶を飲む。「茶」と書いた紙を柱にさかさまに貼るとムカデがでないと言い、家の中にたくさん貼る。	A
	209	18	**おはんにゃ（大般若）** 1 月 28 日（旧 1 月 7 日） 集会所	9時から集会所で御祈祷・転読を行う。参加者は地区役員のみ。御祈禱が終わるとマイク放送を行い、地区民に呼びかける。それまでに役員は供えていた米を半紙でくるんだものを戸数分作っておく。この時、米はシキビ（榊）の葉で取り分ける。集会所に地域住民が集まると、和尚が参加者の頭上で経本を転読し、「家内安全・身体健康・福寿増長」と言いながら経本で背中をトントンと叩く。その後、米と札を各自もらって帰る。この米は家に持ち帰り普段の米と混ぜて炊く。これを食べると一年間病気をしないなどといわれている。全て終わると、役員は部落の辻々に札を立てに行く。	A
	209	19	**亀浦の盆行事** 8 月 14 日 客神社境内	盆踊りが行われる。新盆の家のトウロウを一列に並べ、その下がそれぞれの家の人が座る場所となる。輪の中央に笹を立て、その飾りに網状のものを垂らす。それは子どもが作る役だったが、子どもがおらず婦人会で作った年もある。地のクドキは「笹おどり」や「手ぬぐい踊り」など。「○○と××はオオヤリぞー」などとひやかしたりもした。	A
	209	28	**みんま** 11 月巳の日 墓地	新仏の正月。みんまもちをついて配る。もらった家は正月餅を新仏の家へ贈る。これを「祝いなおし」とよぶ。新仏の家は一升の大きな餅をついて箕の中に入れ、それをもって墓参りをし、その餅を釜で切ってわけて食べる。	A
	209	イ	**山お講** 旧 1 月 20 日 鯛之浦神社	4人組当番の総代のところへ部落が寄る。4人当番は鯛之浦神社へ餅を持って行き、掃除をする。赤い幟を立てる。白布を持って行ってはならないという。その後、集会所で祈祷し、鯛之浦神社に行って餅を焼いて食べる。	A
	210	15	**ロクガツイリ（六月入り）** 旧 6 月 1 日 九町奥集会所・天徳寺	実盛人形は当日午前中に九町奥集会所で作る。九町オオナカ（その年の九町5地区の区長・副区長の集まりのこと）と老人会が奥集会所に集まり実盛人形を作る。人形は2体作る（1体は斎藤別当実盛、もう一体はその家来であるという）。人形は主に藁と和紙で顔や袴を、刀や土台は竹で作る。人形を作る時間と並行して、奥地区では車に大きな数珠を載せ、鉦と太鼓を叩きながら地区内を回る（これは同様に九町各地区でそれぞれ行っている）。かつては子どもたちが大きな数珠を持って地区内を回っていたが、現在は大人が行う。天徳寺へ人形を持って行き、和尚が読経。参加者は祭壇をはさんで2つにわかれ、鉦と太鼓に合わせて「ナンマイダ　ナンマイダ　ナンマイダブツ　ナンマイダ」と交互に念仏を唱える。その後、実盛人形を浜に持って行き、ナガレバタとともに海に流す。ナガレバタには「令和4年度　五穀豊穣害虫撲滅祈祷　九町大中」と書かれていた。五穀豊穣・無病息災を祈る行事である。	B

市町	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
伊方町	210	15	**輪抜け** 7月30日 九町八幡神社境内	前日に九町八幡神社で茅の輪を作る。輪をくぐり、デコサン（ヒトガタ）で身体のわるいところをさすったり、悪い事を書いて箱に入れる。	A
	210	18	**おはんにゃ（大般若）** 旧1月24日 公民館	その年当番の組が、祭壇やオカガミなどの準備を行う。その後、当番の組と天徳寺和尚のみで、公民館内で御祈祷。大般若経の転読を行う。終わると公民館に、その他地区民が集まり経典箱の下をくぐる。かつては地区内を経典箱をもって廻り、家の近所でくぐっていたが、現在はまわらない。その後、札と餅・生米をもらって終了となる。	A
	210	19	**きそん（節）** 8月14日 須賀公園（九町）	九町地区で毎年踊られている盆踊り。起源は天明年間（1781～1788）以降だと言われているが詳しくは不明である。歌い手のオンドトリ、合いの手を入れるオハヤシ、太鼓を打つタイコウチらが登った櫓を中心に、踊り手が輪になって並び、反時計回りで進みながら踊る。歌詞はすべて七・七・七・五の字数で構成され、必ず最初に「出石山ほど高い山ないが…」、最後は「千秋万楽思い事かのた…」の歌詞をつける。（町）	A
	210	19	**ジュウシッチャ** 8月17日 農協の広場	亀ヶ池でおぼれて亡くなった人の供養として、農協の広場で盆踊りを踊る。田ノ浦・古屋敷・加周の三地区合同で行った。8月14日にも踊る。クドく人は中央の櫓の中で傘をさして口説く。途中で櫓に並べていた新仏の人たちの提灯にオヒカリ（蠟燭の火）が灯されると「モウジャ踊り」になる。	A
	210	2・22	**九町八幡神社の秋祭り** 10月第3日曜 （10月16日～17日） 九町八幡神社	10月第3日曜日に秋祭り、前日は宵祭りを行う。八幡神社に集まり、牛鬼・五つ鹿・四ツ太鼓・唐獅子の順に練り歩く。牛鬼は西組（西・久保）、五つ鹿は奥地区、唐獅子は向地区、四ツ太鼓は東組（畑・久保）が担当する。	A
	210	24	**念仏はじめ** 2月6日（旧1月16日） 奥集会所・天徳寺	九町ではこの日に村境の大草履を作る。参加者は九町5部落（奥・畑・須賀・西・久保）の区長と老人会、九町オオナカ（その年の区長・副区長の集まりのこと）である。この草履は「この村にはこんな大きな人がいる」と集落内に悪い疫病が入ってこないために作ると言われている。奥集会所で草履を作り、草履が完成した後14時半頃から天徳寺でネンブツハジメを行う。念仏は祭壇をはさんで2つに分かれて、鉦と太鼓に合わせて「ナンマイダ　ナンマイダ　ナンマイダブツ　ナンマイダ」と交互に5分間唱える。これを二度行い、天徳寺和尚の読経、最後にもう一度念仏を唱え、終了となる。かつては27回を4回（27回×4回＝108回）唱えていた。	A
	210	24	**ヒャクマンベン** 2月5日（旧2月17日） 南海山普文寺（加周のお庵）	お庵で二見地区の部落代表が集まり、数珠を繰り念仏を唱える。この日に村境の草履を作る。	B
	210	27	**亥の子** 11月亥の日	恵比須様を祀る行事で子どもたちが夕方亥の子石を持って、亥の子唄をうたいながら門前の地をついて回り、ご祝儀をもらう。特に新婚の家にはイノシシが多産なので子孫繁栄を祝って多くの組が押しかけ、賑やかで祝儀も奮発される。現在は地面を傷めるため木になっている。古屋敷では「わらすぼ」を持つ。現在は子ども会の行事になりつつある。河内は亥の子宿、亥の子組、亥の子大将も昔のままのものが残っている。	A
	210	28	**みんま** 11月巳の日 墓地	新仏の正月。みんまもちをついて配る。もらった家は正月餅を新仏の家へ贈る。これを「祝いなおし」とよぶ。新仏の家は一升の大きな餅をついて箕の中に入れ、それをもって墓参りをし、その餅を釜で切ってわけて食べる。	A
	210	エ	**九町八幡神社の春祭り** 4月17日 九町八幡神社	八幡浜市高野地から神楽を呼ぶ。	A
	210	エ	**花まつり** 5月8日 天徳寺	お釈迦様の誕生日。甘茶を飲む。「茶」と書いた紙を柱にさかさまに貼るとムカデがでないと言い、家の中にたくさん貼る。	A
	211	19	**鳥津の盆行事** 8月13日 海岸端	盆踊りが行われる。新盆の家からトウロウを持って来て石垣に吊るし、その下に敷物を敷いて、そこがシンボンの家の人々の見物席になる。そこから踊りを見る。新盆の家は地区に清酒を1本用意する。「串本育ち」「炭坑節」「ずんば節」「オアシス音頭」「金毘羅船々」「伊方賛歌」など、他にもあるが帰省客が踊れなくなるので、前から踊っていた曲で踊る。昔は「鉄砲節」という曲もあった。カセットなどなかったので、子どもは覚える時「ポッポッポー」などと言いながら覚えた。踊りの最後は必ず昔からのクドキを踊る。扇子を手に持って踊る「扇子踊り」とほぼ同様だが扇子を持たない「ニイボンおどり」の2曲をひとしきり踊って終了。	A

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概　　要	存続状態
伊方町	212	2	**一宮神社の秋祭り** 10月9日 一宮神社(塩成)	四ツ太鼓、五ツ鹿、唐獅子。一宮神社にて行う。神楽があった。	A
	212	15	**輪抜け** 6月30日 二名神社	旧暦6月30日。境内にカヤの輪を作って抜けてお参り。厄流し。人形の紙札にで体の悪いところをさすって川に流す。	A
	212	19	**塩成の盆行事** 8月14日～15日 西上・塩成小学校	14日は新盆の家の踊り、15日は普通の家の盆踊り。西上、小学校の2か所で行われる。西上は宝手庵と墓地の間の広場。会場にはレコードと伴奏用の太鼓があり、その横に机を出して、そこに新盆の家の位牌や線香を置き、来た人からお参りしていた。昔は(昭和32年ころ)はトウロウもあった。昔はクドキだけでなくニワカもあって、舞台を作っていた。ほかは塩成小学校のグラウンドで盆踊りを行う。	A
	212	24	**念仏はじめ** 1月16日 宝手庵	宝手庵で数珠を繰り、念仏を唱える。かつては多くの人が参加していたが、現在は役員のみ。また、最近では簡単に念仏を唱えるのみで、数珠を繰ることはしていない(令和5年は数年ぶりに数珠を出した)。唱える時間も昔は数時間唱えていたものが、今では数分に短縮されている。同日、宝手庵には村境の草履が置かれ、念仏はじめの後に各設置場所へ区長・副区長が塔婆と共に持って行った。草履はかるうて(背負って)いく。西上地区の西のはずれと振地区の足尾様に設置し終わると、古い草履と塔婆は浜に持って行き燃やした。	B
	213	8	**おこもり** 4月29日 三机八幡神社	須賀の三机八幡神社に集まって宴会。	A
	213	19	**オショロブネ** 8月15日 早戸(はいと)の浜	15日早朝からオショロブネを作る。かつてはウエメとシタメ(県道を境に上の方の地区をウエメ、下の方をシタメと呼ぶ)それぞれにオショロブネを作り、毎年2艘のオショロブネを出していた。その後、交互に作る様になり、現在は地区で1艘作っている。フネにはナスを刻んだものや米をコイモの葉で包んだものを各家からベントーとして載せる(すべての家)。加えて、新盆の家からは提灯(トウロウとは別)を持って来て、船の中に吊るして火を灯す。また、この時新盆でない家はムカエの時に使った笹も持参し、海に流す。その後フネはボートに曳かれて沖へ行き、海上で反時計回りに3回まわってから沖へ流す。	A
	213	19	**オクリオドリ** 8月14日	盆踊りを踊る。戸数が減って一時止んでいたが、老人会長が主体となって実施されるようになった。新盆の家では老人会にお礼を包み、それが費用に充てられる。「小島おどり」などと呼ぶ独特のクドキがある。	A
	213	2・22	**三机の秋祭り** 10月15日	宮入りは、網方四帖が分担して手船で海上を勇ましく渡御した。女宿からは餅花が出された。四ツ太鼓、五ツ鹿、牛鬼、唐獅子、稚児の舞がある。宵祭りでは東大仲、西大仲の8か所にあまじょうちんを立てる。	A
	214	19	**ナッポイド** 8月14日 浜(川之浜)	17時頃、シンボンの家の子どもたちが飾りを付けた竹をもって砂浜に集まる。子どものいない家は近所や親戚の子に頼む場合もある。八多喜寺の和尚はその側で読経。浜に挿した線香束に火をつけ、それを中心に子どもたちが笹を持って丸く並んで向き合う。鉦、太鼓を持った総代らの「ナーミド、ナーミド、ナッポーイド」の掛け声に合わせて短冊のついた笹の葉を、短冊がすべて外れるまで砂浜へ激しくたたきつける。全て外れると、笹や短冊を中央で燃やし、シンボンの家の人々や近しい人はお寺に行き念仏を唱える。終わると縁側の施餓鬼棚にもお参りする。	A
	214	19	**オショロブネ** 8月15日 大久海岸	8月15日早朝から男性がオショロブネづくりを行う。昼前になると女性は集会所でまかないの準備をする。以前は大久地区内にあるヒガシ・サト・ワキ・ニシの4地区でそれぞれオショロブネを作っていたが、今は大久全体で1艘の船を作る。船頭としてナスに顔を彫ったものを船の縁に挿す。オショロブネが完成すると集会所でまかないを食べる。初盆の家は出港前に、ベントー(米やナスなどをコイモの葉でくるんだもの)に箸(コイモの茎で作る)を挿し、船に乗せる。17時になると浜でオクリビを焚き、船を海に流す。新仏を西方浄土におくる儀礼である。	A
	214	19	**川之浜の盆行事** 8月13日～15日 浜	盆踊りが行われる。	A

市町	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
伊方町	214	24	**念仏はじめ** 旧 1 月 16 日 八多喜寺（川之浜）	11月のネンブツオサメ以降念仏を唱える事ができないが、ネンブツハジメの日を境に念仏を唱えていいことになっている。令和4年度は、寺で役員が鉦を鳴らしながら念仏を唱える。その間和尚は別の経を読む。かつては鉦を打ちながら大数珠を廻していたが、近年はそのようなことはしていない。その後、和尚が大般若経の転読・参加者の背中を経本で叩く。全て終わると参加者はお札をもらう。その後役員は地区内の2か所に草履を吊るしに行く。草履は前日の内に役員が集まり作った。草履の側には塔婆を置き、注連縄を張った。塔婆には「泰誦彌陀稱名一百万遍　部落安全萬民和楽五穀豊稔諸緑吉利専祈攸」と書かれていた。草履を吊るし終わると、いりこと酒を食し、餅をもらって帰る。	B
	214	23・26	**しゃんしゃん踊り** 9 月 1 日（旧 8 月 1 日） 大久海岸・お幾世大明神	八朔の日に大久の海岸でしゃんしゃん踊りを踊る。昔大久浦に女の水死体が漂着し、疫病・災害が相次いだ。この女のたたりかもしれないと、大幾世大明神と祀ってその霊をなぐさめたところおさまった。明治末、中断していたところ眼病や大正カゼが流行ったことから、大正10年ころ再興され、今日まで踊り続けられている。踊り手は22名の男性に限られているが、近来は女性の踊り手も認められている。（町）	C
	215	19	**神崎の盆行事** 8 月 13 日～ 14 日 （8 月 13 日～ 16 日） 釈迦寺前の広場	13日夜10時頃から釈迦寺前の広場で盆踊り。この火は新盆の家の人が主となって踊る。以前は13日に新盆の家の人だけで踊り、普通の家は14～16日に踊った。現在は13・14日にみんなで踊る。独特のくどきあり。掛け声から通称「ヨーホイ」または「神崎踊り」などと呼ばれる。夜20時頃からまず子どもたちを中心にテープで串本育ちや炭坑節などを流し、中央のやぐらで太鼓を打って囃し、周囲で輪になって反時計回りに廻りながら踊った。ヨーホイが行われるのは夜22時前後から0時にかけて。その時はやぐらの太鼓の横でクドく人が口説き、周囲にハヤシとして男性数人が「ヨーホイ」などの合いの手を入れた。昔はイリコ漁に出ていた男の人たちが戻ってくるのが23時頃になり、そこから朝4時ごろまで踊り続けたという。盆踊りの時の服装は浴衣に手ぬぐいの端をちょっとくわえたほう被り姿が普通だったが、さらに誰言うとなく物陰でこっそり変装して盆踊りの広場の周囲から何人かそっと入ってきて一切しゃべらずに踊って、また無言で物陰へ帰っていき、翌日「あれ実は私だったのよ」と種明かしをして笑うような風があった。当日は、誰が誰という正体は一切明かさないし、周囲も問い詰めることはしない。男の人が女装したり、何か背負ってお腹の大きな人のような恰好をしたり、正体がばれぬように手や足に何か履いたりと手の込んだ様々な変装を施し、それが盆踊りの時の楽しみのひとつだったという。以前は、新盆の家は13日、普通の家は13日から16日に行った。	B
	215	22	**六社神社の秋祭り** 10 月 17 日 六社神社（神崎）	牛鬼と神楽が出る。	A
	215	エ	**六社神社の春祭り** 六社神社（神崎）	神崎神楽を行う。演目は御四天、手草（てぐさ）、神靖司（かみしょうじ）、刀の舞、大鬼拂（おおおにはらい）、古今、弓の舞、とうしの舞、盆の舞、羅殺（らさつ）、山の内、蛇太治（おろちたいじ）、鎮火。	C
	216	2・22	**三崎八幡神社の秋祭り** 10 月 18 日 （旧 9 月 18 日）	四ツ太鼓、牛鬼、唐獅子。大正9年の豊漁で神輿ができた。三崎浦の内であった頃の三崎祭ではこの浦は船練りが受け持ちで、旧暦9月18日に行われていた。〔詳細調査報告36参照〕	A
	216	1・18	**しめなわやき** **（おしめはやし）** 1 月 15 日 浜（大佐田）	午前6時頃、浜で正月のしめ飾りやお札を燃やす。昔はオシメハヤシといって、門松やオシメ、オトシダマを持って行って焼いていた。ここで焼いたオトシダマを食すと魔よけになるといわれていた。	A
	216	18	**お十五日** 1 月 15 日 三崎八幡神社前の海端	午後2時頃から潮の満ちてくるのを待って八幡神社で42歳の厄男たちがお伊勢踊を踊る。15日は海岸広場で祭壇を設け、観覧者の中で踊る。豊作・部落安泰を祈る。踊りが終わると、参加者は御幣と菓子、神酒をもらって帰る。	A
	216	15	**実盛送り** 6 月 14 日（旧 5 月 16 日） 伝宗寺	当日早朝から地区の役員が伝宗寺に集まり、実盛様作りを行う。腰に刀を佩き、背に弓矢を背負った武士姿の実盛人形を一体作る。実盛人形が完成すると、御詠歌の会や地域の人が集まり、念仏をあげる。その後、実盛人形を高浦→佐田→大佐田→井野浦の順に運ぶ。地域の人は実盛人形が回ってくると、三崎地区の人々は船の下を一回くぐり、賽銭をあげ、ベントーと呼ばれるおにぎりを一つ取る。船の下をくぐる回数は佐田・大佐田地区では三回、井野浦では二回（一往復）と地区によって異なっている。また、井野浦に向かうほど賽銭ではなくサツマイモの蔓やコヤマメ等時期物を供える。最後に井野浦地区にたどり着くと実盛人形を海に流す。	A
	216	15	**輪抜け** 6 月 30 日 三崎八幡神社	前日に茅の輪を作る。輪抜け当日、宮総代ら役員は八幡神社に集まり、祈祷。その他参加者は各々茅の輪をくぐり、境内のその他祠などにお参りする。それが終わると祭殿外で一般の人も含め祈祷する。その後、ボウズナガシといい、人が描かれた紙で自分の体の悪いところをさすり、川や海に流す。厄除けを祈る行事である。	A

市町	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
伊方町	216	18	**念仏はじめ** 1月16日 伝宗寺	伝宗寺で読経、大般若経の転読。その後、参加者が輪になって鉦を鳴らしながら数珠を回す。	A
	216	19	**モウリョウ** 8月15日 浜・集会所（三崎）	区長と太鼓・鉦を鳴らす人のまわりを、シンボンの家の家族らがまわる。区長が「○○さんにあげてください」というと、まわりの人が「はーい」といって時計回りにまわる。新仏の他、諸々の神仏なども読み上げる。終われればそのまま盆踊りだが、令和4年は新型コロナウイルス流行の為モウリョウのみ行われた。	A
	216	19	**三崎の盆行事** 8月15日～16日	モウリョウの後、盆踊りが行われる。	A
	216	ウ	**穴地蔵まつり** 旧2月24日 穴地蔵のお堂（三崎）	三崎地区の西のはずれにある穴地蔵のお堂で行われる。穴地蔵様は文字通り「穴」に関する病（目、耳、痔、婦人病など）に霊験あらたかであるという。「おなご（女性）の神様」ともいわれ、多くの女性が安産祈願などに訪れていた。三崎地区某家が代々守ってきた神様で、現在もその家中心に有志が信仰を続けている。かつては伽藍山の中腹にお堂があり、そこで行われていた。数十年前に現在の場所に移した。春の祭りにはおこもりをし、手作りの甘酒がふるまわれ、出店や三崎地区内外からの多くの参拝者でにぎわった。	B
	217	18	**おはんにゃ（大般若）** 1月5日 臨江庵	当日午前6：30～7：00頃、地区民は臨江庵前に集まり、イリコと酒を口にし、経典箱の下をくぐり抜け、掛軸の入った箱で叩いてもらう。その間役員は伝宗寺へ和尚を迎えに行く。和尚が到着すると、臨江庵内へ移動し、伝宗寺和尚が木札に墨書し、大般若経の転読を行う。和尚が読経している後ろで、参加者は大般若経をめくる動きをしながら「ゴーフクイッサイダイマサイショウジョウジュ」と大きな声で唱える。全て終わると、和尚は大般若経の経本で参加者の背中を叩いてまわる。その後供えていた餅を人数分に薄く切り分け（令和5年は68個）、班長が札と生米・餅を各世帯に配布する。役員は手分けして竹に挿した札を集落の定められた11か所に立てる。かつては青年団が伝宗寺から徒歩で伽藍山を超えて、経箱3箱を運び、集落を担ぎ回っていた。特に厄年の家を回っていた。現在は1箱を車で運んでいる。	A
	217	18	**念仏のくちあけ** 旧1月16日 瑠璃光庵	この日から念仏を唱えていいことになっている。かつては早朝暗い時間に行っていた。令和4年は午前7時開始、令和5年は午前7時30分開始だった。瑠璃光庵（地域の人は「お薬師さん」と呼ぶ）に集まり、輪になり「ナンマイダーブツ　ナンマイダ」と唱えながら、数珠を繰る。数珠は半時計回りに50回回し、一度小休止、その後もう一度50回まわす。数はマッチ棒で数える。全て終わると、お茶を飲む。お茶を飲まないと「念仏をかろうて帰る」ことになるためで、念仏のあとは必ずお茶を飲まなければならないといわれている。	A
	217	19	**モーロ** 8月15日 明神の海岸端 （盆踊りの会場）	夕方、集落の前の海岸端にある盆踊りの会場に、地元の人々やシンボンの家の家族や親戚の人々が集まる。手には事前にヨシの葉（ダンチク）で作ったフネを数艘ほど持つ。シンボンの家の人々は喪服姿。太鼓や鉦役が打つ拍子と「ポーイナ、ポイナーポイナーポイナーポイナー」という掛け声に合わせて、周囲の人々もやぐらを中心に、時計回りに歩いてぐるぐると巡り始める。シンボンの家1軒につき3周と、プラス部落の1周。終わると皆がそのまま傍らの浜辺へ降りて、持っていたフネをいっせいに海へ流す。団扇であおいで「迷わんといけよ」などと言いながら沖へ送る。シンボンの家の人は、フネを流した後、すぐに墓へ行き、墓に提灯を吊るしてロウソクをともし、提灯の上にコイモの葉をひっくり返して上に被せ、線香をあげてお参りする。ネンブツを一通り唱えた後は、「ネンブツ、カロわれんで」ということでお茶を飲む。またそのまま家に戻って近しい人が集まってオキャク（宴）となる。	A
	217	19	**モウナ** 8月14日～15日 聚楽庵	8月14日朝、集会所（聚楽庵の下）で人形作りや会場準備をする。人形は松地区の9組のうちの2組ずつで作る。青竹数本を束ね、横にも竹をわたして着物を着せ、両手を広げたような形の人形を作る。頭部は目鼻を描いてほお被りを付けた作り物でそれを先端に付ける。着物は昔から子どもを産んでない女性の物を使うとされ、昔の若い衆が作る時は、一番若い者がその家へ着物を取りに行かされて嫌だったという。現在は同じ着物を繰り返し使っている。現在は竹の束に着物を着せるのみだが、昔の人形はワラを巻くなどして体の形を作り、着物の裾あたりには女陰を表すアワビの貝殻を吊るすが、昔はそれにトウキビのヒゲをつけるなどもした。8月15日13：30頃、集会所にシンボンの家の人々らが中心に集まる。モウナの人形を2，3人で肩に担ぎ、太鼓と鉦を鳴らしながら、神社へと移動。他の人々も列になってついていく。神社の石段を踊り場まで上がると、モウナの竹の根元を地面に突き立て、人形を時計回りにゆっくり回す。人形の周りを鉦や太鼓を鳴らしながら同じく時計回りに回るほか、他の人々も一緒に歩いて回る。掛け声は「モーナ、モーナ、モーミードーブ」を3回唱え、最後に「セー！」と言いながら人形を激しく揺さぶる。最後にお寺で回し、お寺の隅（西側）でオクリビを焚く。	A

市町	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
伊方町	217	19	**明神の盆行事** 8月15日	盆踊りが行われる。14日昼に海端の広場に盆踊りの会場を作る。中央の櫓の四隅に短冊を付けた笹竹を立て、提灯を張り渡す。15日夜、モーローの後に行う。新盆の家から部落にお金を出し、盆踊りの費用にする。「○○の初盆に××がオタルを出した―」という意味のことを読み上げるオタルヒロメがあった。	A
	217	24	**マンサ** 1月7日 来光寺	かつては当日朝に草履を作っていたが、令和5年は年末に草履を作った。当日朝には来光寺入口に吊るしてあった。午前9時半頃、平礒のマンサが終わり次第、平磯区長が釜木の来光寺へ和尚を送る。到着すると、和尚が塔婆に「奉轉読大般若波羅蜜多経六百軸懇祷」と墨書。それが終わると和尚の読経・転読。その後、大般若経の経本で参加者の背中を叩いた。全て終わるとお茶やお菓子でお接待。昔は女性も多く参加していたが、現在は役員と数人のみになっている。	B
	217	エ	**二名津の春祭り** 2月11日 集会所前	神輿や雌雄の鯛を掲げたカケノイオ等が地区内を巡行。町の辻々でとまり、地区の人々の参拝を受ける。要所では「伊勢踊り」が踊られる。	A
	217	ウ	**花まつり** 4月8日 来光寺	午前9時頃、地元民が来光寺に集まる。祭壇には甘茶の杯に入ったお釈迦様の像が準備されており、参加者はそれぞれお茶をかけて拝む。かつてはこの甘茶で墨をすって紙に「茶」と書き、それを家の柱の根元に逆さに貼ると、ムカデが来ないといわれた。全員揃うと念仏を唱える。鉦と太鼓に合わせて、独特の節回しで三遍、休憩をはさみながらこれを三回繰り返す。	A
	217	8	**感謝祭（なわまき祭）**	この日までに神社の神木に七巻半巻く縄を用意する。	A
	218	15	**牛供養** 旧5月15日 天満神社（串）	前日に地区の役員らが天満神社で準備を行う。境内の狛犬の一つにヨモギとカヤを供え、社殿に幕をはる。昔、串地区で大火があったときに多くの牛が犠牲となった。その供養であるため、牛のエサとなるヨモギとカヤを供えるのだという。現在は参拝する者は少ないが、かつてはこの日には一握りのカヤを持って、多くの人が参拝していたという。	B
	218	17	**海御前（あまごぜん）** 旧4月5日 天満神社、集会所（串）	海士（素潜り漁師）のまつりである。海士がしら（海士組合の代表）が天満神社に参拝する。その後境内の金毘羅さんの祠にお参りする。金毘羅さんは漁の神様で昔からここに参拝するようにいわれている。その後、串集会所に地区内の海士が集まり、総会を行った後飲み食いを行う。	B
	218	19	**モーロ** 8月15日 湧出庵横の地蔵	15時頃から湧出庵横の地蔵のまわりを鉦を鳴らしながら反時計回りにまわる。シンボトケが男ならふんどし、女なら腰巻を供えるといい、男のふんどしは「オンマニダリウンハッタ」や戒名を墨書して寺の前に垂らしている。湧出庵にはオショロイダナが飾られている。	A
	218	19	**串の盆行事** 8月14日～15日	扇子踊りが行われる。昔は日の丸扇子一丁で踊った。	A
	218	19	**トウロウオクリ** 8月16日 集会所前の広場（串）	集会所前の広場中央に太鼓を置き、その周りを地域住民が踊りながら回る。シンボンの家は集会所横の墓地にトウロウを置き、その後集会所前で踊る。墓地にトウロウを置きに行く際、同行してくれた人を「トモにきてくれた人」という。以前は夜遅くまで踊っていたが、近年は早めに終わる。	A
	208・211	28	**みんま** 11月巳の日 墓地	新仏の正月。みんまもちをついて配る。もらった家は正月餅を新仏の家へ贈る。これを「祝いなおし」とよぶ。新仏の家は一升の大きな餅をついて箕の中に入れ、それをもって墓参りをし、その餅を鎌で切ってわけて食べる。	A
	212・213・214・215	28	**みんま** 11月巳の日 墓地	11月中の巳午の日に行う亡者の御正月供養。親類縁者の加勢を得て、餅を搗いて大きな塩あん入りをつくり、関係者に配った。	A
	213・216	ウ	**花まつり** 4月8日	お釈迦様の誕生日。甘茶を飲む。「茶」と書いた紙を柱にさかさまに貼るとムカデがでないと言い、家の中にたくさん貼る。	A
	216・217・218	28	**みんま** 11月巳の日 墓地	権現様祭りがすんでから来る辰巳の日に行われるハツボンの仏様の正月である。新仏の家では、「みんまもち」をついて配る。もらった家では正月餅を新仏の家へ贈る。これを「祝いなおし」とよぶ。新仏の家では、一臼の大きな餅を搗いて箕の中に入れ、家族・親族相寄り、それを持って墓参りをする。墓に注連縄を張り、近親者が餅を鎌で切って食べる。その後御祈祷。昔は日が変わる時間に墓に行き、念仏を唱え、宿（シンボンの家が担当する）に行っていたが、今は明るいうちに行く。	A

市町村	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概　　要	存続状態
西予市	219・220・222・223・224	17・18	**山の口あけ** 1月7日	講組の当番の家（講宿）に組員が集まり、山の神の像に山仕事の無事を祈って酒食を共にした。この日山の境に注連縄を張り、御幣を立て、御神酒を備えて神に祈るところもあった。この行事を終えないと、山仕事をしてはならないとされていた。	D
		17・18	**追山行事・モトマツリ** 1月11日 明石寺参道	明石地区の蛇霊供養。明石寺参道入口で、大蛇に見立てた注連縄を住職が真二つに切り、本堂で供養の読経をする。墨書の呪物をつくり、2月11日に明石寺内の熊野神社伊勢神楽奉納に供えた後、苗代の水戸口に立てて苗の生育を祈った。	A
		18	**予祝いの行事** 1月14日	棒に山草注連縄をつけた祝い棒をつくり、後日苗代の水戸口に立てて豊作を祈った。また、棒の途中まで皮をはぎ、その皮を棒にしばりつけた削掛をつくり、神棚に供えてその年の豊作を祈った。	D
		1・18	**おしめはやし・どんど焼き** 1月15日（成人の日）	子どもたちが地区内各家庭から集めた注連縄を焼き、持ち寄った餅をこの火で焼いて食べた。	A
		18	**念仏の口あけ・念仏講** 1月16日	道普請などをした後、講宿の家に集まり、鐘を叩いてナンマイダーの念仏を唱和した。寺に集まり、鐘や太鼓を鳴らし、大数珠を回して百万遍を唱えるところもあった。	A
		15・18	**お般若** 1月16日	般若講の当番が大般若経を納めた柩を担ぎ、各戸を回った。僧侶が掛け声と共に大般若経を上下に広げ、家の者は柩の下をくぐって家内安全・五穀豊穣を祈った。各家には餅とお札が配られ、この札は魔除けとして戸口にかけられた。	A
		8・18	**お日待ち**	講宿に集まり、酒宴を開き歓談した。神主を呼び祝詞を受ける。注連縄を張るところもあった。	C
		17	**麦祈祷**	寺に集まり、麦の成長と五穀豊穣を祈る経を住職に唱えてもらう。	C
		8	**お社日・おしゃんにち** 立春から5番目の戌の日・立秋から5番目の戌の日	春の社日は豊作祈願、秋の社日は収穫感謝の日とされ、初めて掘った甘藷や里芋などを土地の神に供え、この初物を食べた。	C
		17	**水戸口祭り**	苗代のこしらえが終わると、水戸口に榊など木の枝と神札、御幣を立てて、苗の成長と豊作を祈願する。	C
		29	**お山開き** 7月1日	7月1日の石鎚山お山開きに合わせ、石鎚講の人々が白装束に身を包み、宇和各地の石鎚神社支社へ参詣する。	A
		17	**御田植祭・早苗神事**	斎田に田の神を祀る祭場を設け、神主の祝詞奏上のあと、飾り付けた牛で代かきを行う。白装束の若者たちが道化を演じ、田の神を喜ばせる。太鼓・鐘を鳴らし、田植歌が唱和される中、早乙女が田植を行う。	D
		19	**灯しぞめ・灯しあげ** 8月1日、31日	新仏がある家では、8月に入ると盆棚を設け、大きな紙の灯篭に灯をともすトボシゾメ、31日には墓で灯篭を燃やすトボシアゲを行う。	A
		33	**盆行事**	各家では、孟蘭盆会に祖先の位牌を祀る盆棚をつくる。盆3日間には、先祖の霊を供養する盆踊りが行われ、新仏が出た家では、新仏の遺影、位牌を抱いて踊った。	A
		15	**虫送り** 8月	ウンカなど稲の害虫を追い出す行事。松明を持ち、鐘・太鼓を打ち鳴らし、声を張り上げて、田中の道を村はずれまで歩き虫を送った。	D
		16	**風籠り** 8月末	二百十日の台風が来る前、神社に集まり、風除けを祈願して神社境内を廻るお百度をした後、直会をした。	D
		27	**亥の子** 旧10月亥の日	男児が亥の子幡を立て、亥の子歌を歌いながら、石亥の子または藁亥の子を門前の地面に叩きつけ、訪れた家の無病息災・御家繁盛を祈った。子どもたちには祝儀が渡された。また、この日各家では亥の子餅をついて食べた。	A
		15	**虫供養**	その年に駆除した虫の慰霊供養をする。餅をついて虫の霊に供えた。秋の刈り入れが終わったころ行う。	D
		29	**大師講** 12月	大師堂や寺で、弘法大師をまつり、僧侶の説法をきく。	B
		10	**愛宕様**	鎮火を祈る奉納相撲大会が行われた。	D
		28	**巳正月** 12月初巳の日	新仏の正月行事。家族一同が墓前に餅を供え、焼いて鎌で裂き、新仏と分かち合う。	A

市町村	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
西予市	221	22	**三瓶神社の秋祭り** 10月第3日曜 (10月10日) 三瓶神社	前日に宵祭り。18～19時ころ。総代、関係者、牛鬼の担ぎ手などが集まって神事。神輿は拝殿に3基並べておく。当日は、13時～祭典。宮司3名。区長祝詞奏上(氏子代表)。関係者、役員玉串奉納。稚児の舞(小学生3、4名)、浦安の舞(6年生女子)、相撲甚句(岩木の相撲甚句のシート参照)、五ツ鹿奉納。14時ころ～渡御。猿田彦(露払い)、神輿1基を4～5名、太鼓2名、ナガイ(毛槍)(刀を差して)8～10名、大刀(宝刀)もち3名、ホタカブ、幟もち5～6名、金幣(区長)、御幣、御前びつ(お供え物を列の後ろから御旅所まで運ぶ役目。御旅所から神社まで持って帰る)。総勢43～44名。現在のルートは、神社裏～地中～中おたび(地中池の東、幟を立てる場所)～御旅所である。15時ころ～御旅所で神事、玉串奉納、稚児の舞、浦安の舞、五ツ鹿、甚句(甚句後、子供が奉納相撲。かつては青年相撲もあった)。17時ころ、神社へ引き上げ、御霊移し。牛鬼は午前6時ころから、神谷(集落の西から東へ)-大祭－河内－下谷の順に、神社から中おたびを練り歩く間に回る。感染予防のため令和2・3年は神事のみ実施。(市)	A
	221	22	**西山田・山田秋祭り** 10月第2日曜(10月10日) 三島神社(山田)、 三瓶神社(西山田)	西山田地区では、神輿・五ツ鹿が出る。午後1時から神事→午後1時半頃から五ツ鹿踊り奉納→神輿宮出し→太鼓たたきながら御旅所へ向かう。山田地区では、神輿・牛鬼・ほたかぶ・猿・稚児の舞が出る。稚児は少子化のため西からも参加、昔は浦安もあった。西山田地区と同様に御旅所へ向かう。御旅所では、午後3時ころから神事(合同)→稚児の舞→五ツ鹿(後で牛鬼活動)→お菓子・もち撒きがあり、神輿は神社へ還御。鹿は三島神社と山田総代と区長宅へ花踊りへ行く。	B
	221	22	**十二所神社の秋祭り** 10月第3日曜(10月10日) 十二所神社	牛鬼、神輿、五ツ鹿の練りがある。10時～神事や踊りの奉納、11時～十二所神社出発。11時30分～御旅所(3年に1度)～三瓶神社着。小原では昭和60年ころまでは毎年練りがあったが、その後は内容が簡略化され3年に1回となった。	B
	221	22	**一宮神社の秋祭り** 10月第2日曜(10月10日) 一宮神社	宇和盆地西部の郷内(令和3年12月末現在、119世帯260人)に伝わる祭り。牛鬼と神輿が出る。当日は8時～神事、9～17時ころ郷内全戸練り歩き。	B
	221	17	**作祈祷(麦祈祷)** 2月下旬(2月28日) 勝光寺	岩木では地区総会の日に合わせて勝光寺で午前10時から実施。現在は地区役員と各組長が参加。鉦を鳴らして和尚が祈祷を行う。	B
	221	17	**稲祈祷** 7月28日 安養寺	岩木では地区総会の日 (以前は年4回。現在は年2回(2月、7月))に合わせて安養寺で午前10時から実施。現在は地区役員と各組長が参加。	B
	221	16	**風祈祷** 7月28日 三瓶神社	三瓶神社の夏越祭(輪抜け)の日に13時半から行う風除け祈祷。現在は地区役員と各組長が参加。榊の葉を1枚ずつちぎってコメ袋に入れ、1万枚集めて奉納する。	B
	221	15	**夏越祭(輪抜け)** 7月10日・7月28日 三瓶神社	岩木では7/28に三瓶神社で6時ころ～20時ころに行う。茅の輪を設け、3回くぐる。からだの悪い部分に紙製の形代をなでつけ、水を貯めた手水鉢に形代を入れる。卯之町では7/10に王子神社で行う。拝殿で参拝し、本殿の東側に設置された茅の輪を3回くぐる。紙製形代を体の悪い部分になでつけ、水をはったたらいに入れる。	B
	221	32	**おしゃにち(お社日)** 3月 観音堂	岩木部落に河内谷に伝わる。春の社日。かつては観音堂でお参りした後、(おそらく大般若経を入れた)木箱(経櫃か)を2人で棒に渡して担ぎ、各家々を回る。その下を人がくぐるとご利益があると言われたが、今はやっていない。おこもりのみ。お参りは勝光寺の和尚が行う。おこもり後は河内谷集会所で会食。	B
	221	27	**亥の子** 不定期	旧暦10月亥の日に行われる。従来、男子のみで行われていたが、少子化に伴い近年は女子が参加する部落も少なくない。亥の子歌は、地区によって異なる。岩木では、ワラスボ、スボと呼ばれる藁亥の子を持って家々を回る。郷内では、年1回実施。現在は小学生から中学生までの男女が参加。昔は小学生男子のみであった。役割は旗もち、笹もち、御祝儀集めで、昔は他に提灯持ちの役もあった。山田、西山田では藁すぼを使う。R3は年1回(休日の亥の日)、小学生～中学3年の男女、R2は2回(亥の日)、小学生～中学3年の男女で行った。R1までは年2～3回(11月の亥の日)、小学生～中学1年までの男女で、以前は年2～3回(11月亥の日)、小学生～中学1年までの男子のみで行っていた。役割は旗持ち、提灯持ち、ご祝儀集め、お札配りで、歌と打ち手は全員で兼務する。ご祝儀は山分けした。R4より少子化のため中断することになった。小原では、石亥の子を使い、年1回実施。小学生から中学生の男女混合で、役割は笹もち、ご祝儀集め、石もち。昔は年2、3回、男子のみで実施していた。	B

市町村	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
西予市	225	22	**三嶋神社秋祭り** 10月第2日曜(10月15日) 三嶋神社	おねりが出る。おねりは、神輿、牛鬼、五ツ鹿踊り、獅子舞、だいばん（天狗）、おたふく。地区により役が決まっている。途中の休憩所(お旅所)は、熊野神社(権現)、野村小学校で、巫女の舞がありその後、餅まき。平成30年の西日本豪雨水害後は中止していたが、令和3年10月8日に三嶋神社で神事が行われた。中屋敷の親牛も中屋敷集落各戸を回って祝った。片川の五ツ鹿踊りはコロナの影響で中断中。（市）	D
	225	15	**輪ぬけ神事** 輪ぬけ神事	昔は、淡島様参拝、三嶋神社の大きな輪を抜けて参拝、弁天様(氏宮)を参拝し、大変賑やかであったが、いつからか、弁天様は旧庄屋緒方家の弁天宮に変わった。コロナの影響で令和2年は中止したが、令和3年に淡島様祭り、三嶋神社輪ぬけが実施された。	B
	225	19	**野村の盆行事** 8月13日 乙亥会館駐車場	昔は、野村小学校の運動場の中ほどに櫓を作り提灯が飾られ、上で盆踊り音頭の太鼓をたたいて、大勢の踊り子、見物客で賑やかであった。野村ダムが出来た頃に、野村町体育館前の広場に移動となり、花火も野村ダムで打ち上げられるようになった。開催場所は平成26年から乙亥会館1階横の駐車場に移り踊りは続いたが、平成30年の西日本豪雨災害により中断し、コロナ禍で開催できない状況。	D
	225	10	**乙亥大相撲** 11月下旬	嘉永５年（1852）6月25日、現在の氏宮部落より出火し、下氏宮、上氏宮、石久保、権現の四地区が焼失。さらに飛び火して古市地区にも２戸の罹災、総罹災戸数100戸、棟数260棟という大火災が起こり、これら火災の発生を封じるため、火除けの神として愛宕山に愛宕神社を祭祀し、毎年11月下旬乙亥の日に三十三結びの願相撲を奉納し、無火災を祈願したのが始まりという。大相撲九州場所の千秋楽の2日後に実施され、プロ･アマ力士の対戦で行われる大相撲祭りが2日間行われる。〔詳細調査報告23参照〕	B
	225	27	**亥の子** 11月3日(11月亥の日) 各地区の民家	昔は、集落の小学生の高学年の男子(4年生から6年生)で、宿(個人当番の自宅)で宿泊し実施していた。朝早くから町全体を亥の子をついて回った(事前にお願いした方、御祝儀を頂きお餅を渡す)。今は、少子化で男女全生徒でしている。昔は11月の亥の日にしていたが今は11月3日文化の日にしている。	C
	226	2・22	**三島神社** **・天満神社の秋祭り** 10月末の日曜(10月21日) 三島神社・天満神社	収穫を祝う秋祭り。宵宮祭は神事のみ。当日は、牛鬼･五ツ鹿･四ツ太鼓が各戸を巡行。本殿祭神事、御幸祭の練行事がある。感染予防のため令和3年は練中止。（市）	A
	226	8	**樽滝観音まつり** 8月9日 樽滝	渓筋旭地区にある西予市指定文化財でもある名勝「樽滝」にある「樽滝観音」を祭る行事。毎年8月9日に行われ、お通夜は地元青年団が請け合っていた。現在は行っていない。	D
	227	2・22	**野坂神社の秋祭り** 11月3日 野坂神社	神輿、牛鬼、五ツ鹿、四ツ太鼓が出る。区役員が地区内を練り歩く。御旅所にて五ツ鹿、獅子舞を披露。令和3年はコロナの影響で参加者減。（市）	A
	227	2・22	**天満神社の秋祭り** **（例祭・大祭）** 11月2日～3日 天満神社	神輿、牛鬼（親牛・子牛）、五ツ鹿、四ツ太鼓が各戸を巡る。感染予防のため例祭は本殿祭、宵宮祭のみで、御幸祭はなし。弁天祭は神事のみ実施。	A
	227	19	**成龍寺楽念仏** 8月14日 成龍寺	「南無阿弥陀仏」と稱名を大声で唱えながら、鉦や太鼓を打ち鳴らし踊る。感染予防のため一時中断中。（市）	A
	227	8	**杉山組夏祭り** 7月15日 八坂神社	7月15日組員(家族代表)が八坂神社に集結し、太鼓にあわせお伊勢踊りの歌を、御幣の下部を床に打ち付けながら歌うもの。御幣は各家庭に持ち帰り神棚に飾り、1年間の無病息災、家内安全、五穀豊穣を願う。当祭りは、杉山組夏祭りとして、昔から伝承されている。	A
	228	22	**住吉神社の秋祭り** 11月第2日曜 住吉神社	地区内において神事を行い、神主、地域代表者が祈祷する。地域の子どもが牛鬼を担いで地域を練り歩く。同様に大人が鹿衣装を身にまとって地域を練り歩く。（市）	A
	228	8	**八坂神社祭礼** 9月第1日曜 岡成集落集会所前広場 花取り踊り保存会	花取り踊りが奉納される。元和年間の8月5日、岡成集落は落雷による大火災があり、再びこのような災難が起こらないようにと神仏に祈願し献上したことがはじまりと伝えられる。踊りは、直線二列横隊で、一列は背の高い人達の大太刀、もう一列は背の低い人達の小太刀と称する踊り手が歌に合せて身振り、手振り、勇ましく軽快に踊る。岡成集落では、毎年9月の第1土曜日に集落をあげてこの踊りを催し、保存伝承につとめている。（市）	A

市町村	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
西予市	228	エ	**ばら大師の縁日祭り** 4月21日 ・7月21日前後の祝休日 永照寺	春は、昭和前半はお砂踏み、相撲大会なども行われて遠方からの信者も参拝に訪れていた。内容は時々で変容するが、甘茶接待は続いている。平成後半からとげ封じ大般若祈祷、当たりくじ付きもちまきが行われている。夏は、三界万霊施食会が行われる。本堂内に精霊棚を設置する。蓮の葉、笹を四方に立て、盆飾りにする真菰を敷き、水の子(さいの目のキュウリ、ナス、米)、果物、野菜、精霊牛馬(キュウリ、ナスに割りばしの足をさす)、花、灯明、位牌、香炉、打ち鳴らしが置かれる。流しそうめんの接待あり。	A
	229	22	**客神社の秋祭り** 10月最終日曜(10月27日) 客神社	毎年10月の第4日曜日に、牛鬼・神輿が氏子集落内を練り歩き、道中の悪魔を払い氏子内の悪鬼夜叉を退散させるものとして、実施されている。令和2年は、感染拡大予防の為、神事のみ実施。	B
	229	8	**客神社の春祭り** 4月の第1日曜(4月3日) 客神社	伊予の里神楽が奉納される。令和2年・3年とコロナの感染拡大予防の為、神事のみ開催。(市)	B
	230	22	**船渡の森三島神社の秋祭り** 10月最終日曜(11月1日) 船渡の森三島神社	船渡の森三島神社の大祭は午後行われ、豊栄の舞、八鹿踊り、だいばん、牛鬼、相撲甚句、神輿が登場する。船渡の森三島神社には御旅所があり、そこで前記の舞や踊り、相撲甚句等が披露される。八鹿踊りは鹿の扮装をし、だいばんも加わり輪になって踊る。相撲甚句は、力士の姿をした子どもたちが輪になって甚句に合わせて踊り、その後相撲をとる。勝っても負けてもご祝儀がもらえる。コロナウイルス感染対策として、規模縮小し実施。(市)	B
	230	19	**本光寺の施餓鬼** 8月12日 本光寺	念仏の間に、里人達が環をつくり、唱えながら鐘、太鼓、手拍子を打ち、或いは扇子を振って踊る小躍りと念仏踊りを行う。(市)	A
	230	19	**興禅寺の施餓鬼(セガケ)** 8月10日 興禅寺	興禅寺の一大行事として施餓鬼を行う。これは新亡を供養するもので、セガケともいう。午後1時くらいに興禅寺の庭に集まり、鉦や太鼓をたたいて念仏踊りをする。たたき手は熟練を要するが、かつては各組から交替で出た。念仏踊りが行われている間、新亡の家族は、寺の中で営まれる法要に出席する。念仏踊りはかつては3回繰り返された(現在は2回)が、1回は戦死者のため、1回は先祖のため、1回は新亡のためとされている。	A
	231	8	**龍王神社春祭り・秋祭り** 5月18日・9月28日 天満神社	小松ヶ池がある龍王神社には「その昔、土佐の米商人の娘・小松が、父が財産を増やすために不正を行っていることを知り、悲しみのあまり池に身を投じた後、龍となった」との伝説が残り、水を司る龍の神様として信仰を集めている。海とは無縁の標高が高い地に存在するにもかかわらず、漁業や商売の神様として崇められ、海難・干ばつ除けのご利益があるとされる。春の大祭には県内外から多くの参拝客が訪れ、秋祭りは、総代・世話人など関係者で行われる。感染予防のため春祭りは規模縮小して実施。	A
	232	8	**天満神社の秋祭り** 10月第3日曜 天満神社	浦安の舞が奉納される。(市)	A
	233	8	**三滝神社の春祭り** 4月第3日曜(4月17日) 三滝神社境内	八ツ鹿踊りが奉納される。鹿の頭をかたどった面をかぶり、衣装をつけて、太鼓の音に合わせて、ゆっくりとした旋律で優雅に舞う。(県)	A
	233	17	**御田植神事(どろんこ祭り)** 7月第1日曜(7月田休みの日) 三嶋神社の神田	牛によるしろかき、畦豆植え、神楽「三番降ろし」、早乙女の手踊り、お田植えを行う。地域の人々の心身をいやす行事として代々伝承されてきたが、担い手や牛の確保が困難となり、平成30年(2018)から休止している。(県)	D
	233	1・18	**どんど焼き** 1月小正月頃の土曜か日曜 三嶋神社上の広場	長い竹数本とヒノキを組んで円錐形に立て、その中に取り外した正月飾り等を入れて焼き、無病息災や家内安全を願う。	A
	233	34	**三上茶堂のお接待** 8月の日曜 三上茶堂	往来する人々などにお茶や茶菓子でお接待をする。	A
	233	8	**お不動様** 旧1月16日 古市不動尊堂	近郷の人々がお不動様の功徳を求めてお参りをする。以前は出店もあり、参詣者も多かったが、現在は過疎化によりお参りする人が減った。法要を実施。	A

市町村	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
西予市	234	19	**高野子の東光寺念仏** 8 月第 1 土曜 東光寺境内	太鼓の周りに輪になり、太鼓に合わせて鉦を叩く。この地の念仏は高野楽で、一遍上人の始めたものを伝承したものといわれている。	B
	234	19	**川津南の西方寺楽念仏** 8 月第 1 日曜 西方寺境内	楽念仏の演じ手は大太鼓7名、すり鉦15名。この地の念仏は高野楽で、一遍上人の始めたものを伝承したものといわれている。打ち上げが勇壮で特色がある。念仏の楽器の構成は胴取（大太鼓）7人、楽方（鉦）15人で念仏と染め抜いた揃いの浴衣を着け、白足袋に草履を履き、笠を冠ったいでたちで行う。（市）	B
	234	エ	**愛宕精進** 12 月下旬	防火祈願のため、高野子の牛鬼渕に入って水ごりをとる。	B
	235	エ	**龍澤寺花祭り** 4 月第 3 日曜（4 月第 1 日曜） 龍澤寺	早朝から檀家の方々が「甘茶」の仕込みをはじめ、午前９時頃に住職が花御堂の魂入れを行い、花祭りがスタートとなる。以前は本堂までの長い参道に延々と露店が立ち並び、地域住民や参拝客でひしめき合っていたが、現在では露店の数も減り、以前のような賑わいはなくなっている。	A
	235	15・23	**魚成の実盛送り** 6 月最終日曜日 田穂・魚成・今田地区	五穀豊穣、害虫退散を祈願する虫送りの行事で、斎藤別当実盛が稲株に足を奪われ不覚の最期を遂げて虫と化したと伝えられ、実盛の人形を地区送りする。田休みの日に近い日曜日に宝泉寺で実盛人形の入魂供養の後、田穂の大池へ移されて念仏供養の後、川下へ向かって行列がはじまる。途中の茶堂で小休憩し、住民が「さんや袋」に弁当（かしわ餅・赤飯など）を供える。最後は今田の杉の瀬川原まで運ばれる。（市）〔詳細調査報告40参照〕	A
	236	19	**田之浜地区の盆行事** 8 月 14 日 （8 月 14 日～ 15 日） 田之浜地区グラウンド	盆の行事として8月14日の夕刻から夜8時頃にかけ、田之浜地区グラウンド(旧田之浜小学校運動場)にて櫓を中央に組み、輪になって行われる。櫓には笹竹に短冊を飾って立てるほか、初盆を迎えた故人の名前を記した木製の看板を取り付ける。踊り手は、舞踊クラブの女性や新盆を迎えた故人の家族を中心に自由参加の者も加わる。ひょっとこのお面等で仮装する者もおり、賑やかに行われる。後半には大太鼓の囃子で数名の歌い手による口説きが演じられる。「石童丸」、「鈴木主水」、「一つ節」、「阿波の鳴門巡礼」等の演目が盛大に行われる。以前は翌8月15日も併せた2日間の日程で夜10時まで行っていたが、騒音問題により、20年ほど前から日程及び時間とも短縮されて現在の形となった。なお、盆踊り前に5日間に渡り口説きと踊りの振り付け講習が行われるが、講師を務める舞踊クラブの高齢化により継続が危ぶまれている。	B
	236	19	**宮野浦地区の盆行事** 8 月 14 日 （8 月 14 日～ 15 日） 旧高山保育所跡地	中央に櫓、その隣に初盆の方の提灯を飾り、家族、親戚、知人が席を設け、その周りを子供から大人が輪になり、各地域の音頭の曲に合わせて踊る。その後、先祖供養の太鼓踊りを口説きに合わせて踊る。かつては8月14日,15日の両日に渡り行われていたが、30年ほど前に15日のみとなる。さらに帰省する人が盆踊りに参加できるよう平成22年頃から8月14日に変更された。	B
	236	22	**客人神社の秋祭り** 10 月第３土曜 （10 月 25 日） 客人神社	毎年10月の第3土曜日に行われる。以前は10月25日に行われていたが、祭りの参加者確保のため、20年前頃から現在の日程となった。前日から、神社の清掃、お旗立て、牛鬼の飾り付け、お旅所の設置等、祭りの準備を行う。当日早朝より客人神社にて神主による神事があり、続いて宮出し、小学生による子供牛鬼、子供神輿、牛鬼が大通りに繰り出し賑やかに練り歩く。牛鬼の顔は鬼、胴体は牛、尻尾は剣をかたどっており、神輿の先導を務め、悪魔祓いをする。なお、牛鬼の頭は毎年作り変えられる。地区内は狭路が多く、細い道は牛鬼を頭だけにして、ダイバンと言われる鬼の面を付けた者などと共に練り歩き、家々を廻る。牛鬼もダイバンも神輿の先導を務め、道を清める露祓いの役目がある。牛鬼は廻った家々にて威勢の良い掛け声とともに頭を突き入れる。これは家の中の魔物を取り除き、地区から魔物を排除するために行われるものである。家々ではご馳走を用意し、来客をもてなす。午後5時を過ぎるとお練りが終了し、子供牛鬼を先頭に神輿の還御にて祭りが終了する。	A
	236	22	**天満神社の秋祭り** 10 月 25 日以降の日曜 （10 月 25 日） 天満神社	毎年10月の第4日曜日に行われている。以前は10月25日に行われていたが、20年程前より、祭りの参加者確保のため休日に実施されるようになった。10月に入ると神社総代、区長会、青年会(蒼風会)を中心に牛鬼の修繕を行う。祭り前日には田之浜港にて荷上場に篝火を焚き、神輿と牛鬼の舁き手が海に飛び込んでは潮垢離をとり身を清める。牛鬼は海中につけておく。篝火が崩れかける終盤に牛鬼を引き上げる。舁き手の飛び込みは祭りを盛り上げるため明浜町高山地区を参考に5、6年前から行われるようになった。引き上げられた牛鬼は神社に置かれ、その日のうちに青年会により飾り付けが行われる。当日は早朝より天満神社にて神事が行われ、7時頃に宮出しとなる。牛鬼、神輿、子供神輿が浜通りや船上にてお練りを行い、6時頃に宮入(おかえり)となる。おかえりでは牛鬼、神輿とも海につけ舁き手も身を清めた後、神社境内に入る。宮入り後は牛鬼の頭を2人で舁き、事前に申し込みのあった家々を廻る。各家庭では料理を用意し、来客をもてなす。この日は市外、県外から地区出身者が帰省し、田之浜は年一番の賑わいを見せる。	B

市町村	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
西予市	236	27	**亥の子** 11 月亥の日 田之浜全域	11月の亥の日に行われる子どもの行事。地の神に感謝を捧げるため行われた。田之浜地区では亥の子石の代わりに笹竹を用いる。当日の夜、子どもたちが笹竹をつき家々を廻り、めでたづくしの亥の子唄を歌う。近年児童数の減少により存続が難しくなっていたが、平成27年度をもって田之浜小学校が閉校したことにより行事も休止となる。	D
	236	8	**天満神社の春祭り** **(御神楽)** 3 月 25 日 田之浜地区グラウンド	各家庭では料理を用意し、来客をもてなす。神社前の浜通りには出店が並び、賑わいを見せる。田之浜出荷場では当日朝に神楽場が設けられ、神社での神事の後、神楽が奉納される。なお、地区内に神楽の伝承団体はなく、現在は八幡浜の高野地神楽を招いて行っている。	A
	236	10	**奉納相撲** 4 月第2日曜(4 月 10 日) 田之浜地区グラウンド	西予市明浜町田之浜地区で4月の第2日曜日に行われている。以前は4月10日の金毘羅宮の祭礼日に合わせて開催していたが、力士確保のため、平成29年度から現在の日程に変更された。文化9年(1812)と文政11年(1828)に起きた田之浜大火事を受け、鎮火祈願のため毎年地区民の代表が香川県金毘羅宮へ参詣するようになる。この金毘羅代参に併せて行われるのが奉納相撲である。代参のメンバーは3月初めのお伊勢踊りの日に抽選により決定する。東区と西区より1名ずつ選出し、翌年の3月中に代参する。この金毘羅代参は現在も続けられている。事前の準備として、前日に区長会を中心とした有志で山で竹を切って梵天を作り、祭祀当日に魚介・野菜、力飯等の供物と一緒に奉納する。また、神社にしめ縄を飾り付け、神社向かいに上り旗を立てる。力飯は区長の妻が調理し、組長が各戸配布するほか、力士たちにも振舞われる。会場の田之浜地区グラウンド(旧田之浜小学校運動場)に土俵を築く。当日は午前中に世話役宅に神主を招きお祓いを受け、次に土俵でも同様にお祓いを終えた後、力士たちによる相撲取りが行われる。力士は地元青年会が中心となって担い、小中学生たちも参加する。	A
	236	8	**天満神社のお伊勢踊り** 3 月 6 日 天満神社	天満神社にて数名の女性たちが御幣を持ち、太鼓の音に合わせてお伊勢踊りの歌を奉納する。以前は神事の後に申し込みがあった家々を廻り、申し込みの多い年は2日間に及ぶこともあったが、歌い手の高齢化により現在では行われていない。なお、50～60年前までは歌と一緒に踊りも奉納され、踊り手歌い手ともに男性が務めていたが、継手不足等の理由により女性も加わり、今の形となった。なお、この日に金毘羅奉納相撲に関連する金毘羅代参の抽選を実施することになっている。	C
	236	22	**賀茂神社秋祭り** 10 月第4 土～日曜 (10 月 24 日～ 26 日) 賀茂神社	宵祭りの夜に、篝火を焚く中、神輿かき、警護の若者全員が、海に飛び込んで潮垢離をとり身を清める。当日、神輿渡御の「お浜出で」で牛鬼、太閤様と呼ばれる山車、相撲甚句などが賀茂神社からお旅所までを練る。 五つ鹿が出ていたが、継承者・指導者不足により中断している。(市)	C
	236	15	**賀茂神社お伊勢踊り** 3 月 11 日(2 月 11 日) 賀茂神社	昔は2月11日に行われていたが、今は月遅れの3月11日にお宮の拝殿に集まり宮司が祝詞を奏上し、御幣を貰って帰る。　以前は、この日を「生命ながの日」とし、午前氏神様にお伊勢踊りを奉納。予め御幣を女竹に挿してお宮の前に集まり、御幣を肩に、太鼓の周囲でお伊勢踊りの歌を唄いながら踊る。	C
	237	22・35	**春日神社の秋祭り** **(春日神社秋季例大祭)** 10 月第4 木～土曜 (10 月 23 日～ 25 日) 春日神社および本浦、 枝浦御旅所付近	毎年10月下旬に行われ、御幸祭を含む3日間を指す(以前は10月23日～25日)。オハケオロシ(清掃、幟旗や御旅所設営など)から始まり、翌日は春日神社にて祭典、宵祭り。さらに翌日御幸祭(神輿巡行、各練り)と続く。練りには、牛鬼、五ツ鹿踊り、お船練り踊り、相撲練り踊り、太神楽など多種多様である。御幸祭当日は、早朝より春日神社にてご神体御霊移しがおこなわれ、お祓いの後各練りは本浦地区の御旅所へと向かい、練りを奉納する。その後、牛鬼がお祓いをし、神輿が3周廻って御仮屋に納められると同時に牛鬼が暴れ始める。牛鬼と神輿を担ぎ、観客との押し合い圧し合いが繰り広げられ、祭りが盛り上がってゆく。午前中は本浦地区御旅所で祭典があり、昼食、そして海上渡御となる。各練りは乗船し湾内を3周、枝浦地区に上陸する。各練りは神輿が御旅所に着くまでに、再び練りをおこなう。やがて神輿が到着、枝浦御旅所で3周し鎮座すると同時に牛鬼も暴れだす。本浦地区と同様ここでも牛鬼は暴れまわり、更に祭りが高揚してゆく。人々はこの日家々の飲食などのもてなしがあり、地域の連帯が生まれてゆく。やがて日も沈む頃(地元で「まぐら」という)、お祭りの最大の見せ所である宮入り(御還り)で最高潮に達する。神輿3体が春日神社の階段を一気に社殿まで駆け上がり、拝殿に収められる勇壮で果敢なこの宮入りは、見る者に感動を与え、お祭りを締めくくるに相応しい場面である。そして中庭で五ツ鹿の踊りが奉納され、これにより3日間続いたお祭りに幕が下ろされる。(市)	A

市町村	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
西予市	237	27	**亥の子** 11 月亥の日 狩浜・渡江	朝早く亥の子石を担ぎ、春日神社にお参りをし、その後地区を廻る。家々の玄関で、まず「舞い込んだ、舞い込んだ、福の神が舞い込んだ」と唱えながら次々と亥の子唄を唄ってゆく。やがて庭先で、数名が紐を引っ張りながら地面を亥の子石で突く。唄は長唄、小唄など地区によっていろいろな唄がある。大将が家からご祝儀をもらい、次の家へと向かう。一般に家を廻る時、上(かみ)から下(しも)へ移動する暗黙の了解がある。終了後は宿で食事などの慰労会をする場合もある。近年児童の減少で、女の子も参加するようになった。	B
	237	8	**狩浜のお伊勢踊り** 4 月 1 日 春日神社社殿内	五穀豊穣、厄除け、健康祈願、雨乞いやかつては戦勝祈願などを願って、春日神社で行われる。戦時中は、毎晩のように戦争の出征者の無事を祈願して、お伊勢踊りが行われた。今は年一回春の行事として定着した。住民は各々御幣(細長い木の枝に白紙を切ってつけたもの、地元では「ひ」ともいう)を持って春日神社に詣でる。社殿にて本浦地区と枝浦地区に分かれ、独特のリズムで打ち鳴らされる太鼓に合わせて交互に伊勢神宮ゆかりの歌を歌う。歌は威勢のいいのが良いとされ、「今年はこちらの地区が元気だった、○○さんの声が良かった…」などと事後の話の種となる。曲も歌詞も起源は古く、元寇の頃の話が起源だとされる。江戸時代初期に南予に伝わったとされ「お伊勢踊り」として拡がっていった。曲調は非常に日本的である。また合間に、ちょっとした飛び入りの舞も披露され、雰囲気も盛り上がる。	A
	237	8	**祇園祭（祇園様）** 7 月 15 日 狩浜門の脇地区	門之脇東山に祀られた祭神建速命(タケハヤスサノオノミコト)の建速神社のお祭りで、大漁祈願や五穀豊穣、家内安全などを願う(現在は春日神社に合祀されている)。昔は地域の若者がお祭りのお世話係をしていたが現在、U氏がその役を引き受け、祭日の7月15日に幟旗を立て、お供えなどを行っている。幟旗は昔、浜辺にも立てられていたが、現在は境内のみ。当日、地域住民はその祠に参拝するが、夕時になると集会所において地区住民による演芸大会も行われ、夏の夜に華やかな彩を添えている。	A
	237	14	**石担ぎ（落ち着き石）** 随時 狩浜地区	新婚さん、あるいは間近に結婚予定のお家に、ご近所や班の人たちが「おっつき(落着)石」を担いで新婚さんの家まで運び、庭や軒先に置いてゆく風習を言う。「おっつき石」とは、石の上にもうひとつ石を乗せた上下一組の石のことで、この家にしっかりと落ち着いてほしいとの意味があると言われ、近所の人たちが山などから探してくる。当日班の人たちを中心に十数人が、きらびやかな衣装や賑やかな衣装をまとい、先頭の者が「どっこいしょ、どっこいしょ」と音頭を取りながら、棒に吊るしたおっつき石を4～5人で担いで行進する。家につくと、庭や軒先におっつき石を置き、そこの家人からおもてなしを受ける。	A
	237	12	**竹網** 8 月 7 日 加茂神社から中浜	旧暦七夕の日になると、渡江の子供たちは、竹を船のように組み立てた「竹網」に旗や下がり網などを飾り、担いで地区を廻る。昔は東と西に分かれて、浜で喧嘩し、竹網がボロボロになるまでやったという。この行事は渡江地区の催しだが、最近まで狩浜地区まで歩いて廻っていた。明浜町渡江地区には、現在でもこの行事を行う日に、軒下に柳餅を飾る家がまだ少し残っている。(市)	D
	237	8	**加茂神社秋祭り** 10月第4金曜(10月24日) 加茂神社	お祭り当日、神社にて神事、お祓いがあり、その後子供神輿が地区を巡行する。夕方になると宮入となる。この子供神輿は地元ゆかりの人の寄贈であるが、近年子供の数が減少し、子供神輿の担ぎ手確保に苦労している。	B
	237	19	**盆行事** 8 月 14 日・8 月 17 日 (8 月 13 日～ 14 日)	渡江地区は14日、狩浜地区は17日に、歌舞伎くずし盆踊りを踊る。(市)	A
	238	22	**天満神社** **・大山神社の秋祭り** 10月最終日曜(10月25日) 天満神社・大山神社	前々日に地区内の神社や各所御旅所に祭り幟を立てる。以前は祭り幟を立てる日に若者で「おはつけおろし」を行ってご馳走をし、前日には餅つきや豆腐作りを行った。当日は地区内にある大山神社・天満神社と地区内に4か所ある御旅所を神輿と牛鬼が巡回し、先々で式典を行い、巫女の舞が行われる。神輿には若者が扮した鬼が同行し、錦の着物をまとって鬼面をつけ、子どもを手に持った榊の枝で叩いて悪魔祓いを行う。鹿の子が出て、大山神社、天満神社の境内と御旅所、一般氏子の中で年内に子どもが生まれた家の庭先などで五つ鹿踊りが行われる。現在ではすたれているが、かつては甚句や屋台芝居なども行われていた。	B
	238	8	**祇園祭（俵津夏祭り）** 7 月の第２土曜 (7 月 14 日) 俵津大浦祇園町	祇園町を中心とした祭りで、悪病払いの祭りとして行われている。地区内の天満神社の神輿を設置してその前に祭壇を設け、その周辺で式典を行う。その際に周囲には夜店なども出店し、地区民全員が集まってにぎわう。祭りの終盤には担がれた神輿の下を地区民がくぐる行事が行われ、神輿をくぐったものは健康に過ごせるといわれている。かつてはこの日に潮を浴びることで悪魔払いの効果があるといわれていた。また、切り口が神紋に似ているという理由で、この日はキュウリを食べないという習わしもあった。	B

市町村	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
西予市	238	27	**亥の子** 11 月最初の亥の日 (11 月の亥の日すべて) 俵津地区内全戸の庭先	地の神に感謝して行われた男子の行事とされ、かつては旧暦10月のすべての亥の日に行われ、最初の亥の日を初亥、次のを中亥、後を乙亥と伸び、男子たちが亥の子をついて祝った。大黒の大の字を刻み綱をいくつも取り付けた亥の子石と、「大国主命と子どもの組名」を書いた幟を一緒に持った男児たちが学区ごとのグループに分かれて家々を回った。戦前は大黒様の木像をのせた山車も出され、夜は笹に赤い提灯を付け、明浜町俵津大浦にある祇園町までそれぞれの組が亥の子をつきに出て競い合った。現在は亥の子の回数も減り、女子も参加するようになった。	B
	238	19	**俵津の盆行事** 8 月 13 日(8 月 14 日) 俵津保育所	昭和28年までは、口説きによる盆踊りが行われていた。それ以降はレコード音源のみで太鼓等の楽器もない。以前は俵津公民館の広場で行われていたが、現在では俵津保育所の園庭を利用して行われている。会場中央にはジャングルジムを利用して作られた簡易の櫓が設置され、四隅には七夕のような竹飾りが設置される。曲目は以前は口説き歌などであり、隣接する渡江地区のような歌舞伎くずしの盆踊りも行われていたが、現在は炭鉱節や近年に作られた明浜音頭やみかん音頭などが流されている。	E
	238	12	**竹網** 8 月 6 日・8 月 13 日 俵津地区全域	この行事は元来、網を置いて引き上げる作業の練習をさせる目的で始まったといわれ、当初は地区内で東西に分かれて2台の担ぎ物を作っていたという。大きな竹2本に横竹を渡し、骨組みを作って幕を張った簡易なテントを上に乗せて屋形船に見立て、舳先を模した前後には梵天飾りをつけた担ぎ物を竹網と呼び、中学生くらいの大勢の子どもたちがこれを担いで地区を練り歩く。東西それぞれがつくった竹網を押して神社にお参りをし、その後中浜に集まって歌を歌いながら東西で喧嘩し、竹網がボロボロになったほうが負け、東西の大将の「ヤレマケ、ソレマケ」の掛け声で竹網を置き、網を置くような形で円形を作って廻り、引き上げるまでを行った。時代の変遷とともに子どもの数が減ったことで竹網の数は1台になり、七夕の時のみ行われるようになったという。	D
	239	2・22・30	**国造神社の秋祭り** 10 月 15 日に近い土日 (10 月 14 日～ 16 日) 三瓶町朝立国造神社	朝立地区の秋祭りは、安政6年(1859)当時、朝立の庄屋、菅長右衛門武雄の長男武敏が7歳の時に始まったといわれる。四ツ太鼓に乗せ、神輿と朝立地区を練り歩いたことが秋祭りの行列となり、長男で7歳の者が四ツ太鼓に乗る例となった。その後、牛鬼・唐獅子・五ツ鹿・相撲甚句・奴・浦安・稚児の行列が加わり、賑やかなものになっていた。現在の「ねり」は牛鬼を先頭に、金幣、奴、稚児、相撲甚句、唐獅子・五ツ鹿、神輿、四ツ太鼓と続き、およそ200mにも及ぶ大行列となる。練りは、神輿を中心に大名行列を模したものであるが、地区の各所に御旅所といわれる場所がある。御旅所では、各練りによる芸能の奉納等の神事が行われ、最後に牛鬼と四ツ太鼓のかちあわせが盛大に行われ、祭りは盛り上がる。感染予防のため令和2・3年は中止。(市)	A
	239	8	**金比羅様** 8 月 9 日 (旧 7 月 8 日～ 9 日) 高福寺	金刀比羅神社(上の社)では神職による神事が行われ、地元(4区、5区、7区)の総代会により輪抜けが開催される。各地区において事前に、紙の人形が配布され、当日は名前・年齢を書いて持参し、奉納する。参拝者は、輪をくぐり、無病息災を願う。金刀比羅大権現(下の社)では津布理青年団が、子供相撲を開催する。元々上の社で、大人の相撲、子供の相撲が行われていたが現在ではこの場に変更され、少子化により男児だけでは寂しいことから、女児も交えて行っている。各学年の勝者上位2～3人に対し、梵天と菓子を渡す。感染予防のため令和2・3年は中止。	A
	239・241・242	27	**亥の子** 11 月亥の日 (旧 10 月亥の日) 各家の前	亥の日の夕方になると、男の子供たちが亥の子唄をうたいながら、部落の家々を亥の子石をついて回る。石で地面を強く叩くことで悪霊を地下に閉じ込めたり、モグラの害を防いだりして豊作になるよう祈願する。また、無病息災で家がますます繁栄するように祈る。家々では祝儀を出す。祝儀はつき終ってから亥の子宿で、亥の子組の大将が分配する。	A
	239・240	15	**お姫様祭り(姫塚まつり)** 4 月 28 日に近い日曜 (4 月 28 日) 姫塚の前	ハンセン病で亡くなった姫を祀る石祠で、部落が地区住民の無病息災を祈願しておこもりをしている。祭日の前には石祠の周囲を清掃し祠前にしきびを捧げる。当日は、神酒、飲料水、お弁当、お菓子などを用意する。ご詠歌を捧げ、大般若経をとなえた後、御神酒などをくみ交わし、御馳走を食べながら語り合い親交を深めている。	B
	239	8	**三瓶様のおこもり** (4 月 18 日) 三瓶様の祠・公民館	祠に神酒と榊を奉じ、部落民35人が公民館に集まり飲食をし親交を深める。ある期間途絶えていたが、昭和54年(1979)4月28日祠に神酒と榊を奉し、部落民35人が公民館に集まり、飲食をし親交を温めた。今後も毎年4月18日におこもりをすることにした。	D

市町村	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概　　要	存続状態
西予市	239	18	**揚のお日待ち** 旧１月 20 日(1 月 20 日) 当番の家	三瓶町一区の4町内会で実施されている。五穀豊穣・住民の健康を願って、地区民一同が集まり親睦を深める行事である。現在は、夕方の会は、時期の町内会役員を選出する町内会総会を兼ねている。朝8時頃、町内会役員4名と神職だけで祈願する。夕方18時頃から宿に地区民が集まる。宿は地区内、持ち回りで受け持つ。簡単な祭壇をつくり、宮司とともに天照大神に感謝し、豊作を祈る。	B
	239	15	**祇園様祭り（わぬけ）** 7月 14 日(旧６月 14 日) 祇園様祠	前もって社寺総代が人形を各戸の人数分配る。配られた人形に名前や年齢を書き込み一晩寝具に敷いて寝る。前日、区の役員五名で輪をつくり設置する。当日は太鼓の音を合図として、地区住民がお参りに来る。前もって配られた人形(ひとがた)に犯した罪やケガレ、病気・災難除けを託し社殿に奉納する。感染予防のため令和2・3年は中止。	B
	241	2・22	**三島神社の秋祭り** 10 月第２土日 (10 月 14 日～ 15 日) 三島神社	宮出しの神事の後猿田彦命の先導で、太鼓、幟、昔ながらの装束に身を整えた神輿、牛鬼、唐獅子、四ツ太鼓、稚児、浦安等の行列が蔵貫村の船田の行宮に行き、練りの芸能を次々奉納する。夕方浜の行宮で同じような神事を行って宮入りとなり、還御の式が行われて一日の祭りが終わる。この祭りの楽しみは、途中での神輿の動きだといわれている。浦、村、合同の三体の神輿をそれぞれ10名の者が担ぐ。浦、村5名ずつが担いだ一体の神輿は自分の出身地の指示に従おうとするので、担ぎ手同士の駆け引きが楽しめる。コロナ流行中の令和3年、令和4年は実施しなかった。（市）	A
	241	15	**蔵貫の実盛送り** 7月１日(旧７月１日) 福善寺・金光寺	福善寺で住職に祈祷してもらい、短冊を書いてもらう。笹竹に短冊と小さなホゴ(稲わらで編んだカゴ)をつける。ホゴには麦飯と藁でできた人形を入れる。そして用意ができた笹竹は地区の四つ角に立てる。17時ごろ、中お旅所(なかおたびしょ)まで持って行って蔵貫浦の役員に引き渡す。金光寺でも住職に祈祷してもらい、短冊を書いてもらう。笹竹に短冊と小さなホゴをつける。ホゴには麦飯と藁でできた人形を入れる。笹竹は金光寺に立てておく。17時ごろ、中お旅所で蔵貫の笹竹を受け取り、2本とも海に流す。一日の行事の終わりである。	A
	241	19	**有太刀の念仏講** 8月 14 日 有太刀の念仏堂	大きな数珠を輪になって廻し、豊作や無病息災を祈願する行事。地区の大きな岩の下に、念仏堂と呼ばれる観音様がある。そこで、住民約10数人が輪になって、大きな数珠を回しながら「なんまいだ、なんまいだ」の念仏を21回唱える。それを3回行って、1年間の無病息災などを祈る。踊りはない。	A
	241	19	**皆江の盆踊り** 8月 15 日(旧８月 15 日) 皆江農協横の広場 皆江歌舞伎くずし踊り保存会	盆踊りを行う。歌舞伎くずし、扇踊りがあり、地区で前年亡くなった者の遺影を背負って踊る姿も見られる。コロナ流行中の令和2年、令和3年は実施しなかった。（市）	B
	241	24	**有太刀の大草履** 2月 16 日(旧２月入り) 有太刀公民館	大草履は、地区の境界の道沿いに置いて「この地区には、こんなに大きな足をした人がいる」と示すことで災厄などの侵入を防ぎ、地域を災難から守り、無病息災や五穀豊穣を祈る行事とされる。	A
	241	15	**有太刀のお伊勢踊り** 2月 16 日(旧２月入り) 有太刀稲荷神社	地区の神社の前で円陣となり、御幣を振りながら二度に渡る元寇の際の伊勢の神威を讃えた歌詞を謡い、神前で踊り、主に無病息災・厄払いなどを祈願する。神職にお祓いを受けた御幣は地区の全戸に配る。33歳、42歳など厄年の家・新築の家など招待のあった家に行き、御幣を持って歌い踊る。コロナ流行中の令和2～4年は実施しなかった。	B
	241	15	**蔵貫のお伊勢踊り** 7月、8月、3月の第１日曜 (旧２月１日) 神明神社	現在は踊りはなく、御幣を振りながら神威を讃えた歌詞の謡のみを奉納している。神明神社で、 蔵貫・ 蔵貫浦の両地区が実施している。	B
	241	8	**下泊のお薬師さま** 旧４月８日 神子の浦薬師堂	灌仏会、お釈迦様の誕生祝い。甘茶をもらい家内中でいただいた。甘茶を目につけると眼病が治るとの信仰があった。	A
	241	15	**下泊のお薬師さま** 旧４月８日 神子の浦薬師堂	前日までに人形を各戸に配っておく。当日は人形に名前を書いて持参し、輪をくぐり無病息災を願い、人形を奉納する。コロナ流行中の令和2～3年は中止。	A

市町村	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
西予市	242	8	**神谷神社の秋祭り** 10 月 15 日に近い土曜 (10 月 15 日) 神谷神社・周木産業会館	当日の午前8時頃、神職・区役員・祭り関係者(神輿、稚児、唐獅子)が神谷神社に集まる。そこで祭りの開催を宣し、神輿等の魂入れの神事を行う。9時頃、周木産業振興会館の特設舞台へ移動する。そこで神輿三体を鎮座させ、その前で再度神事を行い稚児の舞・唐獅子の演技を奉納する。その後、唐獅子は地区内を廻りはじめる。神輿等は神職、区長、区長代理、社寺総代(三名)が終日待機して見守るのが習慣である。13時から16時までお神楽(垣生神楽)が行われる。お神楽終了後、神輿が地区内を巡行する。宮入りは20時～21時頃である。コロナ流行中の令和3年は実施しなかった。	A
	242	15	**二及のお伊勢踊り** 2 月 1 日(旧 2 月 1 日) 三瓶町北公民館	舞台に神輿をお迎えして、その前で、男性の15名～20名の踊り手が円陣となり、小麻(こぬさ)を持つ手の変化を繰り返して踊る。女性が、二度に渡る元寇の際の伊勢の神威を讃えた歌を謡う。現在では、主に無病息災を祈願するものとなっており、大病の手術の折など、親族などが踊って平癒を祈る。(市)	A
	242	エ	**お薬師さま** 4 月 8 日 垣生地区薬師山	お釈迦様の誕生祝いである。寺で甘茶をもらい家内中でいただいた。三瓶町垣生の薬師山では薬師如来祭がおこなわれた。甘茶を目につけると眼病が治るとの信仰があった。 昭和の末頃からすたれていたが、平成24年 (2012) 、垣生地区の行事として地域づくり交付金を活用して「垣生地区お薬師ふれあい祭り」として甘茶の接待はもちろんのこと、特産品の販売、こども相撲大会などを実施。甘茶は、三宝寺で用意してもらったものを社寺総代が接待する。区の役員他総勢20～30人ほどが当日は関わっている 。令和2年、令和3年のコロナ流行期は中止。	E
	242	8	**垣生客神社祭礼**	春祭と秋祭に垣生神楽が奉納される。感染予防のため令和3年は中止。(市)	A
	242	19	**周木の盆踊り** 8 月 15 日(旧 7 月 15 日) 浜の広場	地区の広場に櫓を組み、櫓の上で番傘をさして口説く。盆踊りは両手に日の丸の扇子をもって踊る。コロナ流行中の令和3年は実施しなかった。(市)	A
	242	18	**二及のお日待ち** 旧 1 月 20 日 二及地区	日の出を期して祭りを始め、約20分で拝神を終わり、夕方結願の行事をする。そのあと飲食をし、部落民の親交を深める。	D

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概　　要	存続状態
宇和島市	243	22	**宇和津彦神社秋祭り** 10月29日 宇和津彦神社・市内中心部	宇和島城下の総鎮守であり、一宮様(いっくさま)の愛称で知られる。戦前まではねりもたくさんあり、宇和島地方の秋祭りの代表的存在であったが、戦災でねりが失われ、現在の形になった。丸穂地区の牛鬼は大人がかく。子供牛鬼も多数ねる。その他、猿田彦と白鷺の舞い(愛宕町)、八ツ鹿踊(裡町1丁目)、荒獅子(佐伯町)が現在行われているねりで、子どもが担い手である。また、野川地区のお槍振りは中断中であるが、地元の中学生によって復活のきざしが見える。令和3年は神事のみ実施。(市)	A
	244	18	**えんま祭り** 旧1月16日前後の3日間 西江寺	臨済宗妙心寺派の西江寺に安置されているえんま大王、大黒天、弁財天について、3日連続でそれぞれ縁日が行われる。仏教では、旧暦1月16日は、地獄の釜の蓋が開く日とされる。本堂では、地獄極楽絵図、えんま大王図(村上天心作)、涅槃図など約50点が開帳される。勧善懲悪を説くと共に、春待ちのお祭り。	A
	244	17	**十日えびす** 7月10日 恵比須神社	宇和島市の中心地の商店街にある恵比須神社(中央町)の祭りである。商売繁盛と大漁を祈願する。縁起物として福笹、福俵が販売される。7月10日に行われ、神事は宇和津彦神社が担当する。昼は猿田彦に先導された子供神輿が町内を巡行する。祭りは夜に人出が多く、商店街の夜市としても活用されている。令和3年は感染予防のため中止。	A
	244	27	**桝形町いのこ** 11月下旬の日曜(亥の日) 桝形町	6～8年程前までは、亥の日に実施していたが、現在は鶴島小学校の学習発表会に合わせて行っている。参加者は、小学1年生から中学生までで、歌う唄は一曲になっている。	B
	245	22・35	**宇和島牛鬼まつり** 7月22日～24日 (旧6月23日～24日) 和霊神社、商店街	元々は和霊神社の夏祭りであり、領民の守護神である宇和島藩家老山家（やんべ）清兵衛を祭神とする。魚事、農事の大漁、豊作を祈願した祭り。戦前は、現在と形が異なり、ねりが主体の祭礼で、宇和島の町部分の祭礼であった。昔も今も宇和島の住民が最も楽しみにする行事である。昭和の時代まで、近在からの参拝の船が内港を埋め尽くしたが、今は見られない。戦後、宇和島市が観光客誘致や町の活性化の為に協賛し、宇和島地方最大のイベント化している。神社の境内には露店が多数並ぶ。宇和島音頭、ガイヤカーニバル、牛鬼パレードなど戦後始まったものが多いが、クライマックスの走り込みは、起源が不明であるものの、明治時代には確認できる。松明をもって神輿に供奉して走るものであるが、現在も松明は危険のない範囲で使用されている。神輿の海上渡御、須賀川での走り込みも昔通りに行われている。西日本豪雨、コロナウイルスで中止が続いたが、令和5年から再開された。〔詳細調査報告37参照〕	B
	245	2・22	**伊吹八幡神社秋祭礼** 10月16日 伊吹八幡神社	旧宇和島市では、宇和津彦神社、三島神社と並ぶ秋祭り。ヨイサと呼ばれる四ツ太鼓が勇壮で知られ、3地域から出ている。牛鬼は大人がかくものは戦前からすでに無く、子ども牛鬼であり、それぞれの愛護会から10体ほど出ている。夜には河原で神輿の走り込みがある。雪輪獅子という女の子の踊りがあるが、これは近年新しく始まったものである。	A
	246	19	**石応の盆行事** 8月14日 新盆の家	新盆を迎える家を訪れ、地区の娘が浴衣を着て扇子と綾をもって供養の踊りを行う。九島の扇子踊りと同じである。囃子方(男性57歳から70歳)は口説きという。近年、公民館に新仏の位牌を集めて供養するように変更した。令和2年より中断中。	D
	246・247	17	**竜王祭** 9月18日 竜王祭	宇和島市九島の沖にある竜王島へ渡って、近隣の浦々が集い、大漁祈願、魚業繁栄、航海安全、家内安全を祈願する。地区は小池・小浜・大小浜・石応・白浜・蛤・百之浦・平浦・本九島・蕨である。神事を島で行った後、それぞれの地区で直会をする。隣の遊子地区も同じ日に竜王祭をおこなう。	A
	247	19	**九島の盆行事** 8月14日～15日	16～18歳の女子が、扇子を巧みに操りながら踊る扇子踊りを行う。かつて踊り手は数え年18歳の女子全員で、人数は決まっていなかった。口説きとはやし手が太鼓をたたきながら謡う。8月14日は、新盆を迎えた新仏の家を訪れて踊り、15日は港の広場で踊る。かつて、本九島、百之浦、蛤にあったが現在は本九島のみで行われる。(市)	B
	247	29	**よはい様(二十四拝様)** 4月29日 九島の西半分の地域	明治時代初期、対岸の宇和島市高串の地四国巡りを真似て九島に作られた。親鸞聖人の高弟24人が建てた寺にちなんだ石仏を巡拝するものである。毎年4月29日に御開帳があり、地区住民が、45ヶ所に上る石仏を約5, 6時間かけて回る。近年は、民俗行事というより健康増進のためのハイキングとして活用されている。	A
	248	2・22	**三島神社秋祭礼** 10月14日 三島神社	宇城南総鎮守三島神社の祭り。子供神輿や子供牛鬼が多数出る。練りは地域ごとに出しものが決まっていて、牛鬼、唐獅子、四ツ太鼓、猿田彦、カブが出る。カブは獅子に似た頭を持って、人々の頭をかんで厄を落とす。12時に宮出しをして、御旅所で祭典をし、さらに休憩所があり、夜、走り込みによって還御する。感染予防のため令和3年は神事のみ実施。	A

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概　　要	存続状態
宇和島市	248	8	**山高神社祭礼** 8月4日～5日 薬師谷権現山	山高神社は権現山の頂上に鎮座して、古来から森の権現と称え宇和島および近郷の崇敬が篤い。創立年代は未詳であるが、現在の石祠は明暦3年宇和島の豪商油屋弥助、菊屋久治郎の寄進による。山林労働者も安全を祈願する。神像に背中をさすってもらい無病息災を祈念する。4日に薬師谷住民が御神体を持って上がり、山頂祭りを行う。5日は薬師谷で講社祭を行う。元は修験寺院が行っていたものである。	A
	248	12	**子安地蔵** 随時 子安地蔵堂	祝森の松ヶ鼻にある子安地蔵堂は、江戸時代、宇和島藩伊達家の安産祈願所であったと伝わる。妊婦が腹帯をする時に、腹帯をもってきて、ここで祈願してもらい、安産のお礼に、子どもの名を書いたよだれかけを奉納する。このお堂は、近くの普門寺の境外の堂である。	A
	249	2・22	**三浦天満神社祭礼** 10月16日 三浦天満神社	練りが出る。練りを担当するのは、神輿、牛鬼以外は保育園児から小学生まで、人数が足りず本来より少ない人数でおこなっている。4番の鹿踊りと6番の桃太郎は中断している。現在残るのは、1番お鉄砲、2番お弓、3番相撲練り、5番荒獅子、7番大江山、9番よいやさ、10番牛鬼で、8番はもともと欠番である。境内で奉納して、数百メートル離れた海岸の御旅所まで行列を組んで練り、再び奉納して終わりとなる。その後、神輿と牛鬼は三浦地区内を巡行する。令和3年は感染予防のため神事のみ実施。(県)	C
	250	19	**遊子の盆行事** 8月15日(旧7月15日) 津の浦集会所	海難者、新仏に対する供養の踊りであるいさ踊りを行う。青年、成人男子8人が、黒のたすき、黒帯、赤い鉢巻きをしめて、右手に大きいシデを持ち、数時間踊る。15日の朝4時から7時頃まで踊るが、これは、海難者供養である。さらに15時からも踊るが、これは新仏の供養である。踊りは20条あったが、4条が無くなっている。船をもやって海上で踊るのが伝統であったが、近年、陸上で踊るようになった。存続が難しくなっている。(県)	C
	250	8	**春祈祷** 4月11日 神明神社	春祈祷として4月11日に子どもによる伊勢踊りが行われる。踊り手は、遊子小学校の5、6年生男女で、遊子地区に住む者となっている。人数は10人弱である。花笠は下波と同じく各自が飾りをつけ、白の着物にそろいの袴の衣装である。10時から昼食を挟んで3時まで踊る。歌い手は、総代、自治会長、漁業役員などで、テープを使うこともある。	B
	251	19	**蒋渕の盆行事** 8月13日 (8月13日～15日) 蒋渕7集落の港	蒋渕7集落の盆踊りであるトントコ踊りを行う。8月13日の夜、2艘の船をもやって舞台を作り、蒋渕の浦々を回って、神仏と新仏の供養のために踊る。踊り手は8人で、シデを片手に回しながら、トントコトントコと太鼓や鉦、口説きに合わせて踊る。昔は15日の昼に、各集落の神々と平家の落人が遭難した落鼻(おとしのはな)でも踊ったが、現在は13日の一日で全て済ますようになった。(市)	B
	251	19	**蒋渕横浦地区の盆行事** 8月24日 光照寺	蒋渕では盆踊りを庭踊りと呼んでいる。8月24日は、横浦地区の盆踊りで、平家の落人である丹後様を昼に供養し、夜、光照寺で庭踊りを行う。昔から伝わる踊りは、口説きと呼ばれ、鎌などをもって踊るが、現在は踊れる人が少なくなっている。	A
	251	22	**蒋渕神明神社祭礼** 9月11日 神明神社	蒋渕7地区の村社である神明神社の祭り。祭日は、春は4月11日、秋は9月11日で宵宮という前夜の祭りは無くなった。春には伊勢踊りを奉納、秋には神輿と牛鬼が出る。牛鬼は大人と子供牛鬼がある。巡行には船を使う。	B
	251	18	**念仏はじめ** 1月16日 光照寺・海禅寺・庵寺	念仏の口開け行事で、蒋渕には各浦に残っている。前年に亡くなった人の供養に、百万遍の数珠を繰りながら念仏を唱える。亡くなった人のある家では、酒や菓子を振る舞う。横浦、豊ノ浦、宮市は、光照寺と海禅寺で一年交代で行われる。宿ノ浦、高助、大嶋では庵寺で行う。各浦には念仏講の係がおり、当日は、ドウギョウシと呼ばれる人がしきる。	A
	251	25	**蒋渕天満神社の百矢** 10月9日(旧9月9日) 天満神社	秋祭りで神社の鳥居前の広場に、注連縄を飾り、的をすえつけて、弓矢を射る。順番に、一人が何本かずつ矢を射ていくが、当たらない場合は近づいて射る。そうして100本当たれば、餅まきをする。同じ行事が、近くの戸島の天満神社でも行われている。	A
	251	27	**蒋渕の亥の子** 11月の適当な日 (旧10月亥の日)	昔は、お亥の子組があり、1番大将から4番大将までいた。1番大将の家が亥の子宿となった。夜中についてまわり、歌は石割と呼ばれ13種あった。現在は簡略化されて、11月の適当な日の昼間につくが、昔のように穴を掘らないでクッションを置いている。	B
	251	28	**蒋渕の巳午の正月** 12月の巳の日 墓地	12月の巳の日に、みんま餅をつき、墓へ一重ね持って行く。墓の前に、柿と松の木をさし、藁を一把焚いて、餅をあぶる。集まった親戚には、下の方の餅を、その他の人には上の方を切って配る。みんま餅を食べると、夏痩せしないという。光照寺、海禅寺の檀家で実施している。宇和島市吉田町立間では、みんま餅は切らずに引っ張って分ける。〔詳細調査報告48参照〕	A

市町	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
宇和島市	252	8	**神明神社祭礼** 9月16日 神明神社	太鼓・三味線の伴奏と歌に合わせ、男児が稚児風に女装してお伊勢踊りを踊る。踊る男児は、地面に足を付けないように、背負われて移動する。下波はかつては漁村であり、大漁祈願を目的に踊ったものである。下波にある六つの浦が持ち回りで、この行事の世話をしてきた。世話をする地区の子供が踊る。3年前、2人でしたのが最後となり、児童数が減ったことで、復活の予定はない。	D
	252	19	**結出の盆膳** 8月14日 個人宅	結出の旧家(元庄屋)では、19人分の御霊供膳を一室に供える。この旧家は本網元でもあり、漁にでていたとき、海難者一団の霊と遭遇し、供養を頼まれたと伝承される。昔は、念仏や念仏踊りもあわせて行っていたが今はしない。	B
	253	22	**戸島天満神社祭礼** 10月9日 本浦	この祭礼は天保年間から続いているという。神輿を担ぐのは成人で、神輿の先導役の牛鬼は子どもの役目である。昭和40年代末頃、中学校が統合され、島の中学生が寄宿舎生活となった為、祭りに参加できなくなった。また、小学校の児童も7人(令和3年度)となっている。牛鬼は昭和30年代までは、毎年作り変えていた。	B
	253	25	**戸島おはる祭り** 1月25日 本浦	天満神社の行事の一つである。弓祭りと呼ばれ、羽織袴の正装で、午前8時頃からお昼にかけて、百本の矢を射るもので、無病息災の祈念である。	A
	253	8	**戸島本浦の春祭り** 3月11日 大神宮・天満神社	五穀豊穣を祈念してお伊勢踊りが奉納される。踊り手は子どもで、衣装は、法被を着て、美しい花房のついた笠を被る。手には御幣と榊の小枝を持つ。太鼓に合わせて踊り、歌詞は7番まである。午前5時に天満神社でひとくさり奉納。10時から、大神宮(神明社)で残りの46くさりを踊る。その年の自治会長宅にも奉納。14時半、再び天満神社に奉納して、直会をする。(市)	B
	253	19	**戸島の盆行事** 8月13日～15日 浜・寺	海難者供養、会場の安全と除災、新仏供養のため、はんや踊りが奉納される。8月13日夕刻より踊り始め、14日午前午後と踊り、15日は送り踊りをする。8月14日午後は新亡のためにお寺で踊る。踊り手は着物を着て、男子16名、はやし手が4名で構成する。踊りは16曲である。4、5年前から実施しなくなっており、コロナ感染症によって中断が長くなり、これで行事としては消滅する可能性が高い。	D
	254	22	**日振島の祭り** 7月～10月 明海・能登・喜路	細長い地形のため離れた三つの集落があり、それぞれに氏神がある。喜路(きろ)地区は、八坂神社があり旧暦6月15日に夏祭りを行う。明海(あこ)地区は、天満神社があり10月の最終土曜日に秋祭りを行う。能登地区は、三島神社で旧暦の8月15日に秋祭りを行う。それぞれ、四つ太鼓がある。能登では、牛鬼も出る。	A
	255	29	**地四国山** 槇の山	宇和島市高光の大慈寺の上側(槇の山)に、天保年間、八十八か所の霊場が築かれたと伝わる。春秋の大師縁日には巡拝者で賑わった。半日かかるほどの規模で、眺望が良いので、小学校の遠足コースやハイキングコースとして整備もされた。宇和島市には、地四国はいくつもあるが、最も親しまれたところである。近年、お参りとして歩く人は少なくなった。	C
	255	イ	**今城様** (旧4月15日 ・旧8月15日) 今城家墓地・祠	今城様（いまじょうさま）は本村にある今城家6戸(今城イチマキ)が、先祖である今城兵庫守能信を祀るもの。春祭りは旧暦4月15日、秋祭りは旧暦8月15日で、6戸が集まってお籠りをしていた。現在は本村にある今城家4戸が交代で墓地および祠の清掃をするだけになっている。オモヤという本家が中心では無くなった。	C
	256	15	**石神様** 9月9日 国安川沿い	犬尾城山の中腹に石神様という祠があり、農家の虫送りと豊作を祈願して、9月9日、松明行列が行わていた。昔は、山の祠まで、松明や提灯を灯して上がったり、行灯がともされて道を照らしていた。昭和44年で途絶えていたが、昭和59年公民館が協力する行事として復活し、山に上がらず、国安川の川縁をかがり火を灯して歩くようになった。参加人数は子どもを中心に20名ほどである。感染予防のため2年間中止。	B
	256	2・22	**吉田秋祭りの神幸行事** 11月3日 (旧9月14日、15日) 吉田町本丁通、 町丁桜町通他町中	立間八幡神社の秋祭りであるが、吉田の町中の規模の大きい秋祭りとなっている。八幡神社が吉田藩の総鎮守だった為である。11月2日例祭の後、伊勢踊りが奉納される。11月3日午前5時卯の刻相撲。その後、午前7時半に鹿の子（七ツ鹿）が奉納し、神輿の宮出しとなる。鹿の子の他に牛鬼、四ツ太鼓、八幡宝多、宵宮宝多等が町内を練り歩く。各町内から出るお練りは、本町通りに午前中に続々と集合する。七福神、御用練り、御船、猿田彦・御神餅、ねり車7台、神輿が、午前11時に列をくんで出発し、本丁、桜丁をゆっくり通り、桜橋で餅まきを行う。その後お練りは解散する。午後4時に御旅所で神事が行われ、午後6時に宮入りとなる。江戸時代の祭礼日は、旧暦9月14日、15日であったが、現在は11月3日の吉田統一地方祭に合わせている。感染予防のため2年間中止。令和3年はねり車の披露のみ。(県)〔詳細調査報告10参照〕	A

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概　　要	存続状態
宇和島市	256	2・22	**門島神社のシダ神輿** 11月3日 知永地区	門島神社の秋祭りには、シダで作った神輿で、牛鬼を先導として地区内をねる。シダは、昔は地区の山にあったが、現在は三間の山にもらいに行く。シダと竹で作るが、その方法は年寄りから若い者へ順々に伝えている。昔は、3基作ったが、神輿をかく子どもの数が減ったため現在は1基だけである。祭りが終わると、シダ神輿は神社で、朽ちるに任せている。令和3年は感染予防のためシダ神輿はつくらず神事のみ実施。	A
	256	27	**吉田の亥の子** 11月第2土曜 (旧10月の亥の日)	収穫の感謝、子孫繁栄、子どもの成長を願って行われるもので、担い手は子どもである。各地区は、地区用の亥の子石を作って受け継いでいる。唄も地区ごとに少しずつ違う。旧暦10月の亥のつく日に行われるが、近年、11月の第2土曜日に固定するようになった。これは学校がある日では、子どもに差し支えがあるので変更したものである。現在では朝から準備して、昼間は自分の地区をついて回る。全部の地区ではないが、夕方、公民館主催の形で集合し、亥の子大会を行う。その後、夜回りとして、他地区のいのこ宿をついてまわる。亥の子の晩は、子どもたちは、亥の子宿に泊まるものであったが、これは行われなくなった。亥の子宿も昔は個人の家であったが、今は集会所が使われ、飾り付けもそこで行われる。昔は、年長の子がリーダーシップをとって行うものであったが、今は保護者が行うようになっている。令和3年は感染予防のため実施は各地区の判断に任され、中止したところもあった。〔詳細調査報告47参照〕	B
	256	24	**お日待ちの大草鞋** 1月16日 知永地区	お日待ちは、無病息災、五穀豊穣を祈願するもので、昔は文字通り、夜を徹して日の出を待つものであった。今はそのようなことは行わない。知永地区ではこの時、大草鞋を3つ作るのが習わしである。各自が藁を持ち寄って、地区の出荷場でわらじを作る。そして神事も行う。作られた大草鞋は、地区の入口の3箇所(国道側、大浦への道側、門島神社)に吊るされる。	A
	256	17	**吉田の十日戎** 1月10日 恵美須神社	魚棚3区の住吉神社の境内恵美須神社で行われる行事である。商売繁盛、家内安全を祈願する。早朝午前5時より神事を行う。笹に飾りをつけた福笹を買い求めに、町民が次々訪れる。	A
	256	8	**峰住神社祭礼** 7月13日	豊作を祈願してお伊勢踊りが奉納される。扇子と御幣を持ち、締太鼓の音頭で踊る。以前は、2月17日、11月23日にも行われていたが、現在は年1回となった。	B
	257	17	**作祈祷** 7月18日 観音堂	稲の豊作祈願を行う稲祈祷であったが、今は、柑橘栽培が生業となったので、柑橘の豊作を祈る行事となった。昔は朝6時から夕方4時頃まで、観音堂に詰め、交代で鉦を叩き、念仏を唱えたが、今は1時間程度である。宗昌寺の住職も参加する。	B
	257	17	**野島念仏** 8月1日 吉田湾の野島西ノ丸	豊漁、安全祈願、海難者供養を目的に、吉田湾の野島で、念仏を唱える。野島は、好漁場であるが、難船も多くあり、地蔵を建立している。南君の西、東、立目、牛川の4地区が当番制で行事を執り行っている。立昌寺の住職も参加する。	B
	257	27	**奥南の亥の子** 11月の土日(亥の日) 地区内	亥の子の行事は概ね吉田町で統一的な方法になっている。亥の子石は各地区で保管。亥の子の幟は、二本の竹を立てて、その間に緑、赤、青、紫、黄の5色の布を垂らす。それぞれの布には、その年の亥の子大将(年齢の一番高い子)の名を記したり、めでたい文言を書く。参加は小学生までである。実施の日は、亥の日ではなく、地区の都合で決め、調査した第2土曜日の令和3年11月13日では、奥南10地区の内、2地区が実施していた。この第2土曜日には、吉田町の多くの地区で実施されていた。ほとんど1回実施であるが、喜佐方地区河内上では、11月に2回行う。奥南の板の浦で実見したものは、地面をつかずに、円を描いて回していた。同じ海岸線にある浅川、鶴間地区(吉田区域)では、亥の子棚が集会所につくられ、服装もたすきがけであった。喜佐方奥南地区では普段着で亥の子棚もかざらない。喜佐方では、5色の布がないところもあった。浅川では、畳をしいて、その上に裏白をおいてついていた。そして移動するときに唄を歌いながら歩く。唄は、各所で節回し、歌われる唄とも異なっているが、昔のようにたくさんの種類の唄を歌うわけではない。玉津では幟は2箇所立てられていたが実見できなかった。感染予防のため令和3年は多くの地区が中止しており、幟のみ立てたところも多かった。	B
	257	ウ	**中浦の地蔵様** 中浦	浜近くのモルタル塗りのお堂に地蔵様が祀ってある。地蔵様とだけ伝わっており、近くの高齢女性が世話をしている。昭和40年代後半に嫁に来たときは、20人ほどの女性たちが、ござを敷いてお籠もりをしており、各自が自分で作った饅頭を持参してみんなで食べていたという。イボに効くという霊験があり、現在も、治ったお礼に、タコの絵を描いて奉納する。地蔵は女性だということで、こぎれいに飾っている。女性が集まることも無くなり、祭日などはもう分らなくなってしまった。イボ取りのタコの絵は、近くの深浦や狩浜でも奉納される。	D

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概　　要	存続状態
宇和島市	257	12	**船間の祇園様** 7月15日 船間	昔は、幼児を連れて上って、幼児同士で相撲をとるまねをさせて、無事な成長を祈っていた。現在、7月15日夕刻に子どもの祇園相撲をしている。費用は船間地区の寄付である。その他、祇園様で祭りをすることもなくなったが、地区の人がお参りをしては、小さい子どもの成長を祈願している。宇和島の子安地蔵は子どもの使ったよだれかけを奉納するが、ここは、子どもの使った小さい靴を奉納している。	C
	258	29	**お遍路さんの供養** 八反代	立間は、近くに仏木寺、龍光寺、明石寺があり、昔は歯長峠に上がり、通る遍路さんにお接待を行っており、遍路道には当たらないが、立間の谷を、吉田の町を経由する遍路がたくさん通った。八反代(はただい)の山際には、地元の墓地とは別に、行き倒れ遍路の人だけを葬る墓地がある。ここには4基の墓があり、先祖が行き倒れ遍路を葬ったことから、ある家が、我が家の墓地の一つとして供養している。	C
	258	8	**立間八幡神社の秋祭り(例祭)** 11月2日 八幡神社	例祭の最後に伊勢踊りが奉納される。元は、立間の各部落で作祈祷、病気平癒の祈祷としてそれぞれ実施されていたが、現在は秋祭りに八幡神社で奉納する分だけが残っている。締太鼓（一人）の音頭に合わせ、主たる謡い手に唱和して10人ほどが謡う。手に御幣を持ち、左右の足を交互に踏み出しながら、10分ほどの曲を謡って終了する。参加者は立間地区高齢者有志で、背広の正装。〔詳細調査報告10参照〕	A
	259	27	**喜佐方の亥の子** 11月第2土曜他 (11月亥の日) 喜佐方の大字単位	11月13日では、喜佐方の4地区が幟が立っていたが、コロナの関係で全て実施されたかは不明である。実見した地区では段ボールを敷いてついていた。亥の子棚は飾らず、服装も普段着である。河内上では第2、第4土曜日の2回行う。	B
	259	19	**喜佐方の盆行事** 8月15日(8月14日) 大師堂・盆踊り会場	歌舞伎や浄瑠璃の一場面を演じる河内口説きが行われる。老人の歌う口説きに合わせて、歌舞伎の衣装を着て踊り、別名を歌舞伎崩しとも呼ばれる。古くは新仏供養として新仏の家を訪れて踊っていたこともあった。現在は大師堂と喜佐方地区の盆踊りで演じられている。演じるのは約30名で、児童も多く加わっている。この口説きは、西予市明浜町渡江から伝習したもので、渡江も存続しており、県内では2か所のみとなっている。（市）	B
	260	8	**宮ノ浦の地蔵様** 1月16日・毎月24日 地蔵堂	1月16日に念仏講を実施し、数珠を回しながら百万遍の念仏を唱える。以後は、毎月24日に高齢男性が集まって直会を行う。以前は奉納子供相撲があった。	B
	260	ウ	**健雄神社のイボとり** 健雄神社	この神社に願をかけるとイボがとれるという信仰があり、イボが取れるとお礼にたこの絵を描いて奉納する。この慣習は現在もまだ続いている。	B
	260	27	**玉津の亥の子** 11月の土日(11月亥の日) 地区内全戸	旧暦10月の亥の日に、亥の子石をもって子どもたちが地面をつきながら地区を回る行事である。無病息災、子孫繁栄を祈願する。玉津地区では、恵比寿大黒の山車があり、昔は一緒に引いて回っていたが、現在は宿に置くだけとなっている。その年に生まれた子どもの名前を、さらしに書いて、短冊で飾った三本の竹の間につるす。昔は亥の日に行われていたが、現在は、11月の土日の適当な日を選んで行われている。	B
	260	8	**吉田町玉津の天満主神社祭礼** 4月3日・7月20日・11月3日 天満主神社	春祭りは、女児による稚児の舞を奉納。夏祭りは輪抜けを行う。秋祭りは吉田町の統一秋祭りに合わせて実施、練りは無し。	A
	261	26	**天満神社祭礼** 9月1日(旧8月1日) 天満神社	真剣をもって踊る花踊りが奉納される。踊りながら、しめ縄を太刀で切る動作が特徴的で、5分程度の曲を13曲踊り、時間は2時間程度である。昔は踊り手は30人ほどいたが、現在は大人と子どもで10人ほど、歌い手は高齢者4人である。（県）	A
	261	8	**監物様** 随時 是房の旧庄屋毛利家の東側の尾根	有馬監物様という先祖を祀るものである。別名を沢松神社ともいう。有馬家が中心で他に組内の者たちが一緒に守っている。戦国時代の城主であると思われるが、有馬殿と呼ばれる今城氏か、ここにあった沢松城の沢松氏であったかも不明となった。主となる有馬氏が、有馬殿遺品と伝わる布を持っている。数十年前、社殿は建て替え、道は墓地を通っていたが、墓地を迂回して付け替えた。現在は、組内が2月に一度程度掃除をするだけである。かつてあっただろう祭祀の行事は伝わっていない。有馬家の墓はすでに移しており、供養の五輪塔が残っている。	C
	261	29	**大日様** 4月19日 仏木寺	四国八十八ヶ所霊場第42番仏木寺本尊の大日如来は、牛馬安全の守り仏であるとして知られる。4月19日の大日如来御縁日には、かつて、農民、牛馬商等大勢の人が参拝していた。牛馬を飼育しなくなった現在では、普通の縁日として、法要が行われ、餅まきもある。参拝者は、300～400人ほどある。	B
	261	15	**きゅうり封じ** 土用丑の日 仏木寺	きゅうりに災いを封じ込めて、夏を健康に乗りきることを目的とする。祈願の内容を紙に書いて、寺で祈祷してもらう。	A

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概　　要	存続状態
宇和島市	262	8・18	**二月入り・九月入り** 3月第1日曜・10月第1日曜(旧2月1日・旧9月1日) 清良神社と神明神社	2月入りと9月入りの年2回、お伊勢踊りが行われる。特別の年でない限り踊りは2切(曲)を、清良神社、神明神社の順に奉納する。その後、お供物の米で直会をする。服装は、背広、ネクタイの正装である。	B
	262	27	**三間の亥の子** 11月亥の日に2回 旧三間町全域の自治会単位	三間町では各自治体単位で、11月の亥の日(2回)に行っている。参加者は就学前から中学1年生までの男女。石かワラボテをついている。唄は各地域で多少違いはある。子どものリーダーは、組長と呼ばれる。亥の子宿についてはあるところと無いところがある。幟は立てない。	A
	262	22	**三間三島神社祭礼** 3月23日・7月28日・10月23日 宮野下	春祭りは3月23日、夏祭りは7月28日に輪抜けを行う。10月23日の秋祭りは三間地方では最も大きい秋祭りで、神輿、子ども神輿、兵具、牛鬼、六ツ鹿、唐獅子による神幸行事がある。ねりの種類は昔より減っている。宮出しは14時、御旅所祭は15時30分、宮入りは17時。	B
	262	22	**稲荷大祭** 3月第1日曜(旧2月の初午) 稲荷神社	三間のお稲荷さんとして知られ、商売繁盛、五穀豊穣に御利益があるとされる稲荷神社の祭り。神輿、牛鬼が巡行し、浦安の舞が奉納される。元来は、初午の行事である。	C
	262	10	**恵比寿神社奉納子供相撲** 7月10日前後 三島神社御旅所	宮野下の恵比寿神社(三島神社境内)で7月10日に行われる十日戎の祭礼の行事であったが、今は子供相撲として残っている。参加者は三間町全域の子どもである。	B
	263	29	**音地の地四国巡り** 8月21日 音地	40年くらい前までは、4月21日、8月21日に行い、参拝者が長い列をなし、賽銭もたくさん集まった。現在は、8月21日に役員のみが参拝して巡っている。清掃は年2回自治会行事として行っている。	C
	263	10	**愛宕様奉納子供相撲** 4月24日前の日曜 中野中天満神社境内	江戸時代のこと、大火により中野中が全焼したことから、火の神様である愛宕様を勧請し、奉納相撲を始めた。子どもの奉納相撲は文化10年より始まったと伝承される。	A
	263	15	**白坂神社の御祈祷** 7月第1日曜 白坂神社	白王神社と八坂神社が合祀されて、明治18年白坂神社と改称された。7月15日に例祭が行われていたが、これは八坂神社の祭りに該当する。現在は、7月の第1日曜日になっている。無病息災の御祈祷を行った後に、直会をする。昔は、そうめんと酒で直会をしたが、今はビールとつまみで行う。	B
	264	27	**岩松の亥の子** 旧10月初亥の日 岩松町内	万病退散、子孫繁栄、五穀豊穣を祈って行われる。小学6年生の子が頭取となって、亥の子唄を歌いながら亥の子つきをする。亥の子をつき終ると、その家に御札と亥の子餅を配り、祝儀を貰う。現在、餅は止めた。	B
	264	22	**岩松三島神社祭礼** 11月3日 三島神社	宇和島市津島町は11月3日に秋祭りが統一されている。岩松の三島神社は、津島町の中心部の神社である。神輿2台、牛鬼、お船、浦安の舞、布袋様が練りとして出る。昔は、子供神輿、子供牛鬼があったが今は無い。御旅所は港町にある。特徴は布袋様があることで、お供に稚児2人、天狗とお多福を連れて、各家庭をまわる。布袋様に頭をなでられると、家庭円満、金運に恵まれると言う。布袋様は、幕末、小西家によって始められたと伝わり、現在は商工会が受け継いでいる。	A
	264	19	**黄檗祭(津島夏まつり)** 8月17日 岩松の町並	岩松の中心部にある臨江寺は、現在は臨済宗妙心寺派の寺院であるが、元は黄檗宗であった為、おおばく様とも呼ばれている。明治時代に、施餓鬼供養の行事に合わせて、夏祭りと盆踊りが行われだし、黄檗祭と呼ばれるようになった。戦後、津島町商工会が受け継ぎ、名称を津島夏祭りとして盛大に行われだした。	A
	265	9・15	**清満の虫送り** 7月上旬 岩渕・増穂・山財地区	稲の害虫退散を願い、松明を灯して、田の周辺を練り歩く行事。清満では、岩淵(岩淵、野井、芋地谷)、山財、増穂の3地区で実施する。松明は使用せず、灯油をしみこませた布を代用し、鉦を叩いて歩く。実施主体は、岩淵は水利組合、山財と増穂は、区長である。全体で80名を超す人が参加している。近い将来、行事として無くなる気配であるが、山財の凪部(おろしべ)地区は、独自に実施しており、継続しそうである。	C
	265	10	**薬師相撲** 8月7日 満願寺	満願寺境内にある薬師堂の縁日の行事である。8月7日夕方、児童、園児合わせて30名ほどで、個人戦勝ち抜きの奉納相撲を、満願寺境内で行う。近年参加する児童が少なくなっている。	C
	265	2・22	**増穂三島神社の秋祭り** 11月3日 三島神社	神輿、牛鬼、五ツ鹿、四ツ太鼓の練りが出る。祭礼日は旧津島町が出来た頃、町内統一で11月3日と定められている。	A
	266	10	**篠山神社奉納相撲(篠相撲)** 10月第3土曜 御槙小学校土俵	起源や由来は不明になっているが、高齢者が子どもの頃からすでにあった。勝者には篠山神社符をぼんでんと共に渡していた。現在は、スポーツイベントになり、小中学生、高校生、一般合わせて約100名が選手として参加、見物客を合わせると約400名となる。宇和島市、愛南町、宿毛町などから参加する。	B

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概　　要	存続状態
宇和島市	266	15	**御槇の虫送り** 7月第3土曜 御槇	7月の頃、稲の害虫退散を願い、松明を灯して、田の周辺を練り歩く行事。ただし、松明を持って歩いたり、鉦を叩いて念仏を唱えることはなくなり、火を焚くだけである。御槇地区では、御内(管理センター・池の駄場)、中駄場(社日前、小学校前)、犬除、槙川(下槙、石原)の4ヶ所で行われている。全部で約90名が参加する。	A
	266	22	**御槇神社の秋祭り** 11月3日 御槇神社	御槇神社は大正15年、御槇地区の神社を合祀してできた神社である。祭りには神輿の他に、子供牛鬼、成人による五ツ鹿踊りが練りとして出る。	A
	267	15	**畑地の虫おくり** 8月上旬 内田・於泥地区	稲の害虫退散を願い、田の周辺を練り歩く行事。松明は使わず、灯油をしみこませた布に火を燃やして代わりとする。内田では、鴨田橋から金剛橋まで、於泥では、於泥橋から金剛橋まで歩く。参加者は自治会、消防団で、それぞれ15名程度である。	B
	267	19	**六斎念仏** 8月5日・8月31日 上槙	盆の供養に行われる念仏行事で、死霊怨霊の鎮魂を目的とする。鉦と太鼓を打ちながらナミアミダブツを繰り返し唱えるものである。鉦が5つあるのが特徴となっている。鉦に江戸時代中期の銘があるので古くから行われてきたものである。しかし、10年前から中断し、道具のみが保管されている。(市)	D
	267	2・22	**上畑地三島神社の秋祭り** 11月3日 上畑地三島神社	神輿の他に、牛鬼、五ツ鹿、四ツ太鼓、巫女が練りとして出る。四ツ太鼓は小ぶりである。	A
	268	8・18	**北灘国永のお伊勢踊り** 旧2月16日・旧8月16日 神明神社・公民館	北灘には11の集落があり、子どもが1名ずつ計11名が神明神社で踊っていたが、現在は、1地区1名の参加にこだわらなくなっている。奉納場所も神明神社から公民館に代わった。子どもは着飾って、舞扇と御幣をもち、はやし方の歌い手と太鼓に合わせて踊る。	B
	269	10	**由良神社夏祭り** **・和船競漕(はだか祭り)** 7月15日 鼠鳴湾	下灘地区の由良神社の夏祭りの主行事である。赤白に分かれた2隻の和船が約800メートルの距離を漕いで先着を競う。真夏の暑い時期に行われることから、はだか祭りの別名もある。約180年の歴史を有するが、漕ぎ手が不足したり、社会情勢もあったりして度々中断、地域の熱意で再開を繰り返してきた。現在使われる和船は昭和60年に地元の船大工によって建造されたもので、昔の網船(8丁櫓)を参考にしている。漕ぎ手は、一艘につき26人の計52名で、漕ぐ距離は昔の半分に縮めている。午前11時にスタートし、下灘小学校前をゴールにする。この行事の始まりについては伝説が伝わっているが、勝ち負けによって何かあるという性質のものではない。豊漁を祈願して行うものである。昔、魚群を見つけると、先着順で操業できる時代もあったので、網船の速さを競うことは各浦で行われていた。感染予防のため令和3年は中止。〔詳細調査報告24参照〕	B
	269	8	**須下三島神社** **・諏訪神社の秋祭り** 11月3日 三島神社・諏訪神社	須下には、三島神社と諏訪神社があり、現在は11月3日の津島の統一秋祭りに合わせて祭りが実施される。須下では、荒獅子が地区の家々約50戸を門付けして回る。獅子は大人2人で演じ、太鼓は児童3人が叩く。女子児童は参加しない。大人は6人で交替で演じる。大人は消防団有志である。	C
	269	24	**柿之浦の大わらじ** 1月9日 柿之浦	正月のお日待ちの行事として、永楽寺の行事と重ねて行う。柿之浦地区の老人15人前後で、鳥越トンネル口の柿之浦集落三叉路、柿之浦入り口に、大草鞋をつるす。大草鞋は以前に比べて小さくなった。	B

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概　　要	存続状態
鬼北町	270	15	**さんばいこう** 6月田休みの日 各部落	6月の田休みに行われる虫送りの行事。「梵字　奉修如意輪観音秘法五穀成就祈攸」と記したお札を笹につけて、田んぼに畔に立てる。かつては中野川やほかの地区でも行っていた。中野川地区では、太鼓を背負って部落内を叩きながら一周していたが、現在はやらなくなっている。	B
	270	2・22	**近永地区統一秋祭り** 10月(11月15日) 弓瀧神社・各地区神社	町部では、牛鬼、五鹿、四ツ太鼓が近永商店街等を練り歩く。過去には牛鬼と四ツ太鼓の鉢合わせを行っていた。農村部では、小学生から中学生の子どもたちを中心に各氏神様を出発し、各戸を訪れ、厄除け、五穀豊穣、子孫繁栄を祈願する。過去にはとなりの集落の牛鬼と鉢合わせなども行っていた。ブーヤレと呼ばれる竹でできた笛を吹く。	B
	270	1・18	**どんど焼き** 1月15日 等妙寺境内	旧正月にしめ縄やお札などを燃やして供養する。残った灰で焼いた餅を食し、一年間の無病息災を願う。	B
	270	27	**亥の子** 11月亥の日 各集落	米をはじめとする五穀豊穣や子孫繁栄などを祈り、各部落の各戸を訪れる。近永地区では主にワラスボと呼ばれる藁でできた棒状の道具によって行われる。この時に歌われる亥の子唄は口伝えのため、各地域によって伝承が異なる。	B
	270	24	**念仏の口開け** 旧正月に一番近い日曜 集会所	集落の入口になるところ(集落の境)に「奉唱念仏百万遍村内安全祈攸」と書いた木札と大草鞋を一緒に立て、(現在は行われていないが)集会所にて念仏の数珠繰りを行う。	B
	270	19	**村施餓鬼** 8月盆時期 等妙寺	前年の8月からその年の7月までに亡くなった新盆の家を対象に昔は各集落ごとに宗派を問わず行っていたが、現在では北川部落のみで行われている。また、昔は各集会所等で行っていたが、現在は等妙寺で行っている。	B
	270	19	**盂蘭盆施餓鬼会** 8月10日 等妙寺	8月の10日に等妙寺全檀家の新盆の供養と、永代供養の精霊および全檀家の先祖供養のために開催している。	B
	270	8	**中野川念仏** 8月7日 中野川市ノ又地区	長い荒縄を結って、参加者が輪になって回す。太鼓と鉦を叩きながら念仏を行う。昔は子どもも参加して太鼓を叩くなどをしていた。平成の初め頃から中断され、現在は神社総代のみが集まり神事を行うのみとなっている。	D
	270	8	**おこもり** 4月8日 中野川市ノ又地区	山ノ神を祀り拝む行事。祠の前に市ノ又地区住民が集まり、直会を行う。	D
	270	10	**お廻国様** 8月24日盂蘭盆の日 中野川地区	お廻国様とは、中野川部落の平石にある、江戸時代に全国六十六か国を法華経を納めて廻ったことを記念した碑と墓をおまつりしたもの。ここでは毎年、子どもの奉納相撲が行われていた。相撲の前に土俵の上で念仏を行い、その後、相撲が行われる。優勝した子にはボデン(太い孟宗竹の先に御幣を飾ったもの)が与えられ、家に持ち帰るのが習わしであった。かつては地区外からも大勢の参加者があったが、部落内の子どもも少なくなり、現在は行われなくなって久しい。	D
	271	22	**高鴨神社秋祭り** 11月15日(11月3日) 高鴨神社	地域の入口に幟を立てる。中学生がいる部落では牛鬼をかき各戸を廻る。感染予防のため令和3年は神事のみ実施。	B
	271	19	**成福寺施餓鬼会** 8月7日 大本神社、八幡神社ほか	檀家の部落代表総代と区長、新盆を迎えた家族親族を迎え、経をあげる。	B
	271	24	**興野々芳組大師様** 7月21日・11月21日 興野々芳組大師堂	7月21日の悪病除けでは大草履をつくり組境に立てる。11月21日はお衣替で、数珠廻しを行う。	B
	271	19	**興野々盆行事** 8月14日 大本神社・八幡神社ほか	シデ踊りの歌に合わせ、シデを持って踊る。感染予防のため令和2・3年は中止。	B
	271	8	**蛇神様** 旧3月18日に近い4月の日曜(旧3月18日) 峠組集会所	出目部落峠組の組員16戸全員参加で、現在は折料理を注文し、直会をするのみとなっている。	B
	271	2・22	**八幡神社秋祭** 11月3日 小倉八幡神社	牛鬼、神輿、四ツ太鼓、五ツ鹿踊り。鹿踊りは近年子供がいないため中止となっている。	B
	271	24	**龍渕寺例祭** 4月・8月1日 上川集会所	4月に念仏の口開けをして、部落境3カ所に大草履をつくり塔婆とともに置く。8月1日は施食会を行う。	B
	271	19	**玉泉寺施食会** 8月2日 玉泉寺	檀家一同が参加し、新盆の人の供養をする。	B
	271	8	**大神宮様** 旧2月入りに近い日曜・旧10月入に近い日曜 岩谷集会所	お伊勢踊りを行う。昔は山の上の社で行っていたが、現在は役員が酒と魚を山の社に出向き供える。その後、部落集会所や部落院で直会を実施。	B

市町	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
鬼北町	272	1・18	**どんど焼き** 1月上～中旬 大本神社・八幡神社ほか	古くなった御札、神棚、御守、正月飾り、国旗、雛飾り、人形、ぬいぐるみなど、魂がこもったものを宮の境内の一か所に集めてお祓い(神事)を行ったあとに火入れを行い、お焚き上げをする。その火で餅を焼いて食べると病気にならない、風邪をひかないなどの言い伝えがある。また、地域によっては書初めをした練習用紙をお焚き上げすると字が上手になるともいわれている。令和3年は感染予防のため参加者を制限し縮小して実施。	B
	272	27	**亥の子** 11月亥の日 大本神社・八幡神社ほか	11月の亥の日に各部落の子どもたちが藁で作った「すぼ」という棒のようなものをもって集まり、神社をお参りし、亥の子歌を歌いながら各戸の家内安全・繁盛(繁栄)・厄除け等を祈願しながら各家々を回る。亥の子の歌は地域によって違いがあり、「わらすぼ」を使う部落と、亥の子石を使う部落とがあって、使用する道具にも違いがある。令和3年は感染予防のため中止。	B
	272	17	**大本神社秋祭り** 11月 大本神社	六ツ鹿が出る。伊予神楽の奉納がある。	B
	272	15	**夏越祭(輪抜け)** 7月 大本神社ほか	暑い夏、お盆や残り半年を迎えるにあたり、知らずに身についた罪・穢れを祓う祭り。竹を割り、丸い輪を作り、稚茅(ちがや)で包むように巻き、大きな輪を作る。神事ののち、古歌を歌いながら、神主の鈴祓いを先頭に、参列者全員で左・右・左と3回輪をくぐり、中央に出て人形で身体の弱い(悪い)部分を摩って清めたうえで、清め水で流す。最後に御札をいただく。令和3年は感染予防のため神事のみ実施。	B
	272	16	**祈年祭** **(稲祈祷・風除け・風祭り)** 6月下旬～7月中旬、 7月下旬～9月上旬 大本神社ほか	稲祈祷はその年の農作の豊作を祈る祭りで、6月下旬から7月上旬に行う。風除け・風祭りは稲が実り始める7月末から9月上旬に行われる祭りで、稲が台風(暴風(あらきかぜ)・蝗(いなむし))などの影響で災いを受けないことを祈念する。氏子が神社に集まり、玉串を1本ずつ持って、伊勢踊り祈祷神歌を太鼓の拍子に合わせて歌いながらお祓いを受ける。最後に玉串と御札をもらい、竹に縛って田畑の畔に立てる。令和3年は感染予防のため神事のみ実施。	B
	272	18	**二月入り(厄払い)** 2月(7月) 大本神社ほか	節目の年(厄年)の人の健康を祈願し、厄払いを行う行事。氏子・部落の人が神社に集まり、玉串を1本ずつ持って、伊勢踊り祈祷神歌を太鼓の拍子に合わせて歌いながらお祓いを受ける。厄年の人は家で餅を搗き、神事ののち、その餅をまくことで、みなに厄を配り、拾ってもらうというのが習わしとなっている。帰る際に、玉串を注連縄にさかさまに突き刺して吊るして帰る。厄を捨てて帰るという意味がある。令和3年は感染予防のため神事のみ実施。	B
	273	19	**雅久(大施餓鬼念仏)** 8月13日(8月14日) 大泉寺	地区民のほとんどが参加する念仏行事。供養を捧げる精霊は広範囲であり、神社に祀られていない諸神々、広い意味の先祖、観音、地蔵、餓鬼、畜生等範囲が広い。その供養念仏は「乱れぶち」と呼ばれる太鼓と鉦の早打ちを行い、以前は48回に打ち分け、1庭毎にハナシバ(樒)の葉を供えて賑やかに行われていたが、最近は37庭に短縮された。これを別称「上念仏」と言う。その後で、この1年間に亡くなられた檀家の新しい仏に、年齢順に供養が行われる。この時の太鼓・鉦の打ち方は基本打ちであり、この行事を「新亡霊供養念仏」という。そのあとで「菅公踊り」という身体全体を動かしての供養がある。これは大宰府に晩年を封じられた菅原道真公に、四国の地からその霊を慰める行事である。これが終われば、太鼓を打ちながら代表太鼓が元の場所に帰る「送り念仏」が最後に行われる。普通「念仏行事」といわれているが、この地区ではガクと称し、雅久の字を当てている。	B
	273	18	**念仏の口開け** 2月第2日曜 大泉寺	大泉寺住職が大般若経を転読による読経を行い、参加した地区住民の代表として、寺総代(3名)、組長及び有志が大数珠を持って輪になる。その輪の中に鉦と小太鼓の打ち手が入り、鐘と小太鼓を打ち鳴らしながら、「なんまいだ、なんまいだ―ぶつ、なんまいだ」と唱和して、これを1回とする。21回(終わりの3回は「くずし」を入れる)回したところで大数珠回しは終了。住職が大数珠を回した人を皮切りに、焼香器を最初に回し、焼香を済ませた人に一冊の分厚い大般若経典で各人の肩を叩きながら、「降伏一切大魔最勝成就・怨敵退散」と唱え、参加者全員を回って念仏口開け行事は終了となる。	B
	273	15	**河内神社夏祭り** **(夏越祭・輪抜け)** 7月第1日曜 河内神社	お伊勢踊りを行う。祓えの形代としての「人形(ひとがた)」を各自持って、茅の輪の方に進み、水を張った器の中に人形を入れ、茅の輪をくぐって宮司の金幣による祓えを受ける(3人が一緒に)。	B
	273	22	**河内神社秋季大祭** 10月第4土日 河内神社・下大野全域	第4土曜日の河内神社秋季大祭・祭典式で、牛鬼の「頭」の祓えを受ける。翌日牛鬼お練り。牛鬼が家々を練り歩く。お練りの間小学生が竹笛を吹き鳴らし牛鬼が来たことを各家々に告げる。	E
	273	10	**観音相撲(願相撲)** 8月16日(8月17日) 観音堂前の広場・土俵	念仏行事のあと、観音様にちなみ33番取組を実施する。女子小学生も参加。	B
	273	15	**三島神社夏祭り** **(夏越祭・輪抜け・稲祈祷)** 6月中旬の日曜 三島神社	稲祈祷ではお伊勢踊りが奉納される。稲祈祷後、参会者は祓えの形代としての「人形」を取り、拝殿に3つ設置された茅の輪を、1の輪、2の輪の順にくぐり、3人そろって宮司の金幣による祓えを受け、最後に3の輪をくぐって、人形を用意された桶の水に流し、御神酒を受ける。	B

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概　　要	存続状態
鬼北町	273	2・22	**御幸祭・三島神社秋祭り** 10月第4土曜 (御幸祭は3年に一度) 三島神社・三島公民館駐車場	牛鬼、神輿、四ツ太鼓、相撲甚句、六ツ鹿踊りの練りが出る。かつては三島神社及び三島神社下の広見川河川敷で行われていた時代もあったが、現在は三島神社及び三島公民館駐車場で行われるのが恒例となった。	B
	273	8	**山ノ神様祭礼** 旧暦3月7日 ・6月7日直前の日曜 山上の社殿	山上の社殿に若一神社宮司と小越組組員が集まり祭礼、お伊勢踊りを奉納する。	B
	273	19	**大施餓鬼念仏供養** 8月14日 善光寺	住職の読経に合わせて念仏の道行きを行う。各組代表が鉦と一緒に竹に入れた旗(「南釈迦牟尼仏」と書いた旗)を持って太鼓の周りを「右回り2回」「左回り1回」を行う。この旗は念仏供養終了後、新亡霊の家族に渡される。	B
	273	15	**大般若念仏数珠繰り(念仏口開け)** 8月16日 善光寺	本堂に善光寺住職、依頼した鬼北町・宇和島市の6寺の住職、小松・川上・延川・久保地区選出の町議会議員・区長・寺総代・各役員及び小松念仏保存会員総勢50余名が集合して実施される。最初に法語・献茶湯を行った後、般若心経を二遍唱える。その後、御詠歌が唱和される中、数珠繰りの準備が行われる。準備が整い次第、善光寺住職による大般若理趣分の真読・転読が行われ、更に6寺の住職による大般若経転読が合わせ行われる。そうした中、小松念仏保存会による数珠繰りが実施される。終了後、消災妙吉祥陀羅尼を三遍唱え、焼香・回向等が行われる。これらが終わって、善光寺住職による肩たたき(住職が『降伏一切大魔最勝成就・怨敵退散』と唱えながら大般若経典で肩を叩く)が行われ、念仏口開けの行事がすべて終了となる。	B
	274	22	**愛治地区の秋祭り** 11月3日 天満神社ほか	愛治地区統一の秋祭りで、各部落(5部落)それぞれに子供牛鬼が各戸を廻り、家運隆盛を願い、ご祝儀をいただく。また、ここ数年は、清水お旅所に集まり、大人牛鬼と一堂に会し、天満神社の祭礼の一部としてかき比べを行っている。祭礼には宮司が神輿を前に一年の感謝を込めて神事を行い、伊予神楽も合わせて踊り、その後餅まきを行っている。清水おたび所では五ツ鹿踊りが奉納される。長年休止していたが、令和5年、町職員と地域協力隊員により復活した。(県)	B
	274	27	**亥の子** 旧10月亥の日 各部落	旧10月の亥の日に、亥の子石を使って各戸を廻り、家の繁栄を祈り、各戸からご祝儀をいただく。昔は各組単位で行われていたが、少子化に伴い、大人による亥の子もあれば休止しているところもある。令和3年は感染予防のため中止。	B
	274	18	**念仏の口開け** 旧1月16日 観音寺ほか	旧1月16日にあわせて各菩提寺において大数珠を檀家たちが廻しながらその年の健康安全、五穀豊穣、疫病退散を願う。その際に、大般若経を唱えるところもあれば、別途8月に執り行い、餅まきを行うところもある。令和3年は感染予防のため神事のみ実施。	B
	274	エ	**花まつり** 5月8日	お釈迦様の像を花で囲み、甘茶を供えて祝うもので、参加者に甘茶を配る。住職のいない寺では部落の集会所で、当番が花まつりをしている部落もある。	B
	274	19	**施餓鬼** 8月1日～15日 観音寺ほか	毎年8月1日から8月15日(各部落で日程が異なる)の間に各寺において檀家が集まり、精霊棚を飾って新亡家、各家先祖の霊、戦没者の霊を供養する。地区によっては、20～30人が鉦太鼓を用いて念仏踊りを行う。令和3年は感染予防のため参加者を制限し縮小実施。	B
	274	18	**二月入り** 旧2月1日 天満神社ほか	各神社でお伊勢踊りを踊り、その年の五穀豊穣と、仕事の順調、厄除け、家内安全等を願うもので、神事を執り行ったのちに餅まきを行う。新明神社の場合は、天照大明神に太陽復活を祈り、祝う。令和3年は感染予防のため神事のみ実施。	B
	274	15・17	**稲祈祷(輪抜け)** 6月～7月初旬 天満神社ほか	各神社で五穀豊穣等を願い、お伊勢踊りを奉納して神事を執り行う。部落によっては、身祈祷、疫病退散を願い、茅で作った輪抜けを行うところもある。令和3年は感染予防のため神事のみ実施。	B
	275	8・12	**節安の花とび踊り** (旧1月16日)	派手に飾った衣装と模造刀を持ち、カネ、太鼓、歌に合わせて踊る。旧日吉村父野川地区・節安部落で行われていたが、昭和38年に災害があり地区住民が離れたため休止。残った住民により復活し、現在は父野川部落の行事として行われている。落人の姫の安産を願ったとされており、現在も安産を祈願して参拝される。(町)	B
	275	8	**日吉神社秋の祭礼** 11月上旬 日吉神社	鹿踊りが奉納される。雄鹿が四頭、雄鹿が一頭で、唄と笛に合わせ、胸に小太鼓を吊るし、背に竹笹の短冊を飾り、円を描いて踊り、雄鹿が雌鹿を奪い合う。旅所御渡の行事に踊りを奉納し、また氏子篤志家の招きに応じてその門先で踊る。(町)	B
	275	8	**数珠送り** 1月	地区(部落)の住人が集まり、数珠(108個の珠)を住人が丸くなってカネ、太鼓に合わせ、送りながら回す。1年の無病息災を祈願する。	B

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概　　要	存続状態
松野町	276	20	**柳地蔵** 8月7日(旧七夕) 駅前組の柳地蔵周辺	駅前組を通る旧道の辻に柳の木があり、その下に地蔵が安置されている。伝承によれば、昔、旅の者がその場で力尽き亡くなったという。旧暦の七夕の日、組の者が集まり、七夕飾りやお供えを設置し、松丸永昌寺住職がお経を唱える。	B
	277	15	**虫送り(宵宮・本宮)** 6月 延野々集会所	松明を焚き鉦を鳴らして村境まで虫送りをした。	B
	277	15	**輪抜け(茅の輪くぐり)** 7月第3日曜 河内神社	部落の氏神様の夏祭りで、厄落としの行事。参拝人は場内に作られた茅の輪を「蘇民将来」と繰り返し唱えながら八の字にくぐり抜け、切紙の人形で身体をなで厄落としとした。	B
	278	24	**ハツギトウ(初祈祷)** **・ゴキトウハジメ** **(御祈祷初め)** **・オハンニャ(お般若)** 1月16日 建徳寺・目黒全域	1月16日に建徳寺で行われるその年の安全祈願。大きな数珠を回す「ジュズクリ」も行われる。正月飾りやお札を焼くため、最近どんど焼きを始めた。また、この日は部落内・組内の安全祈願のため、地域の境界となるところにわら草履や木札を設置する行事も行われる。まず、寺の役員や各組の当番は建徳寺に集まってわら縄をなう。これは、橋に掛ける草履用とクロスケブチの結界用である。わら草履は、地元の草履づくり名人が作っており、顔ほどの大きさがある。木札はシイ製の杭で、杭の側面に大般若経が写経されている。わら草履は6つ、木札は5つそれぞれ用意される。部落内安全には、わら草履と木札が設置され、場所は県境、地蔵峠、上目黒のズナ(ン)モリの3ヶ所である。県境の設置場所付近には高知県側が同じく部落内安全で設置した札がある。組内安全には、木札のみが中央2の庚申塚、西ノ川のオサキノハナの2ヶ所に、わら草履のみが寺橋、一ノ瀬橋、西ノ川橋(高橋)の3ヶ所の橋に設置される。わら草履はみんなで作ったわら縄の中央に結び付けられ、橋の川下側にナエハジメ(縄をなうときの最初側)が向かって右になるように取り付けられる。なお、滑床には境がないとの意識から置かないという。	B
	278	17	**タガミサマ(谷上様)の縁日** 旧2月10日・8月10日 ・旧10月10日 建徳寺	谷上様は田の神、水の神で、8月10日の縁日には、盆行事の一環として寺で住職が念仏を唱え、念仏太鼓が行われる。旧暦の10月10日は供養の後、餅まきが行われる。	B
	278	8	**和霊神社春祭り** 4月下旬 和霊神社	和霊神社の春の祭典	B
	278	15	**輪抜け・茅の輪くぐり** 7月24日 和霊神社	夏越しの祓えの際に和霊神社に設置するもので、茅を束ねて輪にし、参拝者をくぐらせ災厄を祓う。	A
	278	19 ・ 33	**施食会** 8月1日 建徳寺	境内の入口付近から鉦・太鼓で念仏を唱えるチャガカン（念仏太鼓）を行いながら先祖の御霊を迎え、本堂の前まで案内する。その後、武左衛門・目黒城主・檀家各戸先祖供養のチャガカンを行う。チャガカンが終わったら、住職による施食会の法要（棚経）が祭壇の前で行われ、その間に参列者は焼香をする。最後にお礼念仏を行って式は終了。午後からは、シンボトケ（初盆）の施食会を行う。流れは午前中の先祖供養と同じ。チャガカンは、太鼓4名（太鼓は2個）・鐘5名・楽頭と呼ばれる指揮者1名で構成される。一時は子どもが行っていたこともあったが、現在は20　～　80　代が担っており、毎年7月に練習する。シンボトケの家には「南無阿弥陀仏・唵麼抳駄哩吽泮吒」と書かれた紙が付けられた竹が渡され、これを盆の間墓に立てておく。また、家の前には長い白布を竹に付けて立てる。迎え火や送り火を焚く棚も設置する。13日の夕刻に迎え火を焚き、14日に寺の住職に供養をしてもらい、16　日の夕刻に送り火を焚く。〔詳細調査報告53参照〕	B
	278	19	**タガミサマ(谷上様)供養** 8月10日 建徳寺	仏像の前で住職が供養をし、チャガカンを行う。〔詳細調査報告53参照〕	B
	278	19	**水引地蔵供養** 8月14日 建徳寺	本尊である地蔵菩薩立像の前で住職が供養をし、チャガカンを行う。〔詳細調査報告53参照〕	B
	278	19	**古仏様供養** 8月30日 建徳寺	部落内の神仏（観音様・薬師様・弘法大師様・地蔵峠地蔵様・尾花地蔵様・愛宕様・若山地蔵様・クロスケブチ地蔵様・ダイボ下地蔵様・一ノ瀬地蔵様・梁瀬地蔵様）の供養で、住職が供養をし、チャガカンを行う。〔詳細調査報告53参照〕	B

市町	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
松野町	278	19	**トボシアゲ（灯上げ）** 8月30日 建徳寺	念仏供養をした後、住職が法要を行い、最後に盆の間使用した灯籠等を境内でお焚き上げする。〔詳細調査報告53参照〕	B
	278	19	**精霊流し（藁船）** 8月16日 建徳寺	麦藁で船をつくり、盆の間盆棚の脇に置き、初盆の供養で使った飾りや供物などを乗せ、河原で供養した後、目黒川に流す。現在は環境への配慮から船を川に流すことはせず河原で焼却する。平成16年を最後になくなっていたが、近年復活してつくった家がある。かつては、子どもたちが下流でわら船を待ち受け、供物の果物などを取って食べた。供物を食べると、病気をせず頭が良くなるといわれていた。	E
	278	22	**和霊神社の秋祭り** 11月3日前後 和霊神社・目黒全域	神社で神事の後、子どもたちが牛鬼を担ぎ地区を練り歩く。かつては、神輿や五ッ鹿踊りも出た。	B
	278	27	**亥の子** 11月亥の日 目黒全域	その年に収穫した米で餅を搗き、お亥の子様に供えて一家の繁栄と無病息災を祈願する。かつては、男子の入学と卒業を祝って亥の子宿をする習わしがあり、宿ではごちそうが出され、餅や米が配られた。餅や米を平等に分けるため、竹の先に注連縄をくくり柚をつけたザイを奪い合う真似事をしたという。各家を巡り亥の子をつくが、子どもが多かった頃は、旗もち、「祝いましょうか」と言う役、餅や米を入れた袋持ち、亥の子石を担ぐ役、ザイを持つ役があった。各組で行われていたが、一括で行われるようになった。また、家を建てるときも亥の子をついたと言い、その際は大人の男性がついた。	B
	278	8	**お大師様の祭り** 12月21日 大師堂	国木谷の太師堂でジュズクリをする。	D
	278	23	**シオリサマ（塩利様）** 旧11月11日 上目黒	大岩が腰に当たり亡くなった塩利という女性をまつる。命日である旧11月11日には、上目黒の2軒が当番となり準備をして、祠で拝礼した後、餅まきを行い、直会をする。	B
	278	16	**水引地蔵の雨乞い** 旱魃のとき クロスケブチ（黒助渕）	旱天の際に、未婚の青年が水に功徳があるといわれる水引地蔵を厨子ごと背負い、傘を差してクロスケブチへ運ぶ。建徳寺の住職が祈祷をし、1軒につき1人が出て鐘や太鼓を鳴らし降雨を祈願した。雨乞いが最後に行われたのは昭和20年代後半という。	D
	278	17	**山の神（山祭り）** 1月20日・5月20日・9月20日 西ノ川	大山積神を祭る。ご神体はマサカリ。現在は西ノ川奥の岩陰に鎮座。ハツリハツカ（1/20・5/20・9/20）に山仕事の安全を祈願していた。	D
	279	2・22	**蔵王神社の秋祭り（宵宮・本宮）** 11月上旬	神社の豊年祭として猿田彦・武者行列・巫女・五ツ鹿・牛鬼・神輿・四ツ太鼓・獅子舞などが部落内を練り歩く神幸行事。巫女による浦安の舞や五ツ鹿、獅子舞は地元の子どもたちが担っている。	B
	280	8	**おこもり** 田植え後 集会所・班長宅	下組、遊鶴羽、本谷、榎谷の谷ごとに行う。バラ寿司などを持ち寄り会食して、田植えの慰労をする。	D
	280	29・34	**お大師様の縁日** 春（3月）・秋（8月） お大師様（下組）	下組から本谷・榎谷に向かう道の山側に、昭和30年代前半頃まで約2m　四方の「お茶堂」があった。春（3月）と秋（8月）の「お大師様」の縁日には、前を通る地区住民や通行人に炒豆などの「お接待」をおこなった。	D
	280	27	**亥の子** 10月亥の日 奥内	夕方から集落内の各戸を巡り、亥の子唄を歌いながら、庭の隅で亥の子石をついて回る。大国主命と書いた旗も持参した。各戸は祝儀を渡し、これは子どもたちで分配された。小学生男子のみであったが、少子化により女子も参加するようになった。	D
	280	16・17	**山の神祭り** 旧8月20日 山の神	山の頂上に位置する社殿前で伊勢踊りを奉納していたが、現在は4～5人の当番制で清掃し注連縄を飾った後は、ふもとでお念仏を行う。山仕事の安全を祈願すると共に、旱魃時には雨乞いをした。	B
	280	16	**白岩様** 旱魃のとき 白岩様	水神様であり、遊鶴羽の集落から400mほど谷筋を登ったところに鎮座していた。昭和18年（1943）3月の森林火災で祠は焼失したが、再建した。集落から離れており、集落内人口の減少の中でお守が困難であることから、平成20年（2008）に遊鶴羽のI家の敷地内に遷座し、現在に至る。旱魃の際、蕨尾部落の代表者が集まって雨乞いをすると、その2～3日後には必ず雨が降ったという。	D
	280	16	**赤滝様** 旱魃のとき 赤滝様	本谷の水神様であり、本谷集落から谷筋を上がったところに位置している。以前は現在地と川を挟んだ反対側の大岩に約2m 四方の社殿が置かれていた。大正期までは祭日に神楽を奉納していたとのことである。社殿の前に畑があり、その小作料を祭典費用に充てていた。旱魃の際に雨乞いがなされた。	D

市町	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
松野町	280	16	**竜王様** 旱魃のとき 竜王様	榎谷の水神様。榎谷の集落から急な谷筋を登ったところの岩肌の前に小さな祠を建てて祀っていたが、管理が難しくなったため、平成24年（2012）10月に榎谷のY家近くに祠を建て、御神体を遷座した。旱魃の際に、社前で雨乞いをするほか、正月には供え物を欠かさない。	D
	280	8	**切入権現** 旧９月９日 遊鶴羽	遊鶴羽の集落内に位置し、集落の開拓者を祀っているとされる。祭日は旧暦9月9日で、当日は幟を立てて団子を供えていた。	D
	280	18	**若水迎え** １月１日 各家	元旦の朝、一家の主人が井戸から若水を汲む。若水で雑煮を炊いたりお茶を入れたりするほか、仏壇や神棚に供える。汲むときは、「福くむ、徳くむ、幸いくむ、よろずの宝をすくいくみ取る」と唱える。井戸のない家は貯水場から汲んだ。	D
	280	8	**お薬師祭** ４月12日に最も近い日曜 （旧３月12日・旧９月12日） 奥内薬師堂	一週間前から、薬師堂を中心に薬師如来の幟を立てる。当日は法要の後、餅まきをする。餅まきの餅は、赤、白、緑の3色で短冊型の角餅である。	B
	280	19・33	**トボシゾメ・トボシアゲ** ７月終わりごろ～８月末 各家	7月の終わりごろ、初盆の家では盆灯籠を飾り、精霊棚をつくる。精霊棚は、床に芭蕉葉を敷き、三方に栗、柿、檜の枝を逆さに吊るし、オガラで門をつくったもので、四隅と中央の5ヶ所に呪文を書いた五色旗を立て、位牌を置く。8月末に行うトボシアゲでは、麦わら船をつくり流した。	D
	280	19	**御施餓鬼** ８月７日 妙楽寺	蕨生集落の行事で、妙楽寺に檀家が集まり念仏供養をする。太鼓は子どもが叩き、鐘は大人が打つ。楽頭（がくがしら）が進行を担い、各家の先祖、戦没者の供養を行う。三番目は新仏の供養で、遺族が故人の位牌をもち参加する。各家から、白旗に南無阿弥陀仏と書いたものを持ち寄り、若竹に結び付けて新盆の家にわける。新盆の家は、白旗を持ち帰り精霊棚に供える。以前は男子のみの参加であったが、人口減少のため男女問わず参加するようになった。	B
	280	8	**田休み** ６月上旬 奥内	田植えが終ったら、蕨生地区で農休日として田休みをしていた。田植による疲労回復をはかるもので、“しば餅”や御馳走を作る。奥内では水不足の時には田植が遅れることがあり、地区の統一日から別の日に変更することがあった。現在は田植え時期が早くなり、田植え後ではなくなったが、6月上旬の日曜日に集落内の草刈り作業を行う日となっている。	B
	280	15	**虫送り** ８月末 奥内	妙楽寺住職から白旗に虫供養の願文を書いてもらい、各家では枯竹を割り松明をつくった。これらを持ち、鐘を叩いてナムアミダブツと唱えながら、川下へ向かって集落を歩いた。早稲を植えるようになり、刈り取りの時期が早くなったため実施されなくなった。	D
	280	28	**巳の日正月** 12月の最初の巳の日 奥内	仏様の正月。新仏があったときに行う行事。もち米1升をつかい短冊型の白餅をつくり、墓前に供える。墓の前で稲わらに火をつけて餅を炙り食べる。	D
	280	31	**立春行事** ２月 奥内	麦作の安定豊作を目的に、タラの木を長さ10㎝前後に切り、割れ木にしたものと、イイムギシバ（トベラ）を火にあぶったものを竹にはさみ、麦の畝に立てた。	D
	280	5	**真土のいもたき** ８月末～９月 真土橋下	地元有志で、月見を兼ねて河川敷でサトイモ、ツガニを炊き、共食する。	C
	281	15	**輪抜け（茅の輪くぐり）** ７月下旬 大本神社	部落の氏神様の夏祭りで、厄落としの行事。参拝人は場内につくられた茅の輪を「蘇民将来」と繰り返し唱えながら八の字にくぐり抜け、切紙の人形で身体をなで厄落としとした。	B

市町	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
愛南町	281	15	**金峯神社夏祭り（輪抜け祭）** 旧６月13日 金峯神社	参拝者が、参道に設置した茅で作成した輪をくぐることにより無病息災等を祈願する。	B
	281	15	**厄除け祈願祭** 旧２月１日 金峯神社	愛南町柏自治会が、厄年に当たる住民の厄よけ祈願者を募集し、当日集団(10名程度)で厄除け祈願神事を催行する。	A
	281	8	**若宮神社の春祭り** 旧３月26日 若宮神社（須ノ川地区）	直前の日曜日に注連縄・幟立て・清掃などの準備をする。地区三役、総代3名、宮当番1名が太夫を招いて神事を行う。	A
	281	8	**おこもり** ４月３日または４月４日 柏崎集会所 常会	節句の代替として常会単位で集会所で実施。常会が飲み物を出し、参加者がそれぞれ弁当を持ち寄る。常会同士で日程を合わせて合同で実施する場合もある。令和2～3年度は、新型コロナウイルス感染防止のため中止。	A
	281	ウ	**山の神様祭り** 旧６月21日 山神社（柏地区） 柏を育てる会	柏川上流をさかのぼった場所にある山神社の清掃とお参りを「柏を育てる会」役員(柏地区自治会役員OB)で毎年旧暦6月21日に行っていた。近年ではヘビやハチが出ない冬場に行っている。神事はしない。	A
	281	19	**施餓鬼** ８月８日 法性寺（柏地区）	先祖供養のため実施する。寺に祭壇を組み、新仏の家族と寺総代5人が出席して供養を行う。施餓鬼終了後は、住職と寺総代で精進上げをしていたが、コロナ以降会食は中止されている。祭壇は8月25日に片付ける。	A
	281	19	**盆踊り** ８月14日 柏小学校グラウンド 柏地区自治会	先祖供養と初盆の供養のために実施。初盆の家は、祭壇を組み、地区の人はお焼香を行う。初盆の家は、自治会に負担金を払う。当日7：00集合、自治会役員・消防団等で新仏席の設置、櫓台組み立て、笹飾りなどを準備。19：30から開始。新仏に合掌・黙祷ののち自治会長挨拶。踊りは内海音頭や炭坑節など一般による民謡踊り、保育園児・小中学生による民謡踊りに続き、各常会ごとの太鼓踊り、全員による総踊り（太鼓踊り）で、最後の締めの太鼓で終わる。翌日（8月15日）8：00から自治会役員・消防団で後片付け。令和2～4年は新型コロナのため、柏・柏崎・須ノ川とも盆踊りは中止。	A
	281	19	**灯篭流し** ８月25日 埋立浜 柏地区自治会	新仏の家が位牌、灯篭、お供え物等を飾り、地区の人は焼香をする。仏事が終わると灯篭を埋立浜の一か所に集めて焼く。	A
	281	17	**漁止め祭り** 旧８月12日 岩神社（柏崎地区） 柏崎地区自治会	柏崎の漁師が出漁中にクジラの群れに出会い転覆しそうになり、氏神の岩神社に今後8月12日には絶対に漁に出ないから無事に帰らせてほしいと願をかけたところ、波は穏やかになって無事に帰ることができた。それ以来漁師たちは8月12日にはどんなことがあっても漁に出ないことを申し合わせ、氏神へ幟旗を奉納したという故事に因む行事。岩神社での神事の後、大人が担ぐ神輿と子どもたちが担ぐ子供神輿とが神社の急な石段を下りて地区内を練り歩く。港や渡船の前の広場で、もちまきのあと漁船所有者のくじ引きがあり、岩神社、由良神社、竜王神社の三本でくじにあたるとそれぞれの神社名を書いた当り旗とお神酒が渡され、その旗を船首に立てて海上パレードの先頭にたてる。くじに当たった者は着の身着のままで海中に投げ込まれる。これはくじにあたった者を祝福し、身を清めて海の安全と村の繁栄を願うという意味合いである。令和2～3年度は、新型コロナウイルス感染防止のため神事のみ行った。	A
	281	2・22	**金峯神社秋祭り** 11月３日 柏金峯神社 柏地区自治会	農作物の収穫を感謝し、五穀豊穣を祈って行われている。自治会役員及び宮総代は、前日朝からお宮掃除、幟たて、御旅所の御仮屋づくり、注連縄づくり、神輿の飾りつけなどを行う。17時からは宵宮神事で浦安の舞が奉納される。当日は神事ののち浦安の舞、五ツ鹿、唐獅子の順で奉納。続いて宮出しがあり、牛鬼、神輿の順で石段を下り、鳥居前の神田を3回回って行幸する。このほか子供神輿があり、練り物にはそれぞれ警護がつく。中旅、梶屋敷集会所で休んだのち、御旅所、御仮屋の周りを3回回って神輿が御仮屋に入る。御仮屋の前で浦安の舞、五ツ鹿、唐獅子の順で奉納。餅まきで終了。かつてはこのあとに四ツ太鼓と牛鬼の鉢合わせがあった。神輿がお宮に戻るのを妨害してお祭りを長く続けさせるために行っていたといわれている。令和2・3年は、新型コロナウイルス感染防止のため神事のみ実施。	A

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概　　要	存続状態
愛南町	281	8	**若宮神社の例祭** 旧９月28日 若宮神社（須ノ川地区）	五穀豊穣・無病息災を祈願し、お伊勢踊りが奉納される。お伊勢踊りは、大人の謡と太鼓などの囃子に合わせて7人の子どもが8回通り踊る。踊り手の子どもはかつては男子のみであった。	A
	281	27	**亥の子** 旧10月亥の日近くの日曜（初亥の日）	朝、8：00ごろから、子どもたちが集落の各家々の庭で亥の子石を搗いて回る。かつては子どもだけで運営しており、旧暦10月の亥の日に亥の子石にカズラを結び、夜明け前から各家々を回って亥の子歌を歌いながら搗き、お花をもらっていた。初亥・中亥・乙亥と3回ある年もあった。亥の子石の保管や賄い、世話などは「宿」と呼ばれる特定の家が行っていたが、基本的には年長者(中学校1年生)が下級生を統率し、亥の子歌の練習やカズラの準備などを仕切っていた。現在では公民館活動の一環として行っている。	B
	282	8	**魚神山地区の秋祭り** 11月3日 魚神山地区内	農作物の収穫を感謝し、五穀豊穣を祈って行われている。以前は荒獅子、五ツ鹿、牛鬼もあったが、子どもの減少などで、今は神輿だけである。令和2～3年度は、新型コロナウイルス感染予防で、神事だけを行った。	B
	282	19	**家串・魚神山の盆行事** 8月14日 魚神山漁港公園	先祖供養と初盆の供養のため、女性は浴衣姿で内海音頭、御荘音頭、鳴子を持って踊るもの等を踊り、男性は浴衣姿で扇子踊り(太鼓踊り)を踊る。初盆の家は祭壇を組み、地区の人はお焼香を行う。初盆の家は自治会に負担金を払う。感染予防のため令和3年は中止。	B
	282	19	**施餓鬼** 8月1日 庵寺（魚神山集会所内）	三界萬霊等や供養する方の位牌を置き、戦争で亡くなった方、先祖、初盆の方、魚介類など、この世のあらゆる生命の供養を行う。昨年の施餓鬼後に亡くなった方(初盆とは限らない)と、それ以前(2年間)に亡くなった方の供養を行う。3年続けて供養する。参加者は供養対象者の家族と自治会の役員4人である。	B
	282	24	**大草履かけ** 1月16日 魚神山分館	流行病を地区の中に入れないように、地区の端と端に大草履をかける。草履をかける場所は大男が跨いだ所だという。地区の老人が分館に集まり、大草履を2つ作る。大草履かけは自治会役員が行う。かける場所は魚神山の入口(走下の防災倉庫横)と、西泊の魚神山老人福祉センターから少し網代に行った祠横である。大草履を作ったあとは、念仏の口開けを行う。	B
	282	18	**念仏の口開け** 1月16日 庵寺（魚神山集会所内）	新年になって初めて念仏を唱える日。地区の老人が、大草履を作ったあと庵寺(集会所)に集まり、念仏を唱え、大数珠くりをする。	B
	282	24	**大ぞうり作り** 1月16日 泉法寺 家串地区自治会	流行病を地区の中に入れないように、地区の端と端に、大ぞうりをかける。地区の端と端に大ぞうりをかける謂れは、大男が跨いだ所だという。地区の全戸が泉法寺に集まり、境内で大ぞうりを2つ作る。朝8時ごろから作り始める。前もって役員が鼻緒の部分を作っておく。大ぞうりかけは、自治会役員が行う。かける場所は、家串と平碆の山境のウネの松と、油袋方面へ向かう県道沿いの竜王様の横である。大ぞうりを作ったあとは、念仏の口開けを行う。	A
	282	18	**念仏の口開け** 1月16日 泉法寺 家串地区自治会	新年になって初めて念仏を唱える日。6：00～6：30頃、地区役員（老農2名）が泉法寺裏手の「寺山」に上がり、鉦をつく。大ぞうりを作った後、地区役員や厄年の人が、泉法寺本堂の中で念仏を唱え、大数珠くりをする。	B
	282	8	**家串地区若宮神社の春祭り** 4月26日～27日 若宮神社 家串地区自治会	前日に注連縄・幟立て、飾りつけ（提灯・幕張）、清掃などの準備をする。26日が宵宮、27日が本宮で、26日は17：30、27日は11：00から、地区役員8名、宮総代3名、消防団支部長、祭り保存会会長、生産組合長が太夫を招いて神事を行う。宵宮・本宮共に神事終了後直会。	A
	282	19	**家串地区の盆踊り** 8月14日 家串公民館広場 家串地区自治会	先祖供養と初盆の供養のために実施。盆踊り・太鼓・口説きの練習は7月の終わりごろから始める。初盆の家は、祭壇を組み、地区の人はお焼香を行う。初盆の家は、自治会に負担金を払う。当日7：00集合、自治会役員・消防団等で新仏席の設置、櫓台組み立て、笹飾り、照明等準備。19：00頃から開始。泉法寺住職の御詠歌・読経ののち自治会長挨拶で開始。踊りは内海音頭など一般による民謡踊り、太鼓踊り、全員による総踊り（太鼓踊り）で、最後は「ひよこ節」で終わる。終了時間は午後9時から9時半ごろ。終了後、自治会役員・消防団等で後片付けを行う。かつては8月15日にも、青年団（後に消防団）主催で行っていた。	A
	282	19	**灯篭流し** 8月25日 家串公民館 家串地区自治会	自治会役員、寺総代4人が会場（公民館駐車場）の準備（机・電源等）をする。かつては新仏の家が準備していた。新仏の家が位牌、灯篭、お供え物等を飾り、地区の人は焼香をする。仏事が終わると灯篭を公民館の沖の岸壁に吊るして焼く。	A

市町	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
愛南町	282	19	**孟蘭盆（うらぼん）** 8 月 25 日 平碆 平碆地区自治会	8月14日と同様に盆踊りを実施。踊りが終わったら、年配の女性たちが御詠歌を上げて灯篭を流す。	A
	282	15	**白王神社奉納相撲** 旧 8 月 15 日 白王神社 平碆奉賛会	いつの頃か定かでないが、平碆地区の住民の三分の一が感染する疫病がはやり、たいへん難儀した。この疫病を収めるため、平碆の長が有志を集めて白王神社に願をかけ、奉納相撲をすることになった。ところが、それから17年後たまたま何かの事情で奉納相撲を取りやめると、その年にまた疫病が流行りだした。それ以来、この奉納相撲は一年で一番明るい中秋の名月の晩に近隣の子どもたちや見物人を招いて賑やかに行われているという。準備は奉賛会が行う。午後6時から神事。保育園児から小学生、中学生、一般の順で相撲の取組を行う。三番抜きすると大きなぼんでんが勝者に渡される。最後に三役相撲（小結・関脇・大関）を行い、大関の取組の際に行司の合図で東西の力士たちがみんなで取り組みを止める。	A
	282	22	**家串地区若宮神社の秋祭り** 11 月 2 日～ 4 日 家串若宮神社 家串地区自治会	2日が宵宮、3日が本宮。3日は、11：00から若宮神社で神事。相撲練り、五ツ鹿、荒獅子の順に奉納。12:30から宮出しで、子供神輿、神輿、牛鬼の順で社殿の周りを右回りに3回回ってから練り始める。練りの先導は、天狗（猿田彦）である。中旅、御旅所へ向かう道中、神輿と牛鬼が盛んに鉢合わせする。中旅では、相撲練り、五ツ鹿、荒獅子の順で奉納。御旅所では、御仮屋の周りを3回回ってから神輿が中に入る。御仮屋の前で神事、餅まきがあり、相撲練り、五ツ鹿、荒獅子の順で奉納。御旅所での神事後、神輿及び天狗が船に乗り込み、天狗が舳先より大幣にて払いながら家串湾を左回りに3回回ってから宮入りする。4日は、相撲練り、五ツ鹿、荒獅子が早朝から各戸を回り、16:00に中旅で締めの舞を舞う。（町）	A
	282	27	**亥の子** 旧 10 月の亥の日	子どもたちが亥の子石をもって集落の各家々の庭で石を搗いて回る。かつては子どもだけで運営しており、旧暦10月の亥の日(初亥・中亥・乙亥と3回ある年もあった)に亥の子石にカズラを結び、夜明け前から各家々を回って亥の子唄を歌いながら搗き、お花をもらっていた。かつては家串には東と西の2組の亥の子組があった。亥の子石の保管や賄い、世話などは「宿」と呼ばれる特定の家が行っていたが、基本的には年長者(中学校1年生)が下級生を統率し、亥の子唄の練習やカズラの準備などを仕切っていた。現在では子どもの保護者が中心となって実施している。	B
	283	8	**お祇園様** 旧 6 月 12 日 八坂神社	松岡組と船の川の境にある八坂神社の夏祭りである。松岡組と船の川の組内で当番を決め旧暦6月12日に行う。当番2軒が八坂神社を清掃し、しめ縄・幟をたて準備を行う。夕刻には境内に集まり、宮司を招き、神事の後、直会を行う。	B
	283	16	**風神様** 旧 3 月 23 日・9 月 23 日 菊川・松岡組山中	松岡組内の山中にある風神様を祭っている。旧暦3月23日、9月23日にその年の当番が社を清掃し、しめ縄や幟をたて準備をする。夕刻には宮司を当番の家に招き神事を行い、その後賑やかにおこもりをする。	B
	283	8	**祈願祭** 4 月第2日曜 厳島神社 菊川自治会	年度初めに菊川自治会役員全員が厳島神社に集まり、地域住民の健康と安全、また、地域行事の円滑な運営を祈願する。神事の後、公民館に場所を移しお祝いの宴をもよおす。以前は、地域内の豊作を祈念する意味合いも含まれていたらしい。	B
	283	8	**献穀祭** 11 月 23 日 厳島神社 菊川自治会	以前は献穀する農家を決め、新米を奉納しお祭りをしていたらしいが、現在ではその年の穀物の収穫を感謝するために、自治会役員が厳島神社に集まり神事を行いお祝いをしている。役員は新米、あるいは1,000円を奉納することになっている。	B
	283	18	**大祓・元旦祭** 12 月 31 日(深夜)～ 1 月 1 日 厳島神社 菊川自治会	大晦日深夜から元日にわたり、厳島神社に自治会役員が集まり、一年の祓いと新たな年を迎える喜びと抱負・気持ちを呼び起こす。年内に大祓の神事を行い、年があけると元旦祭を執り行う。一連の神事として行っている。その後本殿前で直会を行い祝う。	B
	283	15	**厄除け祈願祭** 2 月 1 日 厳島神社 菊川自治会	男性は25歳・42歳・61歳、女性は19歳・33歳・61歳の厄年を迎える者が厳島神社での厄除け祈願を行う。出席者は希望者と自治会長と宮総代。早朝７時から宮司を迎え実施している。	B
	283	8	**権現様** 11 月 12 日 浜・銭坪の権現様	以前は組内で集まり祝いをしていたらしいが、今は当番を決めお祭りをしている。	B

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概　　要	存続状態
愛南町	283	8	**お十夜・達磨忌** 11月16日 乗願寺	郡内の曹洞宗の僧侶が乗願寺に集まり禅宗の祖とされる達磨大師の法要(達磨忌)を行うと同時に、先祖の供養と新仏の追善供養の法要(お十夜)を行っている。自治会長・寺総代、新仏関係者が出席している。郡内の曹洞宗の寺間で期日を決め各寺に集まり実施している。	B
	283	22	**菊川地区厳島神社の秋祭り** 11月3日 厳島神社	愛南町菊川地区の厳島神社にて行う秋の大祭。牛鬼1体、獅子舞、神輿2基が出る。神事終了後、境内にて獅子舞を踊る。その後、牛鬼が境内を3回回り神輿が行幸し、御旅所にて餅まきを行う。その後、厳島神社に宮入りする。	B
	284	2・3・22	**平城八幡神社例大祭（御荘統一祭り）** 11月2日～3日 (旧8月15日) 八幡神社	大正3年より郡内統一の祭りとして11月3日となった。御荘地区の他神社よりの練り物も参加する統一祭り。特殊神事としては、お水もらい・生きフナ献供・オハケ立て等がある。田舎らしい素朴な祭りだが、四ツ太鼓、牛鬼、大天狗等の練り物が多数神輿のお供につく賑やかな祭りで、見どころは宮入時に境内で行われる回り込みである。五ツ鹿も出る。(町)〔詳細調査報告38参照〕	A
	284	2	**平城一宮神社例祭** 11月3日～4日 一宮神社 一宮神社氏子総代会	八幡神社の二重氏子のため、11月3日は八幡神社の例大祭に四ツ太鼓が参加する。翌日11月4日に一宮神社で本殿祭と直会を行っている。一宮神社は八幡神社の境外末社。	C
	284	2	**和口若宮神社例祭** 11月2日～3日 (9月19日) 若宮神社 和口やぐら保存会	11月2日に若宮神社で本殿祭と直会を行い、3日に八幡神社の御旅所際に四ツ太鼓が参加する。	B
	284	17	**和口金刀比羅神社例祭** 11月10日(10月10日) 金刀比羅神社 金刀比羅神社総代会	古くから海の神として漁業者から尊崇を受けて賑わっていたが、近年は漁業者も減り参拝者も激減。崇敬神社のため氏子区域を持たず、神社総代含め4戸で正装・神事を行うのみ。	C
	284	32	**長洲若宮神社の社日祭** 11月10日(10月10日) 長洲集会所前の広場	毎年春の社日の日に地区の人々15名程度が集い、長州集会所前にある常設の社日塚(神籬)に豊受大神の御神霊をお迎えして、一年の豊作と地域の安寧を御祈願する。秋は若宮神社での例祭となっており、収穫の感謝を申し上げる祭りを行っている。それぞれ祭典後は集会所で直会をしている。	A
	284	8	**厳島神社例祭** 10月5日 厳島神社(池田神社)	元々は南内海地区の崇敬神社として、各区長が役員となり盛大な祭りを行っていた。平成10年に宮司が亡くなってからはお祭りは行われておらず、社殿も荒れ果ててしまっている。平成28年に空席だった宮司が就任し、同社の境外末社である深泥池田神社に同神社を移転合祀。例祭は池田神社と同日に神事のみ執り行っている。	B
	285	2	**斎宮神社例祭** 11月2日～3日(9月11日) 斎宮神社 長月祭り保存会	11月2日に斎宮神社で本殿祭と直会を行い、3日に八幡神社の御旅所際に四ツ太鼓と子供神輿が参加する。	B
	286	22	**中浦地区若宮神社秋祭り** 中浦地区若宮神社秋祭り	愛南町中浦地区の若宮神社にて行う秋の大祭。牛鬼1体、獅子舞、神輿1体がでる。神事終了後、境内にて獅子舞を踊る。その後、牛鬼が境内を3回回り神輿が行幸し、御旅所(旧中浦小学校)にて菓子及び餅を撒く。その後若宮神社に宮入する。	B
	287	2・22	**諏訪神社秋祭り** 11月2日～3日 (10月30日) 諏訪神社	牛鬼、八ツ鹿、四ツ太鼓、唐獅子の練りが出る。2日朝、神社で上組八ツ鹿、中組唐獅子、下組唐獅子のお祓い後、これらの練りは地区内を練り歩く。夕刻、宵宮祭斎行。翌3日8時頃例祭、終了後直ちに神輿に御霊を移し、長野牛鬼を最初として各練りが神輿と鉢合わせて神社を出発する。地区内を回って12時半頃、僧都川河川敷の御旅所着。御仮屋を3回回って神輿は御仮屋に入る。直ちに御旅所祭、終わって練りも御仮屋を3回回って休憩に入る。この時、①上組②中組③下組と回る順番が古くから決まっており、事情がない限り順番を崩してはならない。昔は順番を違えるとけんかになったらしい。その後、上組八ツ鹿、中組唐獅子、下組唐獅子の練りの披露の後、餅撒きがあり、神輿が帰路に向かう。神社帰着後、石段に神輿を据え、練りと最後の鉢合わせを行う。これも順番が決まっており、長野牛鬼を最初として上組、中組、下組の練りの順に合わせる。全ての練りとの鉢合わせが終わって神輿は上の社殿に戻り御霊を戻して終了。例年夕方4時過ぎである。感染予防のため令和2～3年は社殿の神事のみで、神輿渡御はなし。(町)	A
	287	17	**山の神祭** 旧6月20日付近 諏訪神社 北裡実行組合	諏訪神社の北東にある愛宕山に畑を持つ人々で構成されている北裡実行組合が、豊作を願って旧暦6月20日に近い都合の良い日に諏訪神社にて遙拝形式にて神事を行う。神事終了後、社殿内にてそれぞれが持ち寄った弁当にて直会を行う。感染予防のため令和2～3年は神事のみ実施。	A

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概　　要	存続状態
愛南町	288	15	**緑弓削神社夏越祭** 7月24日 弓削神社境内	毎年7月24日に下の境内で行われる。平成18年までは上の社殿の中に茅の輪を作って斎行していたが、平成19年の改修で社殿が使えない時があり、以来下の境内で行っている。これは氏子の高齢化対策でもある。当日、氏子はそれぞれが好きな時間に事前に総代によって配布された人形・車形を持参して詣で、神主がお祓いをする。以前は朝8時から夕方5時頃まで受け付けていたが、この10年程は参拝者の減少により朝8時からお昼ごろまでと短縮化されている。7月24日は末社に祀っている和霊神社の例祭日に因んでいる。感染予防のため令和2～3年中止。	A
	288	26	**八朔相撲** 9月初旬(旧8月1日) 緑基幹集落センター	毎年9月初旬の適時に緑基幹集落センターに常設の土俵で、緑青年団の主催により八朔相撲が行われる。元々は弓削神社の奉納相撲で、昭和40年代後半までは旧暦の8月1日に弓削神社境内で行われていたもので、青年団による年の土俵作りの大変さから場所が神社から離れ、屋根付きの常設土俵のある緑小学校へ移り、更により広い敷地の緑基幹集落センターに移って現在に至っている。当日は午後から開催され、地元の小学生から始まり夜になると大人までが参加する。感染予防のため令和2～3年中止。	A
	288	15	**緑地区荒神祭** 11月・12月の適時 弓削神社境内ほか	緑地区の多くの部落で部落内の安全を願って荒神様を祀っている。その荒神様のほとんどが弓削神社境内に祀られている。それぞれ各部落で11月および12月の適当な日を選んで年に一度祭りを行っているが、祭りの方法は大きく3つある。①荒神様に餅を供えて、部落内各戸に餅を配る(樫床部落、樋口部落)。②荒神様に餅を供えて、部落内各戸に御札と餅を配る(下緑部落、当時部落、中緑部落)。③米、酒、餅を供えて神主を招いて祝詞をあげてもらい、部落内各戸に御札と餅を配る(岡部落)。西柳部落は部落全体の荒神は無く、部落内の何軒かが祀っている荒神が二柱ある。その内西柳上荒神は現在6件(平成9年時は13件)、西柳下荒神は4件(同7件)。	A
	288	2・3・22	**弓削神社秋祭り** 11月2日～3日 (旧9月16日) 弓削神社	2日宵宮祭、3日例祭並びに神輿渡御が行われる。神輿渡御に繰り出す神輿は3基(弓削様、春日様、金刀比羅様)、練りは子供牛鬼、四ツ太鼓、子供神輿、唐獅子、俵ねり等である。3日10時に例祭と御霊移しを行い、12時頃御旅所に向けて出発。御旅所は約500m離れた氏子の田の中に設置される。御仮屋の横に竹でできたオハケを立て、神輿はオハケを3回回ってから御仮屋に入る。練りも同様に3回回る。御旅所祭の後、練りの奉納があり餅まきをして解散、神輿が神社に戻り御霊を移して全て終了するのが午後3時頃である。特徴的な練りは緑青年団が主催している俵ねりで、米を収穫した後の計量作業を模している。その他地元の小学生の女の子による稚児行列も祭りに華を添える。感染予防のため令和2、3年と2年続けて神輿渡御が中止となった。(町)	A
	288	24	**念仏講** 旧1月16日 智恵光寺	当日朝、緑地区の全区長が寺に草鞋を持参して集合、草鞋を竹にくくりつけておく。本堂内で大きな数珠をみんなで「ナンマイダ」「ナンマイダ」と唱えながら回す。終わると竹にくくった草鞋とお札をそれぞれの地区の入口に立てかけて終了。地区によっては更に地区の集会所に戻って地区民と寺の行事と同様に「ナンマイダ」をする地区もある。草鞋の編めない人は予め編める人に依頼しておく。感染予防のため令和2年、3年と寺での行事は中止となった。	B
	288	22	**山出大山祇神社秋祭り** 11月2日～3日 大山祇神社	町内の秋祭りは大正元年より南宇和郡長の命によりそのほとんどの神社で明治節であった11月3日に変更された。山出(やまいだし)の大山祇神社では2日に例祭神事を行い、夕刻から奉納相撲、翌3日牛鬼と子供御輿の練りが行われる。2日夕刻から行われる奉納相撲は、境内に常設の土俵にて山出青壮年団の主催で行われる。取り組むのは子どもから大人まで多様で、県内外の高校相撲部員もやってくる。感染予防のため令和2、3年と2年連続して、2日の神事のみで奉納相撲と3日の練りは中止となった。	A
	288	8	**若宮神社秋祭り** 11月2日～3日 若宮神社	大正年間より例祭日が統一されたので、神主の都合により2日に例祭神事を行い、翌3日に伊勢踊りが奉納される。踊りは地区内の男の子のみだったが、少子化のため現在は女の子や地区内出身者で現在地区外に居住の子どももかき集められる。感染予防のため令和2年、3年と例祭神事のみで伊勢踊りは中止となった。(町)	C

市町	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概　　要	存続状態
愛南町	288	6	**祭り神講** 11 月 2 日 若宮神社	僧都地区は古くから由緒ある家々が多く、それらの家の中には祖先神を独自に祀っているところがある。その祖先神の祭りを年一回合同で若宮神社の秋祭りの前に斎行している。軒数は次第に減って現在では最大19軒となっているが、中には複数の祭り神さまを祀っている家もある。若宮神社の秋祭りを催行している11月2日に該当する家の代表者が神社に集まり神事を受ける。その年に親族に不幸があった家は遠慮する。神事終了後に神主がお祓いした竹でできた御幣と紙垂を持って帰り、それぞれの祭り神に飾る。感染予防のため令和2年、3年と当家の人達は祭りに参列できず、地区役員が代参し、その後地区役員が当家に御幣と紙垂と玉串を配った。	A
	289・291	2・22	**蘇家神社秋祭り** 11 月 2 日～ 3 日 （旧 10 月 20 日） 深浦 深浦神輿保存会 ・太鼓保存会	愛南町深浦の秋祭りは黒塗りと銀塗りの２基の神輿を地域の要所要所で交互に「舞わし」て見せて回るところに特徴がある。祭神の合祀に伴い、明治43年より、黒は深浦地区、銀は合祀された地区の氏子に担がれる２基の神輿が出るようになった。 現在は、両神輿とも深浦地区のかき手が中心になっている。神輿を舞わすとは、お囃子が流れる中、数十メートル神輿を下げた形で走り込み、一気に差し上げ、その後担棒を前側から一カ所ずつ地面につけて時計回りに3回回して差し上げることを言い、場所によって、交互に3回ずつ・2回・出会いというふうに決められている。その舞わし方を競い合う。神輿は、船御幸・トンネル・峠越え・低い軒先の並んだ狭い旧道を下げてゆく庄屋参りなど全地区を回り、要所要所で神輿を舞わし、午後4時頃、大牛鬼・大やぐら・赤牛鬼・中やぐら・神輿・樽神輿・唐獅子の順番で御旅所入り。御旅所の神事後、暗くなった6時半ごろからお帰りの行事が始まる。道中には万国旗を飾るように、灯のともった提灯が吊られ、宮入りしたい神輿とそれを妨げようとする牛鬼・やぐらとの競り合いが午後8時ごろまでお宮下で繰り広げられる。ここで練り方や舞わし方が不十分だと、御神体が神輿から帰りたがらないといわれ、宮入りしても拝殿に置かれた神輿の周りを氏子たちが取り囲み、御神体が本殿に移されるまで、お囃子の鳴り響くなか、神輿を揺すり、掛け声を発しとびはね続ける。感染予防のため令和2～3年は神事のみでお練りは中止。	B
	289・291	8	**垣内の夏祭り（うどん祭）** 7月第1日曜 垣内白山神社	神事のみ。この日は各家庭でうどんを食べる風習があり、別名うどん祭といわれる。	B
	289・291	19	**岩水地区の盆行事** 8 月 14 日・8 月 17 日 岩水地区	14日には岩水の寺の境内で盆踊りが行われる。踊り始めに特徴があり、踊り子は右手にシキビの小枝、左手に線香を持って、音頭取りの「なんまい　なんまい　なんまいど　ご先祖様のご供養に」と繰り返される節にあわせて踊るところに特徴がある。8月17日に場所を海岸、東海公民館前の駐車場に移して山の神踊りが踊られる。演目は14日の踊りのうちの踊り始めの新仏供養・先祖供養の踊り「なんまいど」を除いたもの。感染予防のため令和2～3年は中止。	B
	289・291	15	**蓮乗寺の数珠繰り（なーまいど）** 春・秋の２回 蓮乗寺黒仏堂	蓮乗寺地区の住民が黒仏堂に集まって「なーまいどなーまいど」と唱えながら大数珠を繰る。	B
	289・291	8	**お日参**	垣内地区の氏神　白山神社に東・西地区の住民がそれぞれ毎日交代で神社に参拝する。白山神社の幟を持参、帰ると次の家に幟を渡す。	B
	290	22	**久良若宮神社の例大祭** 11 月 2 日～ 3 日 若宮神社・久良漁業前広場 若宮神社総代会	古くからの漁村であったため、大漁祈祷の意味合いが強い祭典となっている。特色としては独特の太鼓演奏があり、地区の若者を中心に熟達した演奏を披露する。また御旅所での唐獅子や太刀踊りも特徴的である。練り物は神輿の他牛鬼のみとなっているが、夕方この牛鬼が神輿の宮入を遅らせるために何度も鉢合わせを繰り返す。	A
	292	2・3・22	**船越秋祭り** 11 月 2 日～ 3 日 船越若宮神社	11月2日に宵宮祭、翌日の3日に本祭が行われている。宵宮祭は、午後6時から若宮神社宮司を招いて神事を行い、その後、オハケの場所に移り、東の方向に向き神を迎える神事を行う。その時間は、約1時間ほど。本祭は、午後1時から、神事、神輿への御神体移し及び性根入れ、五ツ鹿踊りと行われて宮出しへと移る。まず、大人牛鬼、子供牛鬼、大人神輿、子供神輿の順で境内を左回りで三回回り、神社を出発。オハケに向かう。オハケも左回りで三回回り広場へ移る。広場で四ツ太鼓と神輿の簡単な鉢合せを行う。途中、東の御旅所では神事、西の御旅所・南の御旅所は経由のみで広場の御旅所へ帰る。この御旅所で神事・五ツ鹿の舞を行う。その後、地区住民等へ一口おくわの頒布、餅まきを行う。ここで、大人牛鬼、子供牛鬼、子供神輿はオハケを経由してお宮へ帰る。ここから、宮入りする神輿とそれを阻む四ツ太鼓との鉢合せが始まる。通常は午後4時30分から始まり、午後7時頃まで行われる。昔は午後12時頃まで神輿を四ツ太鼓が帰さなかったと言われているが、今は四ツ太鼓もかき夫不足等で、そのような鉢合せができなくなっている。鉢合せがすんだ神輿はオハケ、境内を左回りで三回回り神社に納まり、御神体を祭殿に戻し五ツ鹿踊り後、終了の神事を行い祭りを終わる。	B
	292	3・8	**久家秋祭り** 11 月 2 日～ 3 日 久家若宮神社	久家は毎年11月2日に宵宮祭、翌日の3日に本祭が行われている。宵宮祭は、午後4時30分から若宮神社宮司を招いて神事ををを行い、その後、オハケの場所に移り、東の方向に向き神を迎える神事を行う。本祭は、午後0時30分から、神事、神輿への御神体移し及び性根入れ、と行われて宮出しとなる。広場御旅所で神事、直会を全てのかき夫を交えて集会所で行う。直会終了後、神輿を神社に納め、ご神体を祭殿に戻し終了の神事を行い祭りを終わる。終了は午後5時頃。	B

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概　　要	存続状態
愛南町	292	22	**下久家秋祭り** 11月2日～3日 稲葉神社	下久家は毎年11月2日に宵宮祭、翌日の3日に本祭が行われている。宵宮祭は、午後3時から稲葉神社で宮司を招いて役員中心の神事を行う。その後、集会所に移り、直会を行う。延べ2時間くらいで終わる。本祭は、午前10時から、稲葉神社において神事、神輿への御神体移し及び性根入れをして、宮出しに移る（およそ30分）。大人牛鬼、大人の神輿、四つ太鼓の順で境内を左回りで三回回り神社を出発。町回りは、神社から東へ、東から南へ、南から集会所前の広場（御旅所）の順で行う。広場では、御旅所神事を行う。終了後、集会所で参加者全員で直会を行う。直会終了後、神輿を神社に納め、ご神体を祭壇に戻し、終了の神事を行い祭りを終わる。終了が午後5時頃。	B
	292	23	**牛祭り** 5月27日 久家	愛南町久家地区で毎年5月27日に行われている。今からおよそ300年ほど前（推定）に、鰹と鰯の豊漁があり、忙しさのあまりに、地区で農耕用に飼育していた牛三頭を餓死させてしまう。その頃から、再三の台風や疫病に見舞われ、牛の祟りではとの噂が広がり、地区はその弔い祠を建立し毎年神事を行うようになった。現在、神事は祠で、直会は地区集会所で行っている。コロナのため令和2～3年は中止。	B
	292	17	**横島恵比寿祭り** 旧4月2日 横島	愛南町横島に恵比寿様の祠を祀っている。毎年、旧暦の4月2日（波の高い日は、船の接岸が危険なため中止している）に地区役員・住民希望者で島に渡り、祠の清掃と大漁祈祷の神事・直会を行っている。コロナのため令和2～3年は中止。	B
	292	10	**船越ぎおん様祭り** 7月14日 船越集会所及び船越若宮神社	7月14日、午前10時頃から船越集会所において、船越保育園児・船越小学校児童のぎおん祭奉納子供相撲を船越集会所で行っている。園児も児童もしこ名をまわし等につけ土俵にあがる。夜になると午後6時30分頃から、八坂神社において当年中の災いを払い、健康を祈る神事と直会を行っている。参拝者が減少してきているのが悩みの種である。コロナのため令和2～3年は神事のみで相撲大会、直会は休止。	B
	292	19	**船越の盆行事** 8月12日・14日・15日のうち2日 集会所広場	各地区で盆踊りが行われる。一日目は先祖供養、二日目は新仏供養のために踊る。コロナのため令和2～3年は中止。	B
	292	15	**下久家お数珠まわし** 2月15日 下久家の庵寺	由来等は不詳。毎年2月15日午後1時から庵寺に地区住人有志が集い、直径2mほどの大数珠を回しながら念仏を唱える。その後、甘茶をつくり各戸へ配布する。コロナのため令和2～3年は中止。	B
	292	17	**下久家十日戎祭** 1月9日～10日 下久家稲葉神社 ・下久家集会所	1月9日の午後3時から稲葉神社（氏神様）において、役員を中心とした宵宮の神事を宮司を招いて行う。その後簡単な直会を集会所で行う。翌1月10日午前10時から秋葉神社に、地区漁業関係者等が集い、大漁等を祈願する祝詞、玉串奉奠などの神事を宮司のもと行う。その後、集会所において直会を盛大に行う。コロナのため令和2～3年は直会休止。	B
	293	2・22	**外泊秋祭り** 11月2日～3日 天満神社	宵宮祭は、午後4時から天満神社で神様のお迎え神事を小1時間ほど行う。本祭は、午後1時から、神事、神輿への御神体移し及び性根入れと行われ、宮出しへと移る。牛鬼、大人の神輿、子供の樽神輿、四ツ太鼓と繰り出し境内を左回りで三回回り町回りへと移る。祭りの口説きを歌いながら、地区を一回りし、集会所前の御旅所参り、御旅所での神事を広場で、直会を集会所で参加者全員で行う。神輿の宮入の時刻になったら神輿を神社へ返し、御神体を祭殿へ戻し、終了の神事を行って終了。	B
	293	2・22	**中泊秋祭り** 11月2日～3日 中泊若宮神社	宵宮祭は、午後4時から若宮神社で神様のお迎え神事を小1時間ほど行う。本祭は、午後1時から、神事、神輿への御神体移し及び性根入れと行われ、宮出しへと移る。大人の神輿、子供の樽神輿、四ツ太鼓と繰り出し境内を左回りで三回回り町回りへと移る。祭りの口説きを歌いながら、地区を一回りし、神社→東→西→集会所前の御旅所と回る。御旅所では神事・直会を行う。神輿の宮入の時刻になったら神輿を神社へ返し、御神体を祭殿へ戻し、終了の神事を行って終了。	B
	293	22	**内泊秋祭り** 11月2日～3日 内泊若宮神社	内泊秋祭りは、11月2日午後0時から午後3時頃にかけて実施。現在はかき夫の不足のため縮小して行っている。宮出神事、神輿への御神体移し、性根入れの順に行われ、宮出しは、境内で神輿の左3回まわりだけとなっている。お旅所神事・直会も境内の一角で行っている。町回りは、牛鬼だけ行っている。以前行われていた寝獅子、毛槍は後継者不足で休止している。コロナのため令和2～3年は中止。	B
	293	27	**中外泊亥の子** 11月3日後の亥の日 外泊・中泊	毎年秋祭り後の亥の子の日に、小学生が二人一組で中泊、外泊の各家庭を訪問し、親から伝授された「くどき」を披露。そのお礼に訪問先からお花を賜る。少子化により存続が危ぶまれている。コロナのため令和2～3年は中止。	B
	293	19	**西浦の盆行事** 8月14日～15日 集会所広場	外泊・中泊・内泊地区では、8月14日の夜に先祖供養の踊りがおよそ小1時間行われ、翌15日は新仏供養の踊りが行われている。町外に出ている人々もこの日には帰郷し供養に参加している。踊りはシンプルなもので初めての人でもすぐにできる。踊りの音頭は兵庫音頭、熊野節など。コロナのため令和2～3年は中止。	B

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概　　要	存続状態
愛南町	293	8	**中泊地蔵踊り** 8月下旬 中泊神社庭	盆踊りの1週間後、毎年8月下旬に神社の庭で地区役員と希望住民（少数）で行う。時間は午後7時ごろから小一時間。コロナのため令和2～3年は中止。	B
	293	8	**中泊地蔵の日** 毎月24日	毎月24日を地区が地蔵の日と定め、地区役員がその日の午前8時30分から1時間半ほどかけ清掃作業を行っている。併せて住民の参拝促進を図っている。コロナのため令和2～3年は中止。	B
	293	8	**春祭り・戎祭り・天神様・竜王様** 4月3日・7月9日・12月6日 内泊の広場 ・内泊集会所前の広場	内泊には、春祭、戎様、天神様、竜王様と言われる祠があり、4月3日が「春祭」、7月9日が「天神様」、12月6日が「竜王様」という祭りが行われている。祭りの内容は皆同様で、宮司を招聘しての神事と直会である。併せて参拝者の拡大に努めている。	B
	294	2・22	**福浦秋祭り** 11月2日～3日 福浦若宮神社・福浦地区	毎年11月2日に宵宮祭、翌日の3日に本祭が行われている。宵宮祭は、午後7時から若宮神社宮司を招いて神事・直会を行う。頃合いをみて終わるが、寝当番（二人）が一夜を勤める。本祭は、3日の午後1時から神事、玉串奉奠、神輿への御神体移し、性根入れ、宮出しへと移る。まず、大人牛鬼、大人神輿、五ツ鹿、子供神輿の順で境内を左回りで3回回り、神社を出発。四ツ太鼓は神社の出発先で合流。町回りになる。最初に東へ行き東から南へと回る。最後は、広場の御旅所へ帰る。この御旅所で神事・牛鬼・神輿・四ツ太鼓かき比べ、神輿と四ツ太鼓の鉢合わせなどを行う。その後、神社下の土俵場に移り、三番叟、五ツ鹿の舞を行い、神輿の宮入となる。境内を左回りで三回回り、神社に納める。その後、御神体を祭殿に戻し、終了の神事を終わり祭りの終了となる。五ツ鹿は、2～3日に、大成川地区、小成川地区、福浦地区、麦ケ浦地区の各戸の舞回りを行っている。最近は、過疎化・少子化・高齢化等によりかき夫確保が難しくなっていて、祭が衰退化しており最大の悩みとなっている。コロナのため令和2～3年は中止。（町）	B
	294	8	**武者泊秋祭り** 11月3日 若宮神社・武者泊地区	毎年11月3日に秋祭りが行われている。宮司は招かず、地区独自で運営。宮出しは午前10時に始まり、ゆっくりと一時間あまりかけ町回りを行う。その後、住民が楽しみにしている餅まきを築港の広場で行い、宮入となる。11時頃には終わる。午後からは、集会所で直会を兼ねた踊りや歌の演芸を行い、住民の癒しの場となっている。午後2時から午後4時半頃まで行う。	B
	294	10	**福浦お薬師様・奉納相撲大会** 1月8日 福浦	福浦地区で1月8日にお薬師様法要が午後8時から行われている。福浦薬師は、「養老年間、海中から網で引き上げられた金銅の秘仏である」と、大林寺の縁起に記されており、昔から、若宮神社のお堂に祀られている。41年ごとに御開帳がある。法要後は、お堂下の土俵場で、小・中・高校生・一般が少ないなりに懸命な相撲で賑わいをみせている。過疎化・少子化により相撲の参加者の減少が見込まれるのが大きな課題である。コロナのため令和2～3年は中止。	B
	294	8	**福浦権現山**	初めは岡山神社に祀っていた山神様（大山祇命）を山頂に移したことから、権現山といわれるようになったと伝えられる。毎年、清掃も兼ね宮司はじめ地区役員が参拝神事を行っていたが、高齢化が進むにつれ参拝等が難しくなってきたので、2年ほど前にもとの岡山神社にご神体を戻し、山神様を祀っている。	B
	294	17	**福浦十日戎祭** 旧1月10日	旧暦の1月10日に十日戎祭りが午前10時から行われている。宮司を招いて神事の後、餅まきを行う。一本釣り漁業の後継者不足、過疎化等に伴う参拝者の減少など、大きな課題となっている。	B
	294	8	**福浦和霊様祭り** 7月23日	宇和島市の和霊様（和霊神社）と福浦の若宮神社は縁繋がりがあるといわれており、毎年7月23日に宮司を招聘して神事・直会を行っている。	B
	294	24	**福浦般若（大わらじ）** 2月1日 福浦	毎年2月1日に大わらじを新調して片方ずつ、中下バス停横と柿崎の道路わきの石垣に魔除けとして祀る。	B
	294	15	**福浦お念仏** 6月8日～14日 福浦御薬師堂	福浦地区は旧西海町で一番の大集落で古くから田畑の耕作も繁華に行われていた。日照り続きや害虫の大量発生などの時には、福浦お薬師堂に関係農家が集い、皆が輪になり大きな数珠を手回し、それに合わせて念仏を唱え五穀豊穣をお願いしていたとの言い伝えがあり、あり方は少しずつ変わってきているが現在まで続けられている。毎年、6月8日から6月14日の間、地区13組の住人が午前、午後の半日交代で8mほどある数珠を手回し、念仏を唱えている。コロナのため令和2～3年は中止。	B
	294	19	**福浦の盆行事** 8月14日～15日 集会所前広場	各地区で盆踊りが行われる。8月14日は先祖供養の踊り、翌15日は新仏供養の踊りで、町外に出ている人々もこの日には帰郷し供養に参加している。踊りはシンプルなもので初めての人でもすぐにできる。踊りの音頭は兵庫音頭、熊野節など。コロナのため令和2～3年は中止。	B
	295	8	**春のおこもり** 4月3日､4日に近い日曜 集会所	花見を兼ねて地区全体で実施。子どもも参加する。昔はお宮（大宮神社）で行っていた。また、18:00～21:00に実施しているが、昔は昼間にしていた。	B

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概　　要	存続状態
愛南町	295	8	**ありつけ祈祷** 7月1日に近い日曜 薬師堂	豊作祈願のため実施。小学生と壮年グループ、地区が8：00から9：00ごろに実施。太鼓と鉦にあわせて、「なんまいど、なんまいど」と大数珠を繰りながら念仏を唱える。昔は老人クラブが主体で小学校1、2年生が参加。終わったら精進上げをしていた。	A
	295	8	**大宮神社夏祭り** 7月の第1か第2日曜	10：00から神事、神事終了後直会。	A
	295	8	**友岡様** 7月10日頃	健康と豊作を祈願。11時ごろから天満神社で神事。夕方、島本石油の隣地でむかし踊りを踊る。昔は天満神社で踊っていた。	A
	295	19	**上大道の盆行事** 8月14日 集会所前の広場	先祖供養のために実施。初盆の家は、祭壇を組み、地区の人はお焼香を行う。当日朝6：00から準備、お墓までの草刈り、買い出し、会場準備等を済ませ、夕方18：30頃から開始、21：00頃で一回締め、その後壮年グループの上げを行う。場所は集会所前広場。雨天時は旧小学校体育館で実施。昔は墓地（薬師堂）で行っていた。灯篭や笹飾り等は盆踊りが終わってもそのままにしておく。これは霊が踊りに来るためそのままにしておくのだという。灯篭は翌朝3時か4時ごろに初盆の家が取りに来る。笹飾り等は翌日以降に片付ける。令和2～4年は新型コロナのため中止。	B
	295	10	**山の神三十三番** 9月3日､4日に近い日曜 山の神､大宮神社	8：00から山の神の場所で役員が三番相撲を取る。大宮神社に準備した土俵で残りの三十番（実際は三十番以上）相撲を取る。三番勝ちや五番勝ちすると旗をもらう。小学校（旧満倉小学校）があったころまでは、「敬老相撲」といって学校行事の一環としても行われ、多くの高齢者が見に来ていた。	B
	295	22	**大宮神社秋祭り** 11月1日～3日	農作物の収穫を感謝し、五穀豊穣を祈って行われている。1日6：30からお宮入り口に幟を立てる（常会が順番で行う）。2日9：00ごろから神事、神事終了後直会。3日は神事なし。6：00から小学生の牛鬼と中学生の牛鬼が地区全戸を回る。（15：30ごろまで）かつては大人の牛鬼、中学生の牛鬼、小学生の牛鬼2組の計4組の牛鬼が出ていた（神輿はない）。	A
	296	ウ	**お伊勢踊り** 10月前後の土日 ・11月2日～3日 日枝神社	神社拝殿でお伊勢踊りが奉納される。5人の小学生が御幣を持って舞い、楽奏は地区の大人が行う。	B
	296	8	**小山地区の秋祭り** 11月3日	五ツ鹿踊りが出て、地区の各家庭を巡回しながら踊り、家内安全を祈願する。	B
	296	2・22	**一本松地域の秋祭り** 11月3日	農作物の収穫を感謝し、五穀豊穣を祈って各地区それぞれで行われる。広見地区（日吉神社）は、神輿、四ツ太鼓、牛鬼、樽神輿、唐獅子、六ツ鹿、お伊勢踊りがある。増田地区（若宮神社）は、牛鬼とお伊勢踊り。中川地区（熊野神社）は、神輿、牛鬼、六ツ鹿、お伊勢踊り。一本松地区（出雲大社）は、神輿、樽神輿、牛鬼、唐獅子、だんじりが出る。	B
	296	10	**山の神神事** 8月20日前後 広見地区集会所	山の神に対する神事を行い、小学生や中学生による奉納相撲を行う。	B
	297	8	**黄幡神社の春祭り例祭** 4月9日(旧3月13日) 黄幡神社(正木地区)	地区世帯のうち5軒が一組となって出役で実施。注連縄･カミシバ･清掃などの準備をし、神事のみ行う。現在は、神主と相談して日曜に実施され、旧暦1月20日に行っていた「山の神祭り」も黄幡神社の春祭りに統合して行っている。	A
	297	8	**春の篠山祭り例祭** 4月30日(旧3月18日) 篠山神社二の鳥居	地区世帯のうち5軒が一組となって毎年順番に出役で実施。かつては篠山頂上の篠山神社で行っていたが、最近は登山道入り口の「二の鳥居」(御在所)で行う。神事のみ。現在は神主と相談して旧暦の例祭日に近い日曜日に実施される。	B
	297	8	**黄幡神社の夏祭り例祭** 7月11日に近い前の日曜 黄幡神社(正木地区)	地区世帯のうち、5軒が一組になって出役で実施。神事のみ行う。	A
	297	19	**正木地区の盆踊り** 8月14日 篠山小学校駐車場 篠山クラブ	先祖供養のために実施。盆踊り、太鼓と口説きがある。初盆の家は、お寺で法要を行う。30年ほど前までは地区の行事としてお寺で実施していたが、そのころから地元の青壮年グループ「篠山クラブ」が実施するようになり、場所も篠山小学校体育館前の駐車場で行うようになった。令和2～4年は新型コロナのため中止。	B
	297	22	**黄幡神社の秋祭り例祭** 11月2日～3日 黄幡神社(正木地区)	農作物の収穫を感謝し、五穀豊穣を祈って行われる。2日に神事があり、その後役員が幟を立てる。3日は五ツ鹿踊りが練るが、近年は子どもが少なく存続できなくなっている。かつては牛鬼も出ていた。牛鬼は、作り方を伝承するため毎年新しいものをつくっていたという。3日の夕方には役員が幟を下ろす。	B

鶴本房五郎　編 1925『余土村誌』
長山源雄 1938『南宇和郡史』
喜佐方公民館 1958『喜佐方村史』
小野村史編纂実行委員会 1960『愛媛県温泉郡小野村史』
貝吹村誌編纂委員会 1964『貝吹村誌』
渓筋郷土誌編集委員会 1964『渓筋郷土誌』
野村郷土誌編さん委員会 1964『野村郷土誌』
石井村史編集委員会 1965『愛媛県温泉郡石井村史』
惣川誌編さん委員会 1965『惣川誌』
城辺町誌編集委員会 1966『城辺町誌』
北浦小学校郷土クラブ 1967『伯方島誌』
久谷村史編纂委員会 1967『久谷村史』
愛媛県東宇和郡城川町高川郷土誌編集委員会 1968『高川郷土誌』
川内町 1968『続　川内町誌』
中島町誌編集委員会 1968『中島町誌』
波方町誌編纂委員会 1968『なみかた誌』
岩城村郷土誌編集委員会 1970『伊予石城島の歴史　上巻』
御荘町史編集委員会 1970『御荘町史』
岩城村郷土誌編集委員会 1971『続伊予岩城島の歴史』
今治市編さん委員会 1974『新今治市誌』
愛媛県教育委員会 1974『ふるさと年中行事調査報告書』
上浦町誌編さん委員会 1974『愛媛県上浦町誌』
長浜町誌編纂会 1975『長浜町誌』
美川村二十年誌編集委員会 1975『美川村二十年誌』
愛媛県東宇和郡城川町城川町誌編集委員会 1976『城川町誌』
徳田実　編 1976『土居郷土誌』
吉田町誌編纂委員会 1976『吉田町誌下巻』
大西町誌編纂委員会 1977『大西町誌』
砥部町誌編纂委員会 1978『砥部町誌』
一本松町史編集委員会 1979『一本松町史』
愛媛県 1979『ふるさとの年中行事』
愛媛県 1979『ふるさとのおこもり行事』
菊間町誌編さん委員会 1979『菊間町誌』
町誌編集委員会 1979『西海町誌』
中筋郷土誌編集委員会 1979『中筋郷土誌』
松前町誌編集委員会 1979『松前町誌』
中川鬼子太郎　編 1980『面河村誌』
新居浜市史編纂委員会 1980『新居浜市史』
愛媛県 1981『ふるさとの歳時記』
愛媛県教育委員会事務局文化課 1981『えひめ文化百選』
川内町老人クラブ連合昔話を集める会 1981『ふる里の記録　年中行事篇』
別子山村史編纂委員会 1981『別子山村史』
北条市誌編集委員会 1981『北条市誌』
三浦誌編纂委員会 1982『三浦誌　ふるさとの歩み』
愛媛県史編さん委員会 1983『愛媛県史　民俗上』
三瓶町誌編さん委員会 1983『三瓶町誌　上巻』
伊予三島市史編纂委員会 1984『伊予三島市史　上巻』
宇摩郡土居町教育委員会 1984『土居町誌』
愛媛県史編さん委員会 1984『愛媛県史　民俗下』
川之江市誌編さん会 1984『川之江市誌』
玉川町誌編纂委員会 1984『玉川町誌』
柳谷村誌編集委員会 1984『柳谷村誌』
広見町誌編さん委員会 1985『広見町誌』
三崎町誌編集委員会 1985『三崎町誌』
明浜町誌編纂委員会 1986『明浜町誌』
朝倉村誌編さん委員会 1986『朝倉村誌　下巻』
岩城村誌編集委員会 1986『岩城村誌下巻　現代編』
瀬戸町誌編集委員会 1986『瀬戸町誌』
土居町史編さん委員会 1986『わがふるさと土居町のあゆみ』
広田村誌編集委員会 1986『広田村誌』
弓削町役場 1986『弓削町誌』
伊方町誌改訂編集委員会 1987『伊方町誌』
東予市誌編さん委員会 1987『東予市誌』
大三島町誌編纂会 1988『大三島町誌　一般編』
重信町誌編纂委員会 1988『重信町誌』
久万町誌編集委員会 1989『久万町誌』
西条市 1991『西条市誌』
丹原町誌編さん委員会 1991『丹原町誌』
御荘町菊川公民館 1991『ふるさと菊川』
久米郷土誌編集委員会 1992『久米郷土誌』
小松町誌編さん委員会 1992『小松町誌』
日吉村誌編集委員会 1993『日吉村誌』
三間町誌編纂委員会 1994『三間町誌』
宮窪町誌編集委員会 1994『宮窪町誌』
村上和馬 1995『魚島村誌　民俗・歴史編』
松山市史編集委員会 1995『松山市史　第４巻　現代』
大洲市誌編纂会 1996『大洲市誌　上巻』
中山町誌編纂委員会 1996『中山町誌』
権現町誌編集委員会 1997『権現町誌』
関前村編集委員会 1997『関前村誌』
五十崎町町誌編纂委員会 1998『五十崎町誌』
新宮村誌編纂委員会 1998『新宮町誌　歴史・行政編』
愛媛県教育委員会 1999『愛媛県の民俗芸能 - 愛媛県民俗芸能緊急調査報告書 - 』
愛媛県生涯学習センター1999『愛媛のくらし』
愛媛新聞社 1999『愛媛民俗伝承の旅　祭りと年中行事』
保内町誌編集委員会 1999『保内町誌』
愛媛県生涯学習センター2000『愛媛の祭り』
愛媛県歴史文化博物館 2000『愛媛まつり紀行』
久枝公民館の文化と歴史編集委員会 2000『久枝地域の文化と伝承』
「ふるさとほりえ発見の旅」編集委員会 2000『ふるさとほりえ発見の旅』
松山市教育委員会 2000『松山の民俗　無形民俗文化財調査報告書』
宇和町誌編纂委員会 2001『宇和町誌』
吉海町誌編集委員会 2001『吉海町誌』
愛媛県教育委員会 2002『しまなみ水軍浪漫のみち文化財調査報告書』
肱川町誌編纂会 2003『新編肱川町誌』
生名村誌編纂委員会 2004『生名村誌』
小田町 2004『小田町誌　続編』
内海村史編纂委員会 2004『内海村誌』
愛媛県教育委員会 2004『えひめ、その食とくらし』
面河村 2004『刻を超えて』
伊予市史編さん委員会 2005『伊予市誌』
双海町誌編さん委員会 2005『双海町誌』
宇和島市誌編纂委員会 2005『宇和島市誌　下巻』
河辺村誌編纂委員会 2005『新刊　河辺村誌』
津島町誌編さん委員会 2005『津島町誌　改訂版』
松野町誌編集委員会 2005『松野町誌改訂版』
愛媛県西予市野村町野村町誌編纂委員会 2009『野村町誌　完結編』
愛媛県松野町教育委員会 2016『松野町文化的景観調査報告書 - 「奥内の棚田」の文化的景観 - 』
風早活性化協議会・祭都風早祭人連合会 2016『祭都風早ガイドブック』
宇和郷土文化保存会 2017『宇和郷の伝承・伝説』
内子町誌編纂委員会 2018『うちこ時草紙　Ⅱ民俗編』
西予市教育委員会 2018『西予市文化的景観調査成果報告書』
八幡浜市誌編纂会 2018『八幡浜市誌合併 10 周年記念版第２巻（自然環境編、民俗・文化編、産業経済編）』